

第51回 足立区政に関する世論調査

2022(令和4)年 8 月 実施

定住性／大震災などの災害への備え／洪水対策／区の情報発信のあり方／
健康／スポーツ・読書／ビューティフル・ウィンドウズ運動／環境・地域活動／
「孤立ゼロプロジェクト」など／「協働・協創」・「SDGs」／区取り組み



2023(令和5)年3月

足立区

はじめに

区民の皆様のお考えを把握するために、例年8月から9月にかけて行なっている当区の世論調査。今回は1,531人（回収率51.0%）の方々からご回答をいただきました。お忙しい中、誠にありがとうございました。

調査結果は単なる数値の集計ではなく、明日の区政を拓く羅針盤として活用しています。例えば、毎回お尋ねする「足立区政に満足していますか」という設問は、区の基本計画の最上位の指標に位置付けており、経年で数値の変化をチェックし、増減の要因を考察することで「区政満足度の向上」に繋がる新たな施策の立案や、既存の事業のブラッシュアップに繋げています。

今回から新たにインターネットによる回答も可能としましたが、当区の調査は設問数が多いこともあり、前回と比べ6ポイント減とこれまでに無い低い回答率となってしまったことを反省材料として、次回以降、設問の見直しを図ってまいります。

一人でも多くの皆様が地域社会に関心を寄せていただき、何らかの形で区政にご参画くだされば、より活力溢れた足立区が実現します。世論調査に回答していただくことも大切な区政参画です。引き続き、調査へのご理解とご協力を切にお願いいたします。

令和5年3月

足立区長 近藤やよい

目次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的	3
2 調査の内容	3
3 調査の設計	3
4 調査地域	4
5 調査方法	5
6 回収結果	5
7 報告書の見方	7
8 標本構成	10
第2章 調査結果の要約	15
1 定住性	17
2 大震災などの災害への備え	18
3 洪水対策	20
4 区の情報発信のあり方	21
5 健康	22
6 スポーツ・読書	24
7 ビューティフル・ウィンドウズ運動	25
8 環境・地域活動	26
9 「孤立ゼロプロジェクト」など	27
10 「協働・協創」・「SDGs」	29
11 区の取り組み	30
第3章 調査結果の分析	39
1 定住性	41
（1）居住地域の評価	43
（2）地域の暮らしやすさ	69
（3）特に暮らしにくいと感じること	75
（4）定住意向	79
2 大震災などの災害への備え	87
（1）備蓄や防災用具などの用意	89
（2）備蓄や防災用具、買い置きなどの内容	93
（3）備蓄量	98
（4）災害発生時の水や食料の確保	104
（5）家具類の転倒・落下・移動防止対策	107
（6）対策をしていない理由	110
（7）地域の3種の避難場所とその意味の認知	113

(8) 避難場所の認知経路	121
(9) 大規模災害時の避難生活場所.....	124
(10) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと.....	126
3 洪水対策	131
(1) 「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知.....	133
(2) 河川はん濫時の避難場所の事前決定状況.....	137
(3) 事前に決めている河川はん濫時の避難場所.....	140
(4) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由.....	143
(5) 河川はん濫による浸水被害の際の対処.....	146
4 区の情報発信のあり方	155
(1) 区の情報の入手手段	157
(2) 重要と考える区の情報.....	163
(3) 必要な時に必要とする区の情報の入手状況.....	167
(4) 区の情報が得られない理由.....	169
(5) 区の情報が得られない理由の詳細.....	171
5 健康	173
(1) 区のキャッチフレーズの認知状況.....	175
(2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識.....	177
(3) 野菜から食べ始めることの実践状況.....	180
(4) 1日野菜350g以上の摂取	182
(5) 体調や習慣	184
(6) 健康維持のために実行している、心がけているもの.....	189
(7) 自身の健康状態について.....	192
(8) がん検診の受診状況	194
(9) 受けたがん検診の種類.....	196
(10) かかりつけ歯科医院	198
(11) 歯科医院で治療のほかに受けている内容.....	200
(12) 感染症予防としての手洗いの実践状況.....	202
(13) 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況.....	204
6 スポーツ・読書	207
(1) 日常的な運動・スポーツの実施状況.....	209
(2) 継続的に実施している運動・スポーツ.....	211
(3) 運動・スポーツを最も多く行っている場所.....	215
(4) 運動・スポーツを行うためのきっかけ.....	218
(5) 過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動.....	220
(6) 運動・スポーツを支える活動をしなかった理由.....	221
(7) 足立区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識.....	222
(8) 読書に関わる行動状況.....	224

(9) 読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由.....	226
7 ビューティフル・ウィンドウズ運動.....	229
(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況.....	231
(2) 参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み.....	234
(3) 『花のビュー坊プレート』の認知状況.....	238
(4) 治安が改善していることの認知.....	240
(5) 居住地域の治安状況.....	243
(6) 区内の治安が良いと感じる点.....	247
(7) 区内の治安が悪いと感じる点.....	250
(8) 治安対策として区に力を入れてほしいこと.....	254
(9) 駐車時の鍵かけ状況.....	258
8 環境・地域活動.....	265
(1) 環境のために心がけていること.....	267
(2) 環境への影響を考えた日頃からの行動の有無.....	273
(3) この1年間に参加した活動と引き続き、または今後参加したいと思う活動.....	275
9 「孤立ゼロプロジェクト」など.....	283
(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況.....	285
(2) 「地域包括支援センター」の認知状況.....	288
(3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向.....	291
(4) 協力意向がある活動内容.....	294
(5) 「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況.....	296
(6) 「たんぱく質を多く含む食品」の摂食状況.....	299
(7) 仕事と仕事以外の生活の調和.....	302
(8) 「成年後見制度」「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況.....	305
10 「協働・協創」・「SDGs」.....	309
(1) 「協創」の認知.....	311
(2) 協働・協創の実践.....	313
(3) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価.....	315
(4) SDGsの認知状況.....	318
(5) SDGsの関心状況.....	320
11 区の取り組み.....	323
(1) 区に対する気持ち.....	325
(2) 区に対する気持ち（愛着、誇り、人に勧めたい）の具体的な内容（自由回答）.....	350
(3) 区を良いまちにするための行動.....	362
(4) 満足度と重要度.....	366
(5) 区政への区民意見の反映度.....	415
(6) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）.....	418
(7) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度.....	425

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の生活実態、意識や意向、意見や要望などを把握し、これを今後の区政運営に反映させることを目的としたものである。

2 調査の内容

今回の調査では11項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 大震災などの災害への備え
- (3) 洪水対策
- (4) 区の情報発信のあり方
- (5) 健康
- (6) スポーツ・読書
- (7) ビューティフル・ウィンドウズ運動
- (8) 環境・地域活動
- (9) 「孤立ゼロプロジェクト」など
- (10) 「協働・協創」・「SDGs」
- (11) 区の取り組み

3 調査の設計

- | | |
|--------------|----------------------|
| (1) 調査地域 | 足立区全域 |
| (2) 調査対象 | 足立区在住の満18歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 3,000サンプル（人） |
| (4) 調査対象者の抽出 | 足立区住民基本台帳より単純無作為抽出法 |
| (5) 調査期間 | 令和4年8月18日（木）～9月8日（木） |
| (6) 調査機関 | （株）サーベイリサーチセンター |

4 調査地域

図1 地域区分図

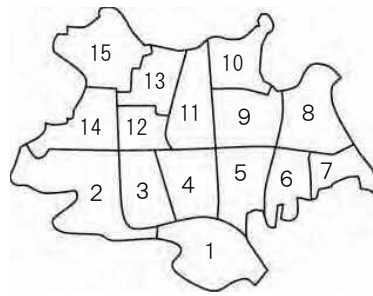


表1 調査地域一町丁目対応表

地域名	地区町丁目名
第1地域	千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町
第2地域	小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目
第3地域	西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町
第4地域	西新井栄町一丁目～三丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目
第5地域	足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目
第6地域	加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目
第7地域	東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目
第8地域	大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目
第9地域	西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目～二丁目、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目
第10地域	花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間三丁目～五丁目
第11地域	西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目
第12地域	西新井一丁目～七丁目、栗原三丁目～四丁目
第13地域	西伊興町、西伊興一丁目～四丁目、伊興一丁目～五丁目、西竹の塚一丁目～二丁目、東伊興一丁目～四丁目、伊興本町一丁目～二丁目
第14地域	谷在家一丁目～三丁目、鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目
第15地域	舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目～二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、入谷町、舎人町、舎人公園

5 調査方法

- (1) 調査方法 郵送配付、郵送またはインターネットによる回答
(依頼状、お礼状ともに1回)
- (2) 調査票 第4章の調査票を使用

6 回収結果

- (1) 標本数 3,000人
- (2) 有効回収数 1,531票 有効回収率 51.0%
- 回答方法別
- (郵送 1,137票 構成比 74.3%)
- (オンライン 394票 構成比 25.7%)
- (3) 回収不能数 1,469票 回収不能率 49.0%
- (4) 地域別回収結果

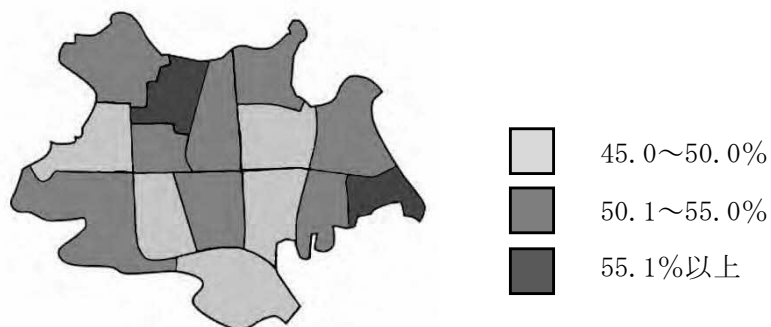
表2 調査地域別回収結果

地域名	18歳以上人口	構成比	標本数	有効回収数	有効回収率
区全体	597,821人	100.0%	3,000人	1,531票	51.0%
第1地域	67,540	11.3	338	167	49.4
第2地域	42,376	7.1	213	111	52.1
第3地域	35,772	6.0	180	82	45.6
第4地域	51,601	8.6	259	132	51.0
第5地域	53,921	9.0	271	135	49.8
第6地域	38,940	6.5	195	103	52.8
第7地域	29,030	4.9	146	85	58.2
第8地域	48,154	8.1	242	124	51.2
第9地域	40,065	6.7	202	94	46.5
第10地域	27,986	4.7	140	72	51.4
第11地域	48,732	8.2	245	126	51.4
第12地域	24,814	4.2	125	64	51.2
第13地域	29,676	5.0	149	85	57.0
第14地域	31,745	5.3	160	75	46.9
第15地域	27,469	4.6	135	71	52.6

(18歳以上人口は令和4年7月1日現在)

※有効回収数のうち5票は地域不明

図2 有効回収率分布図



(5) 性別・年代別回収結果

表3 性別・年代別回収結果

性・年代	標本数	有効回収数	有効回収率
全 体	3,000人	1,531票	51.0%
男性 (計)	1,489	690	46.3
18~29歳	257	67	26.1
30 代	226	67	29.6
40 代	278	120	43.2
50 代	258	124	48.1
60 代	171	111	64.9
70歳以上	299	201	67.2
女性 (計)	1,511	835	55.3
18~29歳	229	70	30.6
30 代	214	114	53.3
40 代	234	118	50.4
50 代	244	155	63.5
60 代	180	127	70.6
70歳以上	410	251	61.2
どちらでもない	-	5	-
無回答	-	1	-

(注) この表での『どちらでもない』は、「性」の回答において、前回の令和3年度より選択肢の表現を変更した「どちらでもない」を選んだサンプルの数を掲載している。

(注) この表での『無回答』は、「性」の回答がなかった方、「年代」の回答がなかった方、又はその両方の回答がなかった方のサンプル数を掲載している。

7 報告書の見方

- (1) 回答の比率(%)はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が100%に満たない、または上回ることがある。
- (2) 問1の〈居住地域の評価〉における【**そう思う(計)**】のように、「**そう思う**」と「**どちらかといえばそう思う**」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用しているため、グラフ又は数値表に表記された単純集計値(一選択肢の値)の合計とは異なる場合がある。
- (3) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100%を超える場合がある。
- (4) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (5) 集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間クロス集計の3種類を行った。
- (6) 性・年代別などのクロス分析の場合、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、調査回答者全員の人数より少なくなることがある。
- (7) クロス集計において、回答対象者の属性毎のサンプル数が30を下回る場合は、誤差が大きくなるため、原則的に参考値としての掲載としている。
- (8) 標本誤差

標本誤差とは、今回のように全体(母集団)の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、誤差を数学的に計算することが可能である。

今回の調査の回答結果から、母集団(足立区在住の満18歳以上の男女)全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の〈算出式〉と〈早見表〉を示した。

標本誤差および〈早見表〉は、以下のように使用する。

例えば、問3の「あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか」という質問に対して、「ずっと住み続けたい」と答えた人は、1,531人のうち35.1%であった。

回答者数が1,531人、回答の比率が40%前後のときの標本誤差は、〈早見表〉では±2.56%であるから、「ずっと住み続けたい」と考えている人は、足立区在住の満18歳以上の男女全体(母集団)の32.5%から37.7%であると推定できる。

〈標本誤差算出式〉

$$b = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母集団数 (足立区の18歳以上人口)

n = 比率算出の基数 (回答者数)

P = 回答の比率 (0 ≤ P ≤ 1)

第1章 調査の概要

〈 早見表 〉

回答の比率(P) 基 数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,531	± 1.53	± 2.04	± 2.34	± 2.50	± 2.56
1,400	± 1.60	± 2.14	± 2.45	± 2.62	± 2.67
1,200	± 1.73	± 2.31	± 2.65	± 2.83	± 2.89
1,000	± 1.90	± 2.53	± 2.90	± 3.10	± 3.16
800	± 2.12	± 2.83	± 3.24	± 3.46	± 3.54
600	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
400	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
200	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
100	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	±10.00

〈 早見表 - 性・年代別 〉

回答の比率(P) 基 数(n)		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
全 体	1,531	± 1.53	± 2.04	± 2.34	± 2.50	± 2.56
男性 (計)	690	± 2.28	± 3.05	± 3.49	± 3.73	± 3.81
18～29歳	67	± 7.33	± 9.77	±11.20	±11.97	±12.22
30 代	67	± 7.33	± 9.77	±11.20	±11.97	±12.22
40 代	120	± 5.48	± 7.30	± 8.37	± 8.94	± 9.13
50 代	124	± 5.39	± 7.18	± 8.23	± 8.80	± 8.98
60 代	111	± 5.69	± 7.59	± 8.70	± 9.30	± 9.49
70歳以上	201	± 4.23	± 5.64	± 6.46	± 6.91	± 7.05
女性 (計)	835	± 2.08	± 2.77	± 3.17	± 3.39	± 3.46
18～29歳	70	± 7.17	± 9.56	±10.95	±11.71	±11.95
30 代	11	± 5.62	± 7.49	± 8.58	± 9.18	± 9.37
40 代	118	± 5.52	± 7.36	± 8.44	± 9.02	± 9.21
50 代	155	± 4.82	± 6.43	± 7.36	± 7.87	± 8.03
60 代	127	± 5.32	± 7.10	± 8.13	± 8.69	± 8.87
70歳以上	251	± 3.79	± 5.05	± 5.78	± 6.18	± 6.31

(注1) Nはnより非常に大きく、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。

(注2) 「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げて「性」(計)の数とは一致しない。

(9) 分類した項目の定義

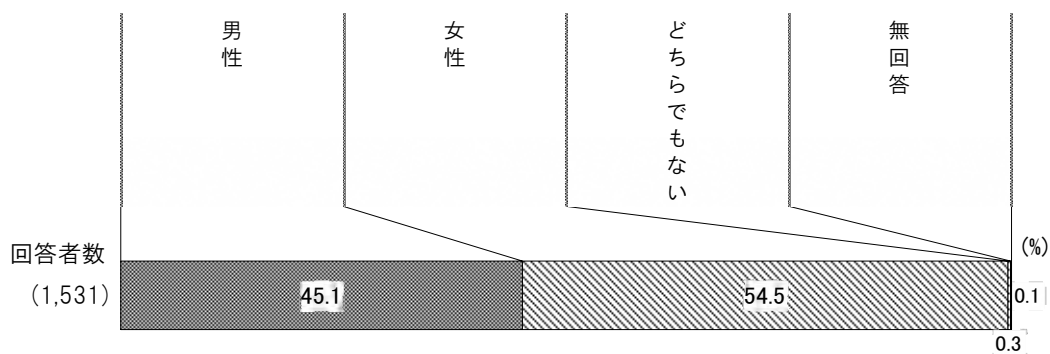
質問に対して、分類（表側）に使用した項目は以下のとおりである。

- ① 地域別……（15カテゴリ）
- ② 性別……（2カテゴリ） ※性別の「どちらともいえない」は5サンプルのみだったので表側からは割愛した
- ③ 性・年代別……（12カテゴリ）
- ④ ライフステージ別……（7カテゴリ）
 - ・ 独身期 40歳未満の独身者
 - ・ 家族形成期 40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
 - ・ 家族成長前期 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人
 - （家族成長小学校期） 本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人
 - （家族成長中学校期） 本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
 - ・ 家族成長後期 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
 - ・ 家族成熟期 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
 - ・ 高齢期 本人が65歳以上の人
 - （一人暮らし高齢者） 本人が65歳以上で一人暮らしの人
 - （夫婦二人暮らし高齢者） 本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人
 - （その他の高齢者） 本人が65歳以上で一人暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
 - ・ その他壮年期 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
 - （壮年独身者） 本人が40歳～64歳で独身
 - （壮年夫婦のみ者） 本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
- ⑤ エリアデザイン別①……（9カテゴリ）
- ⑥ エリアデザイン別②……（2カテゴリ）
- ⑦ 住居形態別……（8カテゴリ）
- ⑧ 職業別……（8カテゴリ）
- ⑨ 就労（就学）場所別……（6カテゴリ）
- ⑩ 居住年数別……（6カテゴリ）

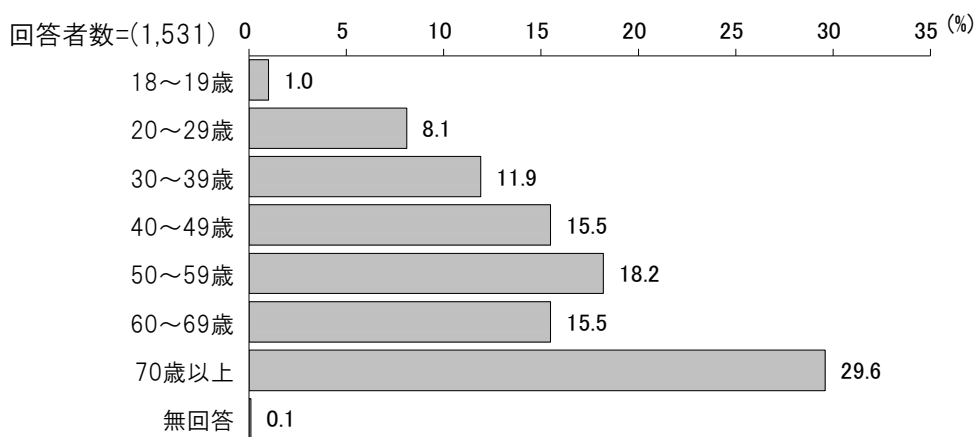
※ 本文中、表側に使用した項目の回答者数が30名未満の場合は、誤差が大きくなるため、参考値としての掲載にとどめ、分析コメントでは言及していないことがある。

8 標本構成

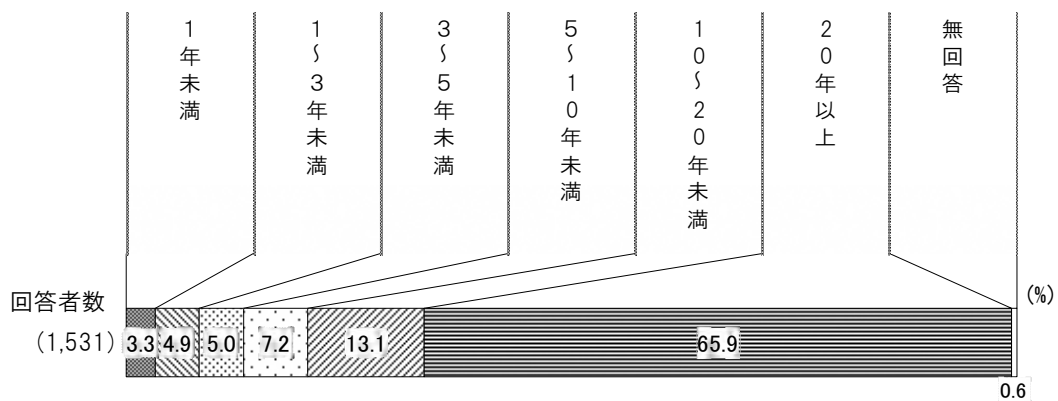
F1 性別



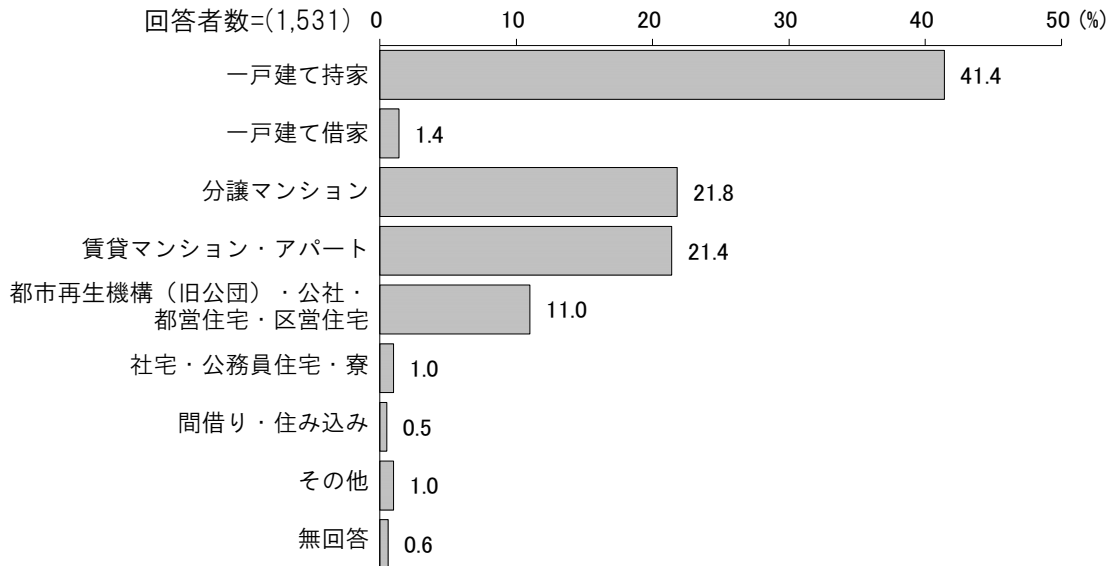
F2 年齢



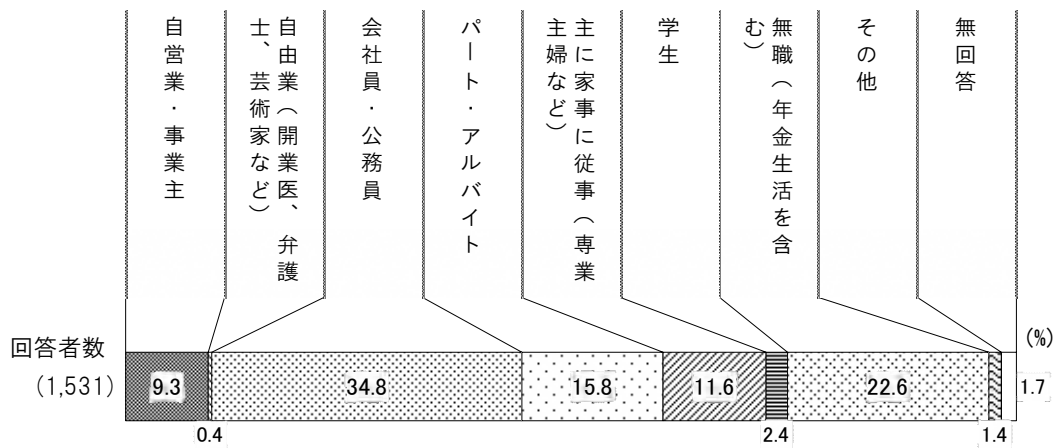
F3 居住年数



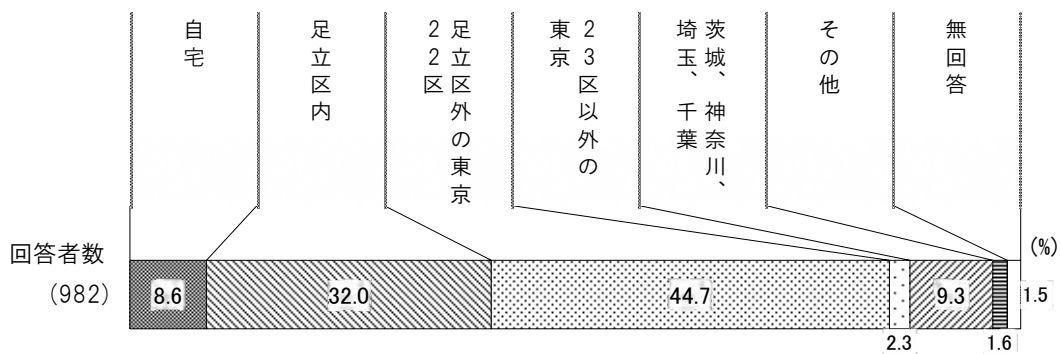
F 4 住居形態



F 5 職業

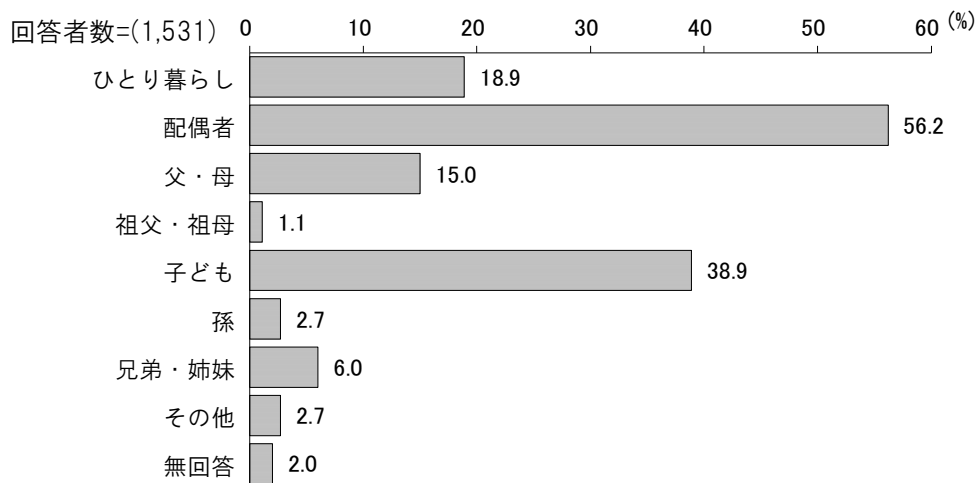


F 6 就労、就学場所【就労者、就学者ベース】

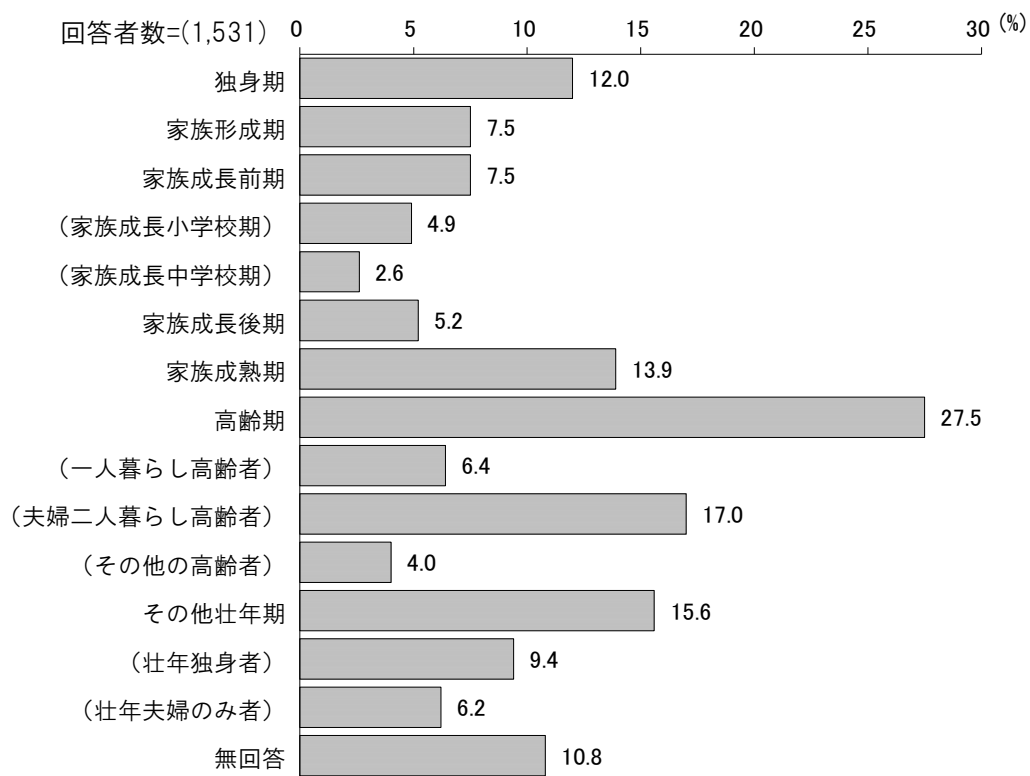


第1章 調査の概要

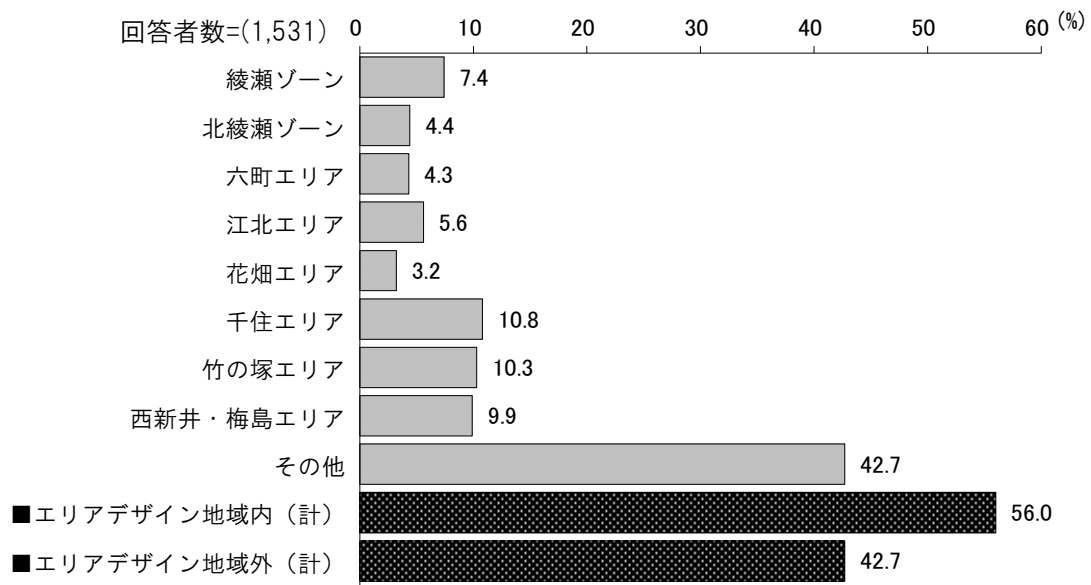
F7 同居家族（複数回答）



F8 ライフステージ



F9 エリアデザイン



第2章 調査結果の要約

1 定住性

(1) 〈普段の買い物が便利である〉が約8割、〈通勤や通学などの交通の便が良い〉が7割強

ア 居住地域の評価については、全18項目のうち〈普段の買い物が便利である〉〈通勤や通学などの交通の便が良い〉〈落書きが減少したと感じる〉〈快適で安全なまちである〉〈まちなかの花や緑が多い〉の5項目で肯定的評価（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が6割以上となっている。

イ 〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉は否定的評価（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）が唯一5割を超えており、区民の交通マナー意識の向上が求められる。

ウ 経年でみると、今回からの新設項目を除く16項目のうち10項目で肯定的評価が前回調査に比べて減少しており、「男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている」で減少が最も大きくなっている。

エ 肯定的評価が約8割と最も高い〈普段の買い物が便利である〉を地域別にみると、第6地域、第12地域、第7地域で9割前後と高い一方、第14地域、第2地域で5割台と低くなっている。

オ 肯定的評価が7割強と2番目に高い〈通勤や通学などの交通の便が良い〉は、第1地域で9割弱と最も高く、第14地域、第2地域で4割台半ばと低くなっており、他の項目に比べて地域差が最も大きい項目となっている。

(2) 【暮らしやすい】は前年から微減したものの、【暮らしにくい】は1割超で過去最低

ア 【暮らしやすい】（「暮らしやすい」＋「どちらかといえば暮らしやすい」）は8割台半ばで前回同様の水準である。

イ 【暮らしやすい】を地域別にみると、第6地域と第12地域で9割台と高くなっている。

ウ 【暮らしにくい】（「暮らしにくい」＋「どちらかといえば暮らしにくい」）を地域別にみると、第3地域と第14地域で2割台と他の地域に比べて高くなっている。

エ 【暮らしにくい】と回答した人に、その理由を聞いた結果、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」が4割台半ばで前回調査に引き続き最も高く、次いで「交通の便が悪いこと」が4割強、「買い物がしにくいこと」が3割台半ば近くと続いている。

(3) 定住意向がある人はおおむね漸増傾向を続け、平成13年以降で最高値の前回を更新し8割

ア 【定住意向】（「ずっと住み続けたい」＋「当分は住み続けたい」）は、現行の選択肢になった平成13年以降で初めて8割台となった前回はさらに上回る結果となった。

イ 【定住意向】を地域別にみても、15地域すべてで7割台半ば以上と高くなっている。

(4) 定住性全体について

ア 〈普段の買い物が便利〉や〈交通の便が良い〉などの利便性や快適性と、〈落書きの減少〉・〈不法投棄の減少〉・〈ごみの減少〉など美化意識の向上など多くの項目で肯定的にとらえられ、区全体としての暮らしやすさの高評価や定住意向の向上につながっているものと考えられる。

イ 〈交通マナー〉、〈高齢者や障がいのある方への配慮〉、〈文化芸術に親しめるまち〉などの項目では否定的にとらえられている。

ウ 〈普段の買い物が便利〉、〈交通の便が良い〉、〈花や緑が多い〉、〈景観・街並みが良好〉については地域差がみられる。

エ 必要と考えられる今後の取り組み

〈交通マナー〉、〈高齢者や障がいのある方への配慮〉、〈文化芸術に親しめるまち〉など否定的項目への取り組みを強化するとともに、地域差の減少化を推し進めることで、暮らしやすさの評価を向上させ、区民の定住意向をより高めていくことに繋がると考える。

2 大震災などの災害への備え

(1) 「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は4人に3人の割合

- ア 食料の備蓄や防災用具の買い置きなどについては、【備蓄・買い置きあり】（「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」＋「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」）は72.0%であり、前回調査時から大きな変動はみられなかった。
- イ 食料の備蓄や防災用具の買い置きなどを「特に用意していない」は、震災年（平成23年）と震災翌年（平成24年）に2割台前半だったが、震災3年目（平成25年）から令和元年まで3割前後と高くなった。その後は震災から10年というところで、マスコミ等に災害トピックスとして取り上げられる機会が増えたことの影響もあり再び2割台半ばまで戻ってきている。

(2) 備蓄や防災用具の買い置きなどの内容では、「水」（9割強）、「食料」（9割）

- ア 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容では、「水」が9割強、「食料」が9割、「あかり」が8割で上位3備蓄品となっている。それに続くのが、「電池・予備バッテリー」、「情報収集手段（携帯ラジオなど）」、「医薬品」で5割台、「簡易トイレ」、「防災袋」が3割台半ば近くの順となっている。
- イ 昨年度調査と比較して、順位と割合に大きな変化はみられないが、本設問を開始した平成25年時と比べると、「簡易トイレ」が15ポイント、「医薬品」が10ポイントそれぞれ増加している。
- ウ 水と食料の備蓄量について、国の「最低3日分、できれば1週間分」という目標に照らすと、「3日以上1週間分未満」と「1週間分以上」を合わせた【3日以上】で「水」、「食料」ともに4割台半ばとなっており、ともに前回の4割弱から約7ポイント増加している。
- エ 〈水や食料を特に用意していない〉と回答された方に災害発生時の水や食料の確保について聞いたところ、「通常どおりスーパーなどで購入する」が前回から5.5ポイント減少し、「区役所からもらう」が2.0ポイント増加した。また、性別にみると「考えていない」は女性より男性の方が6.0ポイント高くなっている。

(3) 家具類の転倒・落下・移動防止対策をしている【対策実施・多い】は3割弱

- ア 家具類の転倒・落下・移動防止対策については、【対策実施・多い】（「すべての家具類に対策を行っている」＋「対策をしている家具類が多い」）は3割弱で前回から微減となった。
- イ 家具類の転倒・落下・移動防止対策について住宅の形態別にみると、「一戸建て」に比べ「集合住宅」の方が約10ポイント低く、所有形態別では、「持家」に比べ「借家」の方が14ポイント低くなっている。
- ウ 全体の3分の2を占めている【少ない・行っていない】（「対策をしている家具類は少ない」＋「対策を行っていない」）の理由は、「面倒である」、「室内に危険性のある家具類がないため不要である」が3割弱で上位となっており、ともに前回から2～3ポイント増加している。
- エ 必要と考えられる今後の取り組み

家具類の転倒・落下・移動防止対策で「対策を行っていない」に絞ってみると、本設問を開始した平成23年以降で最低の割合（前回調査と同じく31.1%）になったとは言え、人命にも係わることを考えれば、対策を講じていない世帯が3割強というのは高いと考える必要がある。方向性としては、対策の実施率が低く、実施に制約がある「集合住宅」や「借家」において、万が一の際の被害を最小限にするため、危険度の高い家具から対策を講じていくことや、「面倒である」「方法が分からない」という人に対する対策事例の紹介やPRなどが必要と考える。

(4) <場所>の認知は【避難場所】が3割台半ばで最高、<意味>の認知は【第一次避難場所】の2割強が最低

ア 前々回の令和2年調査から、3種の避難場所の<意味>と<場所>を聴取する形式に設問方法を変更したが、前々回からの3年間の認知割合に特に変動はみられない。また、それぞれの<場所>より<意味>の認知度が低くなっている点も変わらない。

イ 必要と考えられる今後の取り組み

避難行動の流れと絡めて、【3種の避難場所】の<意味>と<場所>の認知浸透度をさらに高めていく必要がある。

(5) 大規模災害時の避難生活場所は「避難所」が5割弱、「別居している家族や親戚の家」が2割台半ば

大規模災害時の避難生活場所「避難所」(48.6%)が5割弱で最も高く、次いで、「別居している家族や親戚の家」(26.1%)であった。結果、大規模災害時に自宅に住めなくなった場合に避難生活を送る場所として区民の半数が「避難所」を想定していることがうかがえる。

(6) 大地震の際の防災対策で区に力を入れてほしいこととして、「ライフラインやエネルギーの確保」と「衛生対策の充実」が約6割で1位と2位

ア 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこととしては、「ライフラインやエネルギーの確保」(59.0%)、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」(58.9%)、「水・食料の備蓄の充実」(56.4%)が約6割から5割台半ばで上位3位となっている。これらに続くのが「災害時医療体制の充実」(40.1%)、「避難所施設の設備などの充実」(38.7%)といった医療・設備の充実が続いている。

3 洪水対策

- (1) 「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」を【見たことがある】は5ポイント増加し9割ア「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知度が高い「見て、自宅の浸水深を確認した」は33.3%で前回(28.7%)から4.6ポイント増加した。これに、「見て、内容は確認した」(23.9%)と「見たが、内容までは覚えていない」(32.9%)を合わせた【見たことがある】が90.1%となり、前回(84.5%)に比べて5.6ポイント増加となった。

イ 必要と考えられる今後の取り組み

令和4年4月に「足立区洪水ハザードマップ」から「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」に改訂し、区内全戸配布を実施したことによる認知度増加の可能性が高いが、このマップの存在をより広く区民に周知して、自宅の浸水深の確認など、起こり得る水害への理解をより深めてもらうことが重要である。

- (2) 河川はん濫時の避難場所を事前に決めている人は7割強で、そのうち6割台半ばが「自宅にとどまる」と回答

ア 河川がはん濫する恐れがある場合の避難場所を事前に「決めている」人は7割強を占めているものの前回調査に比べ6ポイント減少した。

イ 決めている避難場所は、「自宅にとどまる(自宅内の高い階への移動を含む)」が6割台半ばを占め、次点の「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所」の2割を大きく上回っている。

ウ 避難場所を事前に「決めていない」(24.4%)の主な理由は「避難する場所がわからないから」が4割台半ばで最も多く、次いで「近くに避難できる場所がないから」が2割弱となっている。

エ 必要と考えられる今後の取り組み

河川のはん濫リスクは地域別で違いはあるものの、「避難する場所がわからないから」は半数の地域で5割を超えており、「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」にも記載されている避難施設や分散避難についての認知度を向上させる必要がある。

- (3) 河川がはん濫して浸水被害になるような大洪水が迫っている際の情報で、「避難する」割合が高いのは、〈区から避難指示が発令〉が6割台半ば、〈自宅付近が浸水〉が6割

ア 河川がはん濫して浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合の情報で、「避難する」の割合が高い順にみると、「区から避難指示が発令されたとき」が6割台半ばで最も高く、次いで「自宅付近が浸水したとき」が6割、「近所の人が避難をしているのを見たとき」が4割弱となっている。

イ 必要と考えられる今後の取り組み

前回調査に比べて、6種の情報項目のすべてで「避難する」の割合が減少しているため、避難開始の適正なタイミングについての周知が必要である。

4 区の情報発信のあり方

(1) 区の情報入手手段として、「あだち広報」が6割台半ば、次いで「トキメキ」が約3割

ア 区に関する情報の入手手段としては、「あだち広報」が6割台半ばで、依然として他の媒体に比べて高いものの、割合は漸減傾向にある。また、「あだち広報」以外にも多くの媒体で前回調査から割合が減少している。

イ 「あだち広報」「トキメキ」「町会・自治会の掲示板・回覧板」などの紙媒体は、年代が上がるほど割合が高くなり、「区のホームページ」「Aメール」などのICTを活用した媒体は壮年期で割合が高くなっている。

(2) 重要と考える区の情報には、「健康や福祉」が6割、「災害や気象」が6割弱

ア 区が発信する情報で重要と考えるのは、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」(60.2%)が6割で最も高く、次いで「災害や気象に関する情報」(58.6%)、「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」(52.5%)、「ごみ・リサイクルなど環境に関する情報」(46.2%)の順となっており、前回調査と比較して上位項目の順位に変動はない。

イ 重要と考える区の情報を性・年代別にみると、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」は男性の60代以上と女性の50代で7割弱と高く、「災害や気象に関する情報」は男女とも50代60代で6割台と高くなっている。また、「イベントやスポーツ施設、図書館など生涯学習や余暇活動に関する情報」は男女とも30代と40代で3割台と高く、「出産や育児、就学など子どもや教育に関する情報」は女性の30代と40代で4割台と特に高くなっている。

(3) 必要な時に必要とする区の情報には「得られている」が7割台半ば

ア 区の情報に「必要なときに得られているか」を聞いたところ、【得られている】(「十分に得られている」+「ある程度得られている」)が75.1%、一方、【得られない】(「得られないことが多い」+「まったく得られない」)は10.8%となっている。

イ 経年で見ると、前回調査から数値に大きな変化はないが、調査を開始した平成25年以降は、おおむね【得られている】が漸増、【得られない】が漸減傾向を続けており、区民が必要とする区の情報提供は着実に進んでいると言える。

ウ 必要な時に必要とする区の情報に【得られない】と答えた理由としては、「情報が探しにくい」(36.7%)と「情報の探し方がわからない」(23.5%)で6割を占めており、情報の探しやすさについて一層の工夫が必要である。

5 健康

(1) 区のキャッチフレーズを【知っている】は4割強で最高値を更新

ア『あだちベジタライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、「内容まで知っている」が12.3%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」(29.3%)を合わせた【知っている】は41.6%で、「知らない(初めて聞いた)」(54.9%)を下回っている。

イ キャッチフレーズの認知度を経年でみると、前回調査からの大きな変動はないが、平成30年以降は【知っている】は漸増、「知らない(初めて聞いた)」は漸減傾向となっており、【知っている】は最高値であった平成29年調査の40.0%を上回る結果となった。

ウ キャッチフレーズの認知度を性・年代別でみると、【知っている】は女性(47.5%)の方が男性(34.6%)より12.9ポイントと大きく上回っており、「内容まで知っている」に絞ってみると、女性の30代40代で2割台と他の性・年代層に比べて特になくなっている。

(2) 糖尿病の進行による障がいでは知っているものは、「失明」が6割、「足の壊疽」が6割弱

ア 糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいでは知っているものは、「失明」が60.2%で最も高く、次いで「足の壊疽(えそ)」(58.2%)、「人工透析」(46.2%)、「口の渇き」(45.5%)などとなっている。

イ 前回調査との比較では、糖尿病の進行による障がいでは知っているものの順位と割合に大きな変動はみられない。

ウ 糖尿病の進行による障がいでは知っているものについて性別でみると、上位5項目のうち、「失明」「足の壊疽(えそ)」「口の渇き」の3項目で女性の方が男性より10ポイント以上高くなっている。

(3) 野菜から「食べている」人は6割台半ば超えで変わらず

ア 糖尿病の予防には、“食事の際に野菜から食べ始めることが効果的である”と言われていたことに対し、「(野菜から)食べている」人は67.1%、また、野菜の摂取量については、“1日350g以上”が目標とされており、実際に【できている】(「できている」+「だいたいできている」)は42.8%となっている。

イ 「(野菜から)食べている」人の割合、野菜の摂取量については、前回調査から数値に大きな変動はみられない。

ウ 性別でみると、「(野菜から)食べている」人は女性(70.1%)の方が男性(63.5%)より6.6ポイント高く、【(野菜の1日350g以上の摂取が)できている】も、女性(47.7%)の方が男性(37.0%)より10.7ポイント高くなっている。ほとんどの年代層で男性より女性の方が予防行動ができていることから、糖尿病の予防に対する知識の浸透・周知は、より男性にも届くような展開が重要である。

(4) 自分は「健康である」と自認している人は6割台半ば

ア 令和元年調査より4段階評定で聴取している「自身の健康状態」の結果をみると、「健康な方だと思う」が62.7%を占めており、「非常に健康だと思う」(4.3%)を合わせた【健康である】は6割台半ばとなっている。一方、【健康ではない】(「あまり健康ではない」+「健康ではない」)と感じている人は3割となっている。

イ 体調や習慣に関する項目について、平成25年から今回までを経年的にみると、「習慣的にたばこを吸っている」(22.9%→17.6%)は漸減傾向にあるが、「疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある」(19.2%→26.4%)は漸増傾向となっている。

(5) この一年間のがん検診の受診率は3割台半ば、種類別では「大腸がん検診」が5割弱

- ア この一年間のがん検診の受診状況は、「受けた」が37.0%で、「受けていない」が58.5%となっている。
- イ 性別にみると「(この一年間のがん検診を)受けた」は、女性(42.2%)が男性(31.0%)より11.2ポイント高くなっている。
- ウ 受診したがん検診の種類別では、「大腸がん検診」(49.0%)、「胃がん検診」(37.6%)、「乳がん検診」(36.3%)、「子宮頸がん検診」(32.6%)、「肺がん」(19.4%)などとなっている。
- エ この一年間のがん検診の受診状況を年代別にみると、女性では40代50代が5割台と高く、男性は年代が高いほど割合も高くなり70歳以上で4割台半ばを超えて高くなっている。

(6) かかりつけ歯科医を「決めている」人は6割台半ば、うち「歯石除去・歯面清掃」は6割台半ば近くが実施、「定期健診(年1回以上)は4割台半ば超が実施

- ア かかりつけ歯科医を「決めている」は64.5%で、性別でみると女性(68.5%)の方が男性(59.9%)より8.6ポイント高くなっている。
- イ かかりつけ歯科医を「決めている」人の割合は前回調査からは微増しているものの、令和元年に実施された東京都福祉保健基礎調査「都民の健康と医療に関する実態と意識」では、かかりつけ歯科医を「決めている」が70.8%であったことと比較すると、東京都全体に比べて本区は6.3ポイントほど低くなっている。

(7) 感染症予防として手洗いを「毎日(毎回)行っている」人が5ポイント減少し8割台半ば

- ア 帰宅時に感染症予防として手洗いを「毎日(毎回)行っている」が85.2%で、「ときどき行っている」(8.2%)を合わせた【行っている】は93.5%となっている。
- イ 前回調査と比べると、【行っている】は2.9ポイントの減少となっている。

(8) 「ゲートキーパー」という言葉を「知らない(初めて聞いた)」が8割

- ア 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況は、「内容まで知っている」が2.6%、「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」が15.0%で、これらを合わせた【知っている】は17.6%となっている。
- イ 「ゲートキーパー」という言葉を【知っている】は、前回調査と比較して2.5ポイントの増加となっている。人々の孤独・孤立化については、国でも2021年に孤独・孤立対策担当室が設置されるなど、非常に注視されていることから、「ゲートキーパー」の認知率を向上させる取り組みが重要となっている。
- ウ 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況を性別にみると、【知っている】は男性(22.0%)の方が女性(14.1%)より7.9ポイント高くなっている。

6 スポーツ・読書

- (1) 「運動・スポーツはしていない」は4割、「30分以上の運動を週2回以上」は2割で変わらず
日常的な運動・スポーツの実施状況をみると、「30分以上の運動を週2回以上」が20.3%で、
以下「年に数回（時間は問わない）」までを含めた【運動している】は57.0%で、「運動・スポー
ツはしていない」は39.1%となっており、前回調査と特に大きな違いはみられない。
- (2) 継続的に実施している運動・スポーツは「ウォーキング」が4割台半ばで突出
ア 【運動している】と回答した人に、継続的に実施している運動・スポーツを聞いた結果、「ウ
ォーキング」が45.7%で最も高く、これに「筋力トレーニング」(21.3%)と「健康体操（エア
ロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」(21.2%)が続いて上位となっている。
イ 継続的に実施している運動・スポーツを性・年代別にみると、「ウォーキング」は男性の40
代と70歳以上で5割台半ばと高くなっている。「筋力トレーニング」は男性の方が女性より約4
ポイント以上高く、男性の18～29歳で4割台半ば近くと最も高い。「健康体操」は女性の方が男
性より20ポイント近く高く、女性の18～29歳で4割強と最も高くなっている。
ウ 運動・スポーツを最も多く行っている場所については、「自宅周辺」(43.5%)が最も高く、
次いで「自宅」(18.7%)となっている。
- (3) 運動していない人が運動・スポーツを行うためのきっかけは、「身近な場所でできる」が3割
台半ば、次いで「手頃な価格で施設を利用できる」が3割弱
ア 日常的に「運動・スポーツをしていない」人に、どのようなきっかけがあれば運動・スポー
ツを行いたいと思うか聞いたところ、「身近な場所で運動・スポーツができる」(36.2%)、「手
頃な価格で施設を利用できる」(28.9%)、「レベルを気にせず参加できる機会がある」(22.7%)
が上位3項目となっている。
イ 運動・スポーツを行うきっかけを性別でみると、前述の上位3項目については、男性より女
性の方が高めとなっている。
ウ 運動・スポーツを行うきっかけを性・年代別にみると、「身近な場所で運動・スポーツがで
きる」と「手頃な価格で施設を利用できる」の上位2項目は女性の30代で6割台と他の性・年
代層に比べて高くなっている。
- (4) 過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動で、「活動しなかった」が7割台半ば、
「活動したかったが、する機会がなかった」が7%
過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動の有無を聞いたところ、「活動しなかった」
が76.6%を占め、「活動したかったが、する機会がなかった」が7.1%、【何らかの支える活動を
した】はわずか8.1%にとどまった。なお、「活動したかったが、する機会がなかった」理由は、
「新型コロナウイルスの影響」が30.3%で最も高い結果であった。
- (5) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度は「現行のまま継続するべき」が4割強
区の温水プールやスポーツ施設を高齢者が無料で使用できる制度については、31.0%が【何ら
かの制度改正を望んでいる】ものの、「現行のまま継続するべき」が43.3%で主流となっている。
- (6) 最近1か月間に読書に関わる行動があった人は8割台半ばで、「新聞を読む」が4ポイント減
少し、代わって「本を読む」がトップに
ア 最近1か月間の読書に関わる行動状況は、【読書に関わる行動あり】が82.3%を占めている。
イ 行動内容としては、「新聞を読む」が4.2ポイント減少し2位に下降し、替わって「本を読む」
(45.1%)が1位となった。次いで「雑誌を読む」(37.0%)、「漫画(アニメ)を読む」(31.3%)
などとなっている。

7 ビューティフル・ウィンドウズ運動

(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を【知っている】が4割超、「知らない（初めて聞いた）」が5割台半ば

ア 足立区独自の犯罪抑止運動である『ビューティフル・ウィンドウズ運動』については、【知っている】（「知っている、活動を実践している」＋「知っているが、特に何も行ってない」＋「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」）が41.2%となっている。

イ 前回調査と比較すると、【知っている】は3.3ポイント減少しているものの、ここ10年間の推移をみると、平成26年調査からずっと4割台となっており、膠着状態に陥っている。

ウ 『ビューティフル・ウィンドウズ運動』に関する取り組みで【現在参加している、もしくは今後参加したい取り組みがある】は25.8%で前回（29.9%）から4.1ポイント減少しており、5つの取り組みすべてで割合が減少している。

エ 『ビューティフル・ウィンドウズ運動』に関する取り組みに「参加していない（今後も参加しない）」は66.4%を占めている。

(2) 「花のビュー坊プレート」の認知状況は3割強

『花のビュー坊プレート』の認知状況について、【知っている】（「すでに使用している」（2.7%）＋「見たことがあり、名称なども知っている」（6.0%）＋「見たことはあるが、名称などは知らなかった」（18.0%）＋「名称などは知っているが、見たことはない」（4.3%））でみると31.0%にとどまり、区民への認知浸透度は依然として伸び悩んでいる。

(3) 治安が改善していることを「知っている」が4割強で、「知らない」が5割台半ば近く

ア 足立区内の刑法犯認知件数がピークだった平成13年と比較して1万件以上減少していることを「知っている」（42.9%）は4割強であった。

イ 「知っている」は平成30年以降漸増を続けていたが、今回調査では前回調査に比べて1.9ポイントの微減となった。

(4) 居住地域の治安状況が【良い】は6割台半ばで最高値を更新し、【悪い】は平成23年調査開始以降で初めて2割を下回る

ア 居住地域の治安状況については、【良い】（「良い」＋「どちらかといえば良い」）が6割台半ばで、この5年間は毎回最高値を更新しており、本設問を開始した平成23年に比べて約25ポイント増加している。

イ 治安状況が【良い】について地域別にみると、7割台半ばと高い地域がある一方で、5割台と低い地域もあり、地域差がみられる。

ウ 治安が【良い】と評価した理由としては、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が46.6%で最も高くなっているものの、この項目は平成25年から漸減傾向が続いている。逆に「安全・安心パトロールカー（青パト車）など自主防犯パトロールの活動が活発で、安心感があるから」（23.3%）が前回調査に比べて3.9ポイント増加し、令和元年を頂点とした谷型で増加している。

エ 治安が【悪い】と感じる理由としては、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」（43.6%）が最も高くなっている。

(5) 治安対策として区に力を入れてほしいこと

治安対策として足立区に特に力を入れてほしいことは、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」が51.9%で最も高く、次いで「安全に配慮した道路、公園の整備」（39.2%）、「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」（38.4%）などと例年同様の結果となっている。

8 環境・地域活動

(1) 環境のために心がけていることは「ごみと資源の分別」が8割台半ば、次いで「不要なレジ袋を断る」が7割台半ば超え

ア 環境のために心がけていることでは、「ごみと資源の分別を実行している」(84.7%)が今回も最も高く、平成23年以降8割台半ばから9割弱の間で推移している。次いで「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(77.1%)、「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」(56.3%)、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(54.5%)、今回調査で新設された「外食時に食べられる分だけ注文する」(51.0%)までが上位5位となっている。

イ SDGsの認知度別にみると、上位8項目中5項目で認知度合いが高いほど割合が高い比例関係にある。

ウ SDGsの関心度別にみると、上位8項目中6項目で関心度合いが高いほど割合が高い比例関係にある。その度合いは認知度よりも関心度との相関関係が強く表れている。

(2) 環境への影響を考えた行動は【行動している】が前回から4ポイント増加し8割弱

ア 環境への影響を考えた日頃からの行動については、「行動している」が36.8%で、「行動することが時々ある」(41.3%)を合わせた【行動している】は前回調査から4.3ポイント増加し8割弱となった。

イ 環境への影響を考えた行動を性・年代別でみると、【行動している】は女性の18~29歳、50代、60代で8割台半ばと高くなっている。

(3) この1年間に参加した活動は、「特に参加していない・特にない」が5割強で変わらずも、今後参加したい活動としては軒並み増加

ア この1年間の活動への参加状況は、「特に参加していない・特にない」の51.0%に対し、【この1年間に参加した活動がある】は28.6%と大きく下回っている。

イ この1年間に参加した活動内容としては、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、緑を増やしたり、育てる取り組み」が18.0%で最も高く、次いで、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」(15.1%)となっている。

ウ 引き続き、または今後参加したいと思う活動としては、「特に参加していない・特にない」の37.8%に対し、【引き続き参加、または参加したい】が40.4%と上回り、現状の【この1年間に参加した活動がある】(28.6%)に比べて11.8ポイント高くなっている。

エ 引き続き、または今後参加したいと思う活動内容としては、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」(現状15.1%→29.7%)が約3割、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、緑を増やしたり、育てる取り組み」(現状18.0%→21.8%)が2割強、「講演会や講座、サークル活動など」(現状5.0%→15.0%)と「区内の文化施設や催しで親しむ機会」(現状3.5%→14.9%)がともに1割台半ばとそれぞれ増加している。

9 「孤立ゼロプロジェクト」など

- (1) 「孤立ゼロプロジェクト」を【知っている】は2割台半ば、「知らない」が7割で変化なし
 ア 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況は、【知っている】（「知っていて、内容もおおむね理解している」(7.4%) + 「聞いたことはあるが、内容はわからない」(17.7%)）が25.1%となっており、前回調査からわずかに減少している。
 イ 【知っている】を地域別で見ると、第10地域で3割台半ばと最も高く、次いで第3地域と第11地域が3割前後で続いている。
 ウ 【知っている】を性・年代別で見ると、男女とも30代で他の年代層に比べて低くなっており、30代以下の年代層に向けて、事業認知度向上のための取り組みが必要である。
- (2) 「地域包括支援センター」を【知っている】は漸増が続き、初めて6割台
 ア 「地域包括支援センター」の認知状況は、【知っている】（「知っていて、業務内容もおおむね理解している」(27.6%) + 「聞いたことはあるが、詳しくはわからない」(32.4%)）が60.0%と、本設問の開始以降漸増を続け、初めて6割台となった。
 イ 【知っている】を地域別で見ると、第11地域、第3地域、第4地域で6割台半ばと他の地域に比べて高くなっている。
 ウ 【知っている】を性・年代別で見ると、女性の方が男性より約9ポイント高く、おおむね年代が上がるほど割合も高くなり、女性の60代で7割台半ばを超えて高くなっている。
- (3) 高齢者の孤立防止や見守り活動に「協力したい」は2割弱で、前回から微減
 ア 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向は、【協力したい】（「積極的に協力したい」(1.6%) + 「負担にならない範囲で協力してもよい」(17.3%)）は18.9%で前回調査から微減した。
 イ 【協力したい】を地域別で見ると、第12地域が3割弱で最も高く、第6地域と第4地域が2割台半ばで続いている。
 ウ 【協力したい】を性・年代別で見ると、女性の方が男性より約4ポイント高く、男女ともに30代が1割弱と他の年代層に比べて低くなっており、30代以下の年代層に向けて事業認知度向上と活動への積極的な参加を促進する取り組みが必要と考える。
 エ 協力意向がある活動内容としては、「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかひの活動」(51.0%)が半数で最も高く、次いで『世間話をする頻度』や『困りごとの相談相手』などを調査する活動(40.0%)、「住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動」(30.3%)などとなっている。
- (4) 「フレイル」を予防する活動を【知っている】は5割半ば近くで、漸増が続く
 ア 「フレイル」にならないために「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」のそれぞれが大切なことの認知状況については、「知っていて、活動を実践している」が16.0%で、これに「知っているが、特に何もしていない」(37.8%)を合わせた【知っている】(53.8%)は5割台半ば近くとなり、本質問を開始した令和2年から漸増を続けている。
 イ 性・年代別にみると、【知っている】は女性の方が男性より9ポイント高く、女性の60代が7割強で最も高くなっている。
- (5) 「たんぱく質を多く含む食品」の摂食頻度は「毎食（1日3回）食べている」が2割
 ア たんぱく質を多く含む食品（肉、魚、卵、大豆製品）の摂食頻度は、「毎食（1日3回）食べている」が20.6%にとどまり、最も高いのは「1日1回位食べている」(35.9%)となっている。
 イ 性・年代別で見ると、「毎食（1日3回）食べている」は、男性の60代が2割台半ばで最も高く、女性の40代が1割強で特に低くなっている。

第2章 調査結果の要約

(6) 仕事と仕事以外の生活の調和が「取れている」が4割強、「取れていない」が2割台半ば近く

ア 仕事と仕事以外の生活の調和について、調和が「取れている」が41.7%で、「取れていない」(23.6%)を上回っている。一方、「わからない」が27.4%であった。

イ 調和が「取れている」を性・年代別でみると、男女とも18~29歳で5割台と高くなっている。

ウ 調和が「取れていない」は男性の30代で3割台半ば、男性の50代で3割強と他の性・年代層に比べて高くなっている。

(7) 言葉の「内容まで知っている」は「身体的暴力以外のDV」(48.9%)、「LGBT」(47.1%)、「成年後見制度」(24.3%)

ア「内容まで知っている」と「聞いたことはあるが、内容はわからない」を合わせた【知っている】でみると、「身体的暴力以外のDV」が81.7%、「LGBT」が67.6%、「成年後見制度」が58.2%となっている。

イ【知っている】を性別にみると、「成年後見制度」は女性(60.7%)の方が男性(55.2%)より5.5ポイント高く、「身体的暴力以外のDV」も女性(83.2%)の方が男性(80.0%)より3.2ポイント高くなっている。また、「LGBT」は【知っている】における性別での傾向的な違いはみられない。

10 「協働・協創」・「SDGs」

「協働・協創」

- (1) 「協創」の認知度は平成29年から漸増傾向だったが、今回大幅に増加し3割弱に
 「協創」について、「知っている」は9.1%で、これに「聞いたことはある」(19.6%)を合わせた【知っている】は28.7%で、前回(19.8%)から8.9ポイント大幅に増加した。
- (2) “協働”“協創”の実践は、「すでに、活動を実践している」が10ポイント減少し1割台半ば
 ア 「協創」を知っていると回答した人に、協働・協創の実践状況を聞いたところ、「すでに、活動を実践している」(15.0%)が前回調査(25.3%)から約10ポイント減少し、「関心はあるが、特に活動していない」(72.1%)が約9ポイント減少となった。
 イ 「協創」の認知度アップは向上したものの、協働・協創の実践に至る方は少ない状況であるといえる。コロナ禍が実践に向けた環境に影響している可能性もあるが、その制限の中でどのような形で活動に結びつけられるかが重要である。
- (3) 協働や協創が進んでいると感じている人【**そう思う**】は2割台半ばで【**そう思わない**】を上回っているものの、「わからない」が5割
 協働や協創が進んでいると感じるかについては、「そう思う」(4.0%)に「どちらかといえばそう思う」(22.4%)を合わせた【**そう思う**】が2割台半ばと前回調査から4.8ポイント増加し、無関心とも取れる「わからない」が4.5%減少している。

「SDGs」

- (4) SDGsの認知状況は「内容まで知っている」が3割弱で、「知らない」が2割台半ば
 ア SDGsの認知については、「内容まで知っている」が28.0%となっている。「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」が41.7%で最も高く、これらを合わせた【知っている】は約7割となっている。一方、「知らない」が24.6%となっている。
 イ SDGsの認知度を性別でみると、「内容まで知っている」は、男性(31.3%)の方が女性(25.0%)より6.3ポイント高くなっている。
 ウ SDGsの認知度を性・年代別でみると、男女ともに年代が下がるほど割合が高くなり、男性の18~29歳(55.2%)が5割台半ばで最も高くなっている。
- (5) SDGsに【**関心がある**】が3割台半ば、【**関心がない**】が3割、
 ア SDGsへの関心状況については、「関心がある」が30.7%で最も高く、これに「とても関心がある」(5.6%)を合わせた【**関心がある**】は3割台半ばとなっている。一方、SDGsに「あまり関心がない」(23.9%)と「全く関心がない」(6.9%)を合わせた【**関心がない**】は3割となる。また、「どちらともいえない」(26.8%)は2割台半ばとなっている。
 イ SDGsへの関心状況を性別でみると、【**関心がある**】は、女性(37.7%)の方が男性(34.3%)より3.4ポイント高くなっている。
 ウ SDGsへの関心状況を性・年代別でみると特徴的な傾向は見られないが、女性の50代で5割強と最も高くなっている。
 エ マスコミ等で多く取り上げられていることもあり、【**知っている**】は7割弱であることに対し、【**関心がある**】は3割台半ばで認知度と関心度とが乖離している。「環境のために心がけていること」でも、SDGsの関心度との正の相関関係について触れたが、関心度をより高めることで様々な取り組みへの参加が期待できることから、関心度を向上させる取り組みが重要である。

11 区の取り組み

(1) 「足立区に愛着」と「足立区を良いまちにする活動をする人に共感」がともに7割

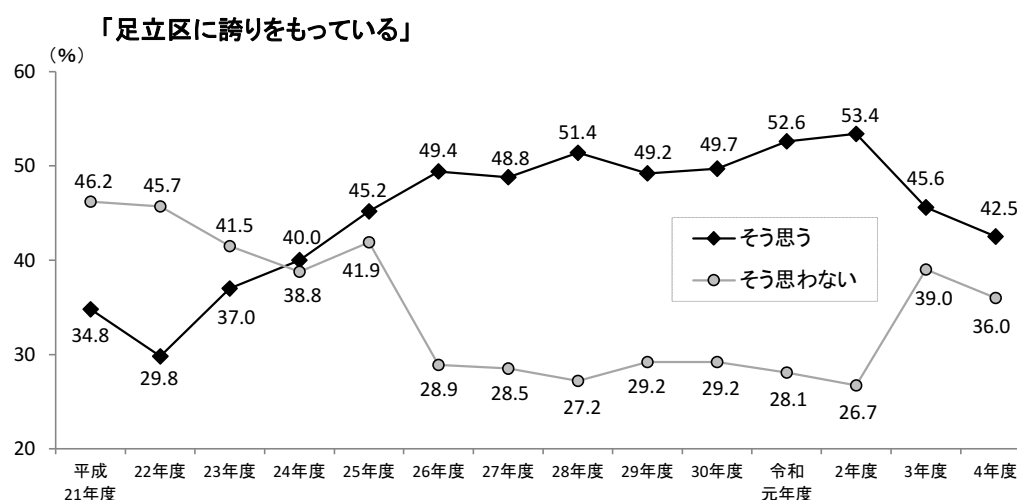
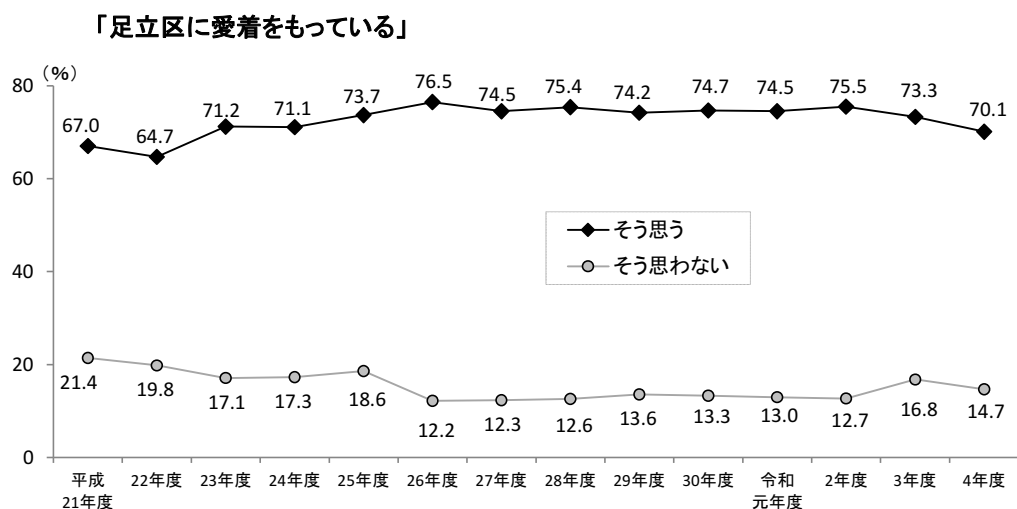
ア 平成21年調査から今回の令和4年調査まで14年にわたって経年で聴取している〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉の3項目について、今回の結果を【そう思う】(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)の比率で見ると、〈足立区に愛着をもっている〉は70.1%、〈足立区に誇りをもっている〉は42.5%、〈足立区を人に勧めたい〉は41.7%となっている。

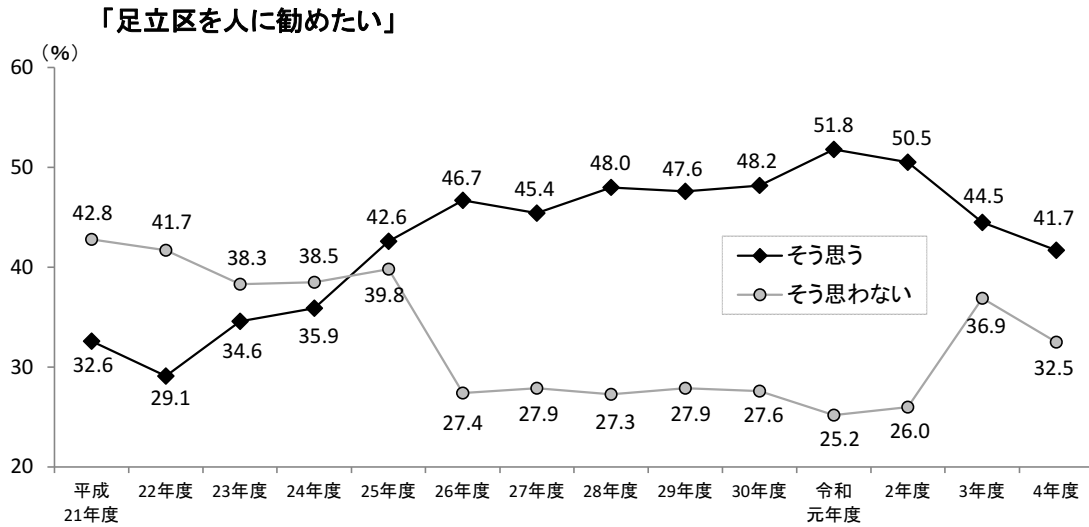
イ 経年でみると、【そう思う】は前述の3項目とも前回から2～3ポイント減少している。

ウ 特に〈足立区に誇りをもっている〉と〈足立区を人に勧めたい〉の2項目を経年でみると、【そう思わない】も3～4ポイント減少し、両項目は14年間の推移が同様の傾向をみせており、“誇れるものがあるから人に勧められる”という強い正の相関にあると言える。

エ 3項目に共通していることとして、【そう思う】と【そう思わない】がともに減少しているが、それぞれの減少ポイントの和に比べて「わからない」の増加ポイントの方が大きくなっており、〈足立区に愛着をもっている〉と〈足立区を人に勧めたい〉で「わからない」は14年間で最高値となっている。

オ 今回の調査結果は前回同様に今までの経年傾向と異なった結果となっており、引き続き今後の推移を見守る必要があるが、居住年数と相応の相関があると考えられる〈愛着〉は別として、足立区民が自らの住むまちに〈誇り〉を持てるよう、区外からの評価やまちの魅力を向上させていく施策について研究を重ねていく必要があると考える。



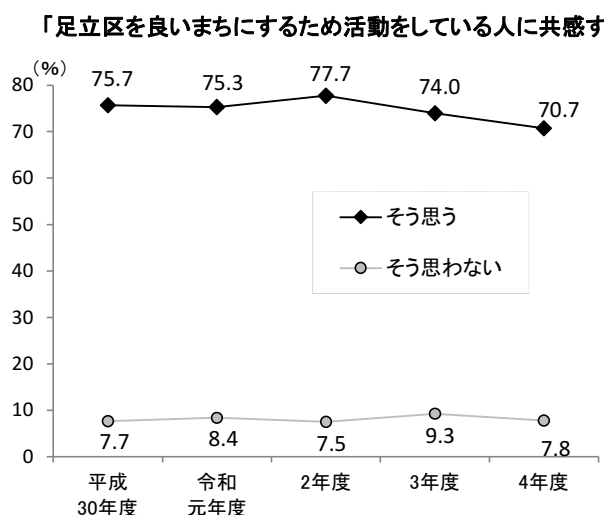
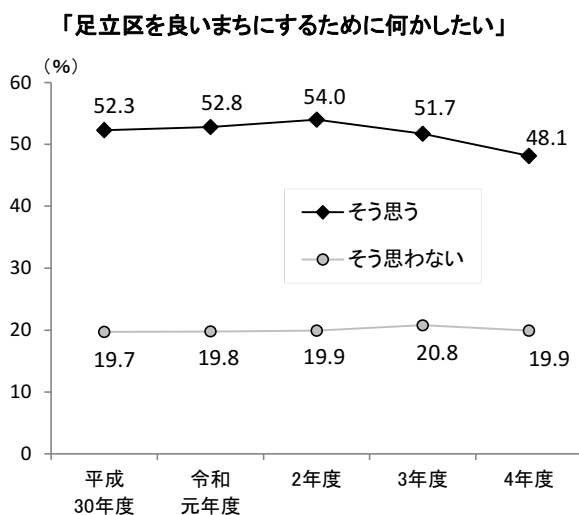


カ 平成30年調査から新たに聴取項目に加えた〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉の2項目について、【そう思う】をみると、それぞれ48.1%と70.7%で、ともに前回調査から3～4ポイント減少しており、【そう思う】もそれぞれ1～2ポイント減少している。

キ 前述の3項目同様、〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉、〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉とともに「わからない」が増加しており、【そう思う】と【そう思わない】の減少ポイントの和に比べて「わからない」の増加ポイントがほぼ同様、又は大きくなっている。

ク 〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉、〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉について区政満足別にみると、【そう思う】は区政への満足度が増すほど割合が高くなっている。

ケ 〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉では【そう思う】は区政に満足している層が69.5%、区政に不満がある層で29.3%となっており、〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉では【そう思う】は区政に満足している層が83.1%、区政に不満がある層で56.1%となっている。特に、〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉で区政に対する満足層と不満層で大きな差が出ており、区政に満足しているから、区を良くしたいという好循環が生まれていると考えられる。



第2章 調査結果の要約

コ 区に対する気持ちの5項目と〈区政満足度〉との関係について

- (ア) 〈足立区に愛着をもっている〉、〈足立区に誇りをもっている〉、〈足立区を人に勧めたい〉、〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉、〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉の5項目で【**そう思う**】と回答している人は、〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と思う人がそれぞれ大半を占めており、中でも、〈足立区を人に勧めたい〉で7割と最も高く、〈足立区に誇りをもっている〉と〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉では6割台半ばと高くなっている。
- (イ) 30ページでも触れたが、“誇りがもてる”と“人に勧めたい”は正の相関が強くあることから、この意識を啓発することが、〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉という熱い思いを持つ区民を増やすことに繋がるものと考えられる。

		足立区を良いまちにするために何かしたい		
		回答者数	そう思う(計)	そう思わない(計)
全 体		1,531	48.1	19.9
足立区に愛着をもっている	そう思う(計)	1,073	60.3	15.9
	そう思わない(計)	225	28.4	52.0
足立区に誇りをもっている	そう思う(計)	650	67.2	10.3
	そう思わない(計)	551	41.9	39.9
足立区を人に勧めたい	そう思う(計)	638	70.5	11.6
	そう思わない(計)	497	39.6	40.8
足立区を良いまちにするための行動をしている人に共感する	そう思う(計)	1,082	65.2	16.5
	そう思わない(計)	120	15.0	81.7
区政満足度	満足(計)	1,043	52.4	18.2
	不満(計)	301	44.5	29.2

(件)

(%)

(%)

※濃いグレーの白字：全体に比べて10ポイント以上高い
 ※薄いグレーの黒字：全体に比べて5ポイント以上高い

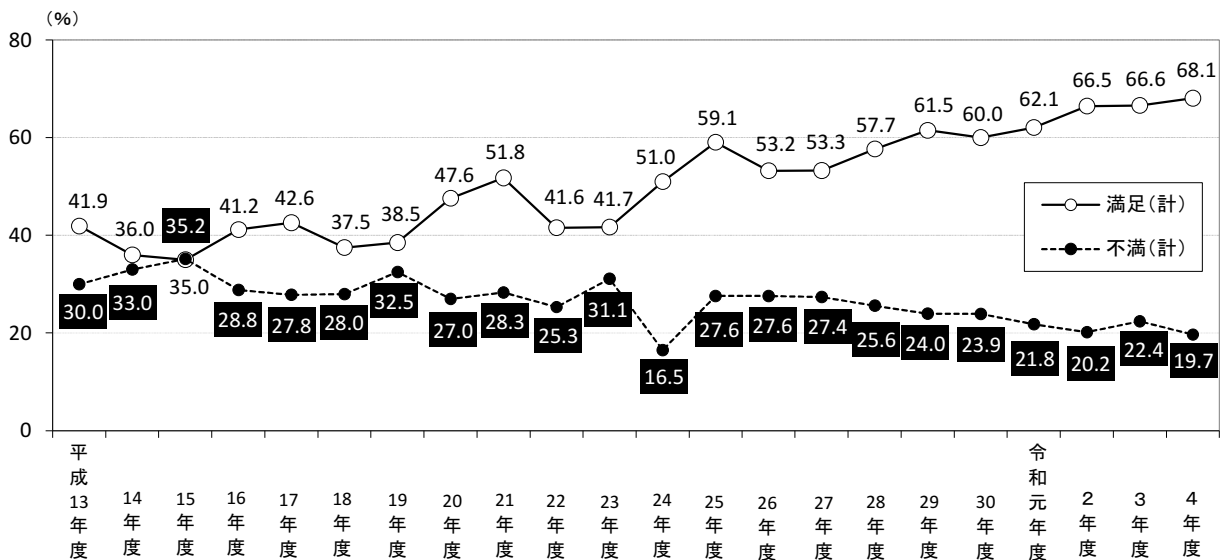
(2) 区政全体に対する【満足】はこれまでで最高の6割台半ば、【不満】は2割強

ア 定住性の評価で【暮らしやすい】(84.3%)は漸増傾向を続け、【定住意向】(80.3%)も高い割合で推移しているなか、区政全体に対する満足度も【満足層】(「満足」+「やや満足」)が68.1%と、選択肢の変更等があり、単純に比較はできないとは言え、本設問を開始した昭和53年以降で最も高い割合となっている。

イ 区の各分野に対する【不満】について年代別にみると、全世代では【満足】が高い分野(「子育て施策」「情報提供」「保健衛生対策」)でも若年層(18~39歳)は全世代に対して5ポイント以上【不満】に感じており、逆に全世代で【満足】が低い分野(「交通対策」「都市開発」「低所得者対策」等)では、40代・50代の【不満】が5ポイント以上高く、より【不満】に感じているといえるなど、さらに満足度を上げるためには、分野ごとにターゲットとする年代を見極める必要がある。

ウ 区の各分野への取り組みへの現状評価(満足度)と重要度の関係を数値化(算出方法の詳細は389頁を参照のこと)してみると、本区の場合、“重要度が平均値より高いが、現状評価(満足度)が平均値より低い分野”として「交通対策」「防災対策」「障がい者支援」「学校教育対策」「高齢者支援」の5項目が該当した。これらの分野については、今後現状評価値を上げるべく、重点的に取り組む必要がある。

エ 重要度に対する現状評価の乖離度(「重要度の得点」-「現状評価の得点」)が大きい項目は、「交通対策」(2.42ポイント)、「防災対策」(2.21ポイント)、「治安対策」(2.06ポイント)、「住環境対策」(2.01ポイント)などであった。



※平成25年度以降は選択肢が現行の4選択肢(「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」)であるが、平成24年度までは「わからない」が加わった5選択肢のため、単純に比較はできないが参考として掲載している。

第2章 調査結果の要約

(3) 今後の課題

重要度が平均値より高いが、現状評価（満足度）では平均値より低くなっている「交通対策」「防災対策」「障がい者支援」「学校教育対策」「高齢者支援」、及び重要度は平均値より低いものの現状評価との乖離度が大きい「住環境対策」については、今後も区の重点的課題として、行政と区民、関係機関が連携し、総合的かつ効果的な取り組みを推進することが重要である。

重 要 度		満 足 度			
キ	治安対策	3.26	カ	資源環境対策	1.85
エ	防災対策	3.25	イ	職員の接客態度	1.84
ナ	交通対策	3.03	ア	情報提供	1.76
カ	資源環境対策	2.99	オ	自然・緑化対策	1.56
ス	子育て支援	2.87	ス	子育て支援	1.47
オ	自然・緑化対策	2.82	タ	保健衛生対策	1.45
ソ	障がい者支援	2.75	キ	治安対策	1.20
セ	高齢者支援	2.72	サ	生涯学習振興	1.19
ア	情報提供	2.69	セ	高齢者支援	1.15
タ	保健衛生対策	2.69	シ	学校教育対策	1.13
シ	学校教育対策	2.68	ソ	障がい者支援	1.10
イ	職員の接客態度	2.63	ク	地域活動支援	1.07
ト	住環境対策	2.49	ケ	社会参加支援	1.05
テ	都市開発	2.46	エ	防災対策	1.04
ウ	ICT活用	2.31	テ	都市開発	0.91
チ	低所得者対策	2.25	コ	男女共同参画推進	0.91
ツ	産業振興	2.14	ウ	ICT活用	0.90
サ	生涯学習振興	2.03	ツ	産業振興	0.90
ク	地域活動支援	2.00	チ	低所得者対策	0.74
コ	男女共同参画推進	1.87	ナ	交通対策	0.61
ケ	社会参加支援	1.64	ト	住環境対策	0.48
区 全 体		2.55	ニ	区全体として	1.27
			区 全 体		1.16



区に対する気持ち 経年比較／性・年代別

1 足立区に愛着をもっている

全体	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
	76.5	74.5	75.4	74.2	74.7	74.5	75.5	73.3	70.1

男性	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	68.1	55.2
20代	77.0	82.0	66.7	68.4	74.6	72.5	62.7		
30代	77.2	67.3	67.7	74.5	65.1	69.5	80.0	56.8	58.2
40代	76.6	76.5	74.8	75.7	77.5	71.7	79.3	74.4	68.3
50代	80.6	73.0	82.1	82.9	76.0	81.6	79.7	78.7	71.8
60代	76.6	77.7	82.6	69.3	81.4	76.9	77.5	78.6	78.4
70歳以上	85.9	76.0	82.4	81.6	76.9	74.5	77.9	76.3	78.1

女性	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	67.5	54.3
20代	67.1	67.5	66.3	72.5	64.9	59.1	66.3		
30代	77.6	69.0	66.7	66.9	74.5	73.7	75.0	72.7	62.3
40代	71.4	75.1	73.5	73.5	71.0	72.0	74.7	71.9	72.0
50代	68.7	74.7	75.7	74.0	74.7	79.2	73.2	74.7	72.3
60代	76.9	77.1	73.9	77.3	72.0	80.0	76.1	70.8	68.5
70歳以上	76.5	76.5	80.0	74.6	78.1	73.2	76.6	76.9	73.7

2 足立区に誇りをもっている

全体	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
	49.4	48.8	51.4	49.2	49.7	52.6	53.4	45.6	42.5

男性	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	43.1	23.9
20代	44.3	54.1	44.9	36.8	50.8	40.6	45.8		
30代	47.5	37.6	47.5	42.9	31.4	42.7	52.9	30.9	34.3
40代	50.6	48.8	51.9	54.9	51.2	52.5	50.7	41.4	40.0
50代	50.4	47.6	52.7	57.7	51.9	60.5	54.4	48.2	36.3
60代	51.5	52.2	59.7	46.0	54.3	58.7	62.0	53.4	45.9
70歳以上	65.9	63.0	68.2	59.9	62.3	62.8	64.2	61.1	58.7

女性	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	28.9	31.4
20代	35.4	37.7	33.7	34.8	33.8	40.9	45.7		
30代	38.8	40.1	41.5	34.7	41.8	43.2	43.8	29.3	22.8
40代	42.3	42.8	42.7	47.1	36.6	43.9	50.0	39.5	32.2
50代	38.1	39.9	45.1	41.6	48.8	51.0	48.0	47.3	41.3
60代	50.0	51.4	50.3	58.2	44.8	54.2	47.2	35.4	42.5
70歳以上	57.3	57.7	60.0	55.5	63.9	57.3	61.1	56.0	57.0

3 足立区を人に勧めたい

全体	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
	46.7	45.4	48.0	47.6	48.2	51.8	50.5	44.5	41.7

男性	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	40.3	34.3
20代	62.3	44.3	43.6	42.1	59.3	46.4	42.4		
30代	49.5	36.6	48.5	49.0	47.7	62.2	68.6	34.6	46.3
40代	49.4	51.2	55.6	56.9	51.9	55.0	52.7	51.1	45.8
50代	48.2	49.2	50.9	52.0	53.5	57.8	51.3	51.1	39.5
60代	46.1	48.9	54.2	38.0	50.4	49.6	54.3	48.9	39.6
70歳以上	55.1	54.0	59.1	55.3	53.8	53.2	58.3	51.6	48.8

女性	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	38.6	40.0
20代	39.2	32.5	41.6	43.5	36.4	43.9	46.7		
30代	42.5	41.5	40.0	42.4	48.2	53.4	50.9	48.5	36.8
40代	43.9	41.3	42.7	47.6	37.2	52.2	52.4	37.1	38.1
50代	40.3	39.9	47.9	42.2	47.5	55.0	43.0	46.0	37.4
60代	42.9	45.7	43.0	53.2	44.8	49.2	38.7	36.9	38.6
70歳以上	46.3	50.0	49.0	47.3	49.8	45.1	52.3	42.1	45.4

第2章 調査結果の要約

4 足立区を良いまちにするために何かしたい

全体	平成30年	令和元年	2年	3年	4年
	52.3	52.8	54.0	51.7	48.1

(%)

男性	平成30年	令和元年	2年	3年	4年
18～19歳	—	—	—	45.8	40.3
20代	45.8	39.1	44.1		
30代	52.3	56.1	57.1	44.4	47.8
40代	60.5	57.5	54.0	57.1	55.8
50代	57.4	58.8	57.0	56.7	50.0
60代	46.5	47.9	58.1	58.0	45.0
70歳以上	53.8	56.9	59.8	47.9	46.8

女性	平成30年	令和元年	2年	3年	4年
18～19歳	—	—	—	54.2	41.4
20代	41.6	39.4	41.3		
30代	54.5	51.7	58.0	58.6	43.9
40代	52.5	63.7	58.4	53.9	48.3
50代	52.5	60.4	53.6	58.7	58.1
60代	59.4	45.8	49.3	53.8	55.9
70歳以上	48.5	45.1	49.8	42.9	41.8

5 足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

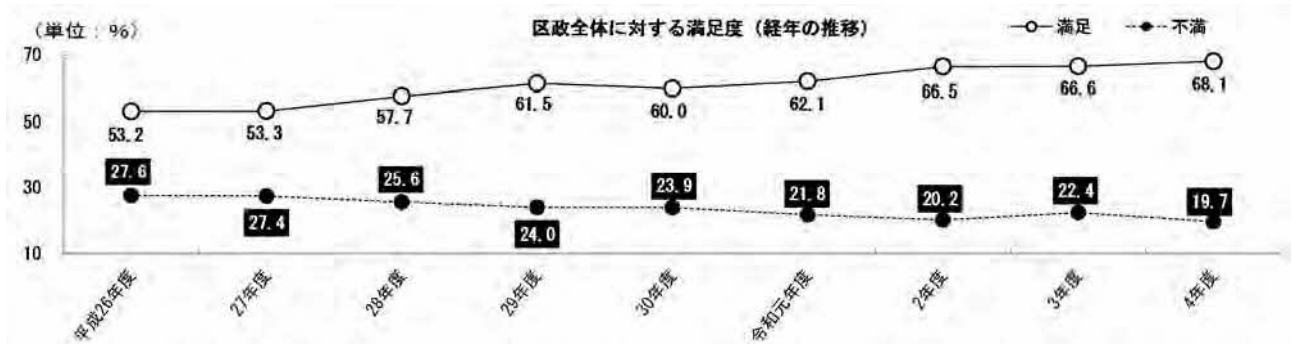
全体	平成30年	令和元年	2年	3年	4年
	75.7	75.3	77.7	74.0	70.7

(%)

男性	平成30年	令和元年	2年	3年	4年
18～19歳	—	—	—	66.7	59.7
20代	64.4	59.4	67.8		
30代	76.7	79.3	82.9	61.7	68.7
40代	76.7	80.0	75.3	78.9	77.5
50代	78.3	80.3	77.2	72.3	73.4
60代	75.2	72.7	76.7	80.2	69.4
70歳以上	74.5	72.9	80.9	66.8	70.1

女性	平成30年	令和元年	2年	3年	4年
18～19歳	—	—	—	72.3	68.6
20代	61.0	66.7	66.3		
30代	79.1	71.2	81.3	80.8	67.5
40代	80.3	80.3	84.3	80.2	66.1
50代	79.0	83.2	77.7	82.0	81.3
60代	82.5	75.0	81.7	75.4	78.0
70歳以上	71.7	72.8	74.1	70.7	65.3

区政満足度の分析 経年比較／暮らしやすさ／定住意向／情報の入手／治安



1 地域の暮らしやすさと区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答	(%)
暮らしやすい	6.3	17.8	1.9	0.3	2.7	
どちらかといえば暮らしやすい	3.1	33.6	10.1	1.4	7.1	
どちらかといえば暮らしにくい	0.3	4.7	4.2	0.7	1.0	
暮らしにくい	0.1	0.4	0.5	0.3	0.1	

2 定住意向と区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答	(%)
ずっと住み続けたい	5.6	20.5	3.7	0.4	5.0	
当分は住み続けたい	3.3	29.1	7.4	1.3	4.1	
区外に転出したい	0.3	2.1	2.2	0.5	0.4	
わからない	0.7	5.4	3.5	0.4	1.8	

3 必要な時に必要とする区の情報の入手状況と区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答	(%)
十分に得られている	2.4	2.8	0.4	0.0	0.4	
ある程度得られている	6.3	44.5	11.1	1.1	6.1	
得られないことが多い	0.3	4.3	2.6	0.7	1.5	
まったく得られない	0.2	0.5	0.5	0.0	0.3	
必要と思ったことがない	0.5	3.2	0.9	0.5	0.7	
区の情報に関心がない	0.3	1.6	1.0	0.3	0.5	

4 居住地域の治安状況と区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答	(%)
良い	2.9	6.3	0.5	0.3	1.1	
どちらかと言えば良い	5.6	35.6	6.7	1.0	4.6	
どちらかと言えば悪い	0.7	8.4	6.3	0.8	1.3	
悪い	0.0	0.8	0.9	0.4	0.3	
わからない	0.7	5.7	2.2	0.3	2.3	

第2章 調査結果の要約

第3章 調査結果の分析

1 定住性

-
- (1) 居住地域の評価
 - (2) 地域の暮らしやすさ
 - (3) 特に暮らしにくいと感じること
 - (4) 定住意向
-

1 定住性

(1) 居住地域の評価

問1 あなたは、お住まいの地域について、どのように感じていますか（○はそれぞれ1つずつ）。

■ 〈普段の買い物が便利である〉が約8割、〈通勤や通学などの交通の便が良い〉が7割強

ア 単純集計・経年比較／居住地域の評価

(ア) 住んでいる地域について感じていることについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の高い順でみると、以下のとおりである。

- ① 〈普段の買い物が便利である〉(79.2%)
- ② 〈通勤や通学などの交通の便が良い〉(71.2%)
- ③ 〈落書きが減少したと感じる〉(69.6%)
- ④ 〈快適で安全なまちである〉(63.1%)

(イ) 「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない】の高い順でみると、以下のとおりである。

- ① 〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉(59.7%)
- ② 〈文化芸術に親しめるまちである〉(43.7%)
- ③ 〈景観・街並みが良好である〉(39.6%)

(ウ) 経年で比較した場合に【そう思う】の増加幅が大きい項目は、以下のとおりである。

- ① 〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉(+2.6ポイント)
- ② 〈通勤や通学などの交通の便が良い〉(+2.3ポイント)

(エ) 経年で比較すると、新設項目を除く16項目のうち10項目で【そう思う】が令和3年調査に比べて減少している。減少幅が大きい項目は、以下の2項目である。

- ① 〈男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている〉
(-4.1ポイント)
- ② 〈国籍、文化などが異なる人々がともに暮らしやすいまちである〉(-3.2ポイント)

図1-1-1-① 経年比較／居住地の評価

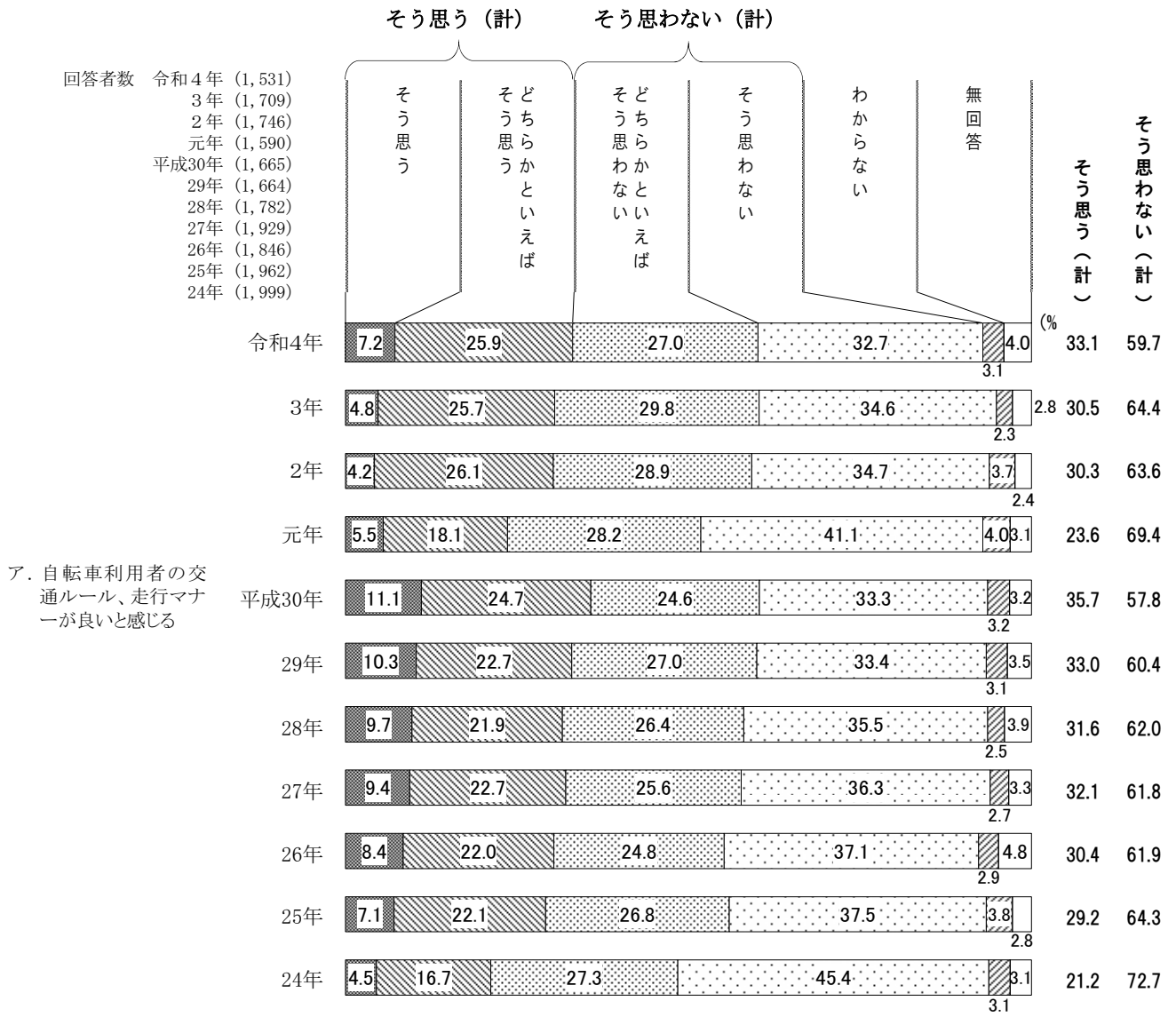
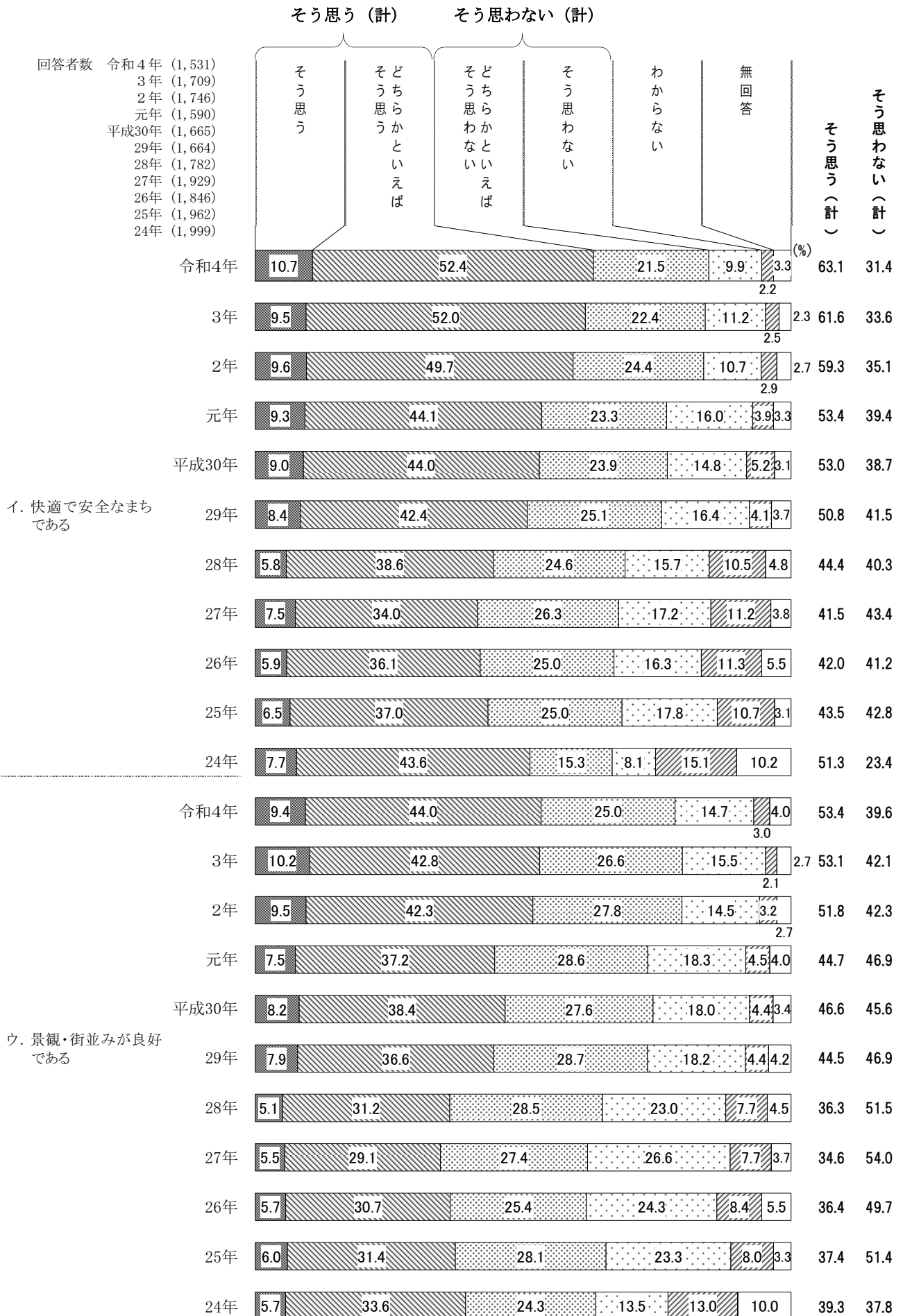


図1-1-1-② 経年比較／居住地域の評価



第3章 調査結果の分析（定住性）

図1-1-1-③ 経年比較／居住地域の評価

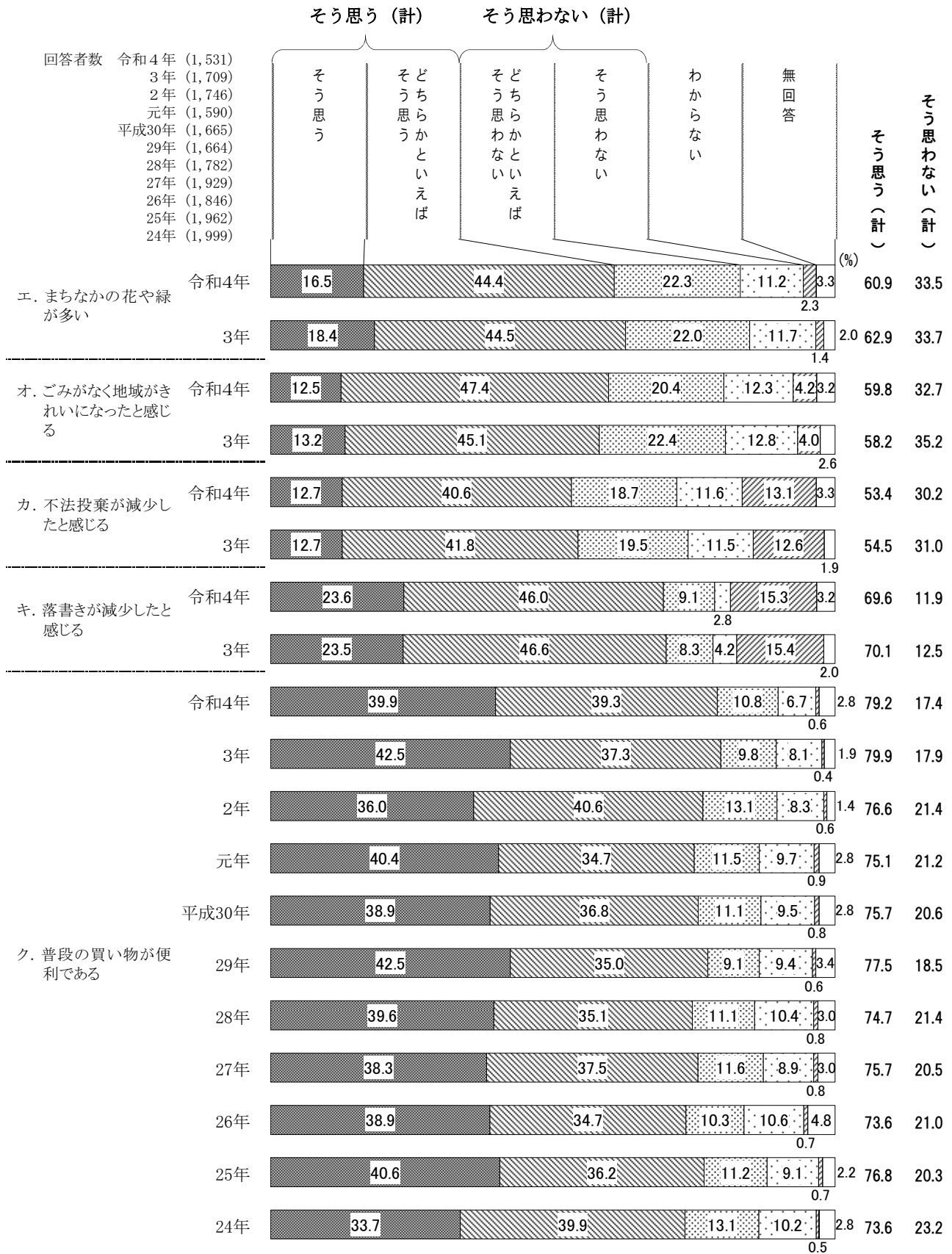
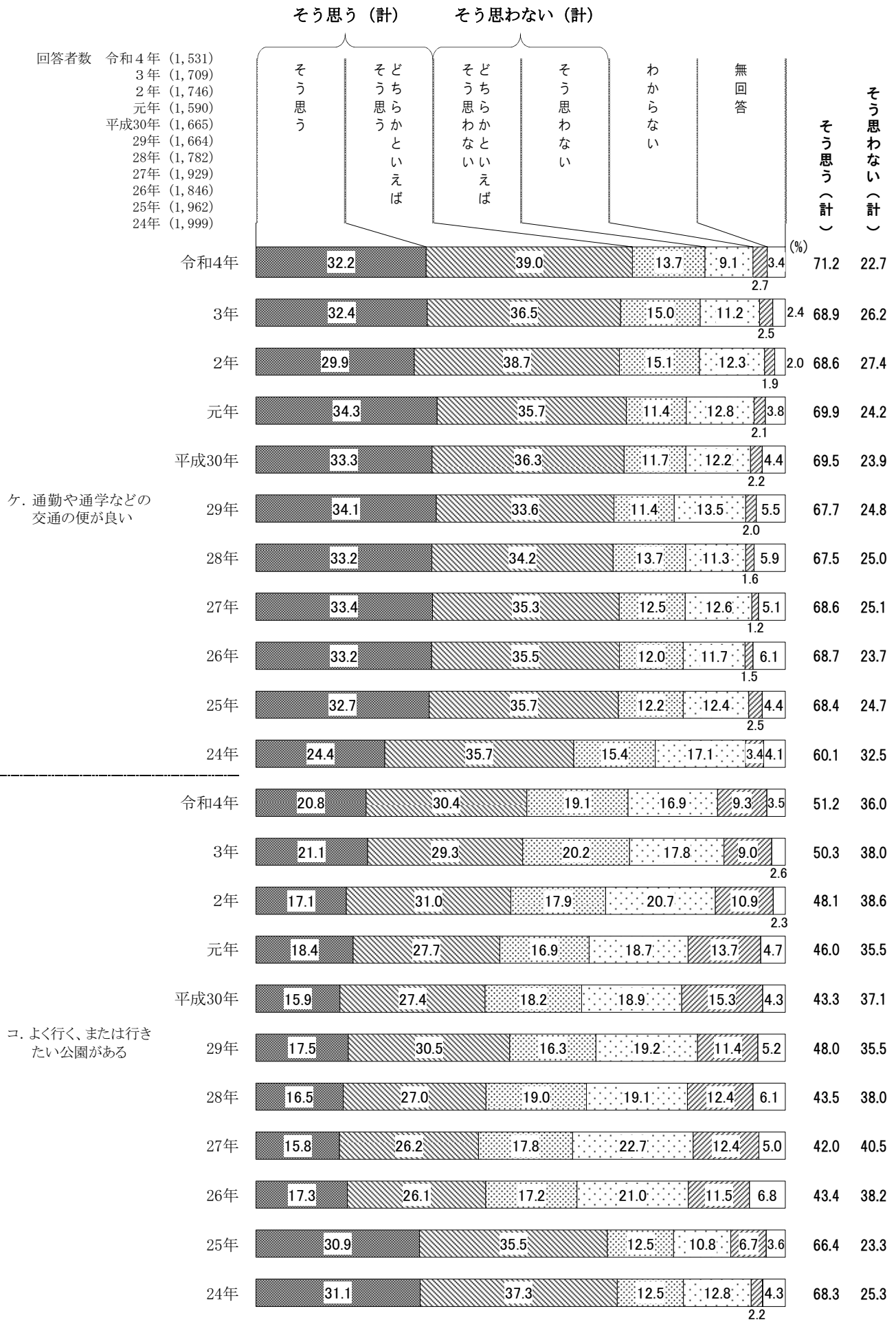


図1-1-1-④ 経年比較／居住地域の評価



第3章 調査結果の分析〈定住性〉

図1-1-1-⑤ 経年比較／居住地域の評価

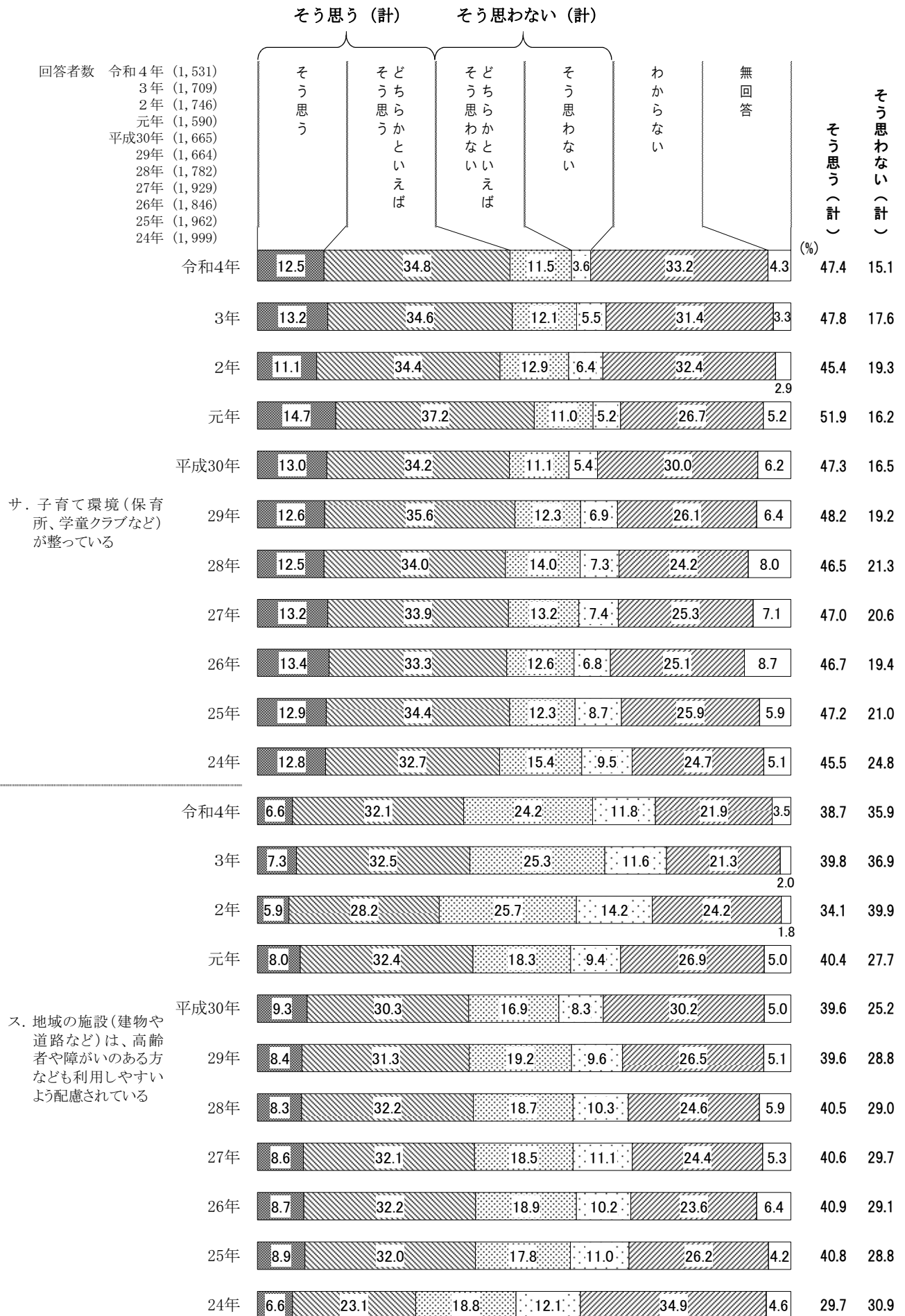
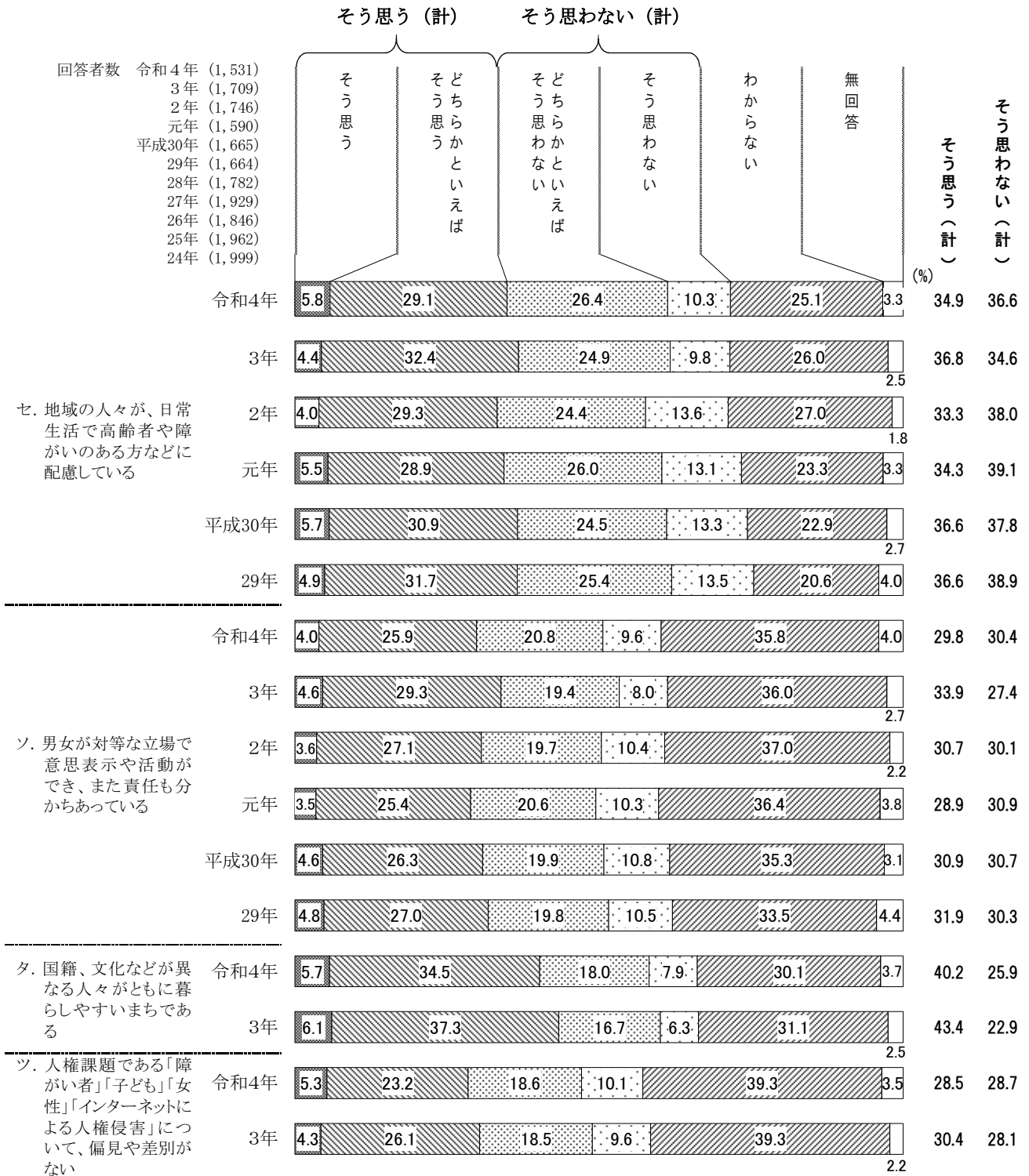
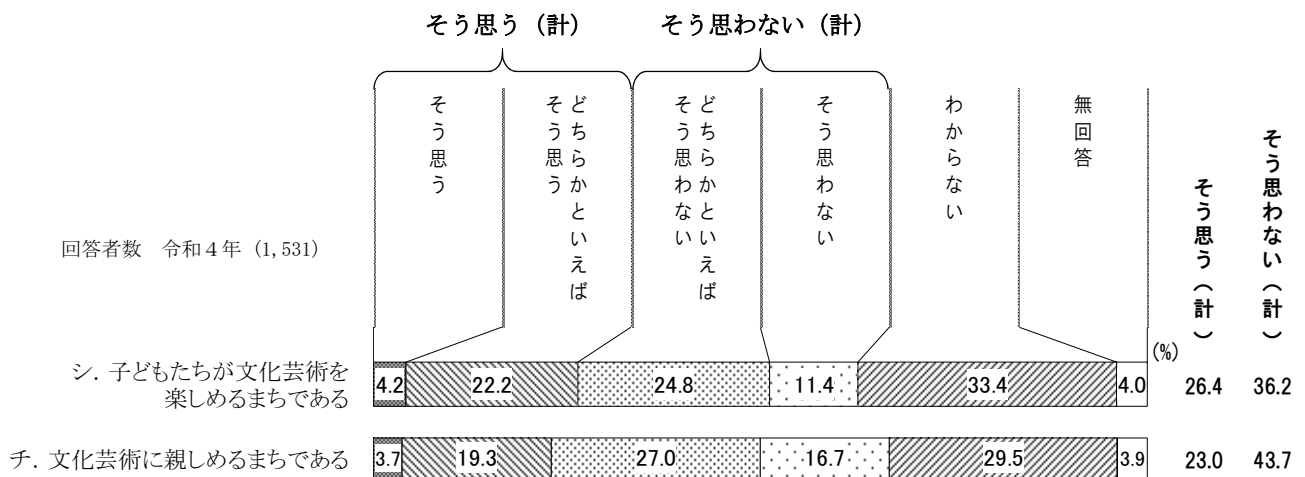


図1-1-1-⑥ 経年比較／居住地域の評価



第3章 調査結果の分析〈定住性〉

図1-1-1-⑦ 経年比較／居住地域の評価



- ※ アは、令和元年度「自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている」から表現をかえた。
- ※ イは、平成28年度「快適で安全なまちづくりが進められている」から表現をかえた。
- ※ ウは、平成28年度「景観・街並みが魅力的になってきている」から表現をかえた。
- ※ コは、平成25年度「利用しやすい公園がある」から表現をかえた。
- ※ シ、チは、今回の令和4年度からの新設項目。
- ※ スは、平成24年度「高齢者や障がいのある方も施設が利用しやすい」から表現をかえて、令和2年度に「地域の施設」の部分を「地域の施設（建物や道路など）」に表現をかえた。

イ クロス集計・地域別／居住地域の評価／

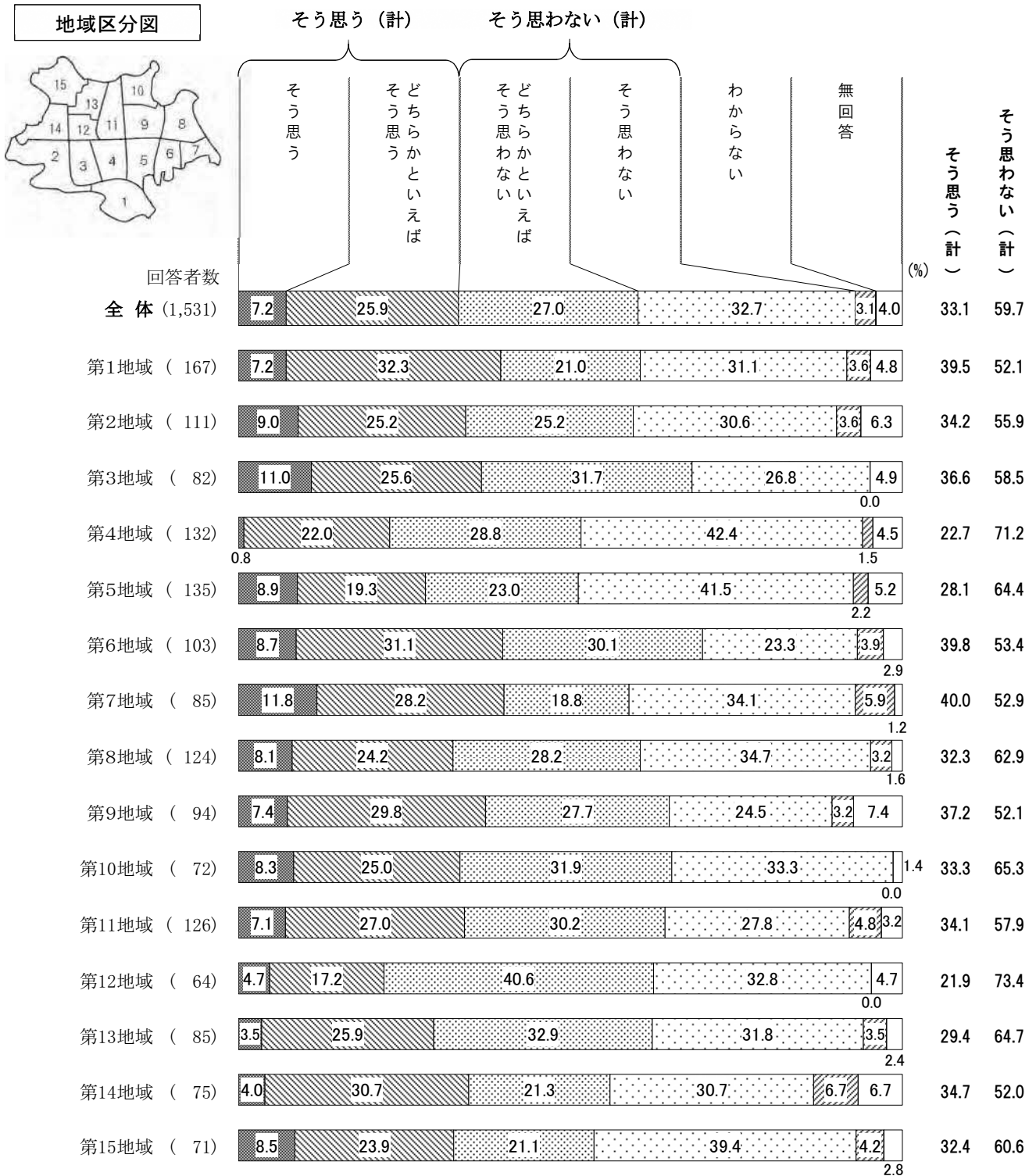
自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる

次に、各項目について、地域別でみた。

〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉について、【そう思う】は第7地域で40.0%と最も高く、次いで第6地域が39.8%となっている。一方、【そう思わない】は第12地域で73.4%と最も高く、次いで第4地域が71.2%となっている。

図1-1-2-① 地域別／居住地域の評価

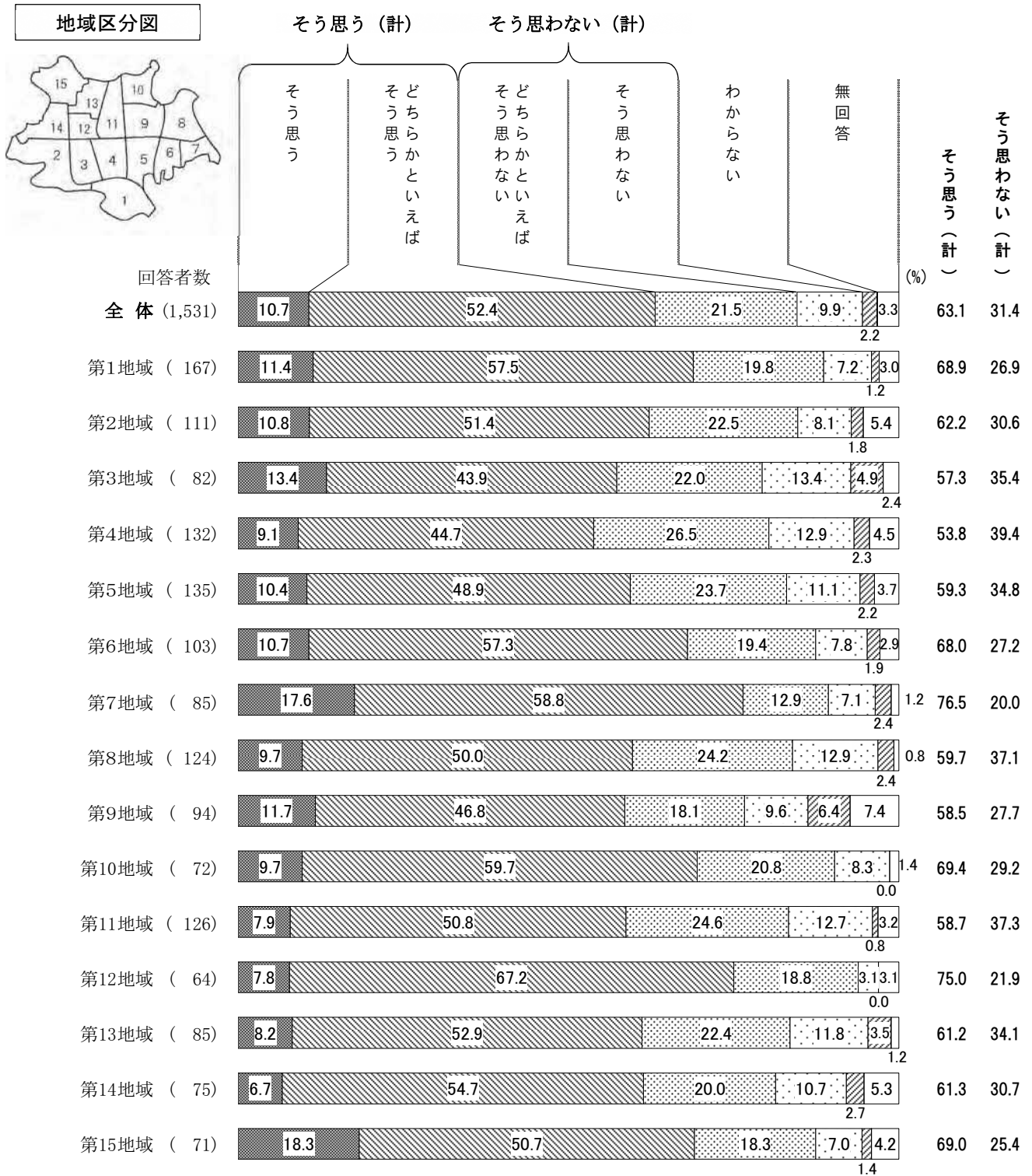
／自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる



ウ クロス集計・地域別／居住地域の評価／快適で安全なまちである

〈快適で安全なまちである〉について、【そう思う】は第7地域で76.5%と最も高く、次いで第12地域が75.0%となっている。一方、【そう思わない】は第4地域で39.4%と最も高く、次いで第11地域が37.3%となっている。

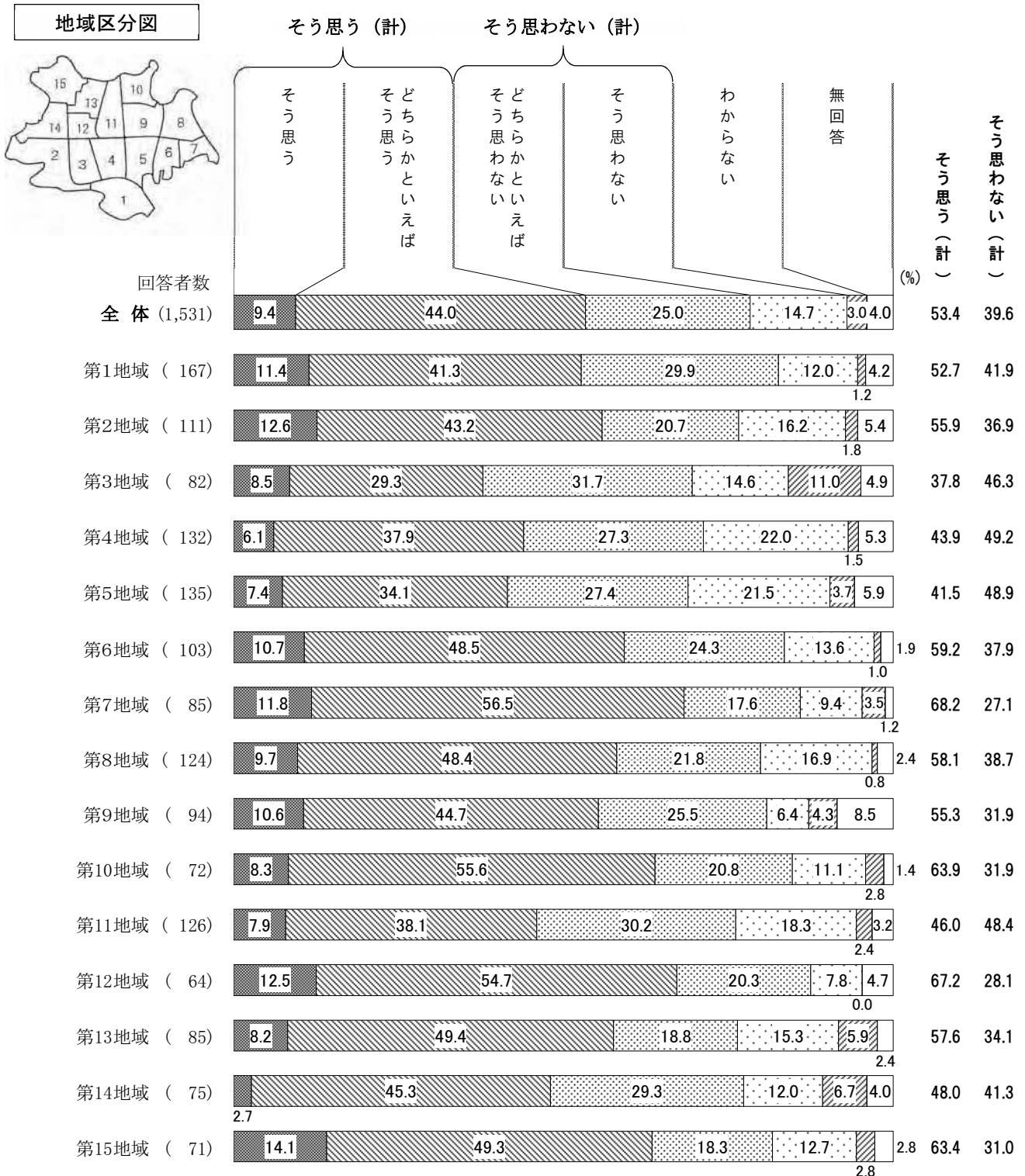
図1-1-2-② 地域別／居住地域の評価／快適で安全なまちである



エ クロス集計・地域別／居住地域の評価／景観・街並みが良好である

〈景観・街並みが良好である〉について、【そう思う】は第7地域で68.2%と最も高く、次いで第12地域が67.2%となっている。一方、【そう思わない】は第4地域で49.2%と最も高く、次いで第5地域が48.9%、僅差で第11地域が48.4%が続いている。

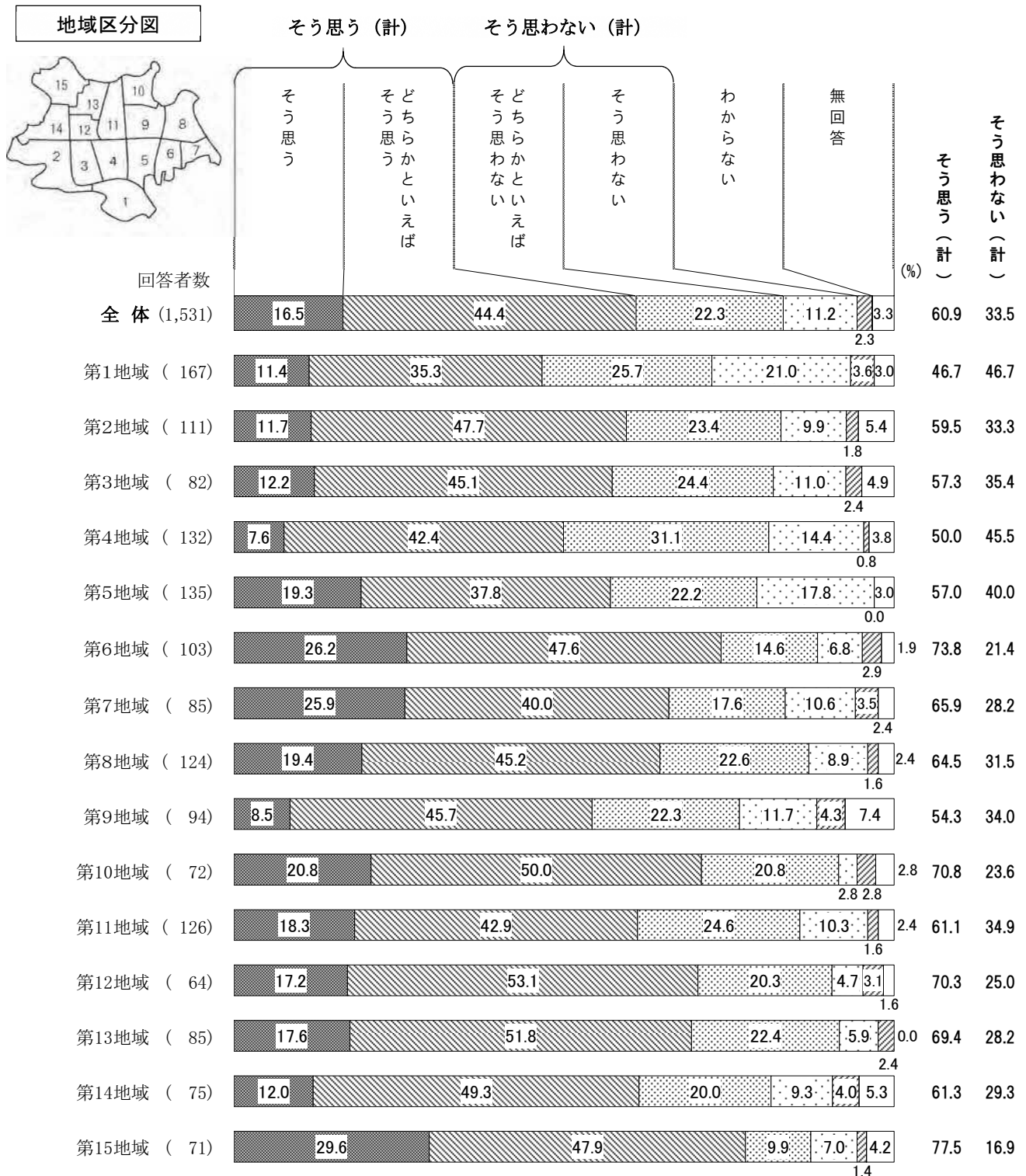
図1-1-2-③ 地域別／居住地域の評価／景観・街並みが良好である



オ クロス集計・地域別／居住地域の評価／まちなかの花や緑が多い

〈まちなかの花や緑が多い〉について、【そう思う】は第15地域が77.5%で最も高く、次いで第6地域が73.8%となっている。一方、【そう思わない】は第1地域で46.7%と最も高く、次いで第4地域が45.5%となっている。

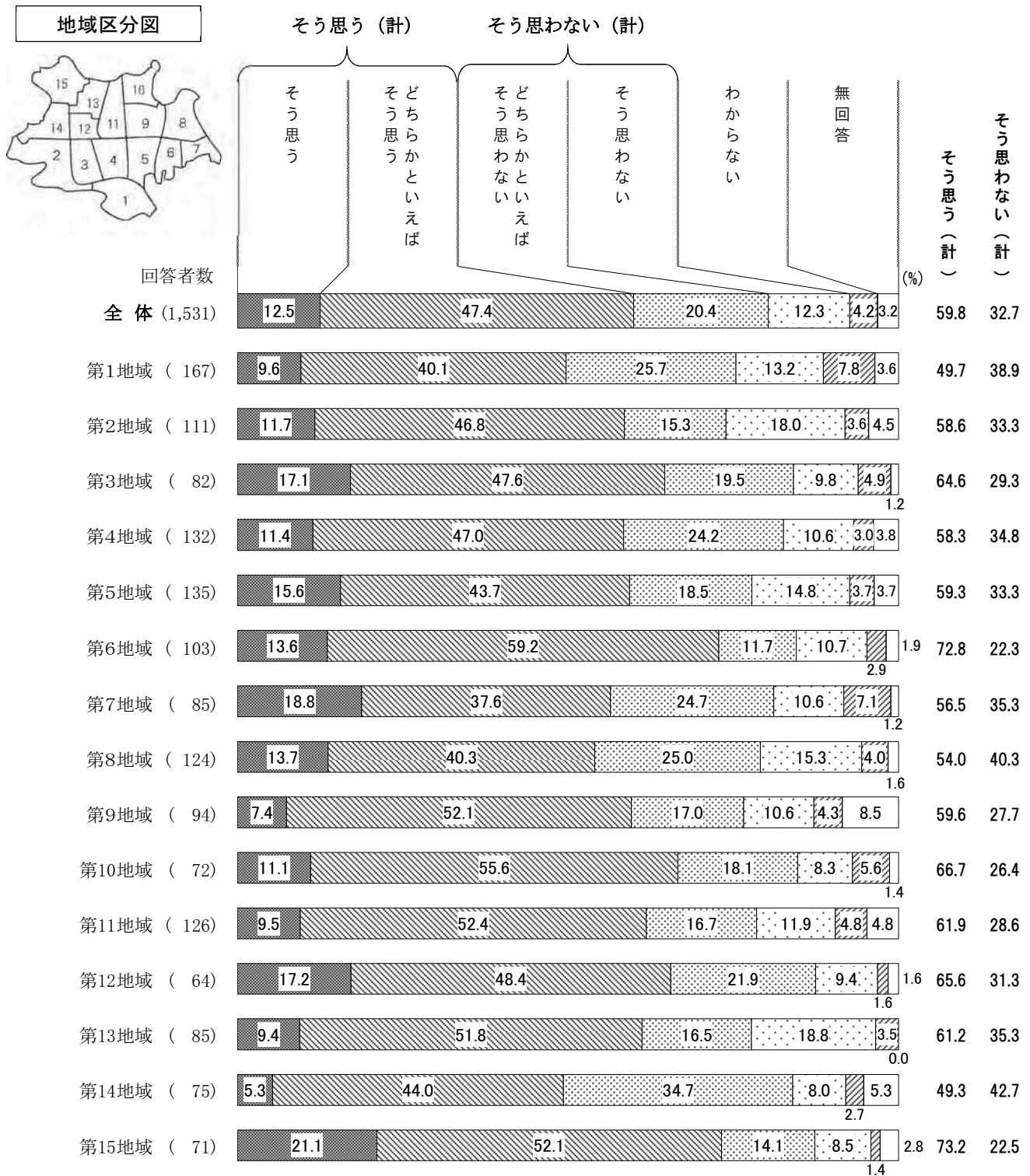
図1-1-2-④ 地域別／居住地域の評価／まちなかの花や緑が多い



カ クロス集計・地域別／居住地域の評価／ごみがなく地域がきれいになったと感じる

〈ごみがなく地域がきれいになったと感じる〉について、【そう思う】は第15地域が73.2%と最も高く、次いで第6地域が72.8%となっている。一方、【そう思わない】は第14地域で42.7%と最も高く、次いで第8地域が40.3%となっている。

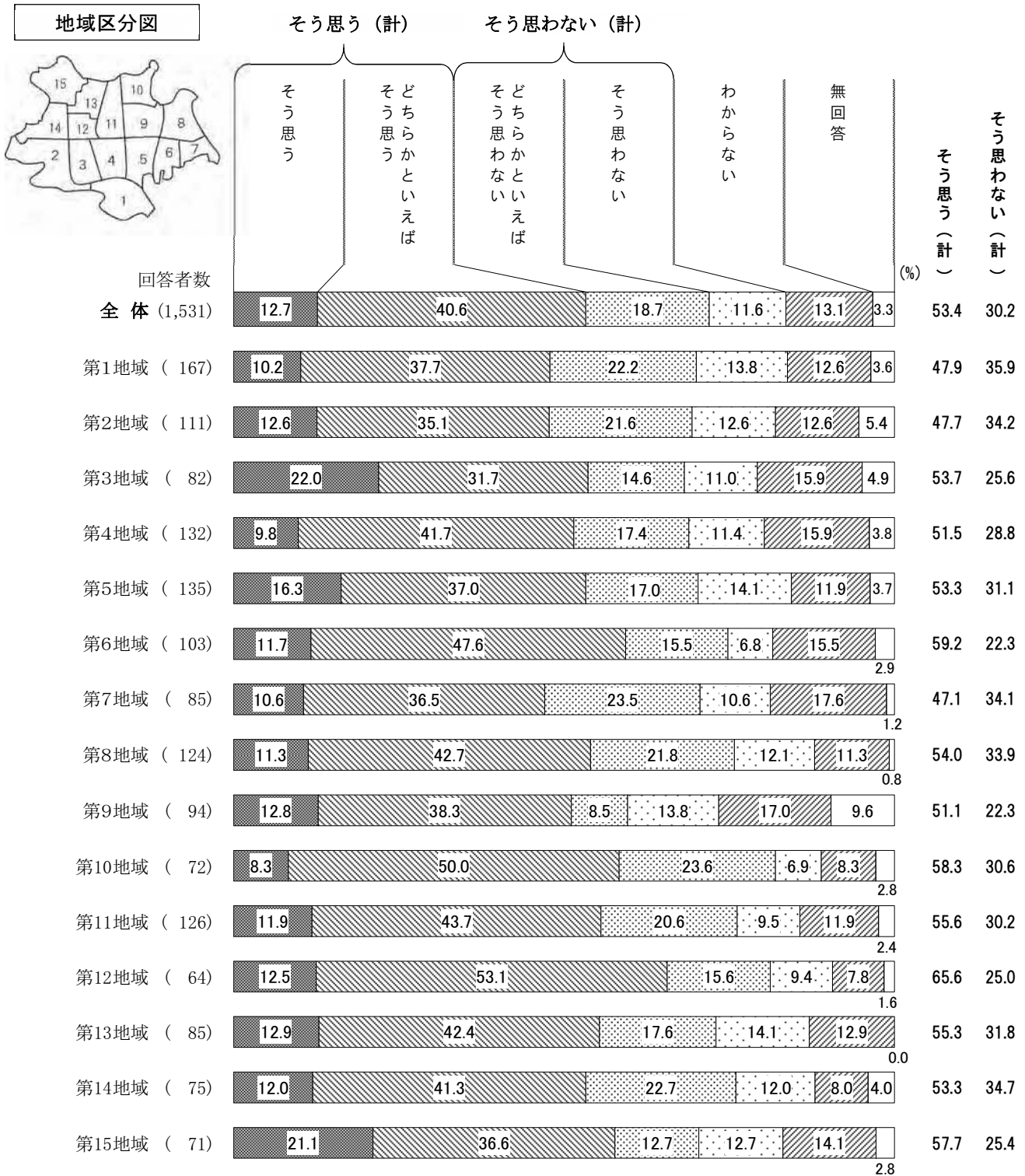
図1-1-2-⑤ 地域別／居住地域の評価／ごみがなく地域がきれいになったと感じる



キ クロス集計・地域別／居住地域の評価／不法投棄が減少したと感じる

〈不法投棄が減少したと感じる〉について、【**そう思う**】は第12地域で65.6%と最も高く、次いで第6地域が59.2%となっている。一方、【**そう思わない**】は第1地域で35.9%と最も高く、次いで第14地域が34.7%となっている。

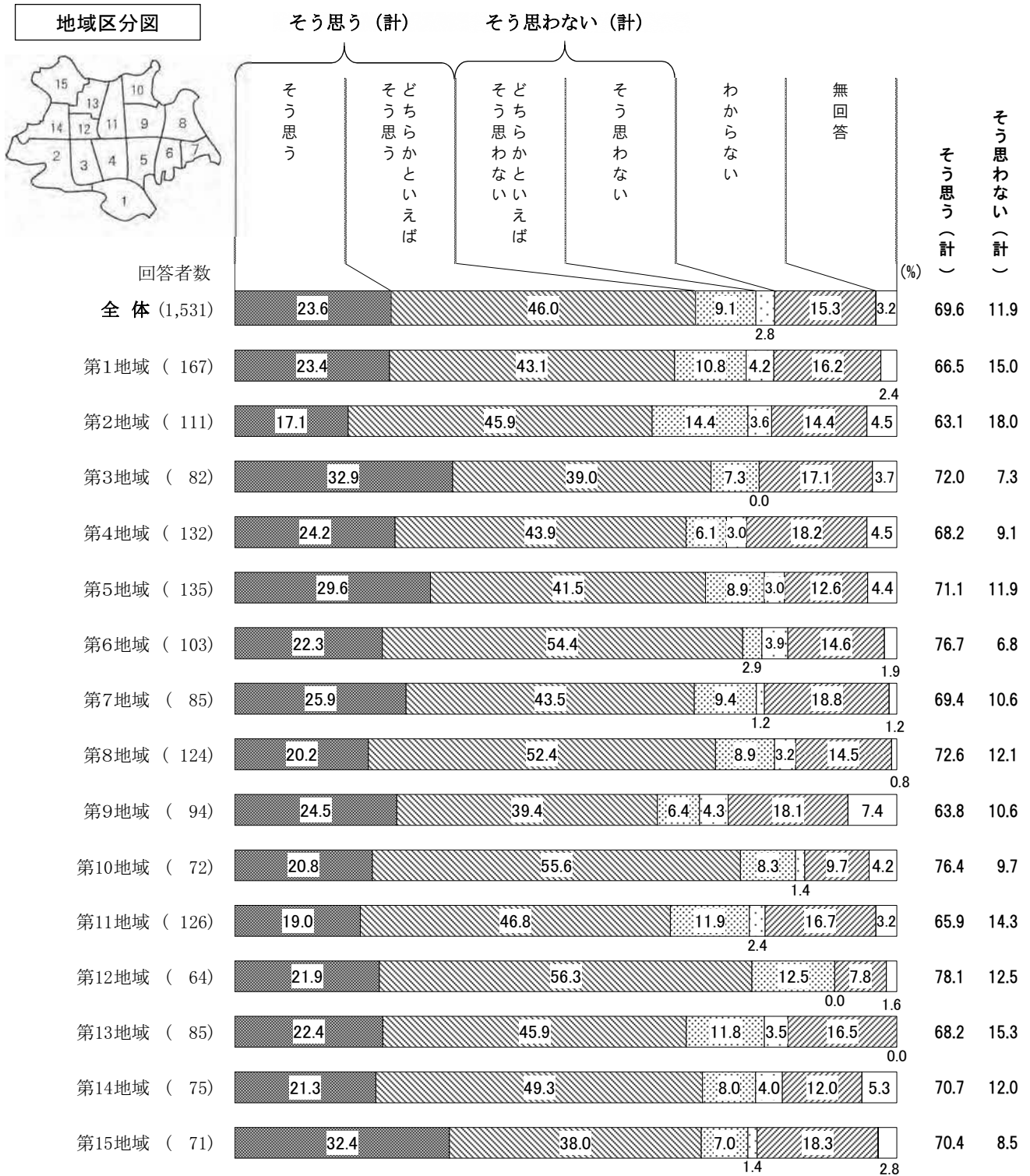
図1-1-2-⑥ 地域別／居住地域の評価／不法投棄が減少したと感じる



ク クロス集計・地域別／居住地域の評価／落書きが減少したと感じる

〈落書きが減少したと感じる〉について、【そう思う】は第12地域で78.1%と最も高く、次いで第6地域が76.7%、僅差で第10地域が76.4%と続いている。一方、【そう思わない】は第2地域で18.0%と最も高く、次いで第13地域が15.3%となっている。

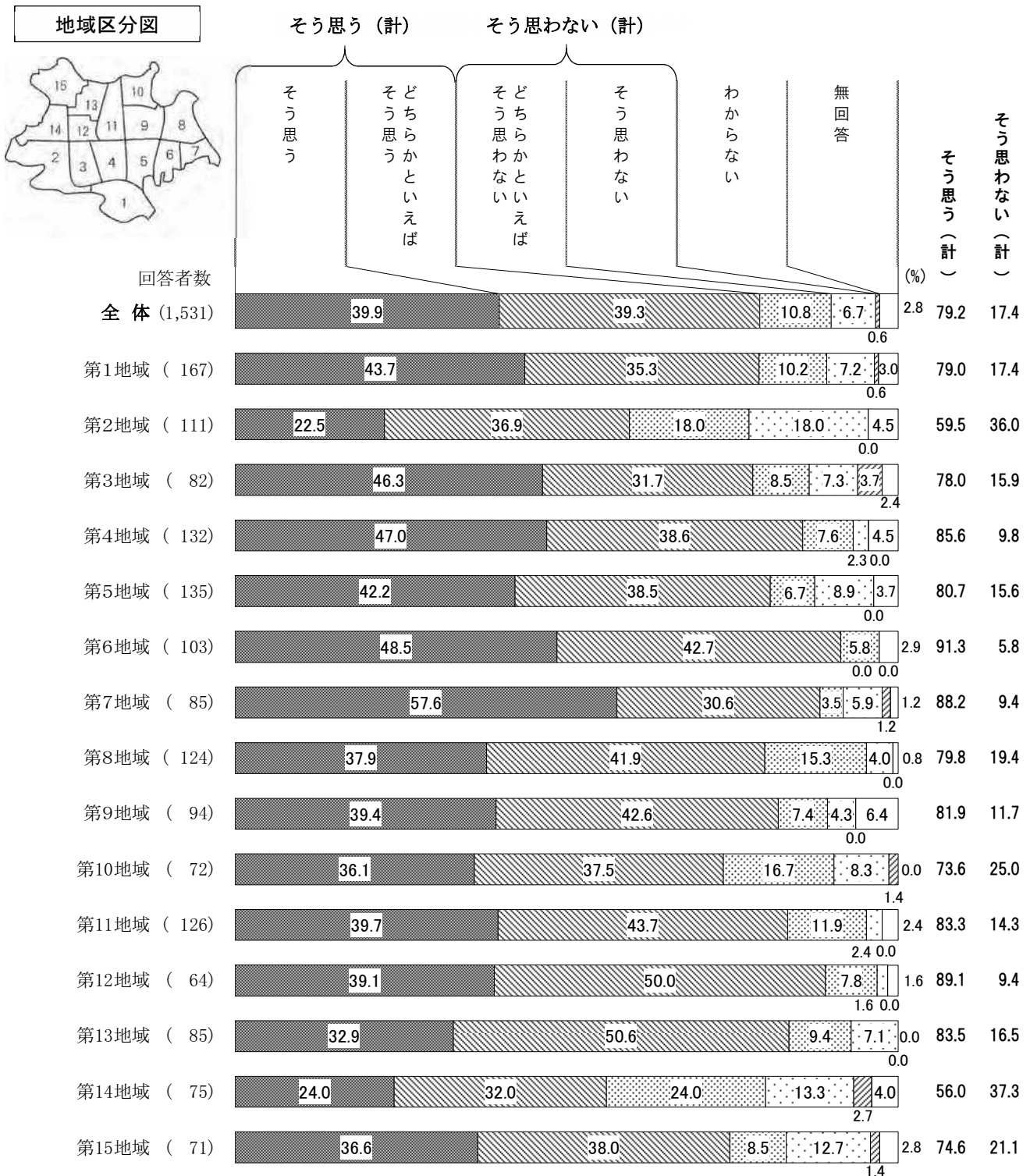
図1-1-2-⑦ 地域別／居住地域の評価／落書きが減少したと感じる



ケ クロス集計・地域別／居住地域の評価／普段の買い物が便利である

〈普段の買い物が便利である〉について、【そう思う】は第6地域が91.3%で最も高く、次いで第12地域で89.1%となっている。一方、【そう思わない】は第14地域が37.3%で最も高く、次いで第2地域で36.0%となっている。

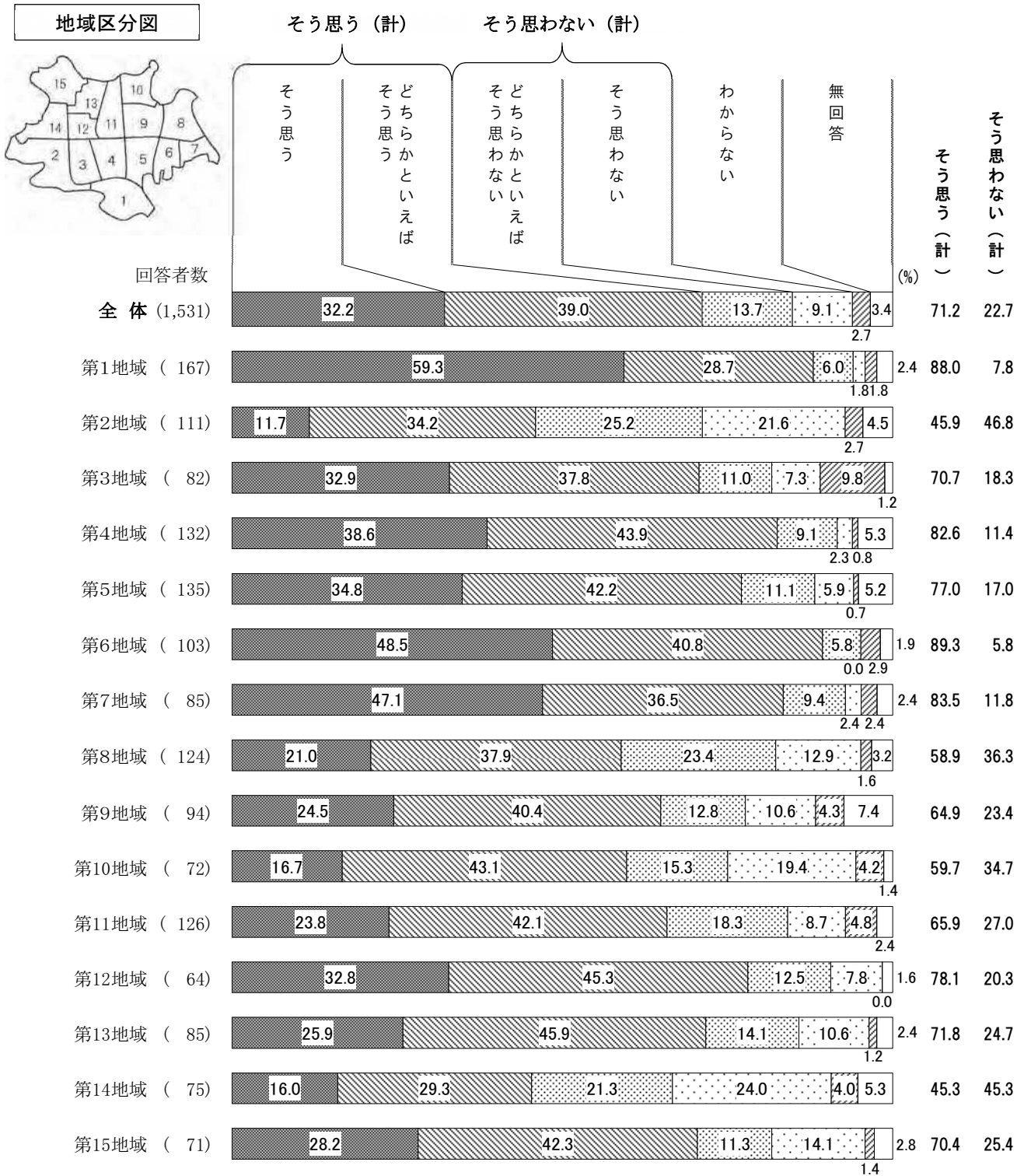
図1-1-2-⑧ 地域別／居住地域の評価／普段の買い物が便利である



コ クロス集計・地域別／居住地域の評価／通勤や通学などの交通の便が良い

〈通勤や通学などの交通の便が良い〉について、【**そう思う**】は第6地域が89.3%と最も高く、次いで第1地域が88.0%となっている。一方、【**そう思わない**】は第2地域で46.8%と最も高く、次いで第14地域が45.3%となっており、この2地域が特に高くなっている。

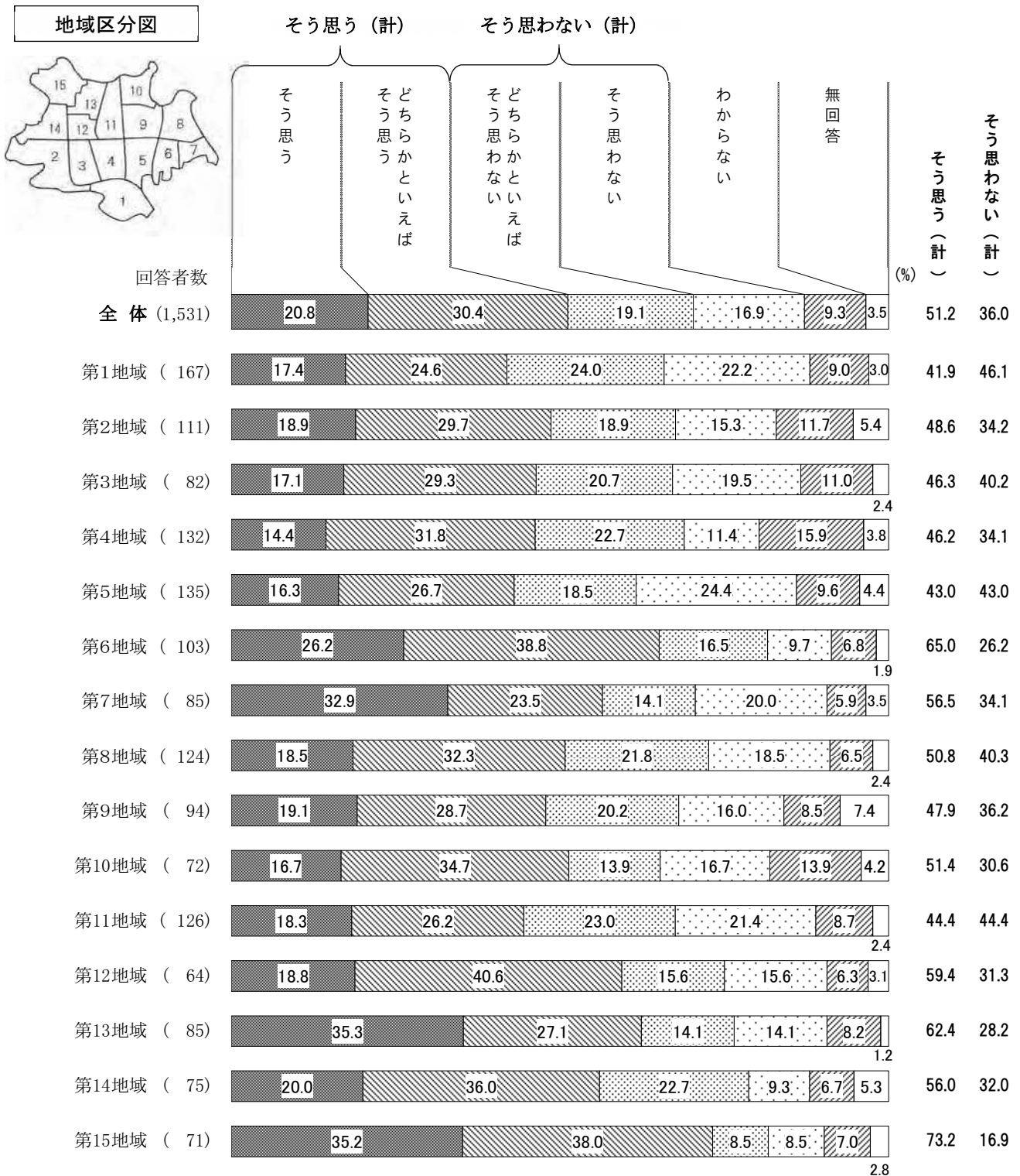
図1-1-2-⑨ 地域別／居住地域の評価／通勤や通学などの交通の便が良い



サ クロス集計・地域別／居住地域の評価／よく行く、または行きたい公園がある

〈よく行く、または行きたい公園がある〉について、【そう思う】は第15地域で73.2%と最も高く、次いで第6地域で65.0%となっている。一方、【そう思わない】は第1地域で46.1%と最も高く、次いで第11地域で44.4%となっている。

図1-1-2-⑩ 地域別／居住地域の評価／よく行く、または行きたい公園がある



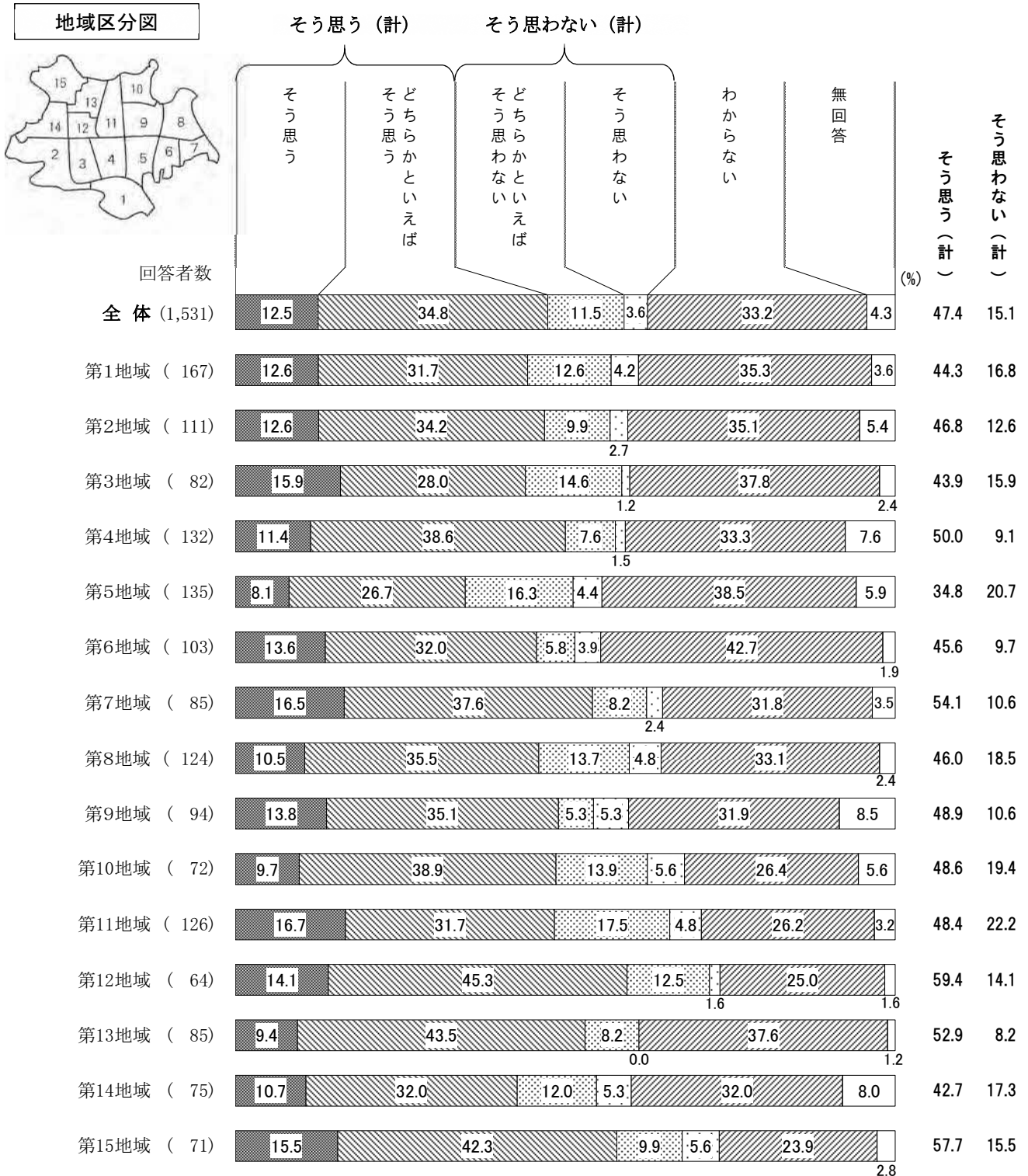
シ クロス集計・地域別／居住地域の評価／

子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている

〈子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている〉について、【そう思う】は第12地域で59.4%と最も高く、次いで第15地域が57.7%となっている。一方、【そう思わない】は第11地域で22.2%と最も高く、次いで第5地域で20.7%となっている。

図1-1-2-⑪ 地域別／居住地域の評価

／子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている



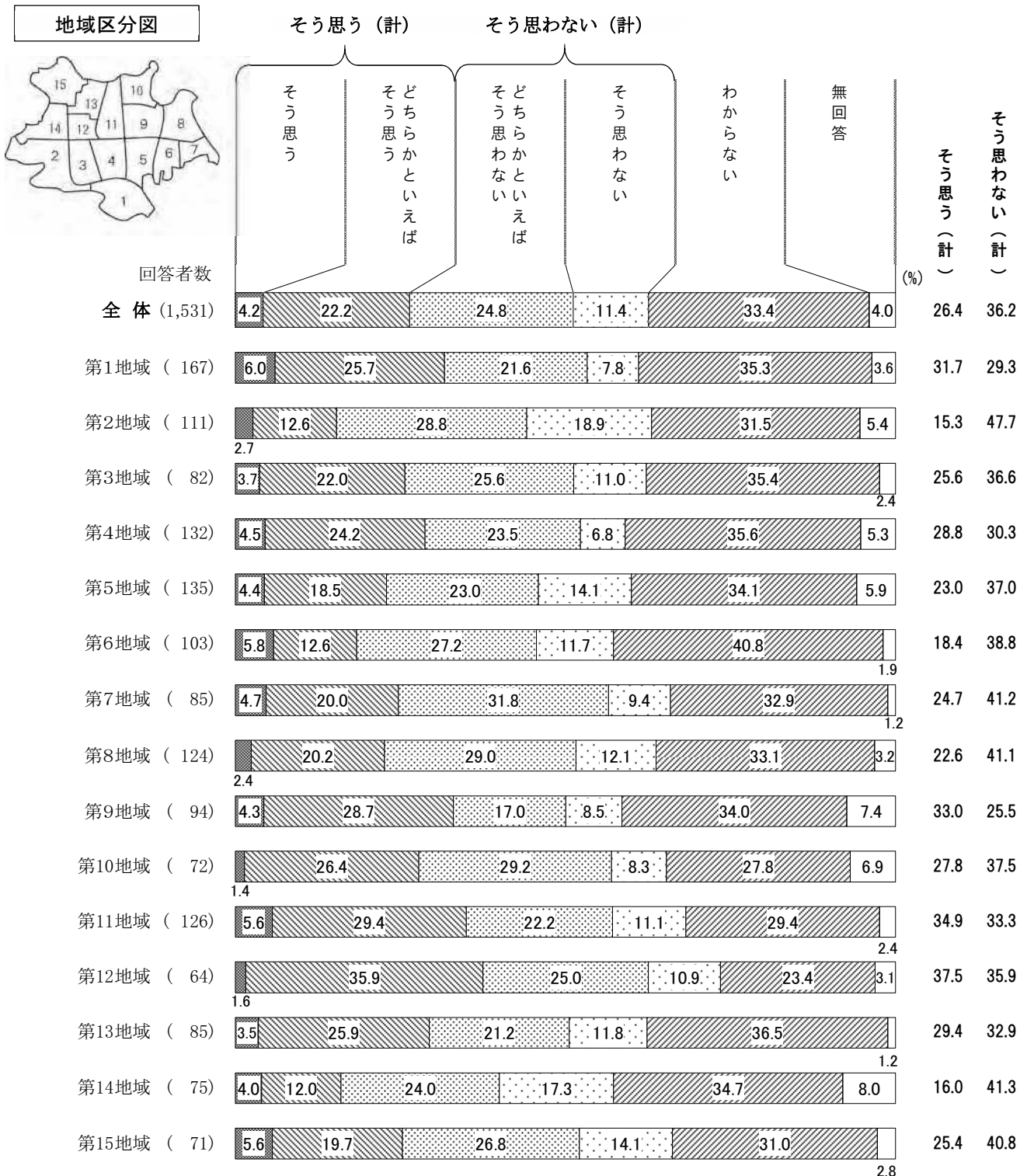
ス クロス集計・地域別／居住地域の評価／

子どもたちが文化芸術を楽しめるまちである

〈子どもたちが文化芸術を楽しめるまちである〉について、【**そう思う**】は第12地域で37.5%と最も高く、次いで第11地域で34.9%となっている。一方、【**そう思わない**】は第2地域で47.7%と最も高く、次いで第14地域が41.3%、僅差で第7地域が41.2%、第8地域が41.1%と続いている。

図1-1-2-⑫ 地域別／居住地域の評価

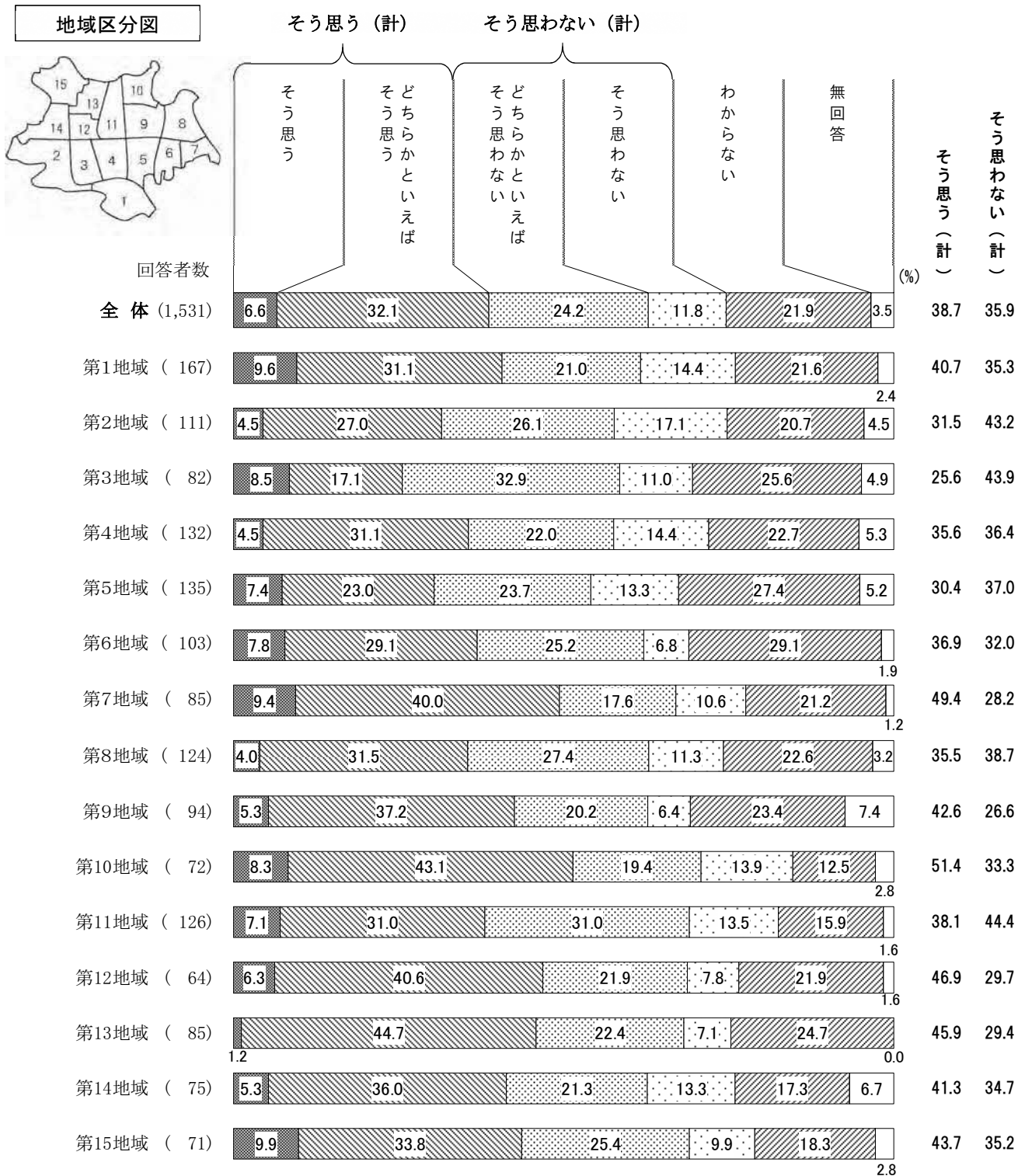
／子どもたちが文化芸術を楽しめるまちである



セ クロス集計・地域別／居住地域の評価／地域の施設（建物や道路など）は、
高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている

〈地域の施設（建物や道路など）は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている〉について、【そう思う】は第10地域で51.4%と最も高く、次いで第7地域で49.4%となっている。一方、【そう思わない】は第11地域で44.4%と最も高く、次いで第3地域で43.9%となっている。

図1-1-2-⑬ 地域別／居住地域の評価／地域の施設（建物や道路など）は、
高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている



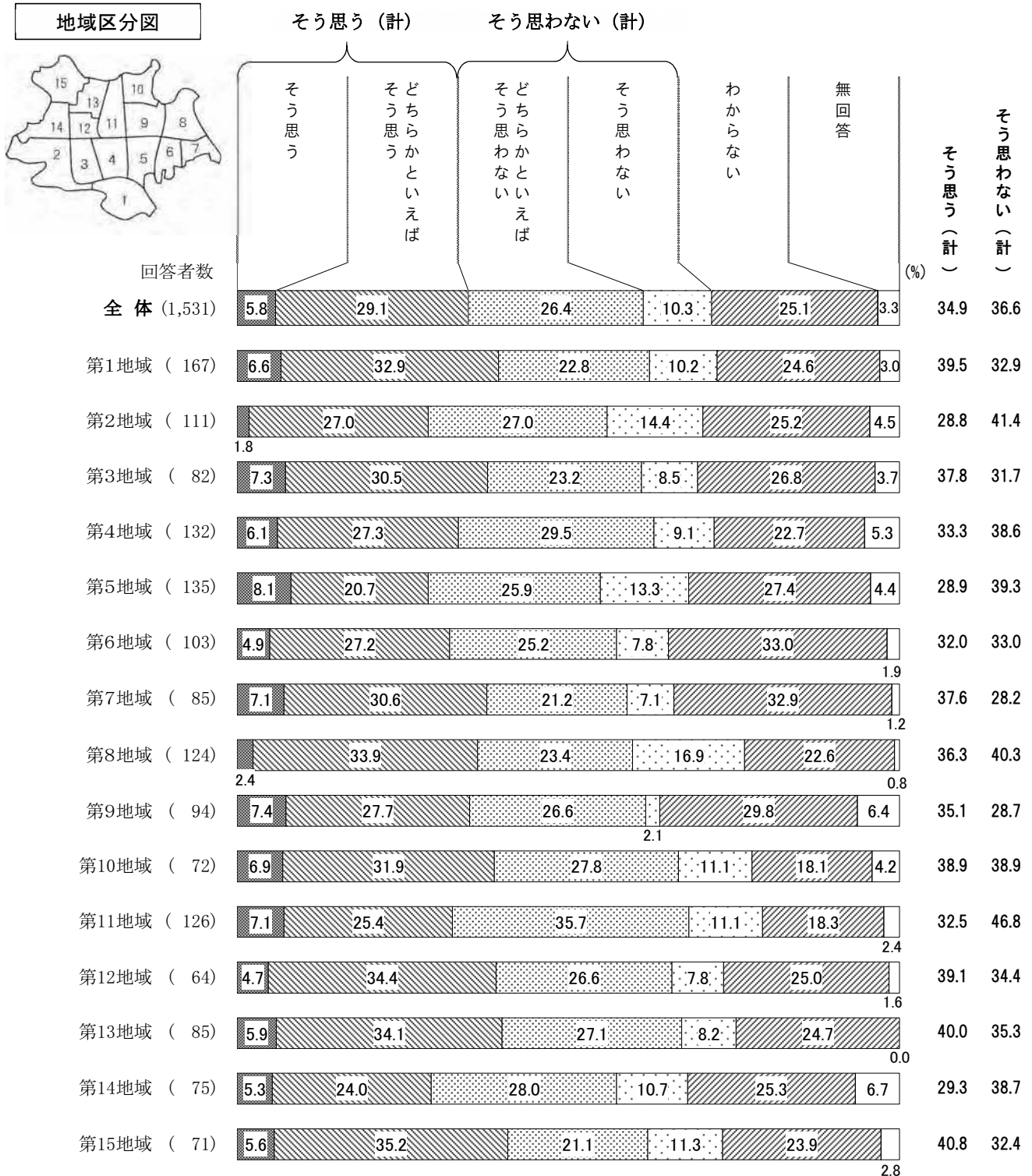
ソ クロス集計・地域別／居住地域の評価／

地域の人々が、日常生活で高齢者や障がいのある方などに配慮している

〈地域の人々が、日常生活で高齢者や障がいのある方などに配慮している〉について、【**そう思う**】は第15地域で40.8%と最も高く、次いで第13地域が40.0%となっている。一方、【**そう思わない**】は第11地域で46.8%と最も高く、次いで第2地域で41.4%となっている。

図1-1-2-⑭ 地域別／居住地域の評価

／地域の人々が、日常生活で高齢者や障がいのある方などに配慮している

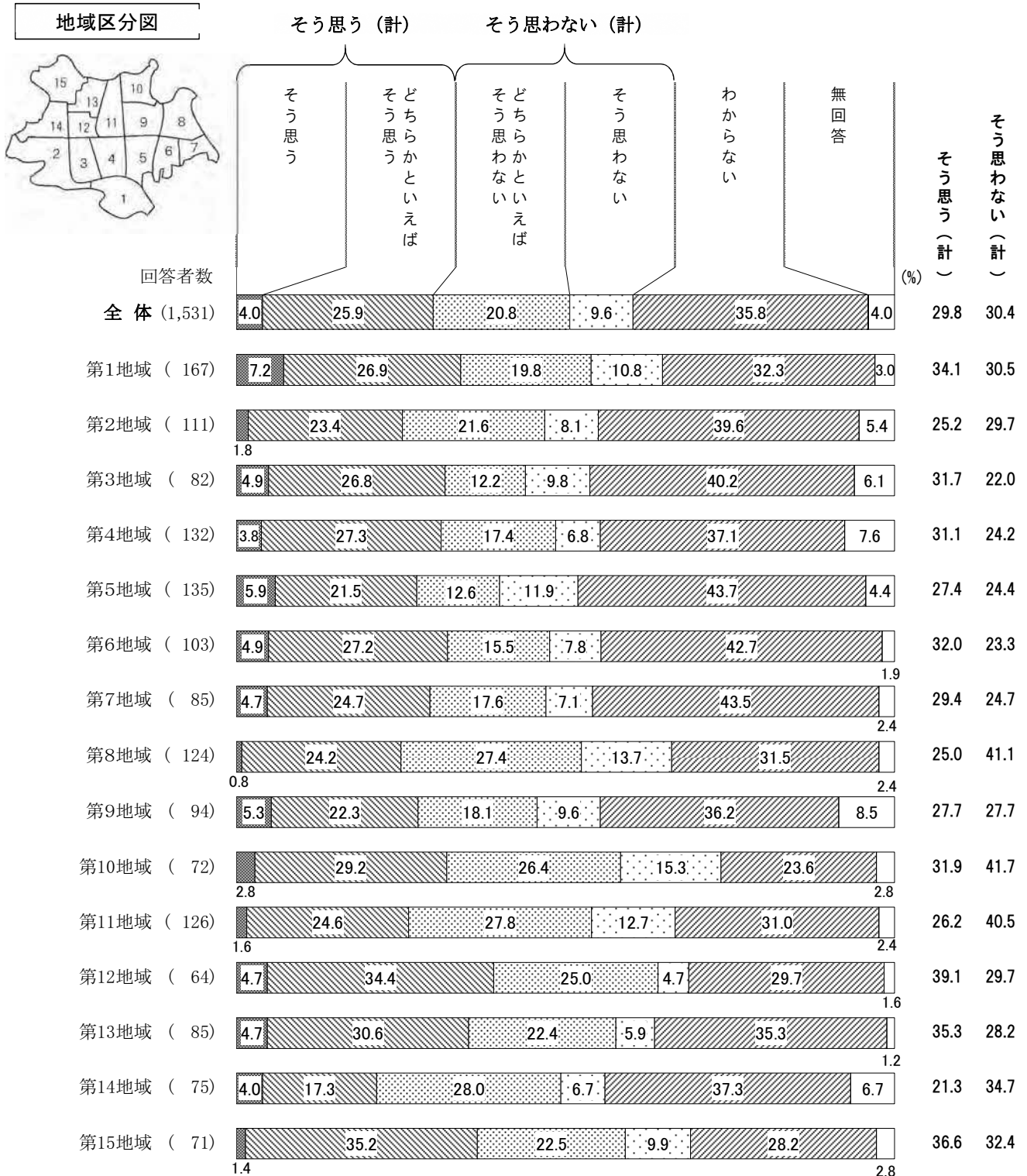


タ クロス集計・地域別／居住地域の評価／

男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている
 〈男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている〉について、【**そう思う**】は第12地域で39.1%と最も高く、次いで第15地域が36.6%となっている。一方、【**そう思わない**】は第10地域で41.7%と最も高く、次いで第8地域で41.1%となっている。

図1-1-2-⑮ 地域別／居住地域の評価

／男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている



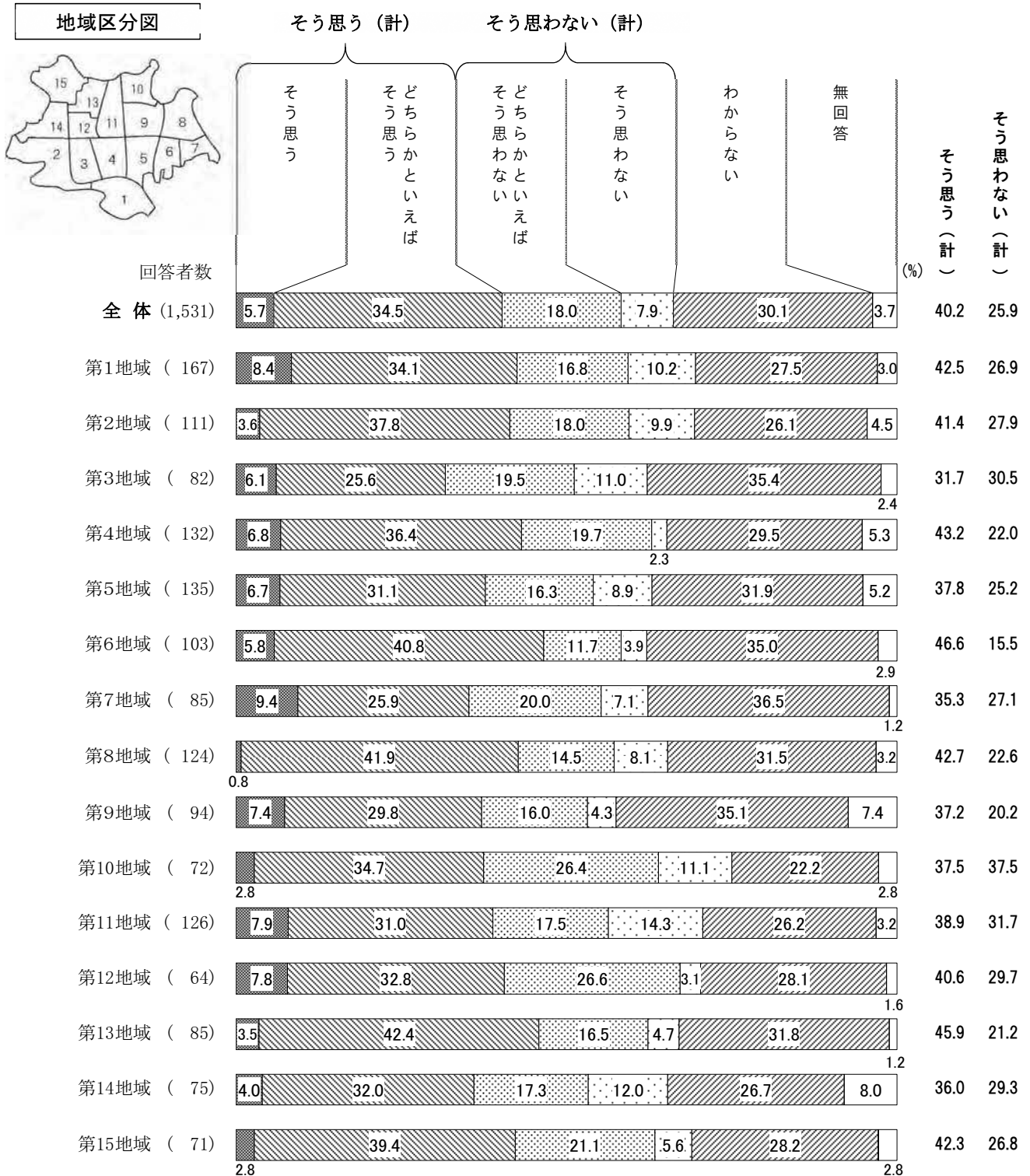
チ クロス集計・地域別／居住地域の評価／

国籍、文化などが異なる人々がともに暮らしやすいまちである

〈国籍、文化などが異なる人々がともに暮らしやすいまちである〉について、【そう思う】は第6地域で46.6%と最も高く、次いで第13地域が45.9%となっている。一方、【そう思わない】は第10地域で37.5%と最も高く、次いで第11地域が31.7%となっている。

図1-1-2-⑯ 地域別／居住地域の評価

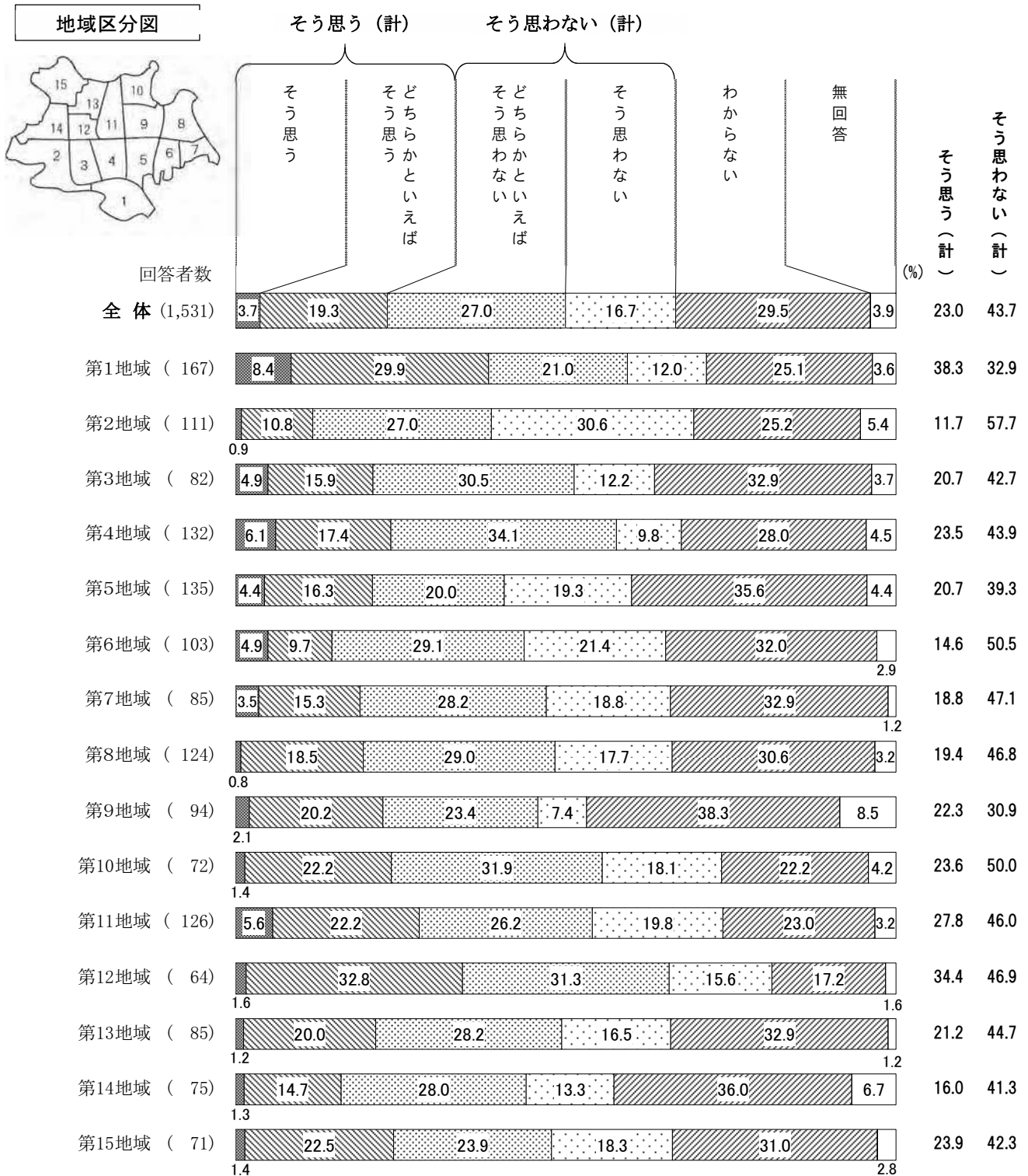
／国籍、文化などが異なる人々がともに暮らしやすいまちである



ツ クロス集計・地域別／居住地域の評価／文化芸術に親しめるまちである

〈文化芸術に親しめるまちである〉について、【そう思う】は第1地域で38.3%と最も高く、次いで第12地域が34.4%となっている。一方、【そう思わない】は第2地域で57.7%と最も高く、次いで第6地域が50.5%となっている。

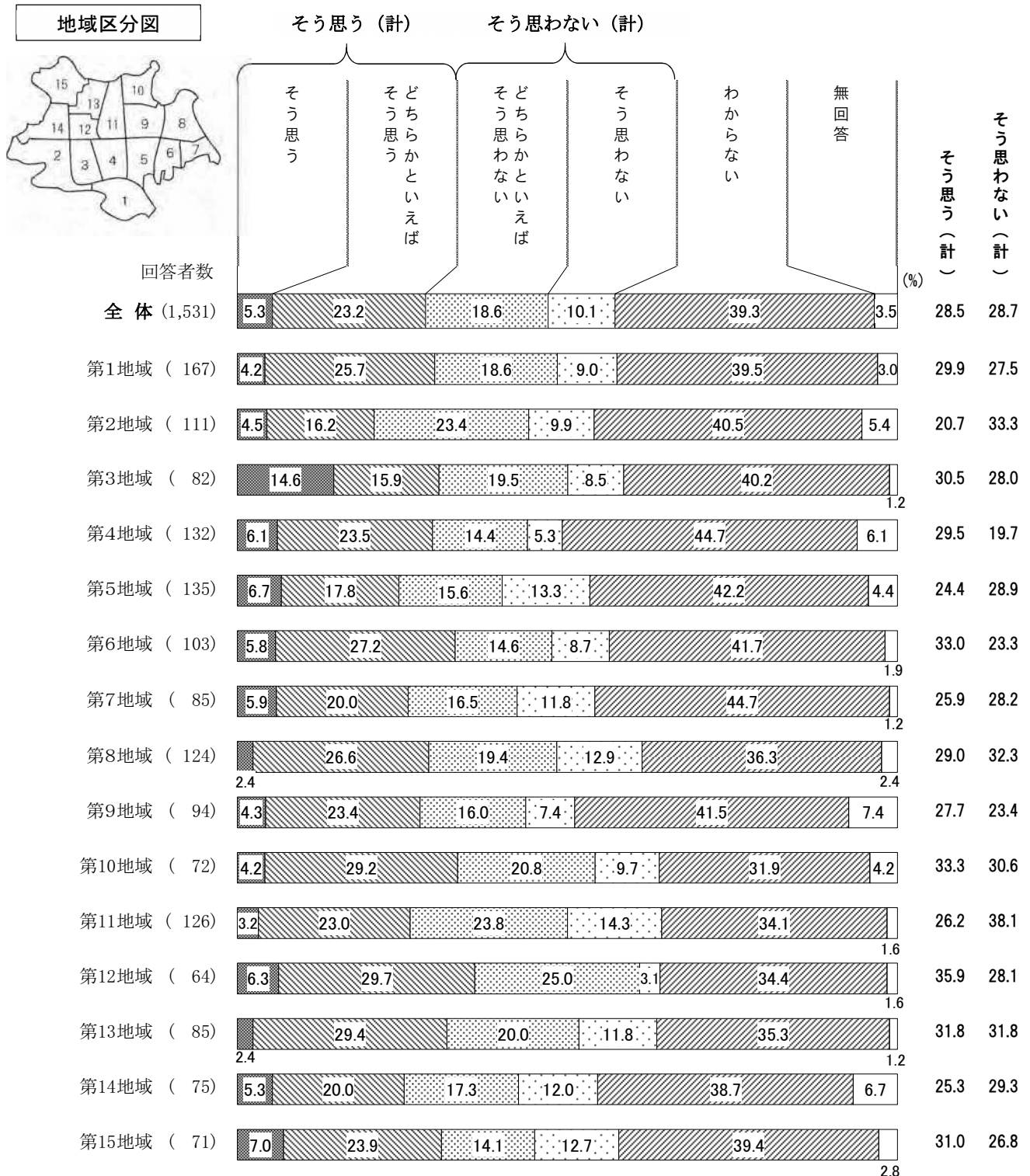
図1-1-2-⑰ 地域別／居住地域の評価／文化芸術に親しめるまちである



テ クロス集計・地域別／居住地域の評価／人権課題である「障がい者」「子ども」「女性」
「インターネットによる人権侵害」について、偏見や差別がない

〈人権課題である「障がい者」「子ども」「女性」「インターネットによる人権侵害」について、偏見や差別がない〉について、【**そう思う**】は第12地域で35.9%と最も高く、次いで第10地域が33.3%となっている。一方、【**そう思わない**】は第11地域で38.1%と最も高く、次いで第2地域が33.3%となっている。

図1-1-2-⑱ 地域別／居住地域の評価／人権課題である「障がい者」「子ども」「女性」「インターネットによる人権侵害」について、偏見や差別がない



(2) 地域の暮らしやすさ

問2 問1を踏まえてお聞きします。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じていますか（〇は1つだけ）。

■【暮らしやすい】は前年から微減したものの、【暮らしにくい】は1割超で過去最低

ア 単純集計・経年比較／地域の暮らしやすさ

- (ア) 地域の暮らしやすさについて、「暮らしやすい」は29.0%で、「どちらかといえば暮らしやすい」(55.3%)を合わせた【暮らしやすい】は8割台半ばを占めている。
- (イ) 「暮らしにくい」は1.4%で、「どちらかといえば暮らしにくい」(10.8%)を合わせた【暮らしにくい】は1割超となっている。
- (ウ) 【暮らしやすい】を経年で見ると、平成27年調査以降はおおむね増加傾向を続け、前回の令和3年調査(85.2%)で平成22年調査に次ぐ高い割合となったものの、今回の調査では微減となった。
- (エ) 【暮らしにくい】を経年で見ると、前回の令和3年調査に比べて1.1ポイント減少し、平成13年の調査開始以降で最も低い割合となった。

図1-2-1-① 経年比較／地域の暮らしやすさ

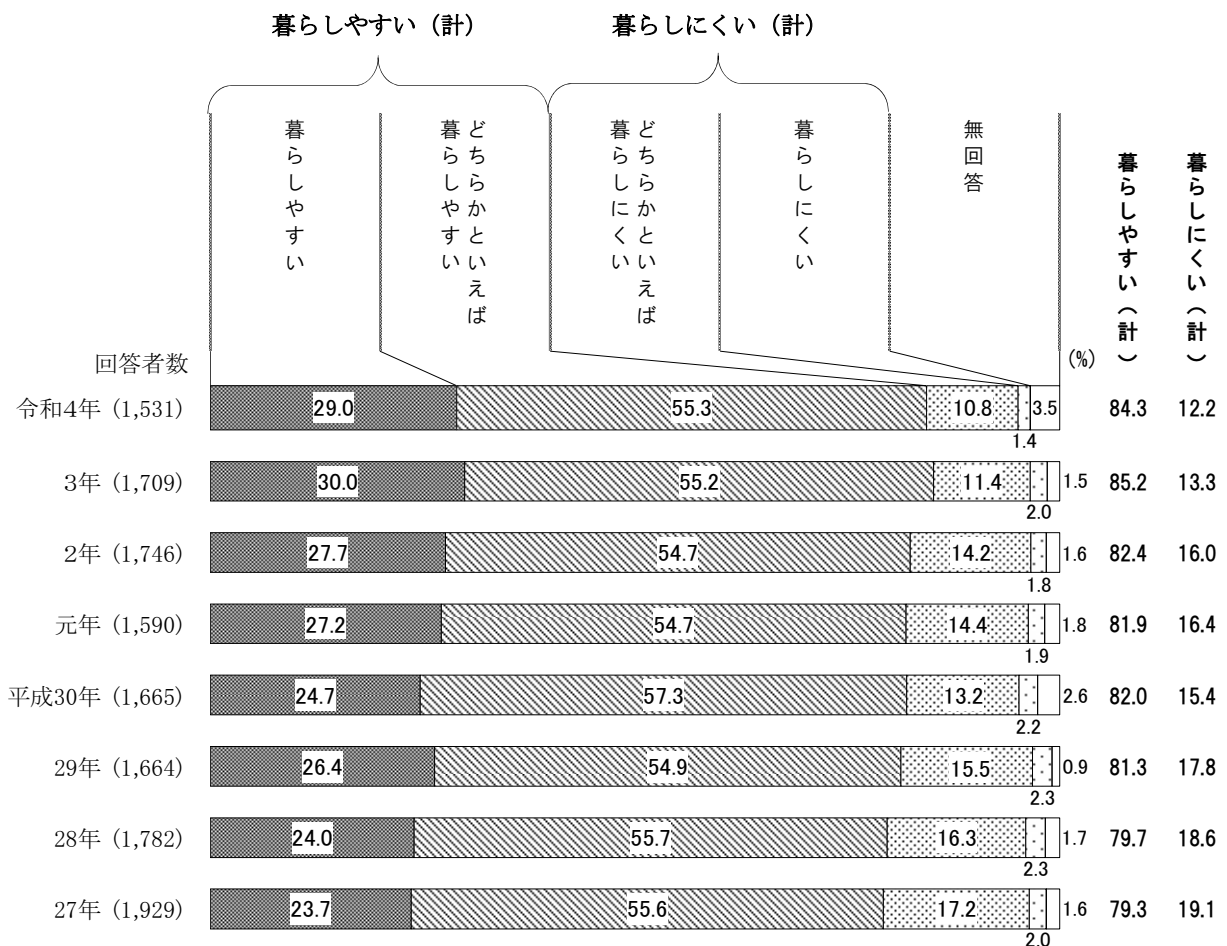
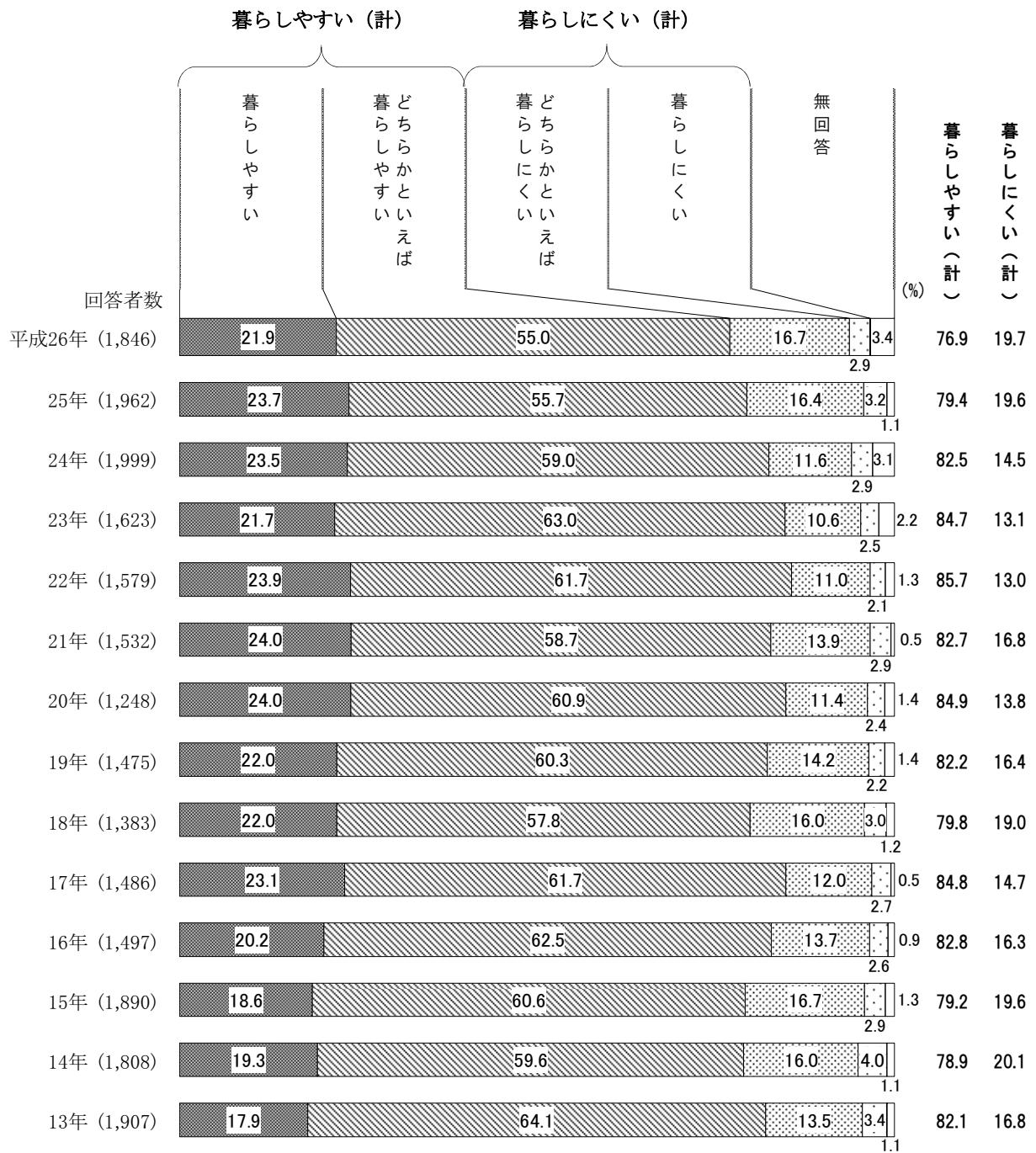


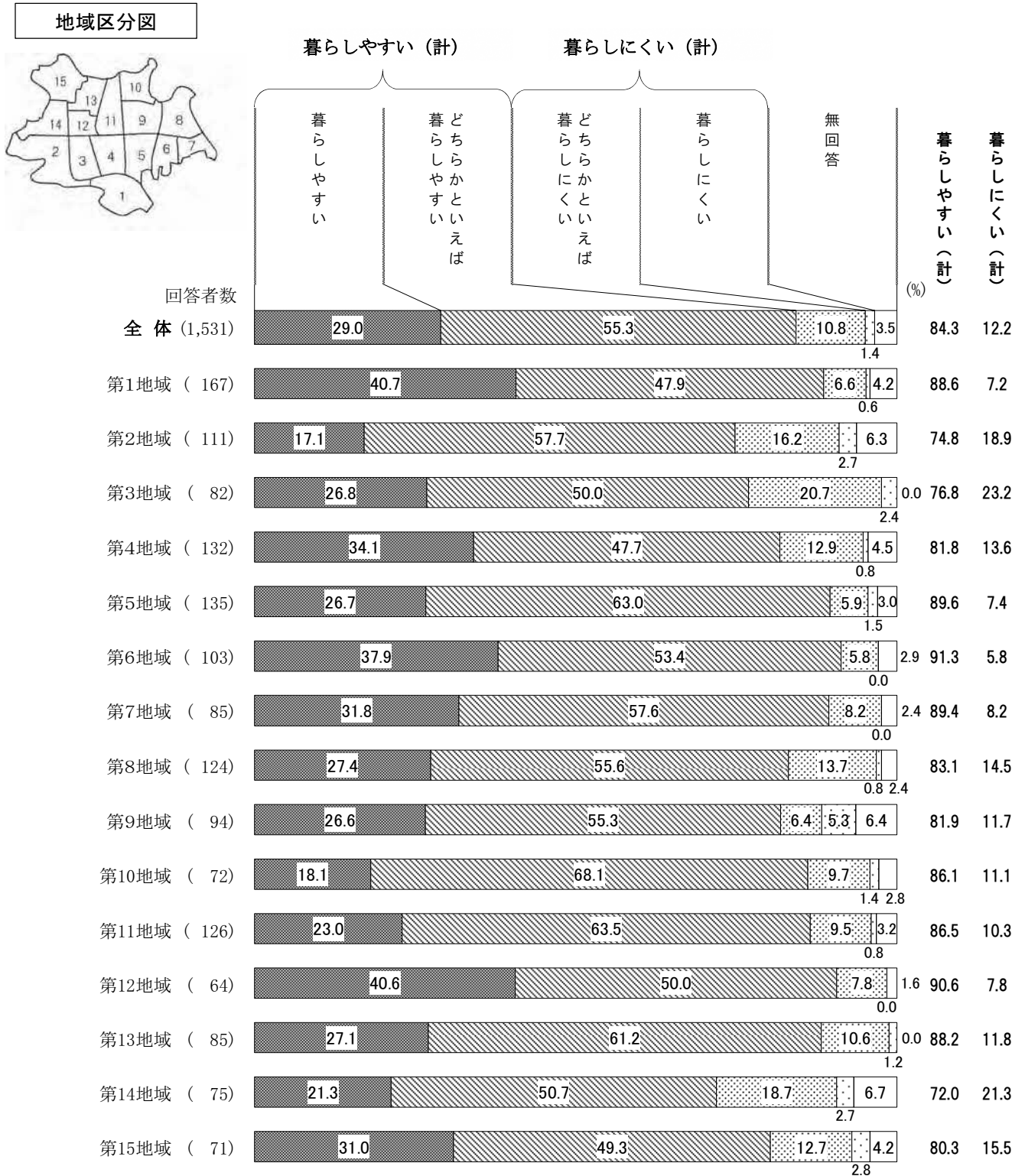
図1-2-1-② 経年比較/地域の暮らしやすさ



イ クロス集計・地域別／地域の暮らしやすさ

地域別でみると、【暮らしやすい】は第6地域で91.3%と最も高く、次いで第12地域が90.6%で続いている。一方、【暮らしにくい】は第3地域が23.2%で最も高く、次いで第14地域が21.3%で続いている。

図1-2-2 地域別／地域の暮らしやすさ

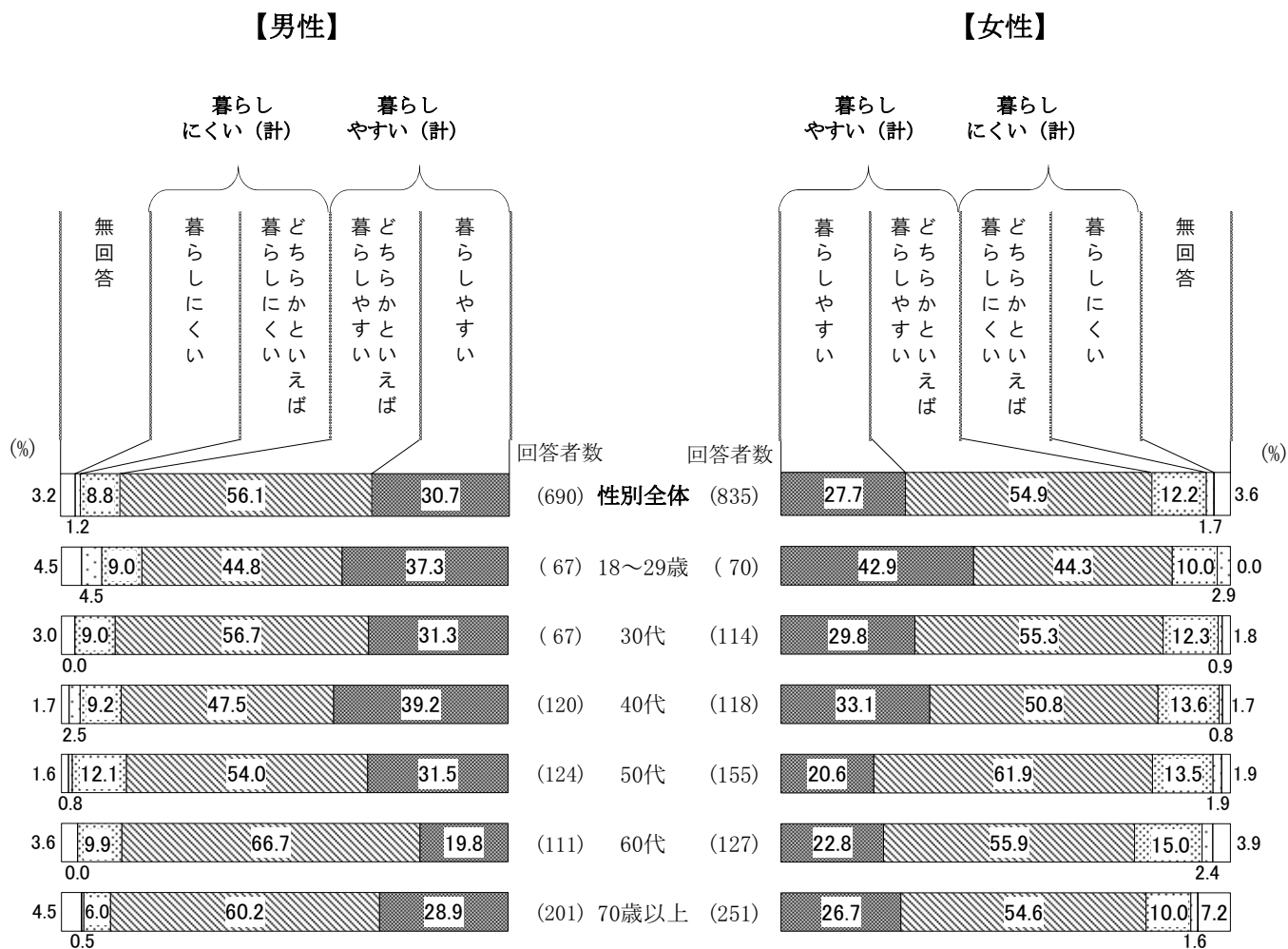


ウ クロス集計・性別、性別・年代別／地域の暮らしやすさ

(ア) 性別でみると【暮らしやすい】は、男性（86.8%）の方が女性（82.5%）より4.3ポイント高くなっている。

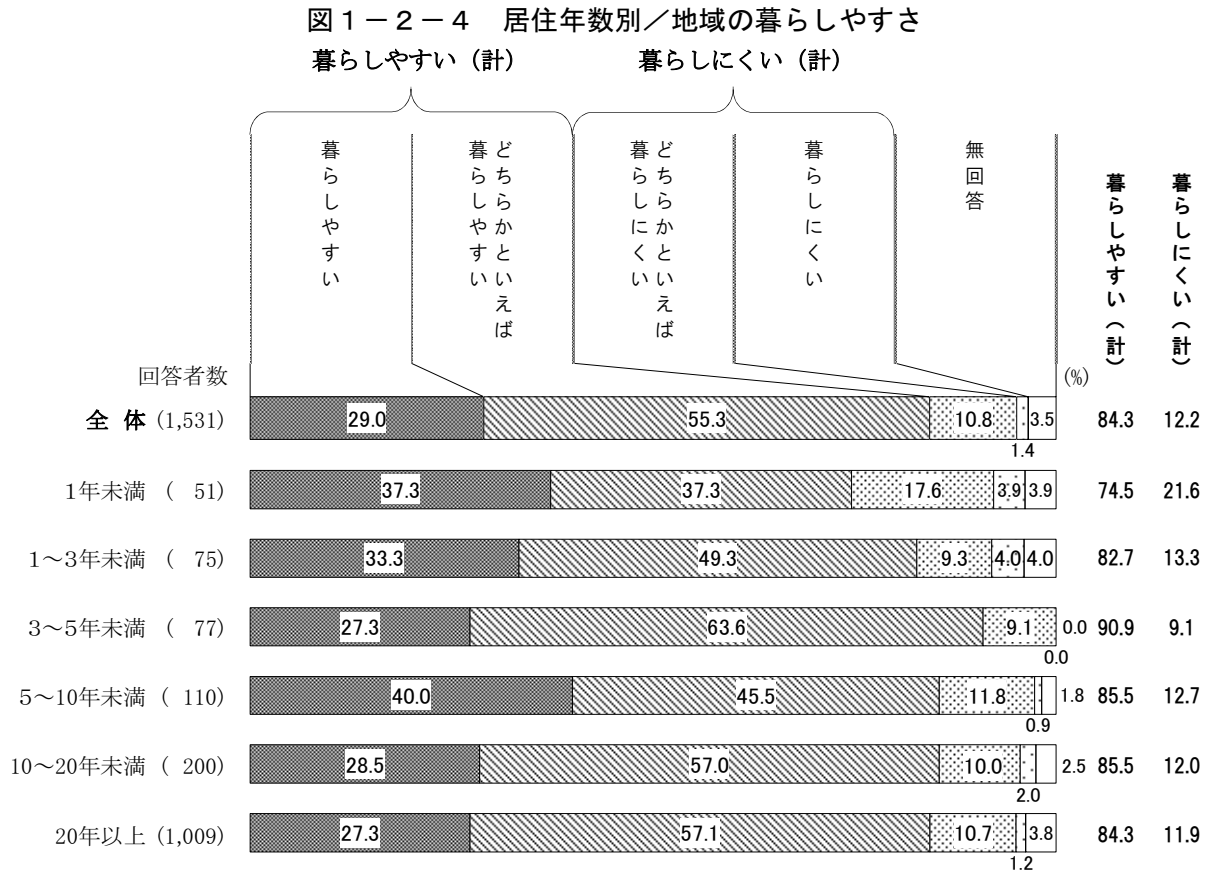
(イ) 性・年代別でみると、男性では、【暮らしやすい】は18～29歳を除いた30代以上の年齢層で8割台後半と高く、70歳以上で89.1%と最も高くなっている。女性では、【暮らしやすい】は18～29歳で87.1%と最も高くなっている。一方、【暮らしにくい】は女性の60代が17.3%で最も高く、男性の70歳以上で6.5%と最も低くなっている。

図1-2-3 性別、性・年代別／地域の暮らしやすさ



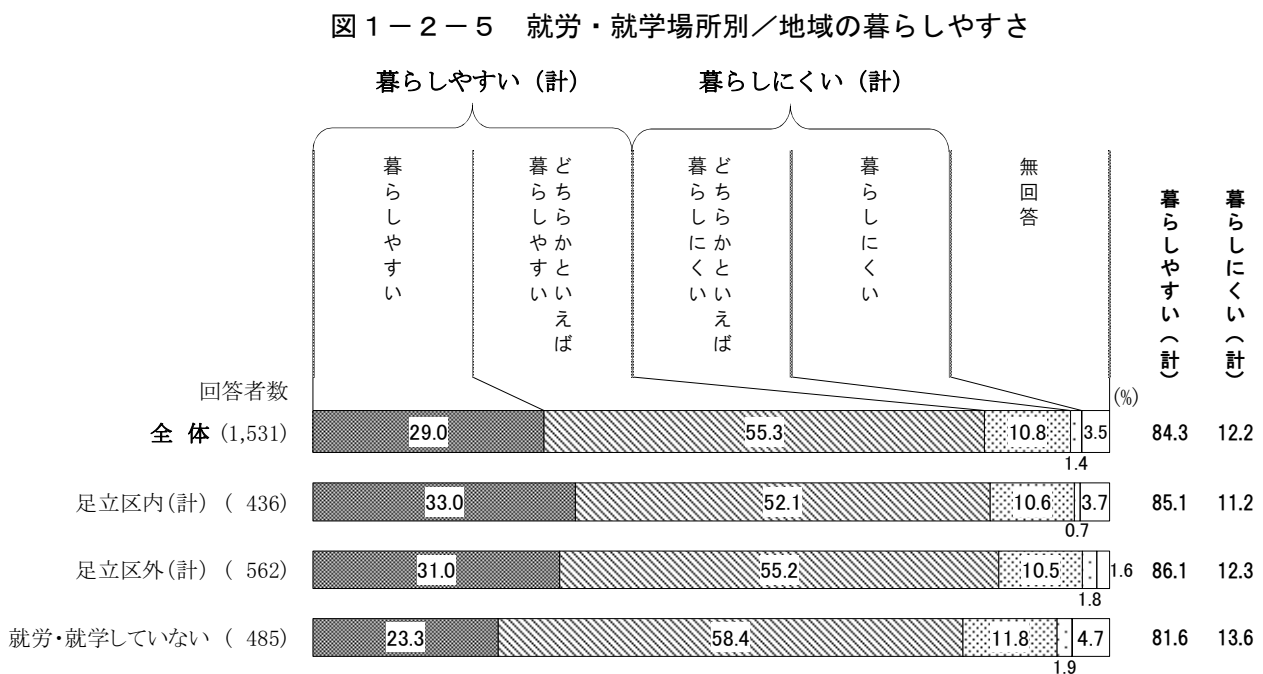
エ クロス集計・居住年数別／地域の暮らしやすさ

居住年数別でみると、【暮らしやすい】は「3～5年未満」で90.9%と最も高く、【暮らしにくい】は「1年未満」で21.6%と最も高くなっている。



オ クロス集計・就労・就学場所別／地域の暮らしやすさ

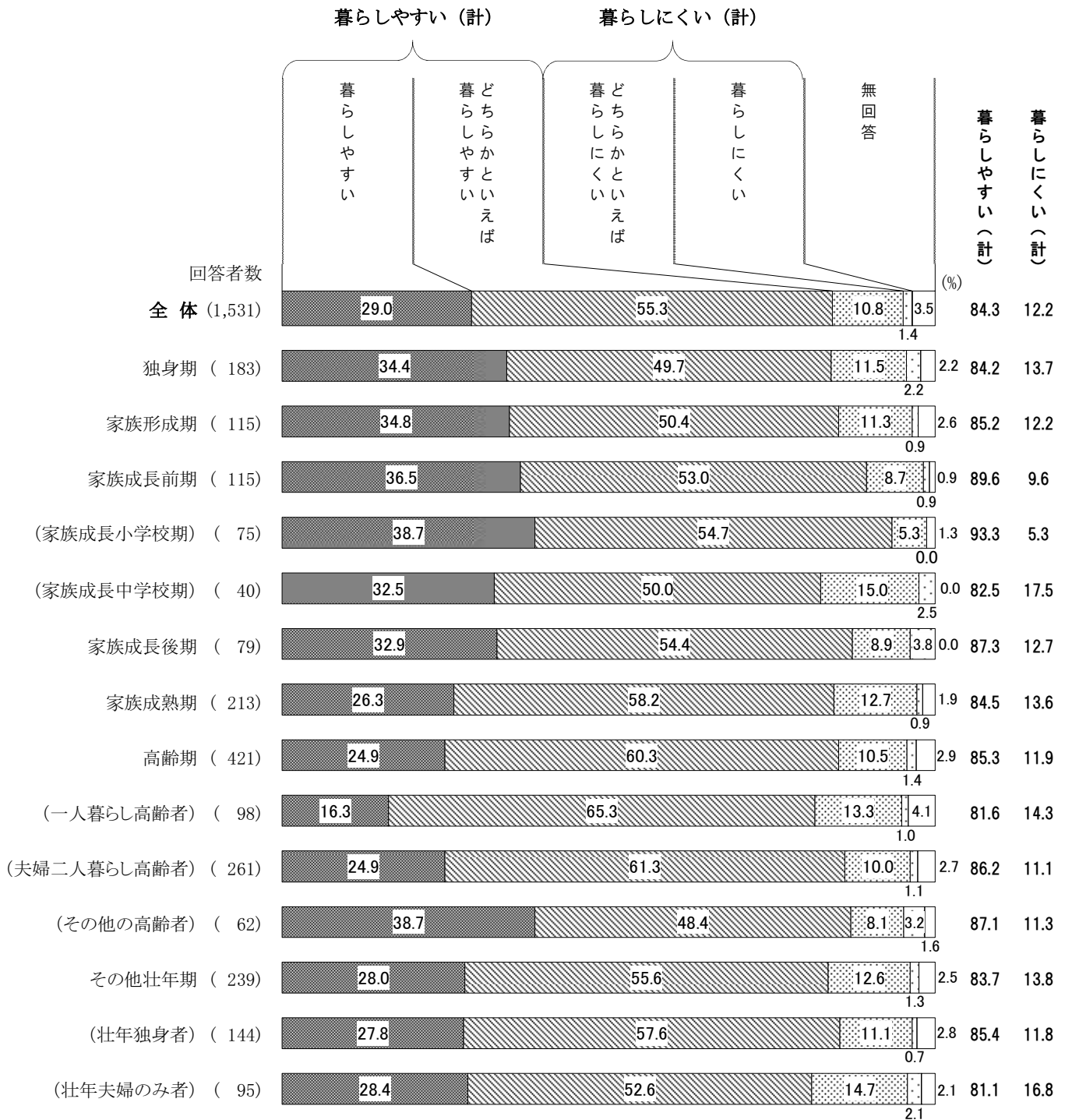
就労・就学場所別でみると、【暮らしやすい】は「足立区内 (計)」と「足立区外 (計)」では8割台半ばで違いはないが、「就労・就学していない」で81.6%と低くなっている。



カ クロス集計・ライフステージ別／地域の暮らしやすさ

ライフステージ別で見ると、【暮らしやすい】は〈家族成長前期〉で89.6%と最も高く、次いで〈家族成長後期〉（87.3%）となっており、【暮らしにくい】は〈その他壮年期〉で13.8%と最も高くなっている。詳細区分で見ると【暮らしやすい】は〈(家族成長小学校期)〉で93.3%と最も高く、【暮らしにくい】は〈(家族成長中学校期)〉で17.5%と最も高くなっている。

図1-2-6 ライフステージ別／地域の暮らしやすさ



（3）特に暮らしにくいと感じること

問2で「3 どちらかといえば暮らしにくい」、または「4 暮らしにくい」とお答えの方に
問2-1 特に暮らしにくいと感じることは何ですか（〇は3つまで）。

■ “マナーやルールへの意識の低さ” が4割台半ばを超えて3年連続で最も高い

ア 単純集計・経年比較／特に暮らしにくいと感じること

（ア）【暮らしにくい】という人に、その理由を聞いたところ、高い順に以下のとおりとなっている。

- ① 「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」（47.6%）
- ② 「交通の便が悪いこと」（41.2%）
- ③ 「買い物がしにくいこと」（33.2%）
- ④ 「治安が良くないこと」（26.2%）

（イ）前回調査に比べて増加している項目は、主に以下のとおりとなっている。

- ① 「公共施設や介護・医療施設が不十分なこと」（+10.1ポイント）
- ② 「自然が少ないこと」（+5.2ポイント）

（ウ）前回調査に比べて減少している項目は、主に以下のとおりとなっている。

- ① 「家の広さなどの居住環境が悪いこと」（-6.0ポイント）
- ② 「子育て環境が悪いこと」（-3.4ポイント）

図1-3-1-① 経年比較／特に暮らしにくいと感じること

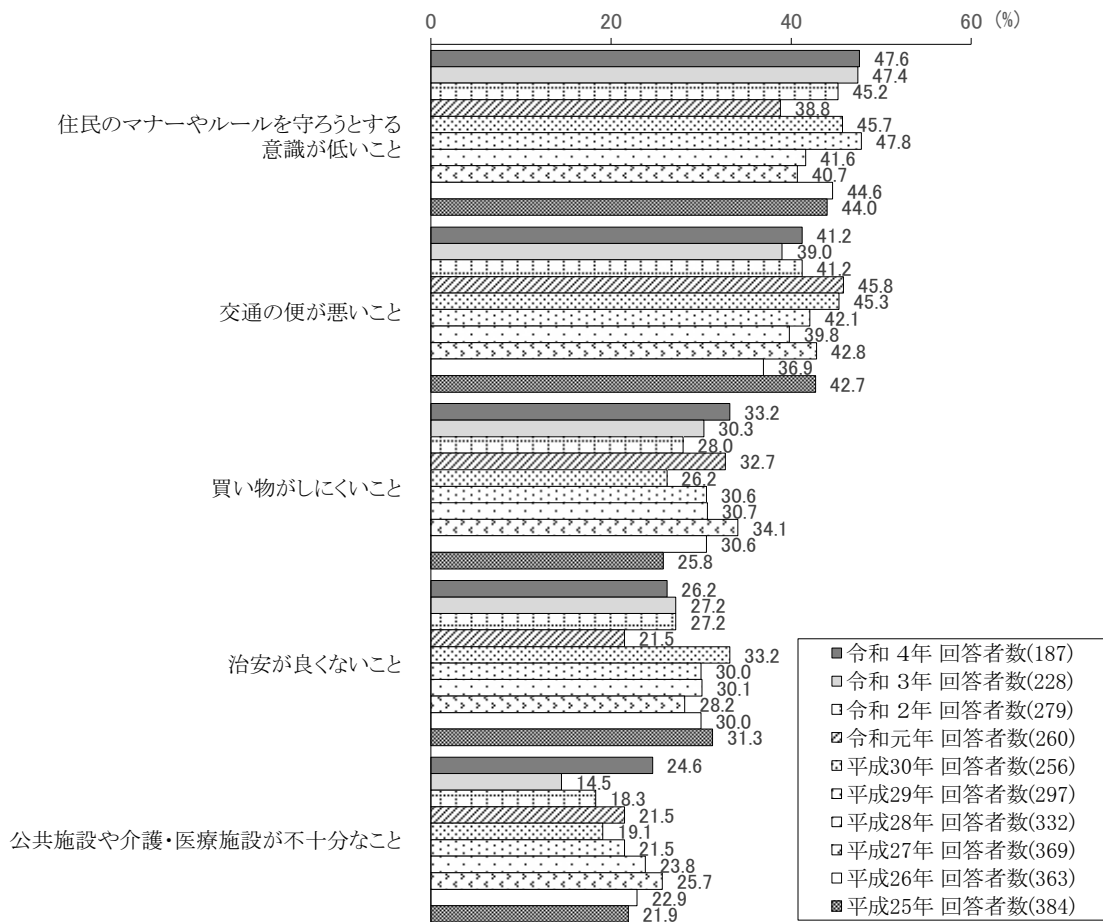
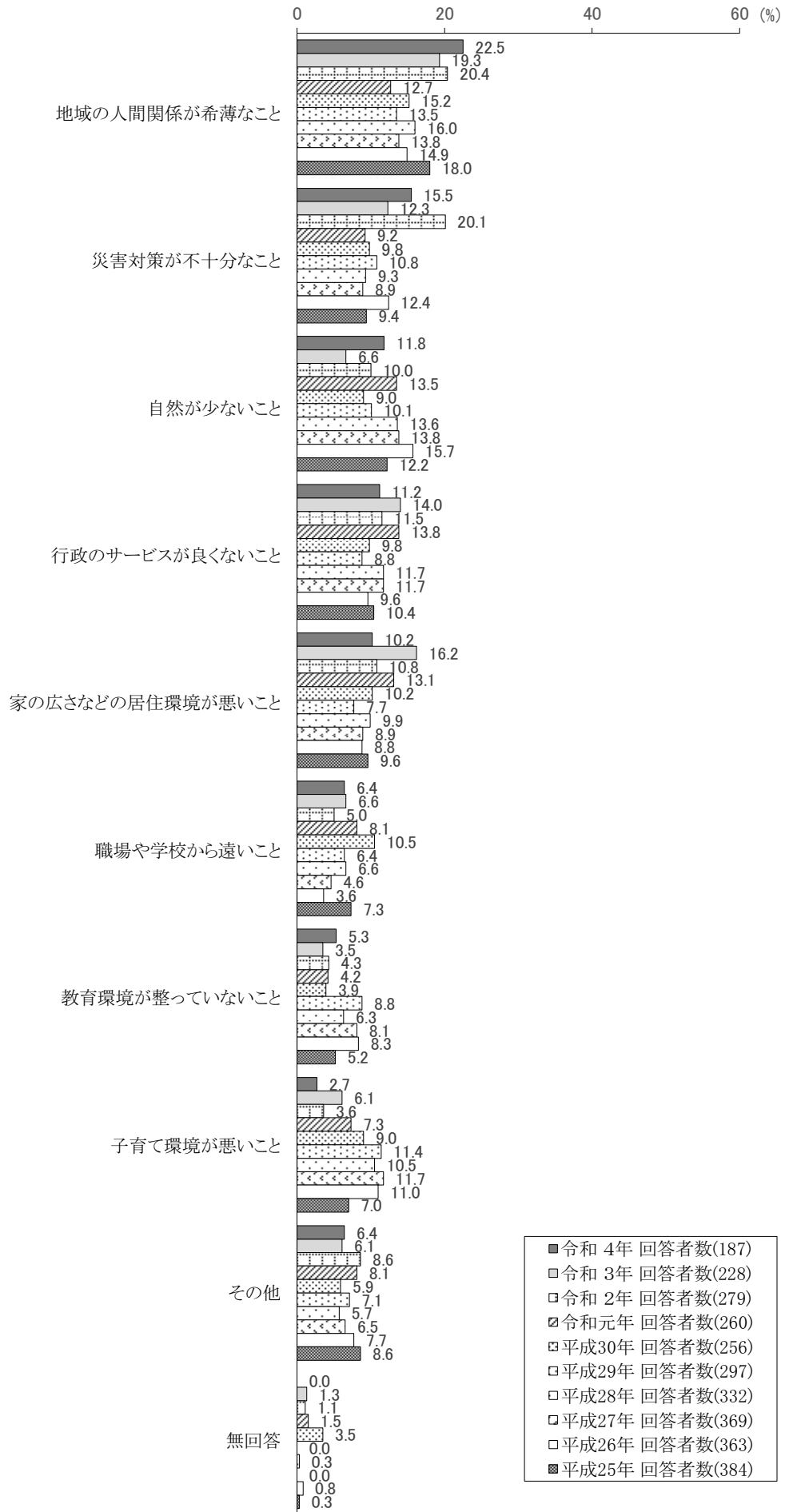


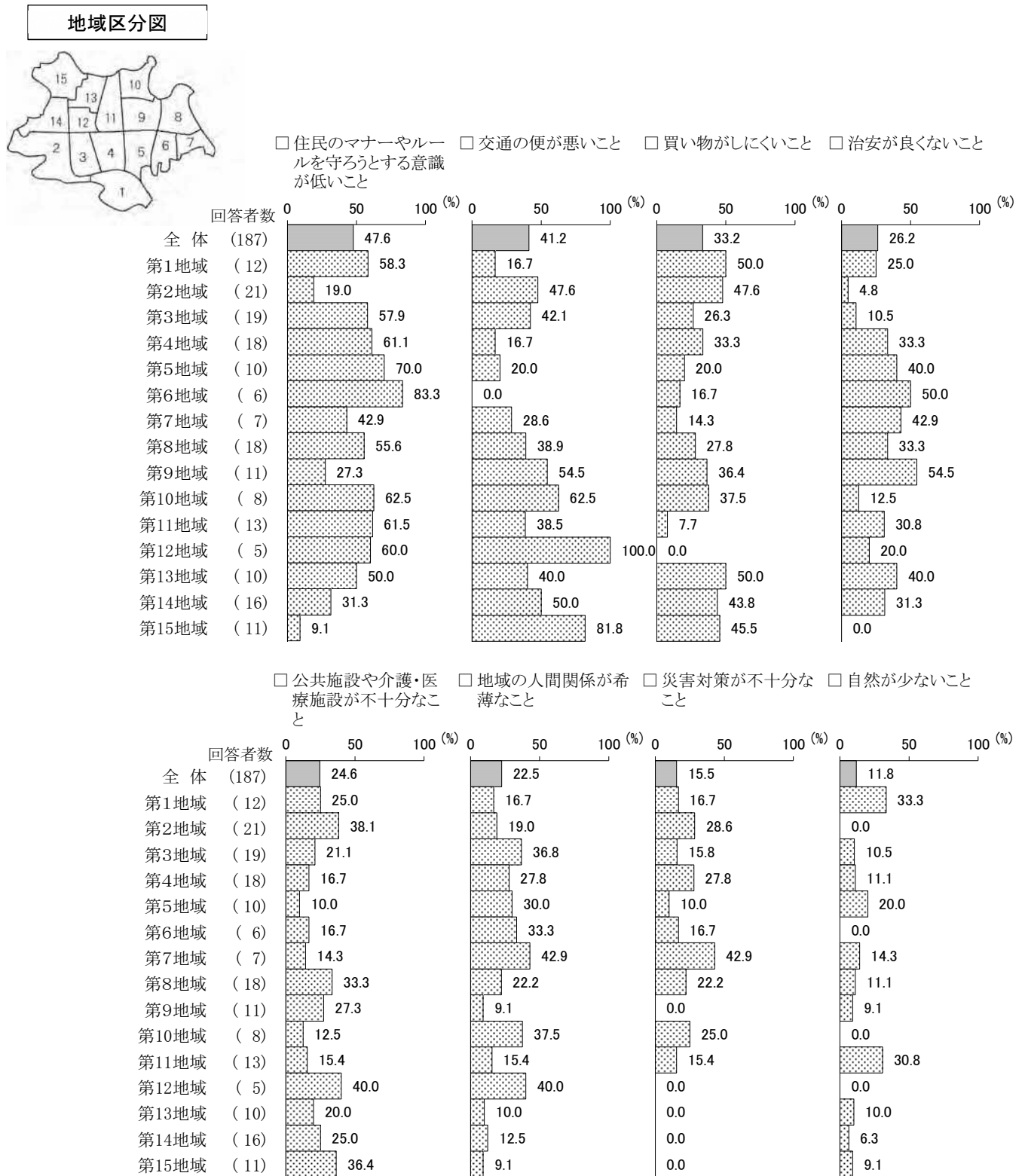
図1-3-1-② 経年比較／特に暮らしにくいと感じること



イ クロス集計・地域別／特に暮らしにくいと感じること（上位8項目）

地域別でみると、すべての地域の回答者数が30未満となっていることから参考値にとどめる必要があるが、回答者数が10以上の地域に限ってしてみると、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」は第5地域（70.0%）、「交通の便が悪いこと」は第15地域（81.8%）、「買い物がしにくいこと」は第1地域と第13地域（各50.0%）で他の地域に比べて高くなっている。

図1-3-2 地域別／特に暮らしにくいと感じること／上位8項目



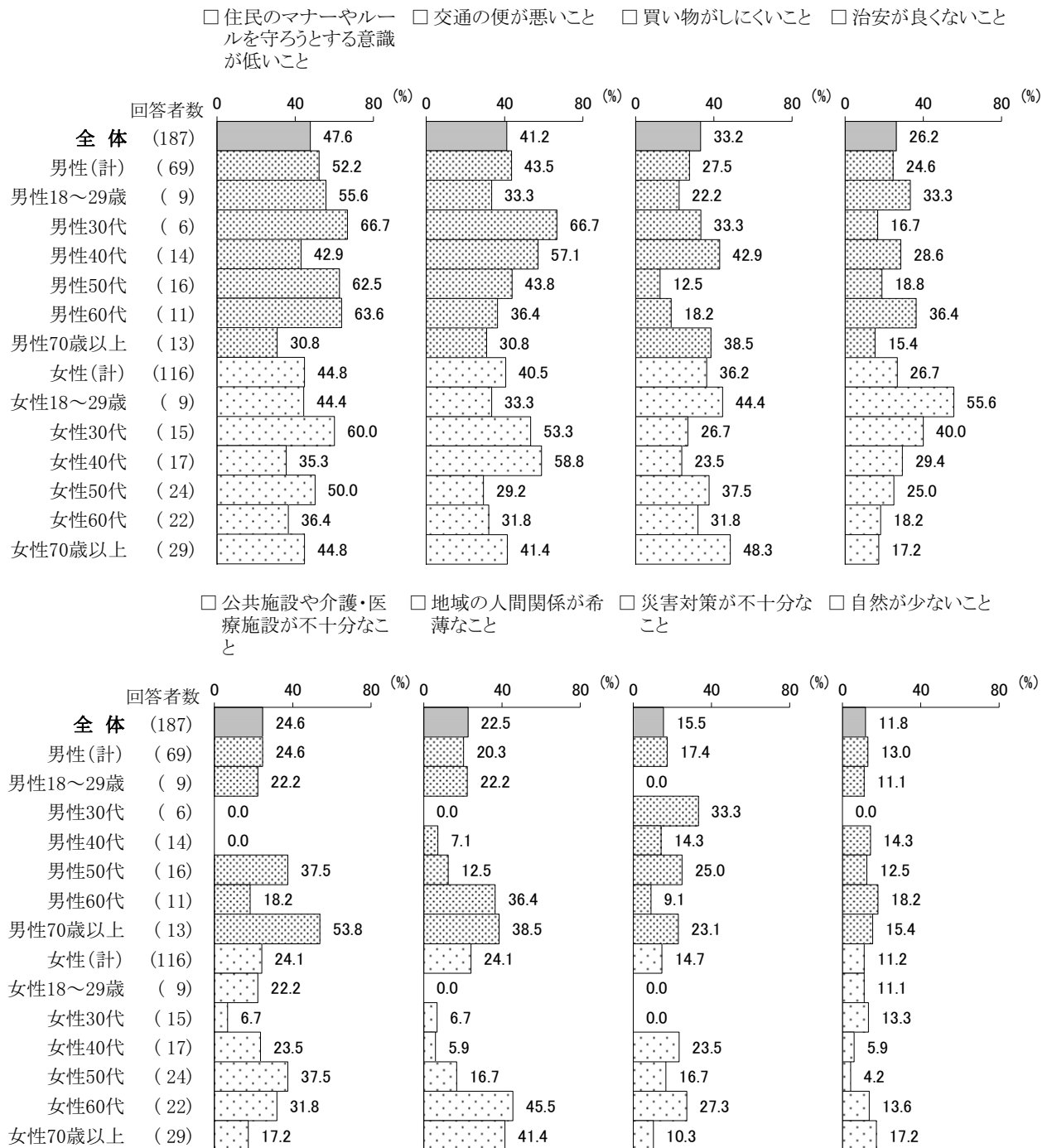
ウ クロス集計・性別、性・年代別／特に暮らしにくいと感じること（上位8項目）

(ア) 男性の方が女性より高くなっている項目は、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」(+7.4ポイント)、「交通の便が悪いこと」(+3.0ポイント)などとなっている。

(イ) 女性の方が男性より高くなっている項目は、「買い物がしにくいこと」(+8.7ポイント)、「地域の人間関係が希薄なこと」(+3.8ポイント)などとなっている。

(ウ) 性・年代別で見ると、すべての性・年代層の回答者数が30未満となっていることから参考値にとどめる必要があるが、回答者数が10以上の性・年代層に限ってしてみると、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」は男性の50～60代と女性の30代で6割台と高く、「交通の便が悪いこと」は男性の40代と女性の30～40代で5割台と高くなっている。

図1-3-3 性別、性・年齢別／特に暮らしにくいと感じること／上位8項目



(4) 定住意向

問3 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか（○は1つだけ）。

■【定住意向】は、前回調査同様8割台を維持しおおむね漸増傾向を続け、最高値を更新

ア 単純集計・経年比較／定住意向

足立区への定住意向をみると、「ずっと住み続けたい」は35.1%で、「当分は住み続けたい」(45.2%)を合わせた【定住意向】は8割を占めている。一方、「区外に転出したい」は1割未満となっている。

経年でみると、【定住意向】は前回調査同様に8割台を維持し、最高値を更新した。

図1-4-1-① 経年比較／定住意向

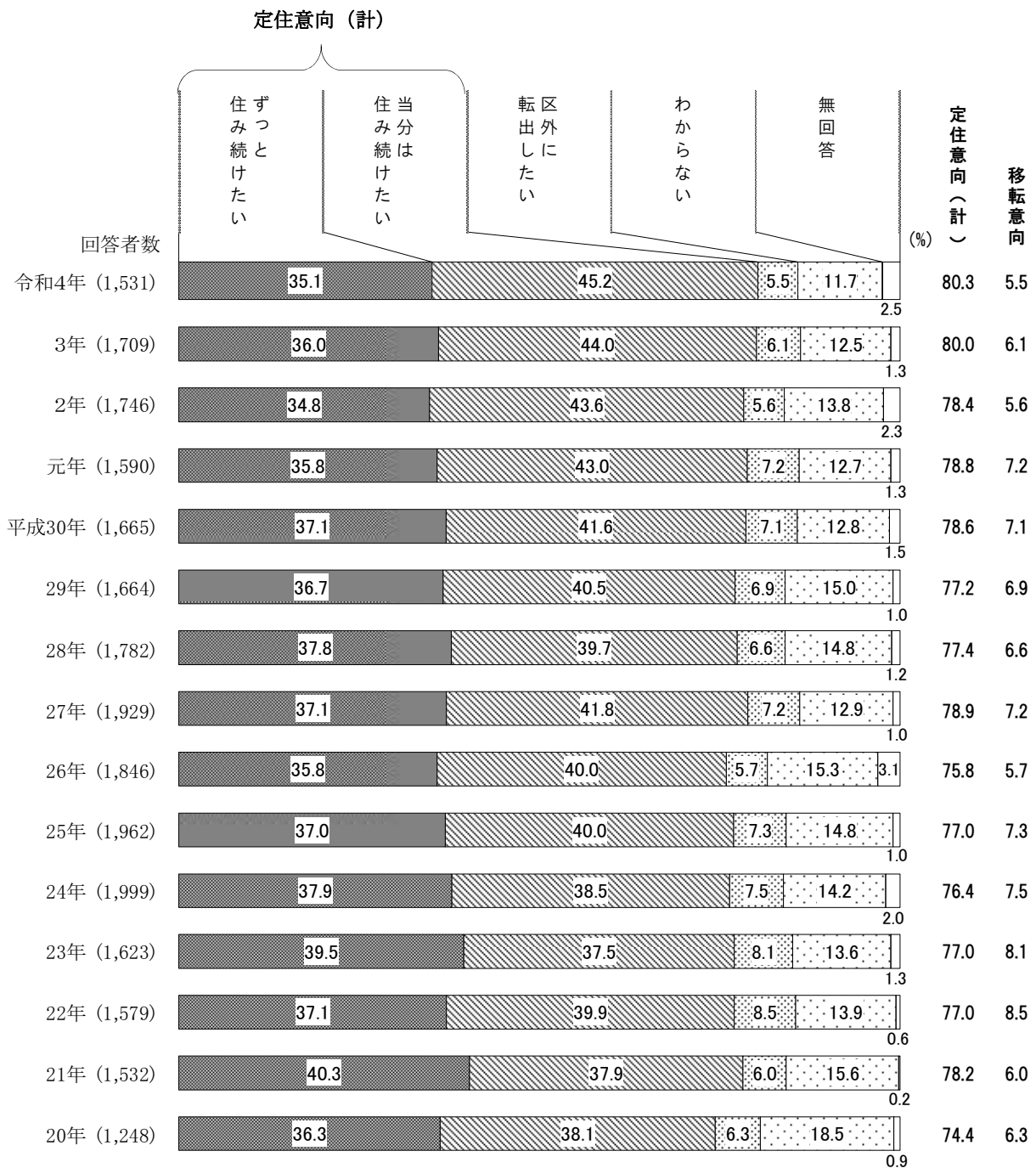
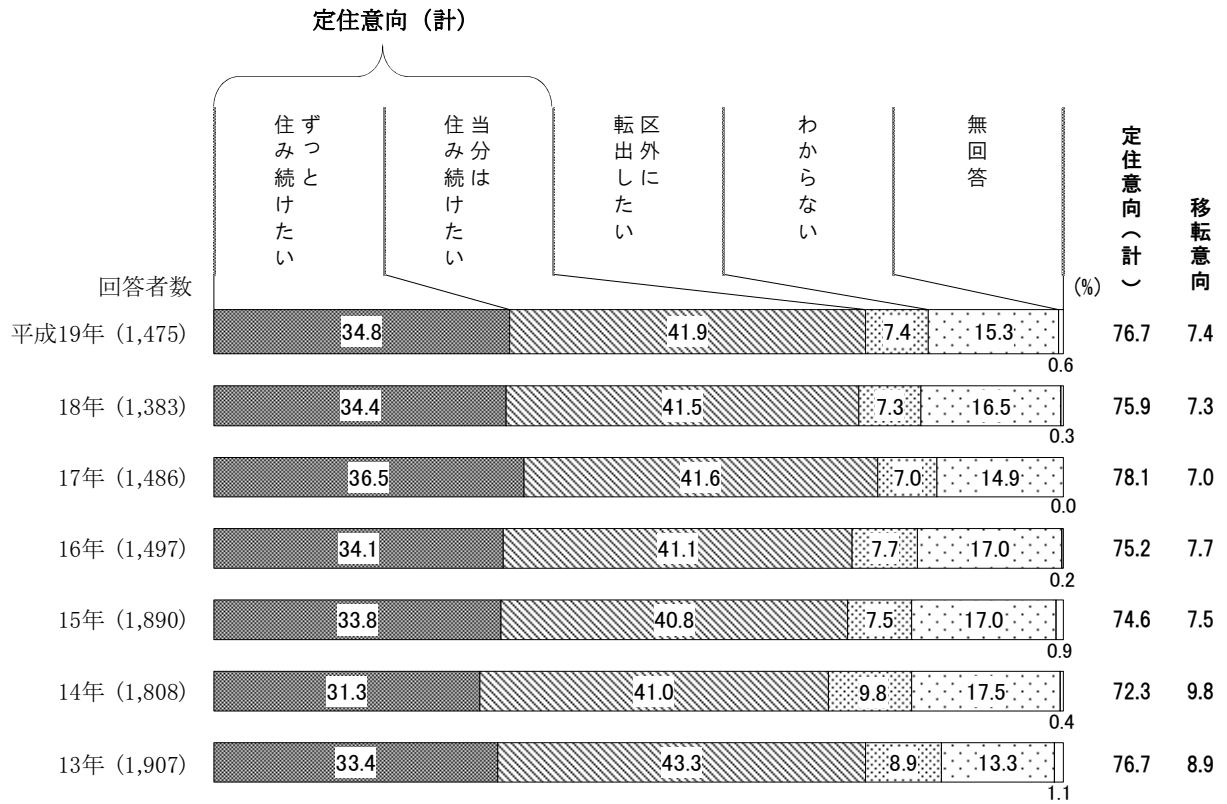
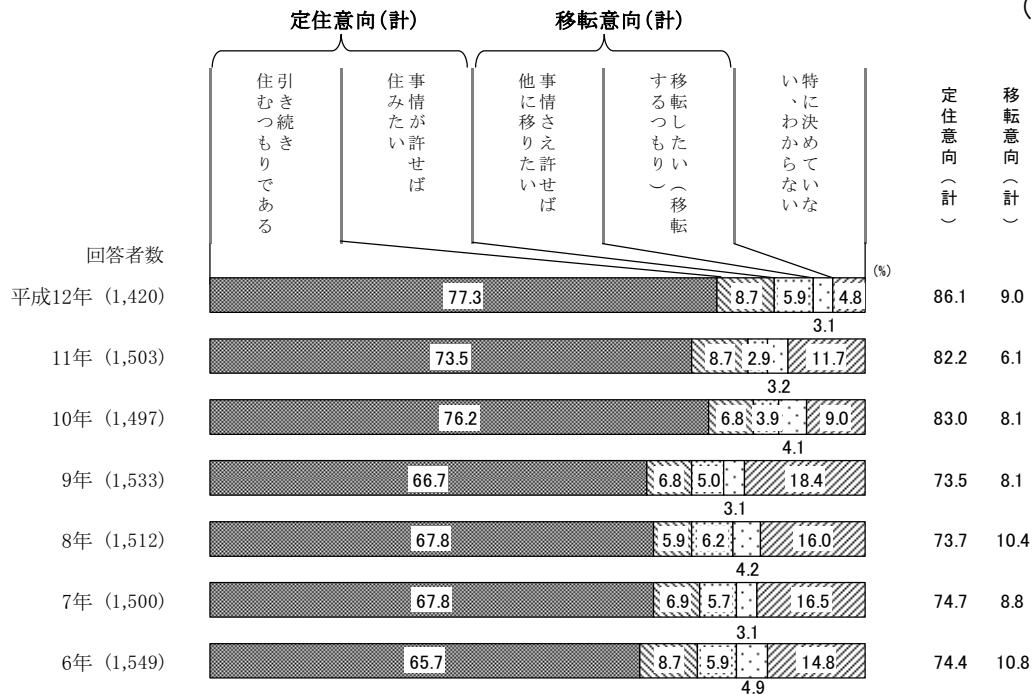


図1-4-1-② 経年比較／定住意向



参考／定住・移転意向の推移

問 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか。この中から1つにお答えください。（○は1つ）

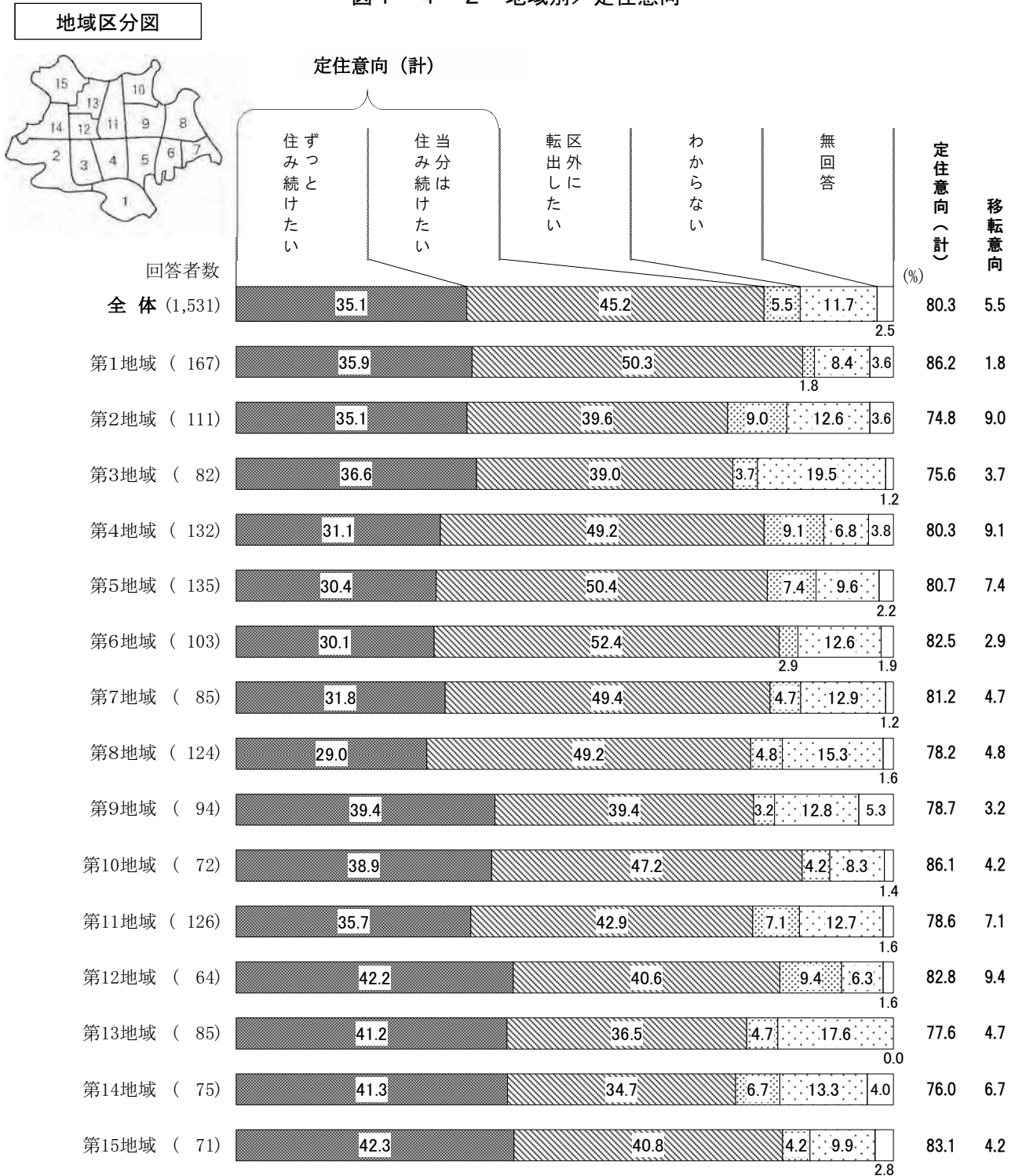


※ 平成12年度までと平成13年度以降では、調査方法（平成12年度までは訪問面接法、平成13年度以降は郵送配布郵送回収法）、質問文、選択肢が異なるため、結果を単純に比較することはできない。

イ クロス集計・地域別／定住意向

地域別でみると、【定住意向】は第1地域で86.2%と最も高く、次いで第10地域（86.1%）が僅差で続いている。一方、「区外に転出したい」という【移転意向】は第12地域で9.4%と最も高く、次いで第4地域で9.1%となっている。

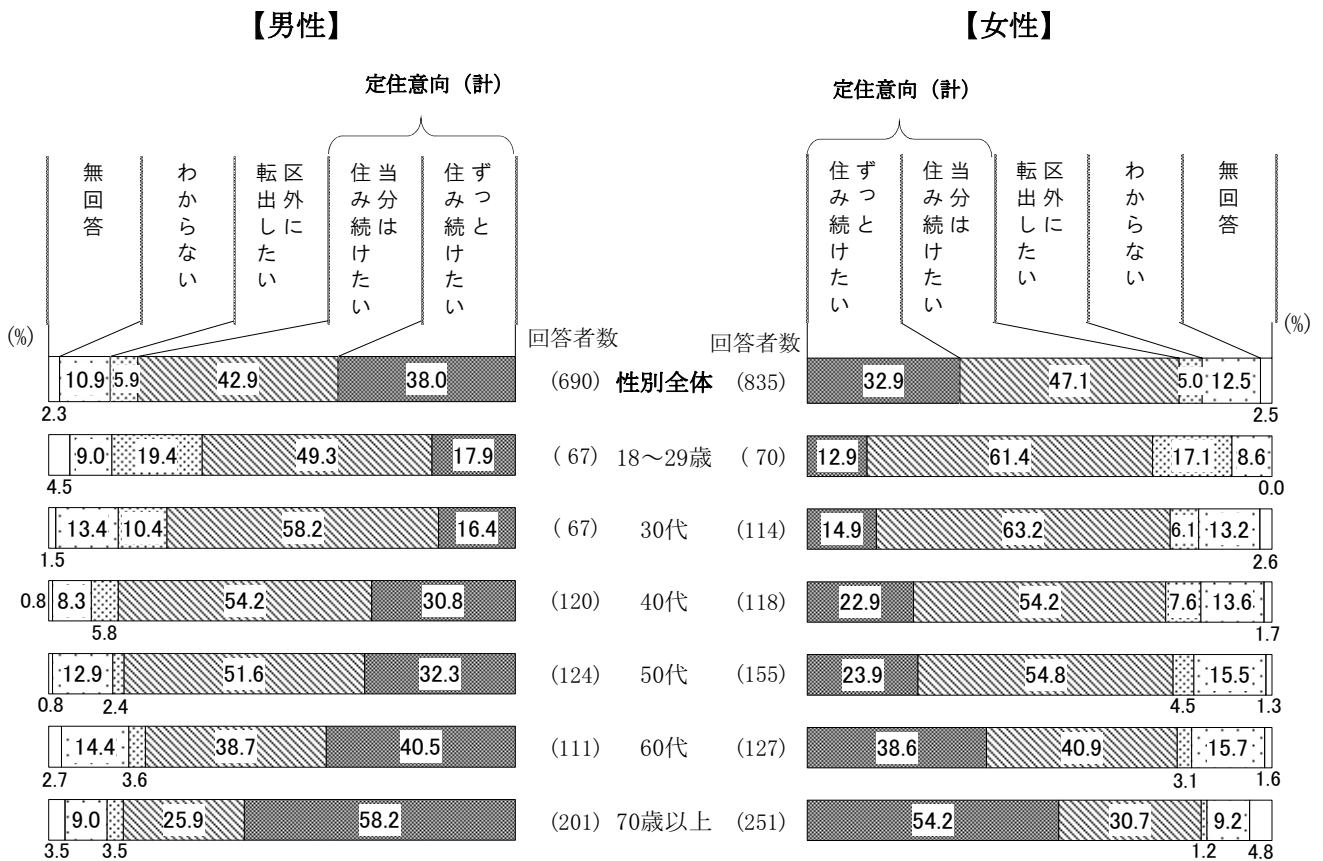
図1-4-2 地域別／定住意向



ウ クロス集計・性別、性・年代別／定住意向

(ア) 性別で見ると、【定住意向】は、男性（80.9%）と女性（80.0%）に大きな違いはない。
 (イ) 性・年代別で見ると、【定住意向】は、男性の40代が85.0%で最も高く、次いで、男女の70歳以上（男性84.1%、女性84.9%）と続いている。一方、「区外に転出したい」という【移転意向】は男女ともに18～29歳（男性19.4%、女性17.1%）が他の性・年代層に比べて高くなっている。

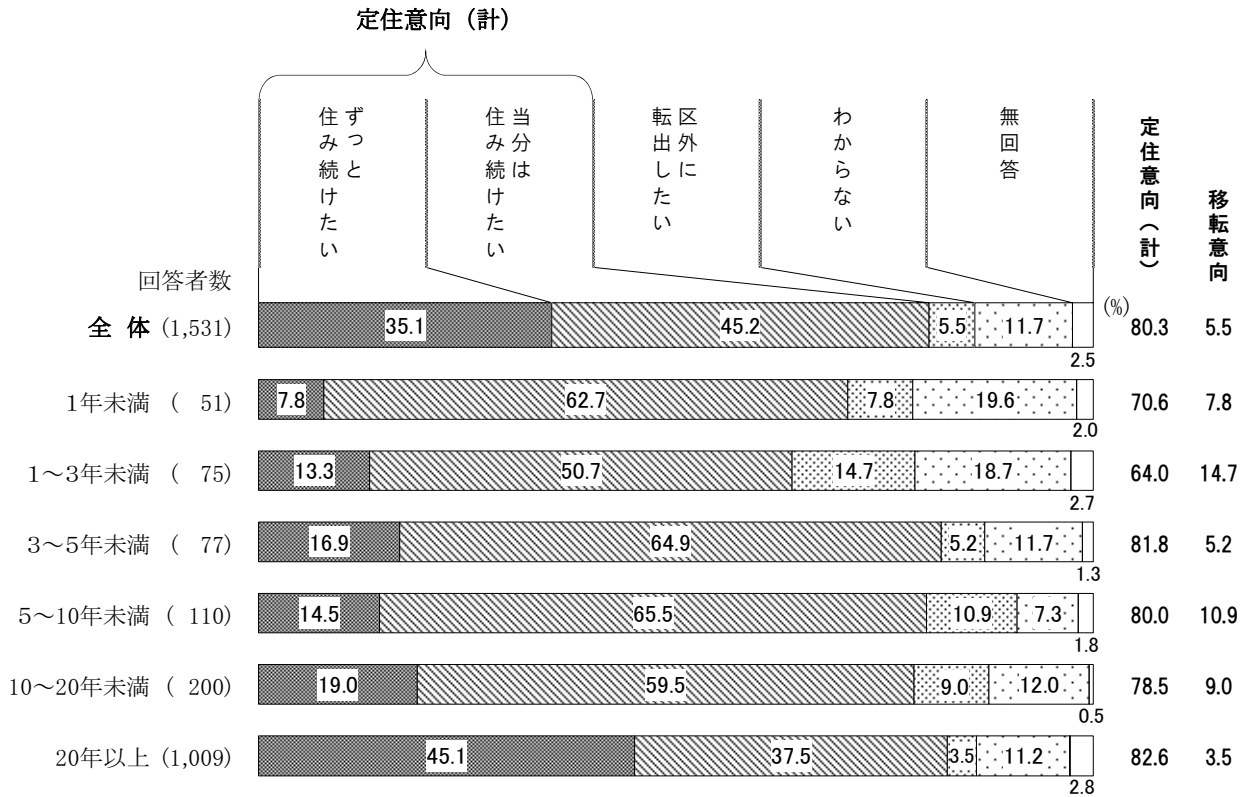
図1-4-3 性別、性・年代別／定住意向



エ クロス集計・居住年数別／定住意向

居住年数別で見ると、【定住意向】は20年以上で82.6%と最も高く、3～20年未満で8割前後、1年未満で7割、1～3年未満で6割台半ばとなっている。一方、「区外に転出したい」という【移転意向】は、1～3年未満で1割台半ばと最も高くなっている。

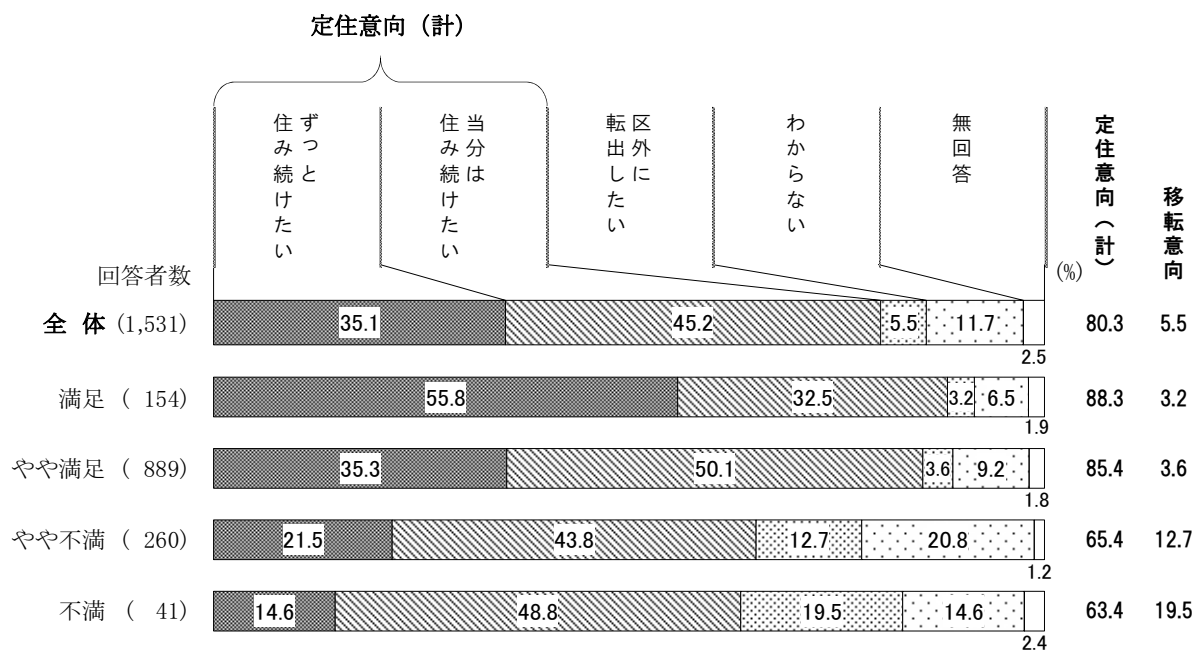
図1-4-4 居住年数別／定住意向



オ クロス集計・区政満足度別／定住意向

区政満足度別にみると、【定住意向】は満足（88.3%）とやや満足（85.4%）の区政に満足している層が8割台と高く、やや不満（65.4%）と不満（63.4%）の区政に不満がある層が6割台と低くなっており、区政への満足度によって定住意向の割合に差がみられる。

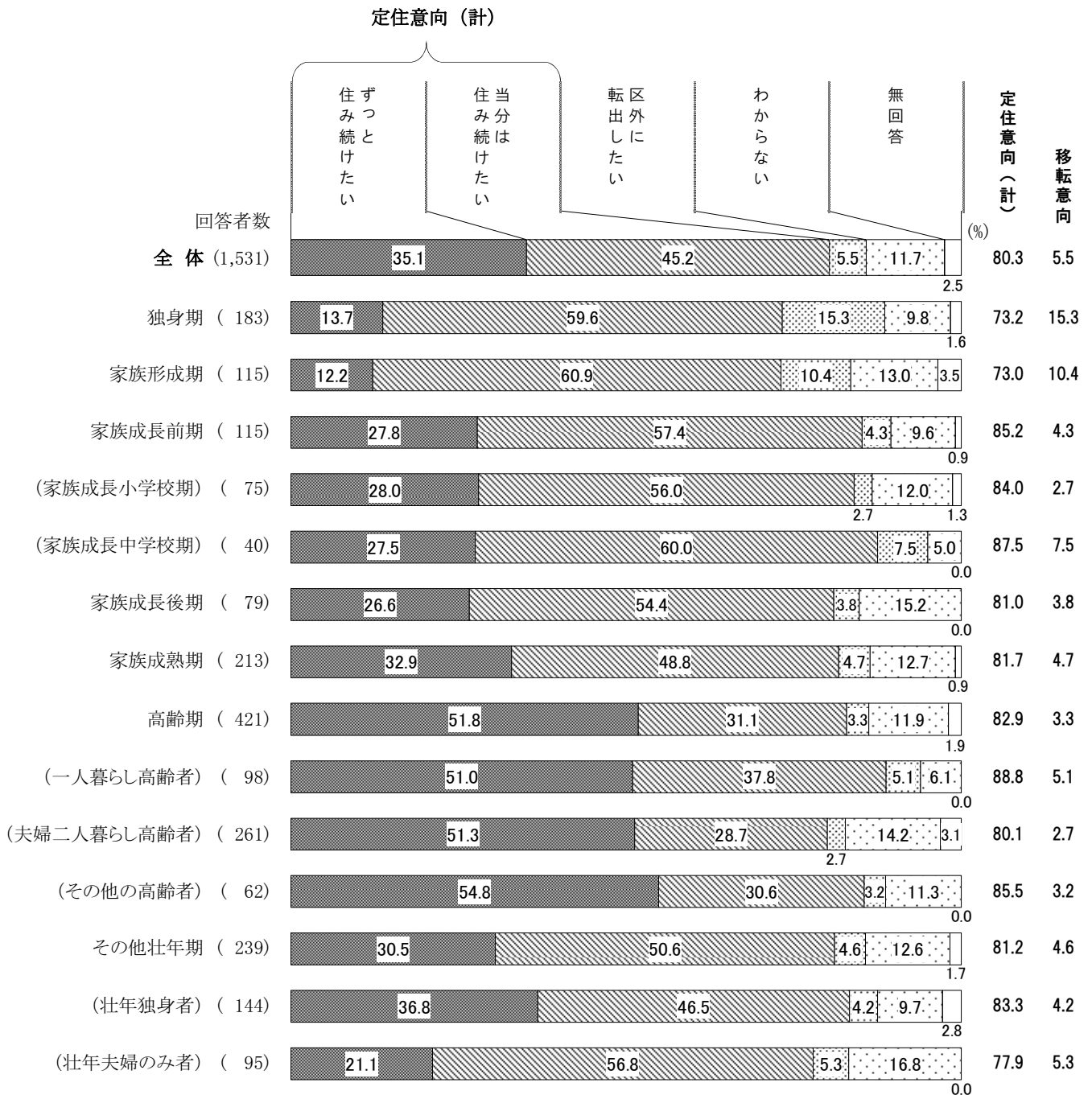
図1-4-5 区政満足度別／定住意向



カ クロス集計・ライフステージ別／定住意向

ライフステージ別でみると、【定住意向】は〈家族成長前期〉が85.2%で最も高く、次いで、〈高齢期〉が82.9%となっている。詳細区分でみると、〈一人暮らし高齢者〉が88.8%で最も高く、次いで〈家族成長中学校期〉が87.5%となっている。一方、〈家族形成期〉と〈独身期〉で7割台前半と他のライフステージに比べて低くなっている。

図1-4-6 ライフステージ別／定住意向



2 大震災などの災害への備え

-
- (1) 備蓄や防災用具などの用意
 - (2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
 - (3) 備蓄量
 - (4) 災害発生時の水や食料の確保
 - (5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策
 - (6) 対策をしていない理由
 - (7) 地域の3種の避難場所とその意味の認知
 - (8) 避難場所の認知経路
 - (9) 大規模災害時の避難生活場所
 - (10) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと
-

2 大震災などの災害への備え

(1) 備蓄や防災用具などの用意

問4 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（○は1つだけ）。

■「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は4人に3人の割合

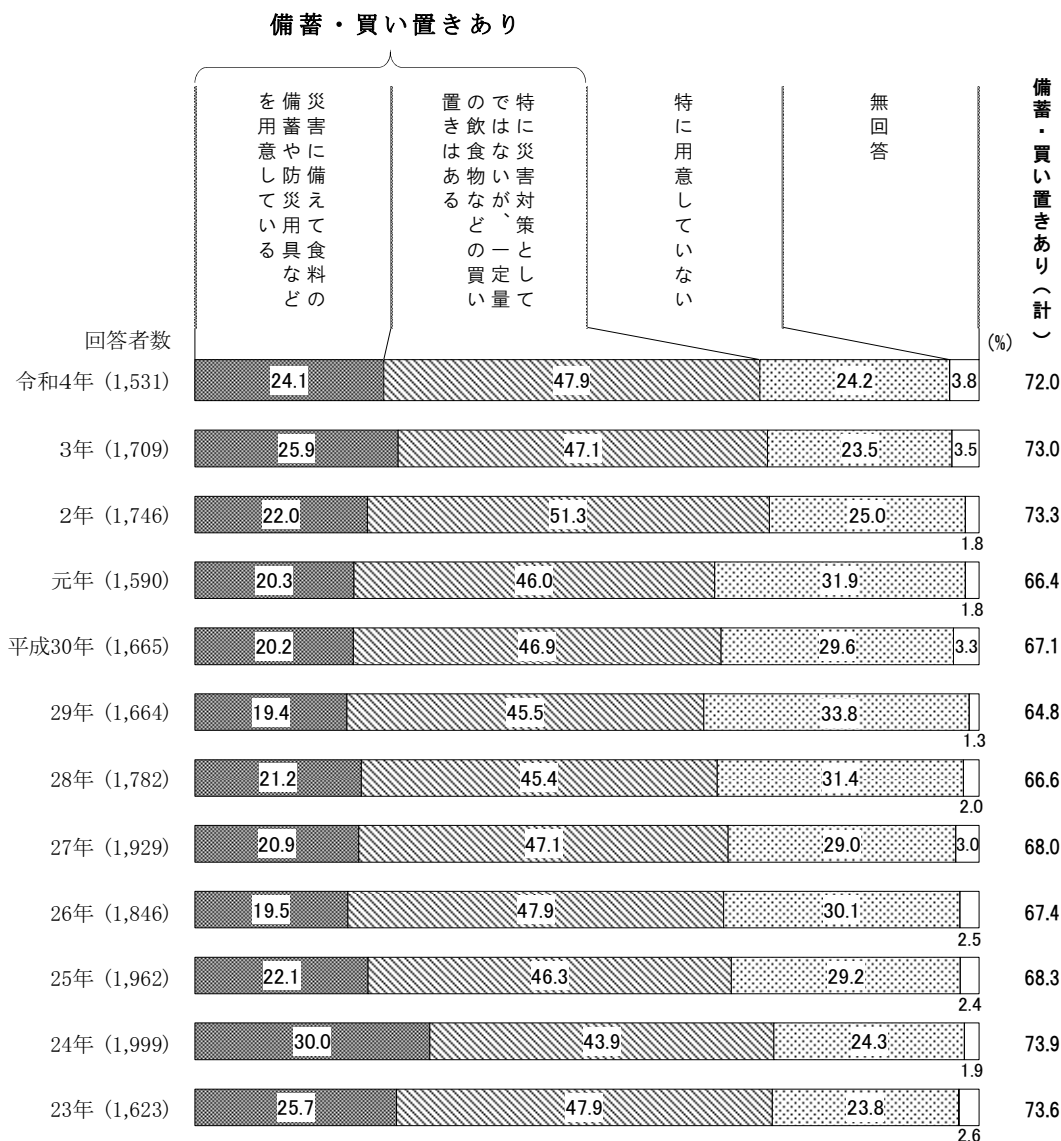
ア 単純集計・経年比較／備蓄や防災用具などの用意

(ア) 災害に備えての準備状況については、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が47.9%で最も高く、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が24.1%となっている。これらを合わせた【備蓄・買い置きあり】は72.0%となっている。

(イ) 災害に備えて「特に用意していない」は24.2%となっている。

(ウ) 経年でみると、【備蓄・買い置きあり】は前回調査に比べて大きな違いはみられないものの、前々回調査から漸減している。

図2-1-1 経年比較／備蓄や防災用具などの用意



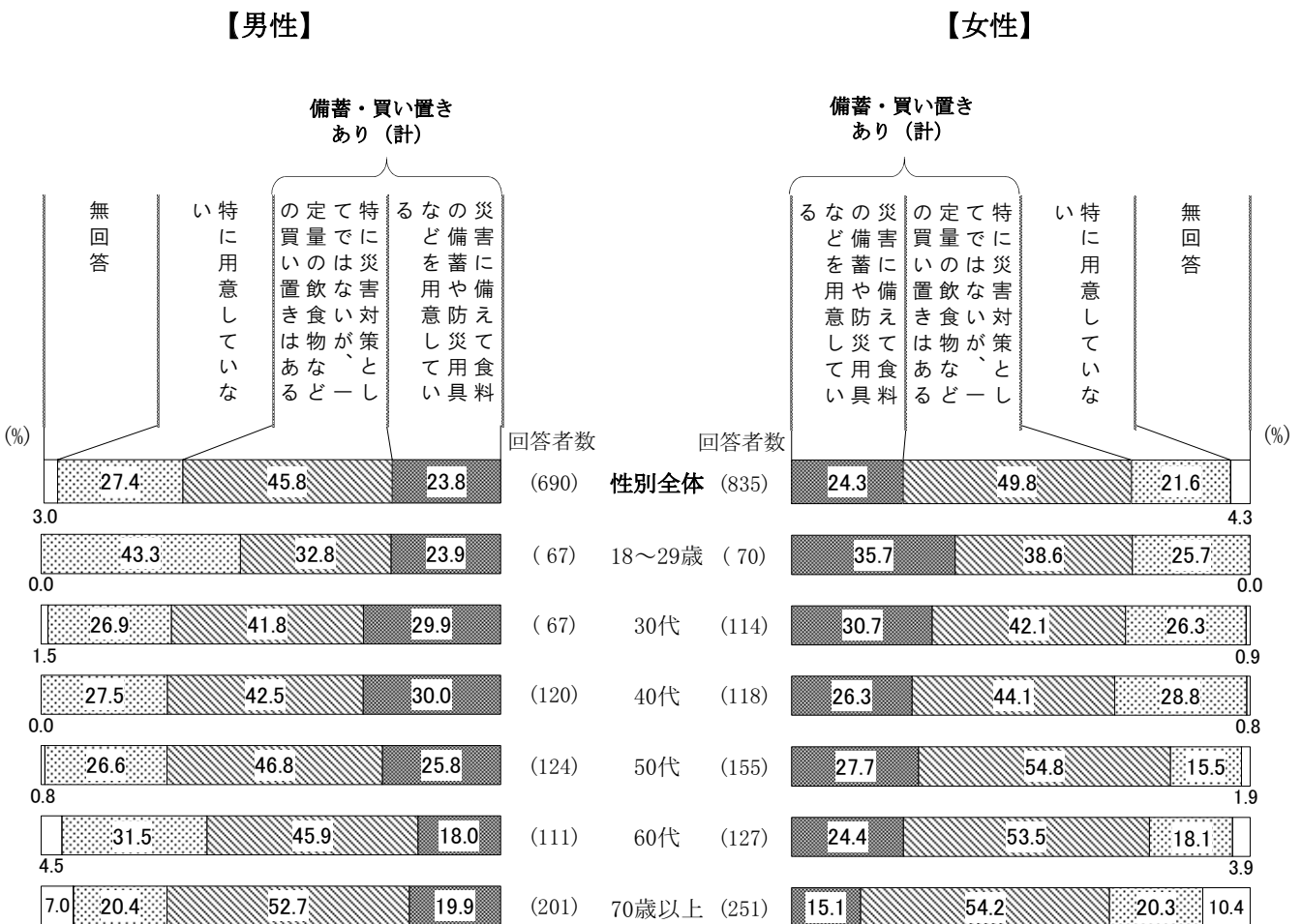
イ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意

(ア) 性別で見ると、【備蓄・買い置きあり】は女性（74.1%）の方が男性（69.6%）より4.5ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は、女性の18～29歳が35.7%で最も高く、次いで女性の30代（30.7%）となっている。また【備蓄・買い置きあり】は、女性の50代が82.6%で最も高く、次いで女性の60代（78.0%）となっている。

(ウ) 「特に用意していない」を性・年代別で見ると、男性の18～29歳が43.3%で最も高くなっている。

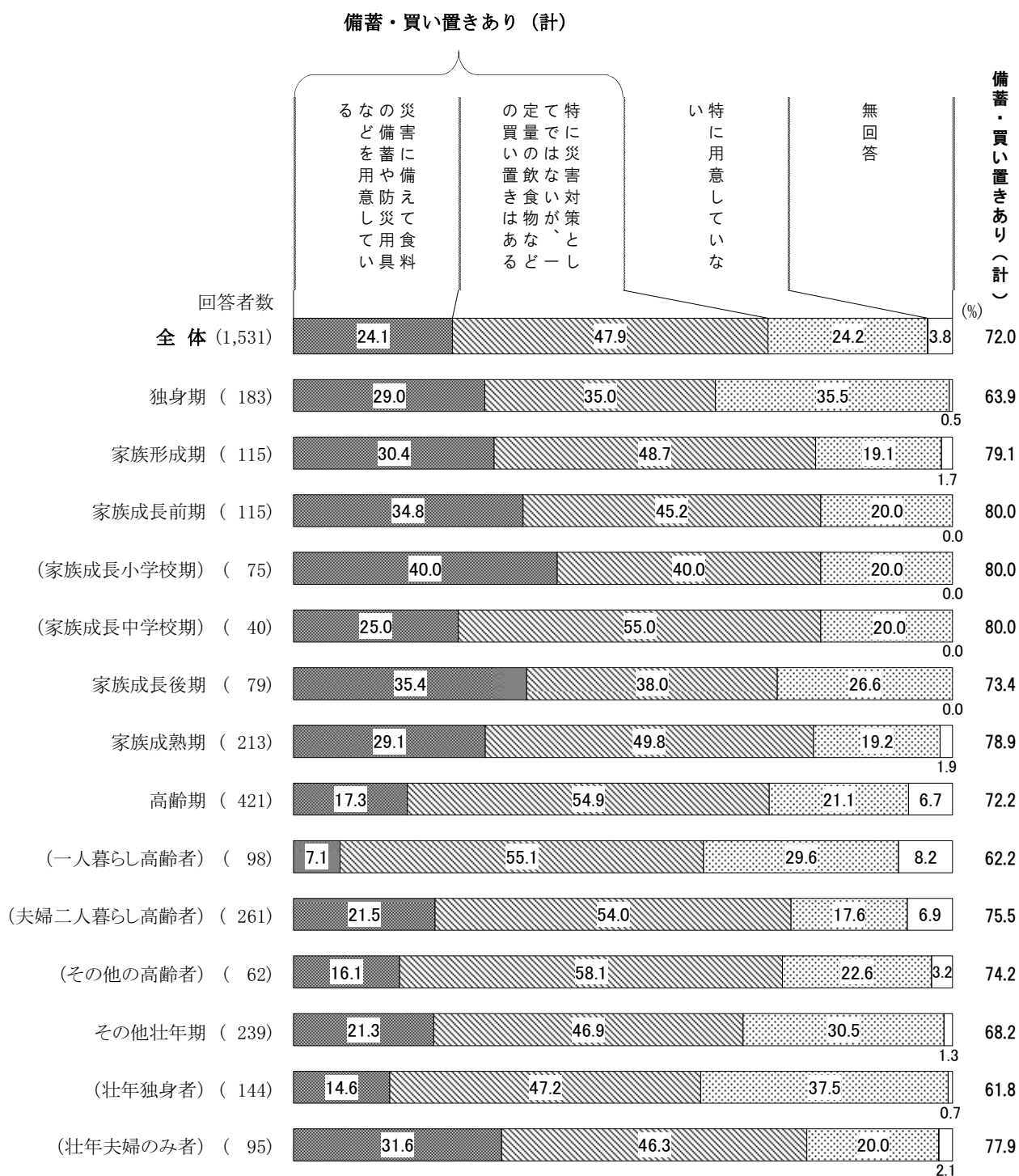
図2-1-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意



ウ クロス集計・ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意

ライフステージ別で見ると、【備蓄・買い置きあり】は〈家族成長前期〉が80.0%で最も高く、次いで〈家族形成期〉(79.1%)、〈家族成熟期〉(78.9%)となっている。なお、詳細区分で見ると、〈(家族成長小学校期)〉と〈(家族成長中学校期)〉がともに80.0%と高くなっている。一方、〈独身期〉が63.9%で最も低いが、詳細区分で見ると〈(壮年独身者)〉が61.8%で最も低くなっている。

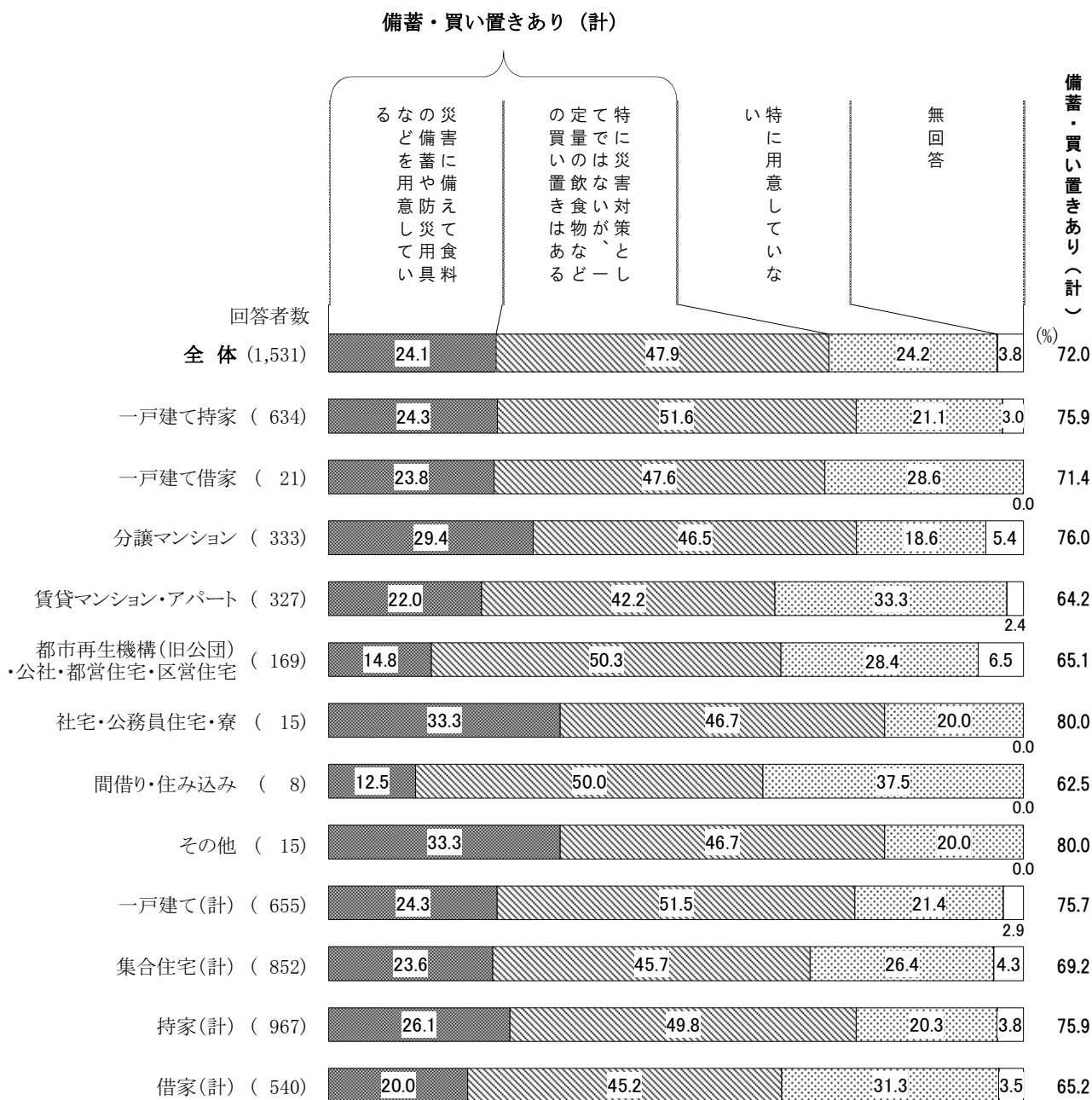
図2-1-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意



エ クロス集計・住居形態別／備蓄や防災用具などの用意

住居形態別でみると、【備蓄・買い置きあり】は〈分譲マンション〉が76.0%で最も高く、僅差で〈一戸建て持家〉(75.9%)が続いている。住宅の戸建て集合別では、〈一戸建て(計)〉(75.7%)の方が〈集合住宅(計)〉(69.2%)より6.5ポイント高く、住宅の所有形態別では、〈持家(計)〉(75.9%)の方が〈借家(計)〉(65.2%)より10.7ポイント高くなっている。一方、「特に用意していない」は〈賃貸マンション・アパート〉が33.3%で最も高くなっている。

図2-1-4 住居形態別／備蓄や防災用具などの用意



※「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、回答数が少ないため参考値。

（2）備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

問4で「1 災害に備えて～」または「2 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に

問4-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください

（○はあてはまるものすべて）。

■ 1位「水」（9割強）、2位「食料」（9割）、3位「あかり」（8割）で前回調査と変わらず

ア 単純集計・経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

（ア）【備蓄・買い置きあり】の内容は、高い順に主に以下のとおりとなっている。

- ①「水」（91.4%）
- ②「食料（缶詰、アルファーマ、インスタント食品など）」（90.0%）
- ③「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」（79.9%）
- ④「電池・予備バッテリー」（55.5%）
- ⑤「情報収集手段（携帯ラジオなど）」（50.5%）

（イ）平成25年調査以降、「水」「食料（缶詰、アルファーマ、インスタント食品など）」「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」が継続して上位3項目に挙げられている。

（ウ）前回の令和3年調査からの増減では、上位5項目についての増減では特に大きな違いはないが、「衣類」（27.4%→31.7%）が4.3ポイント増加、「医薬品（常備薬を含む）」は（47.8%→50.4%）が2.6ポイント増加している。逆に、「水の確保用品（ポリタンク、水袋など）」（31.3%→29.1%）が2.2ポイント減少している。

図2-2-1-① 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

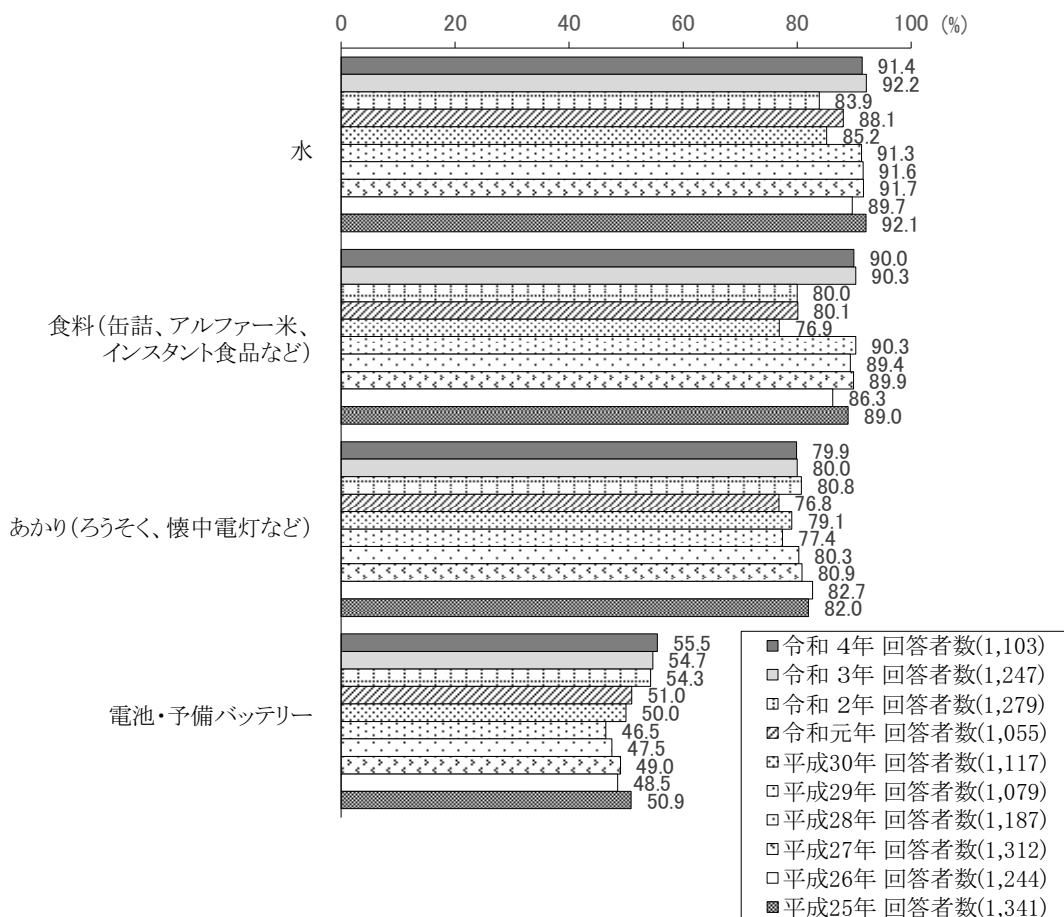


図2-2-1-② 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

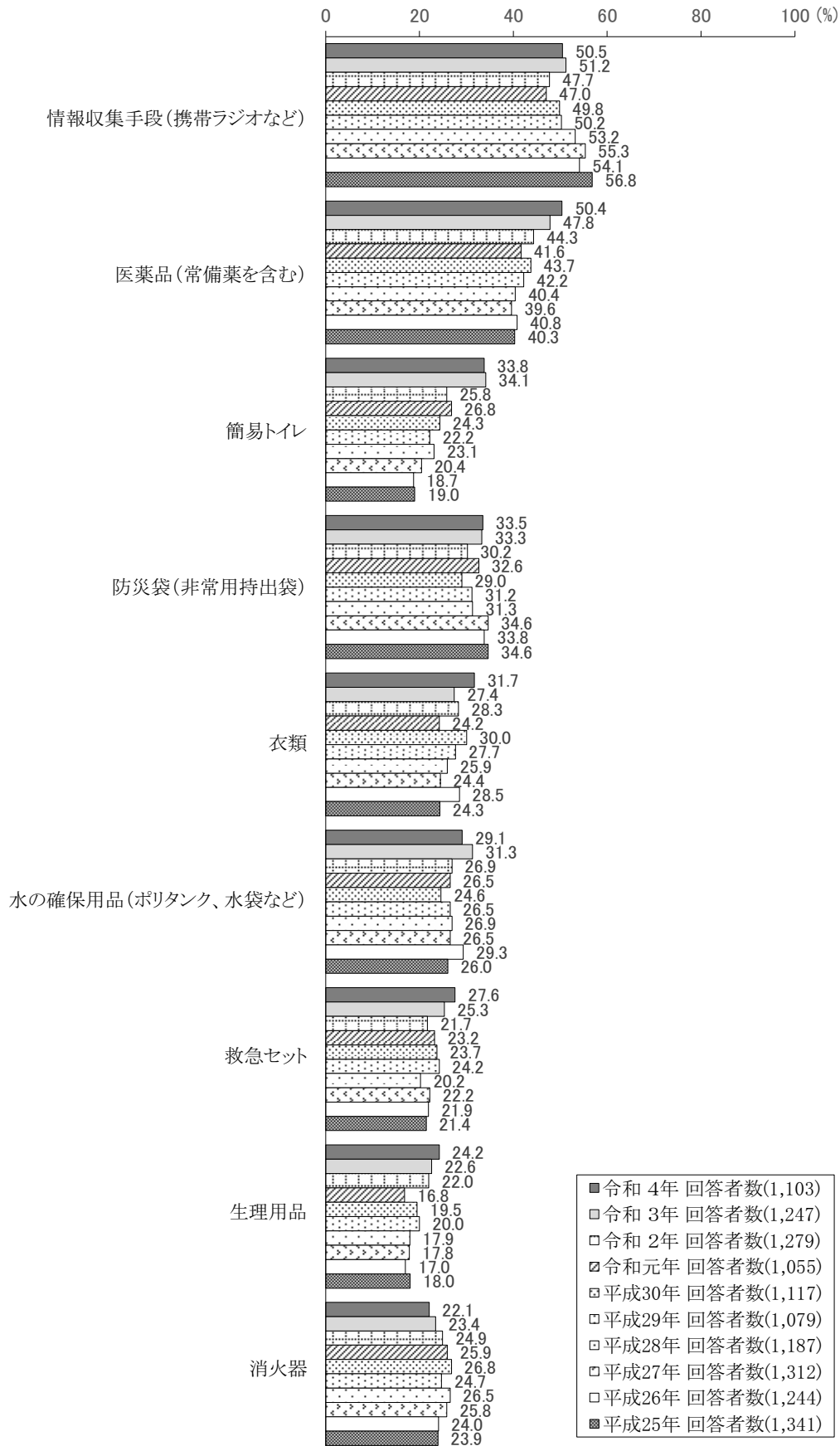
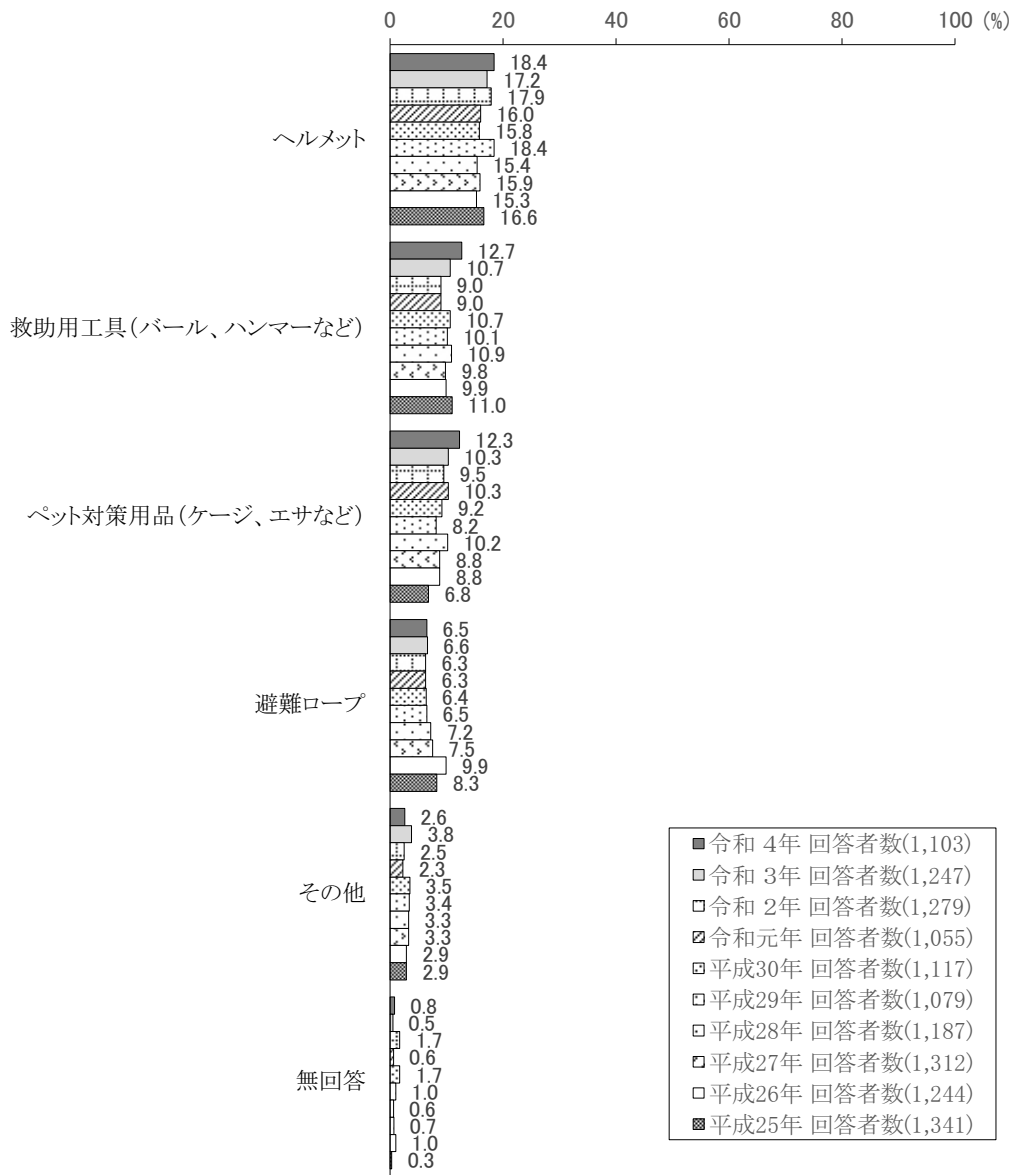


図2-2-1-③ 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

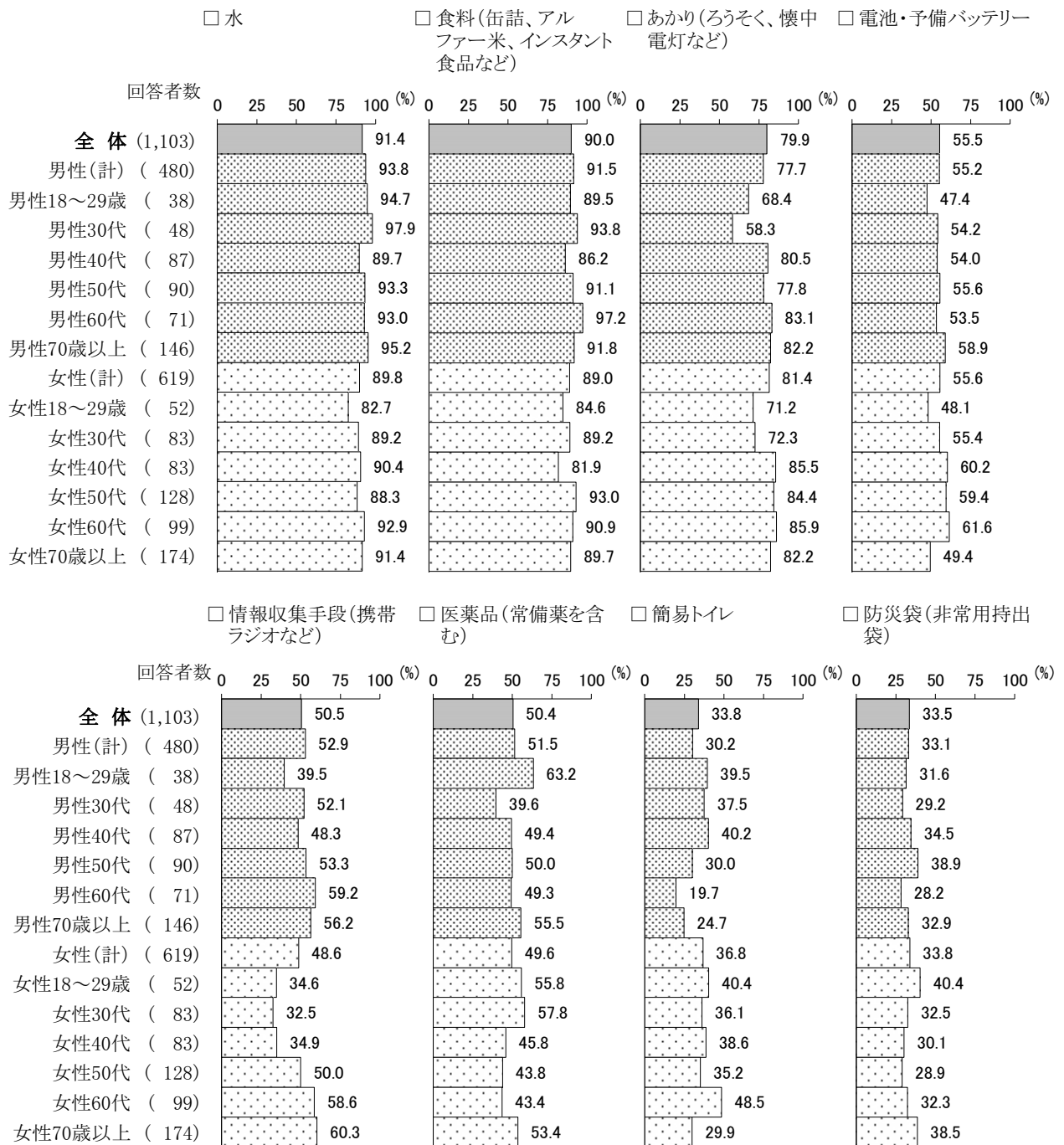


イ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容（上位8項目）

(ア) 上位項目を中心に性別でみると、「情報収集手段（携帯ラジオなど）」（男性+4.3ポイント）、「水」（男性+4.0ポイント）では男性が女性より高く、逆に「簡易トイレ」（女性+6.6ポイント）、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」（女性+3.7ポイント）では女性が男性より高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、「水」は男性の30代（97.9%）が最も高く、女性の18～29歳（82.7%）で最も低くなっている。「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」は男性の60代（97.2%）が最も高く、女性の40代（81.9%）で最も低くなっている。また、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」は女性の60代（85.9%）が最も高く、男性の30代（58.3%）で最も低く、30ポイント近くの差となっている。

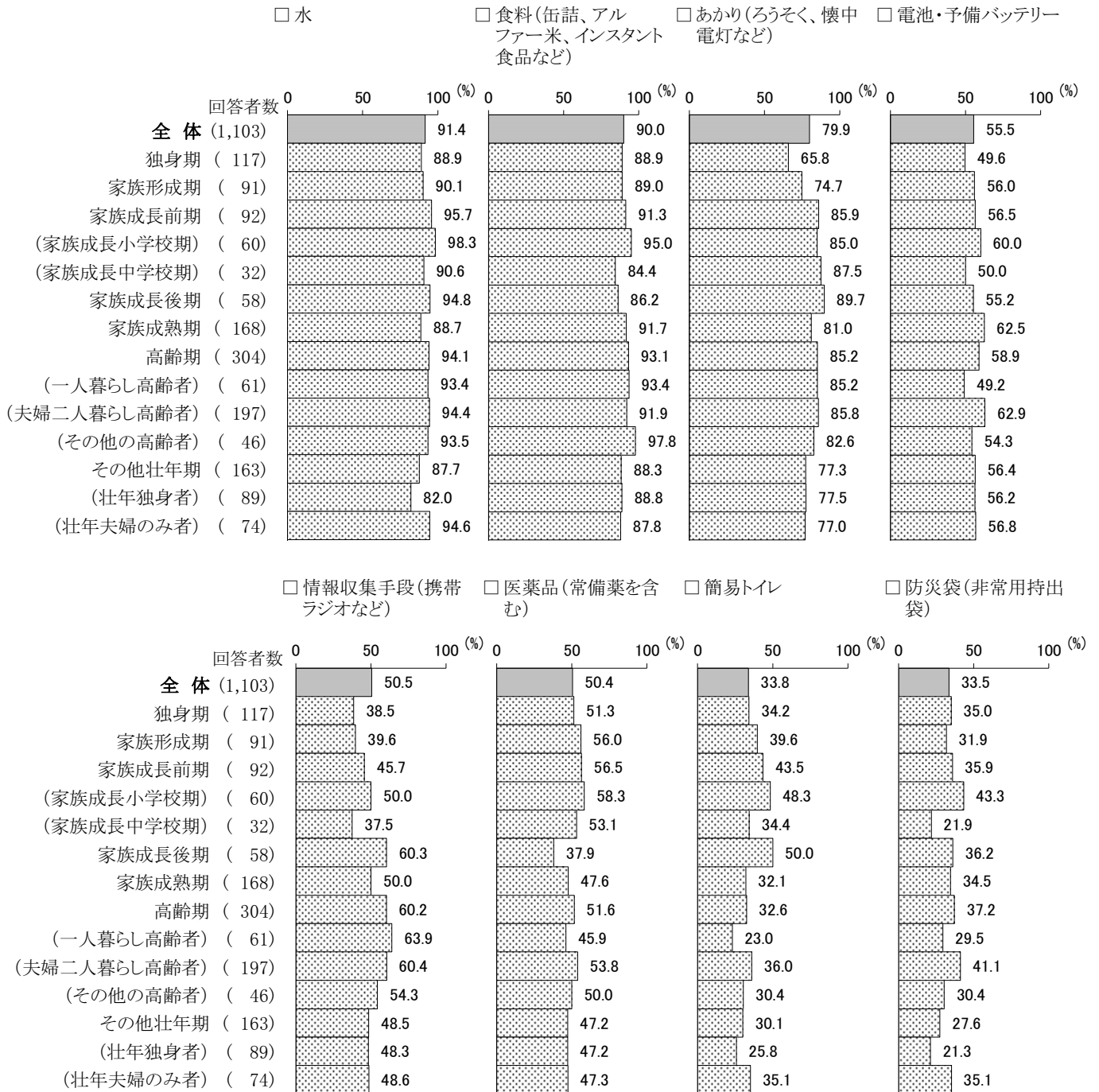
図2-2-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



ウ クロス集計・ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容（上位8項目）

ライフステージ別にみると、詳細区分を除いたところでは、「水」は〈家族成長前期〉(95.7%)、「食料(缶詰、アルファ米、インスタント食品など)」は〈高齢期〉(93.1%)、「あかり(ろうそく、懐中電灯など)」は〈家族成長後期〉(89.7%)、「電池・予備バッテリー」は〈家族成熟期〉(62.5%)で他のステージに比べて高くなっている。

図2-2-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



(3) 備蓄量

問4-1で「1 水」または「2 食料」とお答えの方に

問4-1-1 あなたのご家庭では、「水」と「食料」の備蓄の量はどれくらいありますか。

「水」「食料」いずれかの備蓄がない場合は、その項目についての回答は不要です

(○はそれぞれ1つずつ)

※ 水は大人1人1日3リットルで計算。水、食料は日常の買い置きなどを含まず。

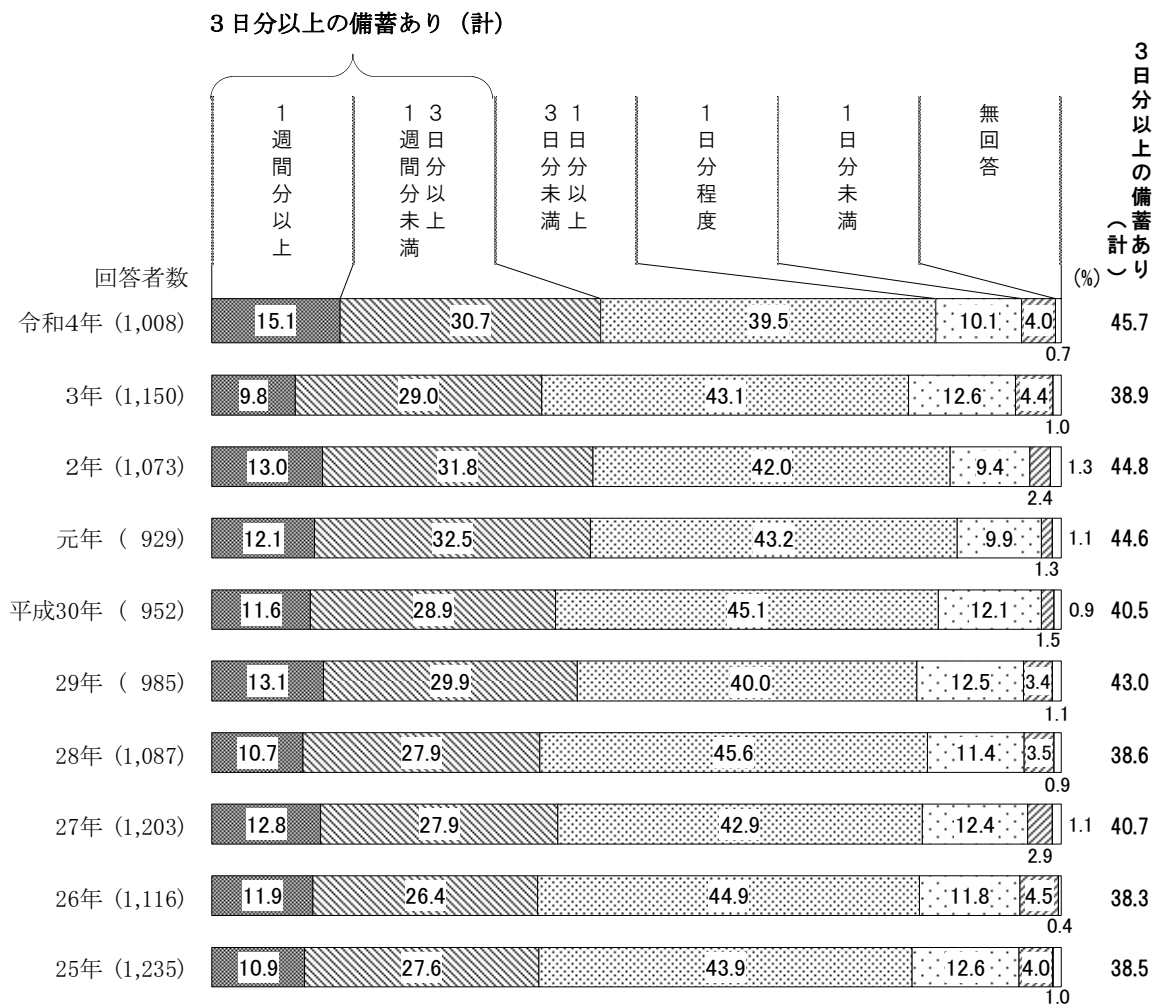
■ 「水」と「食料」の【3日分以上の備蓄あり】はともに4割台半ば

ア 単純集計・経年比較／備蓄量／水

(ア) 「水」の備蓄量については「1日分以上3日分未満」が39.5%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」(30.7%)となっている。

(イ) 経年で【3日分以上の備蓄あり】をみると、前回調査(38.9%)に比べて6.8ポイント増加しており、本設問を開始した平成25年以降で最も高い割合となっている。

図2-3-1-① 経年比較／備蓄量／水



イ 単純集計・経年比較／備蓄量／食料

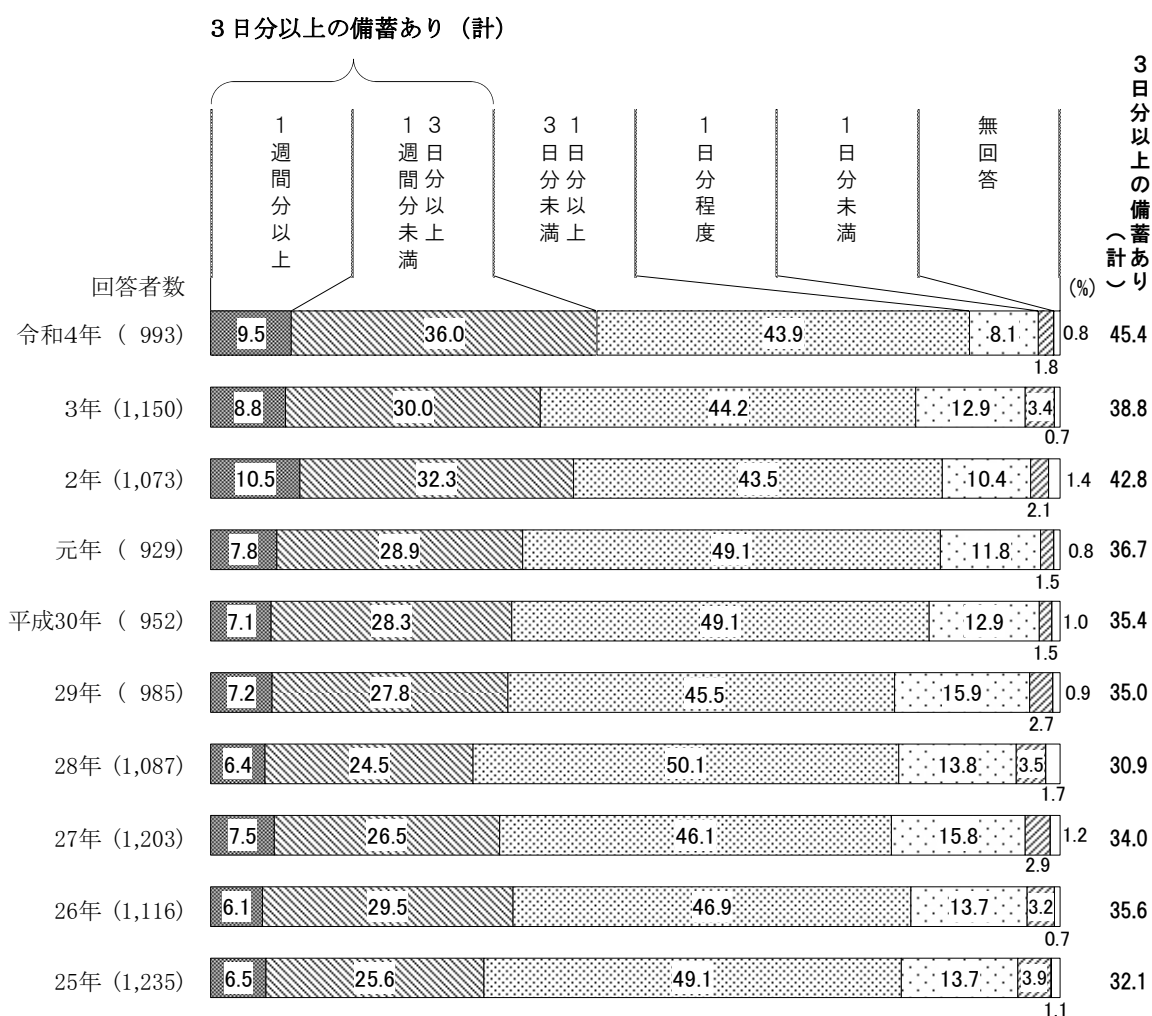
(ア)「食料(缶詰、アルファ米、インスタント食品など)」の備蓄量については、高い順に以下のとおりとなっている。

- ①「1日分以上3日分未満」(43.9%)
- ②「3日分以上1週間分未満」(36.0%)

また、「3日分以上1週間分未満」と「1週間分以上」を合わせた【3日分以上の備蓄あり】は「水」(45.7%)と「食料(缶詰、アルファ米、インスタント食品など)」(45.4%)がともに4割台半ばと同様の割合となっている。

(イ)経年で食料についての【3日分以上の備蓄あり】をみると、前回調査(38.8%)に比べて6.6ポイント減少しており、水の備蓄量と同様に、本設問を開始した平成25年以降で最も高い割合となっている。

図2-3-1-② 経年比較／備蓄量／食料

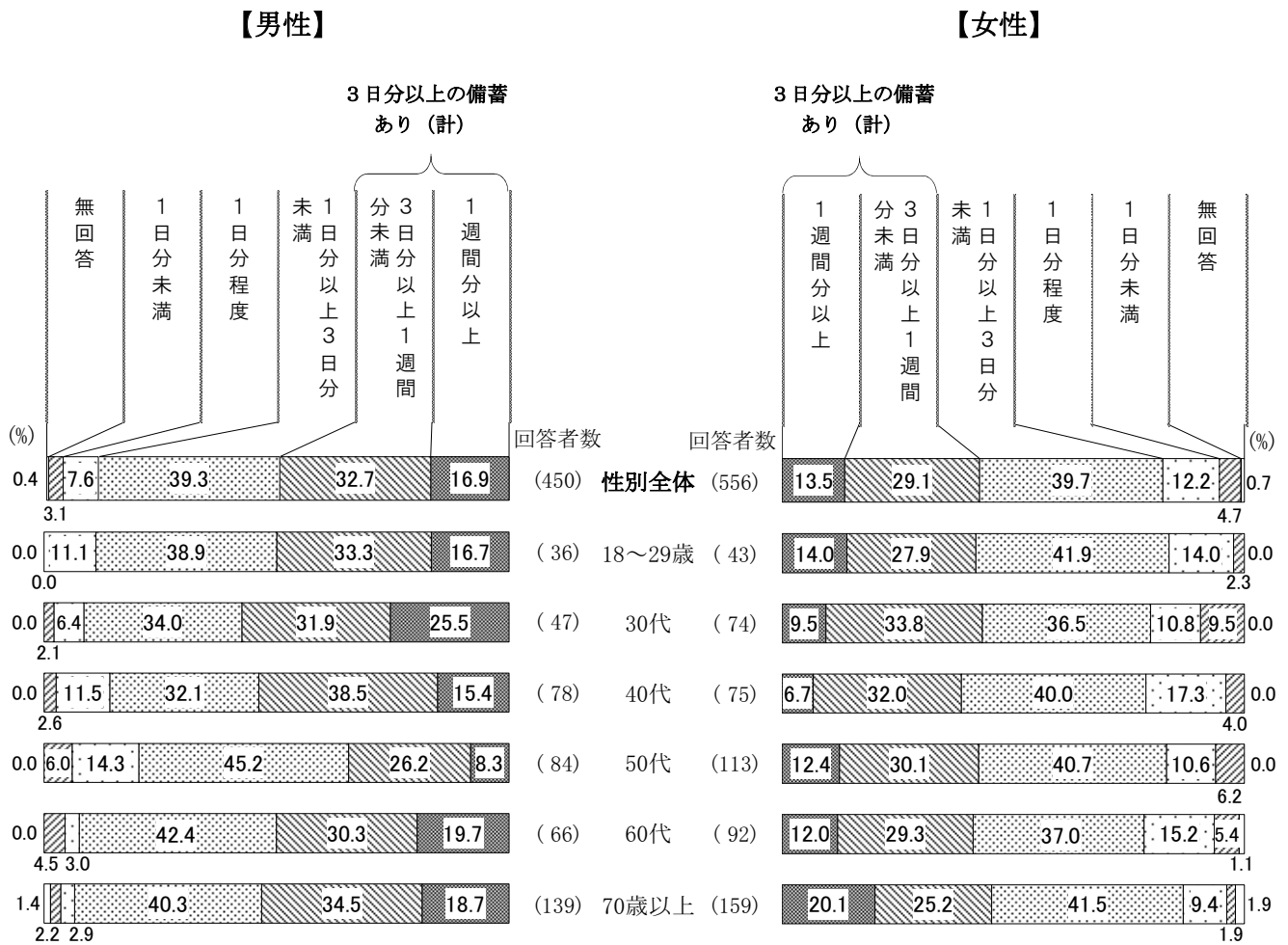


ウ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄量／水

(ア) 「水」の備蓄量を性別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は男性（49.6%）の方が女性（42.6%）より7.0ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で【3日分以上の備蓄あり】をみると、男性の30代が57.4%で最も高く、次いで男性の40代（53.8%）となっている。逆に、男性の50代が34.5%で最も低くなっている。また、「1日分未満」は女性の30代が9.5%で最も高くなっている。

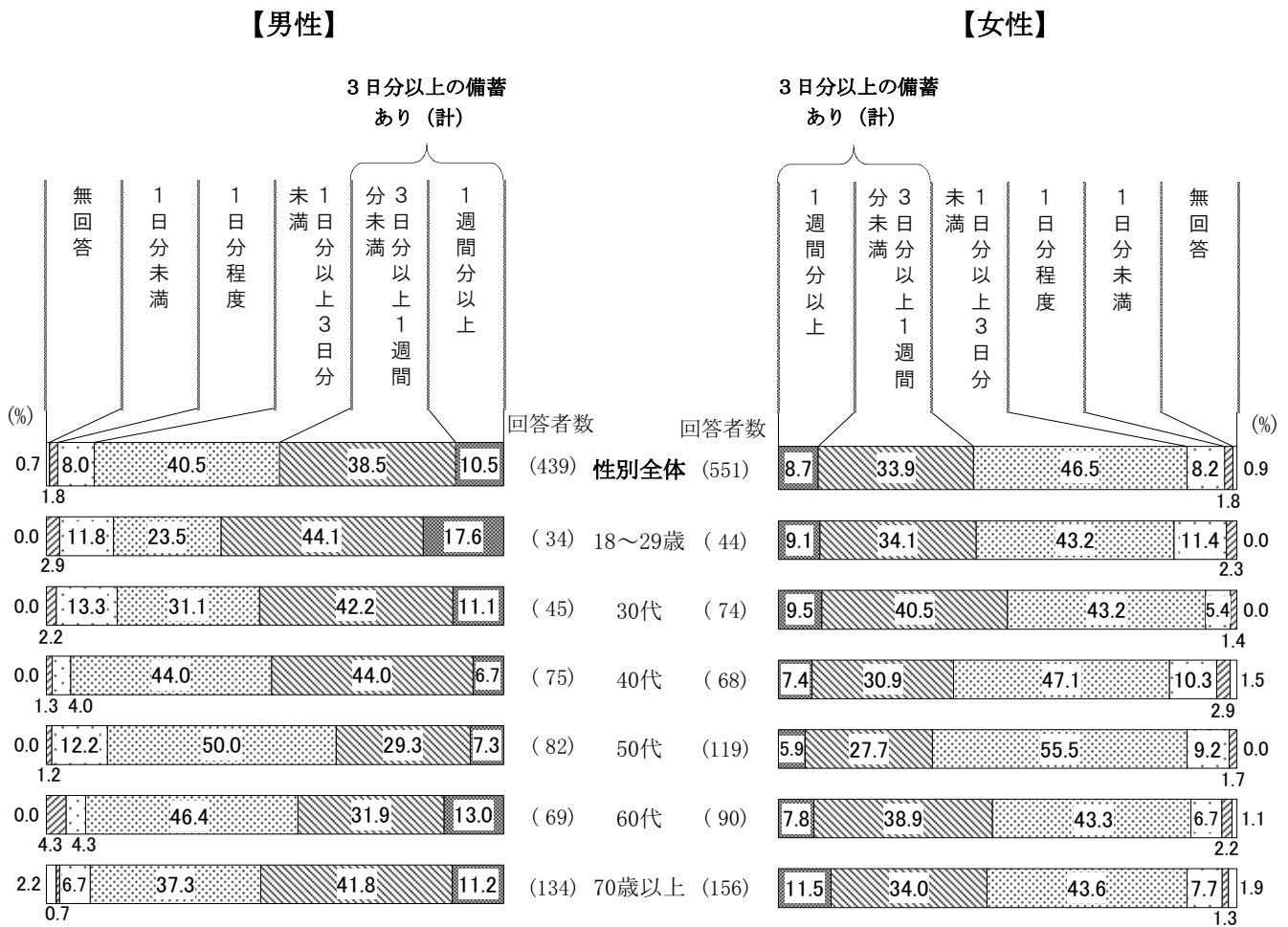
図2-3-2-① 性別、性・年代別／備蓄量／水



エ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄量／食料

- (ア) 「食料」の備蓄量を性別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は男性（49.0%）の方が女性（42.6%）より6.4ポイント高くなっている。
- (イ) 性・年代別で【3日分以上の備蓄あり】をみると、男性の18～29歳が61.8%で最も高く、次いで男性の30代（53.3%）となっている。逆に、女性の50代が33.6%で最も低くなっている。また、「1日分未満」は男性の60代が4.3%で最も高くなっている。

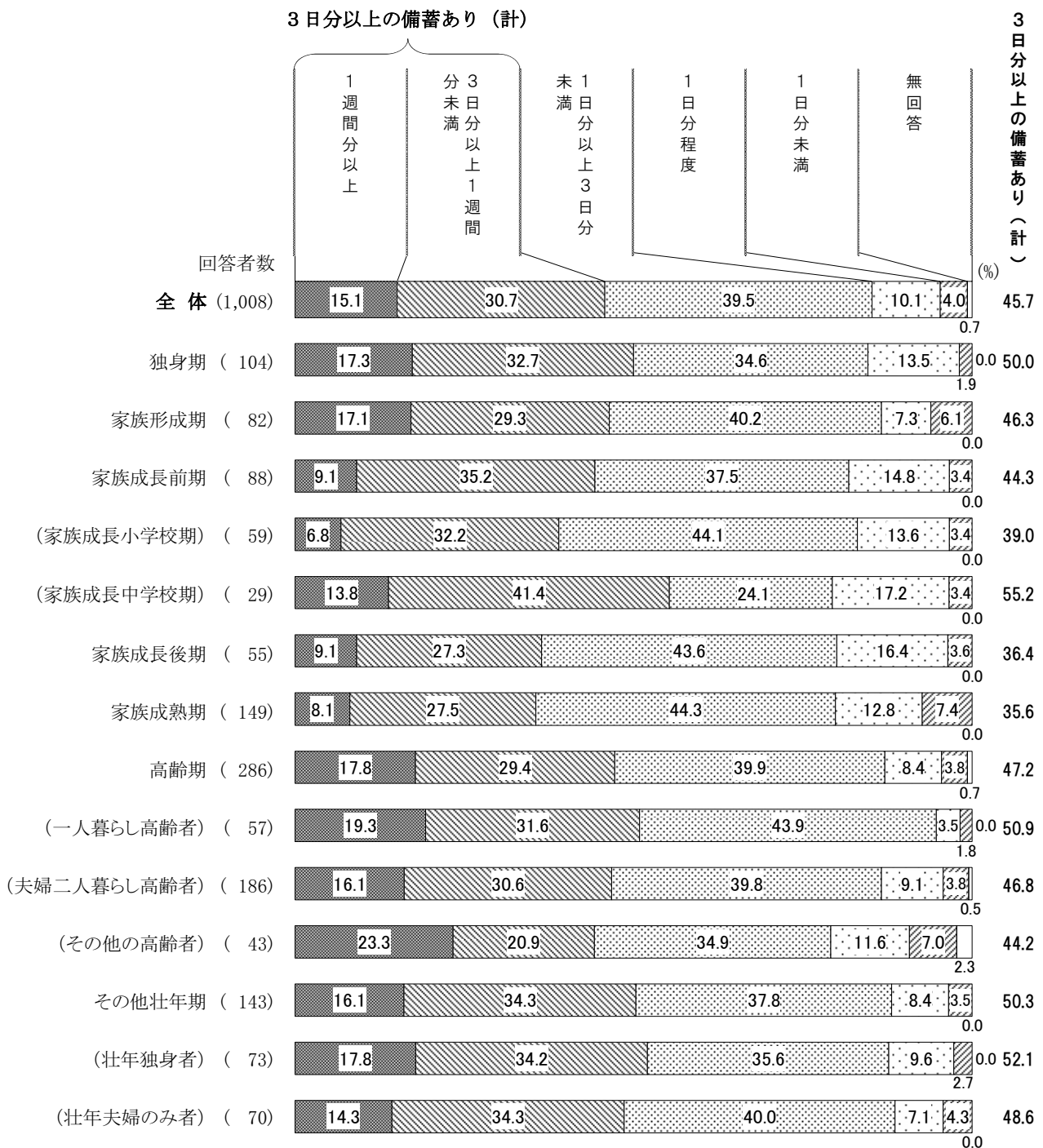
図2-3-2-② 性別、性・年代別／備蓄量／食料



オ クロス集計・ライフステージ別／備蓄量／水

「水」の備蓄量をライフステージ別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は〈その他壮年期〉が50.3%で最も高く、次いで、〈独身期〉が50.0%となっている。逆に〈家族成熟期〉と〈家族成長後期〉が3割台半ばと低くなっている。

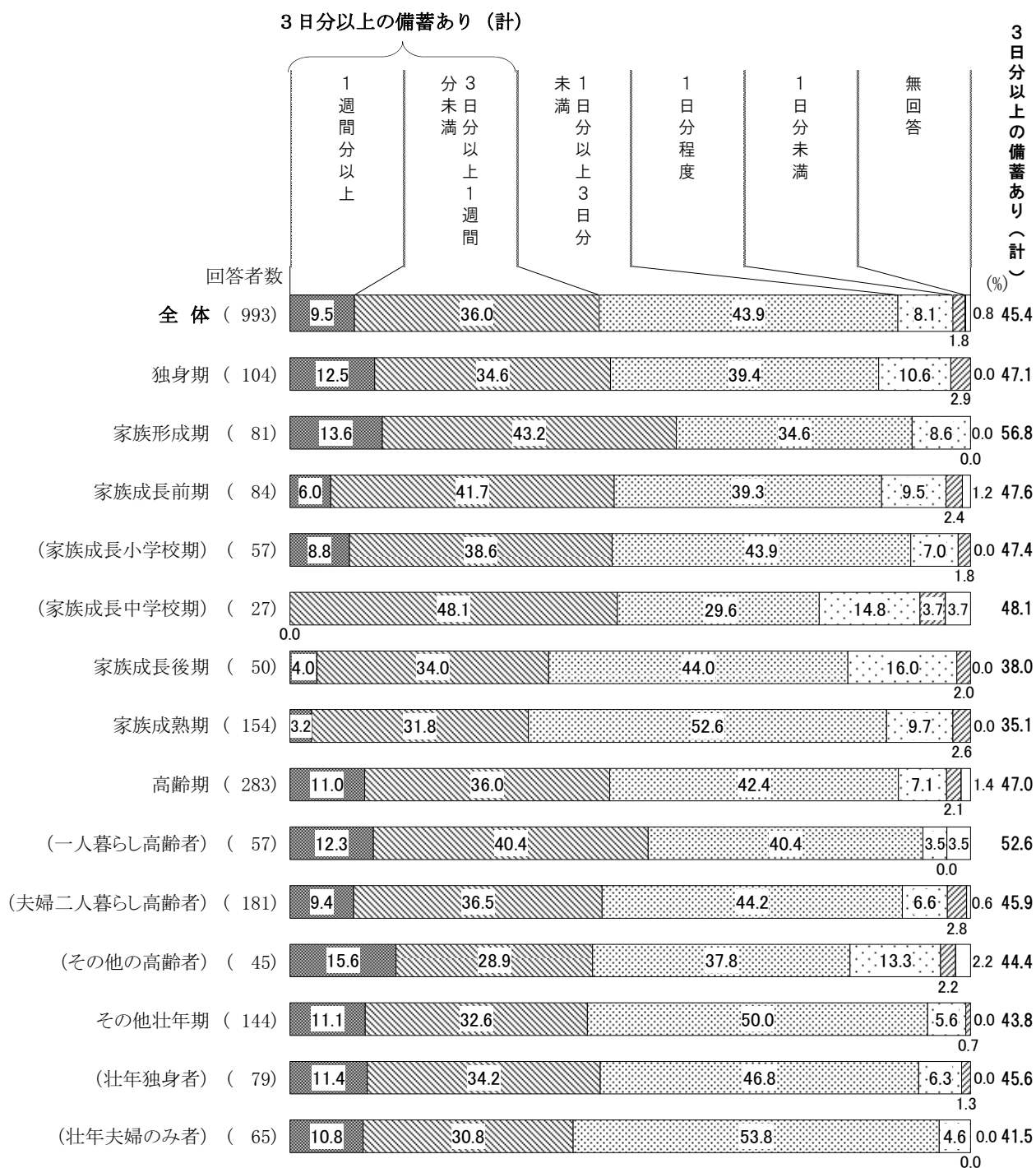
図2-3-3-① ライフステージ別／備蓄量／水



カ クロス集計・ライフステージ別／備蓄量／食料

「食料」の備蓄量をライフステージ別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は〈家族形成期〉が56.8%で最も高く、次いで、〈家族成長前期〉が47.6%となっている。逆に〈家族成熟期〉が35.1%で最も低くなっている。

図2-3-3-② ライフステージ別／備蓄量／食料



(4) 災害発生時の水や食料の確保

問4で「3 特に用意していない」とお答えの方に

問4-2 災害が発生した場合、水や食料をどのようにして確保するつもりですか

(〇は1つだけ)。

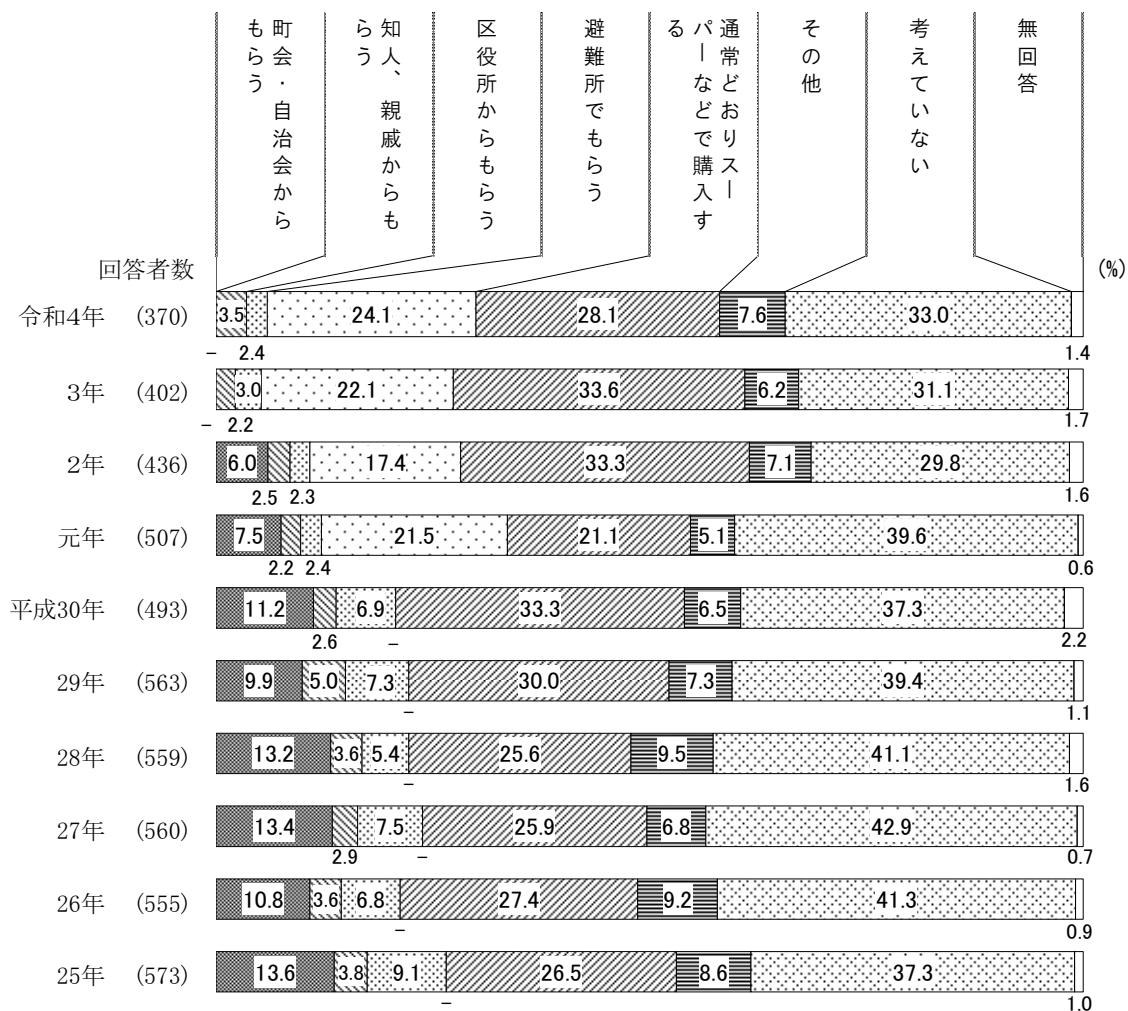
■「考えていない」が3割台半ば近くで、「スーパーなどで購入」(3割弱)を上回っている

ア 単純集計・経年比較／災害発生時の水や食料の確保

(ア) 備蓄や防災用具などを「特に用意していない」という人に、災害発生時の水や食料の確保について聞いたところ、「考えていない」が33.0%と最も高く、次いで「通常どおりスーパーなどで購入する」(28.1%)、「避難所でもらう」(24.1%) などとなっている。

(イ) 前回の令和3年調査との比較でみると、「通常どおりスーパーなどで購入する」が前回調査(33.6%)に比べて5.5ポイント減少しており、逆に「避難所でもらう」(前回調査22.1%)と「考えていない」(前回調査31.1%)で約2ポイント増加している。

図2-4-1 経年比較／災害発生時の水や食料の確保



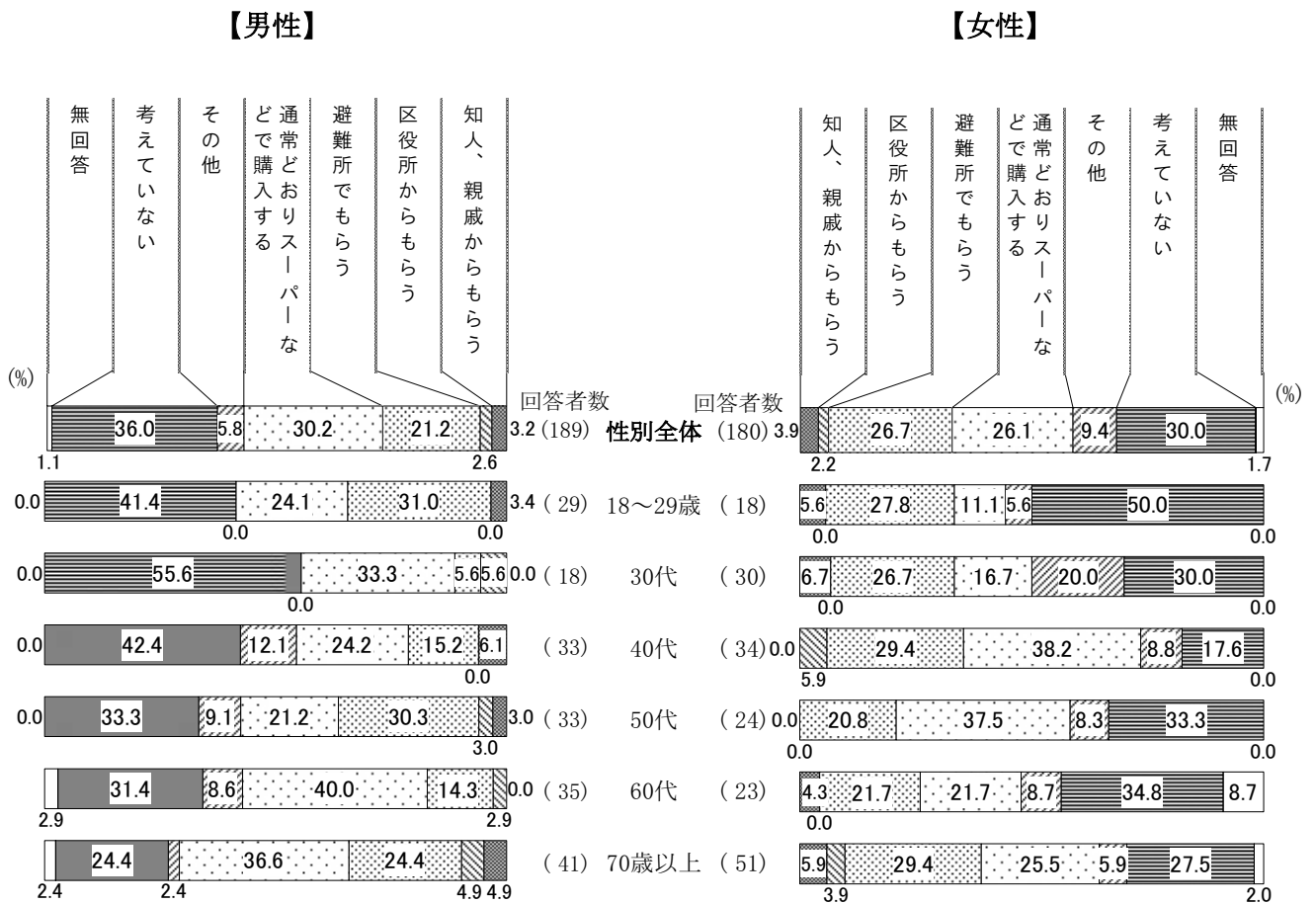
※「避難所でもらう」は、令和元年度で新設。
 ※「町会・自治会から」は、令和3年度から削除。

イ クロス集計・性別、性・年代別／災害発生時の水や食料の確保

(ア) 性別で見ると、「考えていない」は男性（36.0%）の方が女性（30.0%）より6.0ポイント高く、「通常どおりスーパーなどで購入する」でも男性（30.2%）の方が女性（26.1%）より4.1ポイント高くなっている。一方、「避難所でもらう」は女性（26.7%）の方が男性（21.2%）より5.5ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別では、サンプル数が30未満の性・年齢層が多いことから、あくまで参考値としての掲載にとどめる。

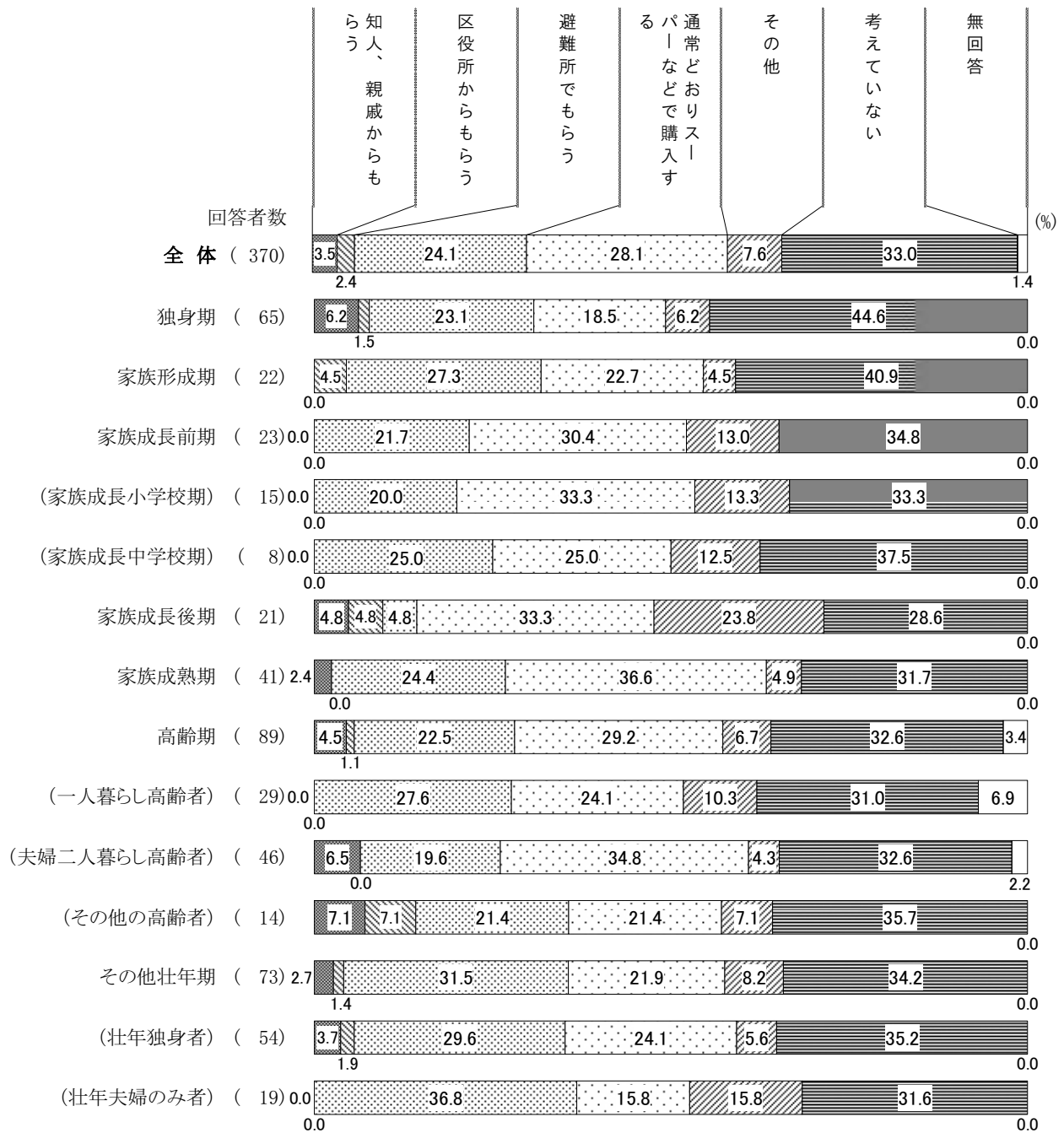
図2-4-2 性別、性・年代別／災害発生時の水や食料の確保



ウ クロス集計・ライフステージ別／災害発生時の水や食料の確保

〈家族形成期〉、〈家族成長前期〉、〈家族成長後期〉でサンプル数が少ないことからあくまで参考値ながら、ライフステージ別で見ると、「考えていない」は〈独身期〉で高く、「通常どおりスーパーなどで購入する」は〈家族成熟期〉、「避難所でもらう」は〈その他壮年期〉で高くなっている。

図2-4-3 ライフステージ別／災害発生時の水や食料の確保



（5）家具類の転倒・落下・移動防止対策

問5 あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類（※）の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか（○は1つだけ）。

※ 家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

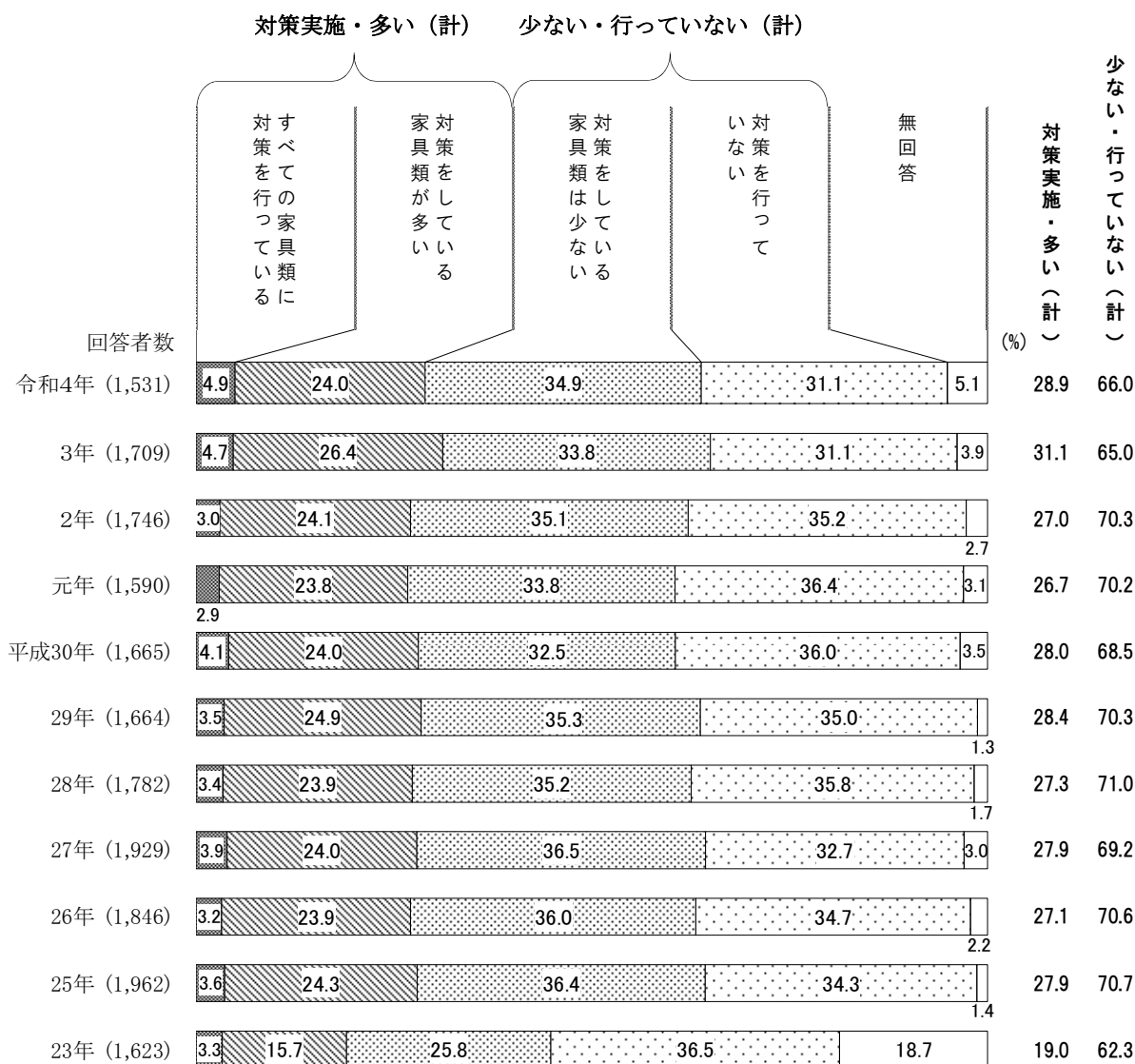
■ 【少ない・行っていない】が3分の2で、【対策実施・多い】が3割弱

ア 単純集計・経年比較／家具類の転倒・落下・移動防止対策

（ア）家具類の転倒・落下・移動防止対策について、「すべての家具類に対策を行っている」は4.9%で、これに「対策をしている家具類が多い」（24.0%）を合わせた【対策実施・多い】は28.9%となっている。一方、「対策をしている家具類は少ない」は34.9%で最も高く、これに「対策を行っていない」（31.1%）を合わせた【少ない・行っていない】は66.0%となっている。

（イ）経年でみると、【対策実施・多い】は前回調査で初めて3割台となったが、今回はわずかに3割を下回った。

図2-5-1 経年比較／家具類の転倒・落下・移動防止対策

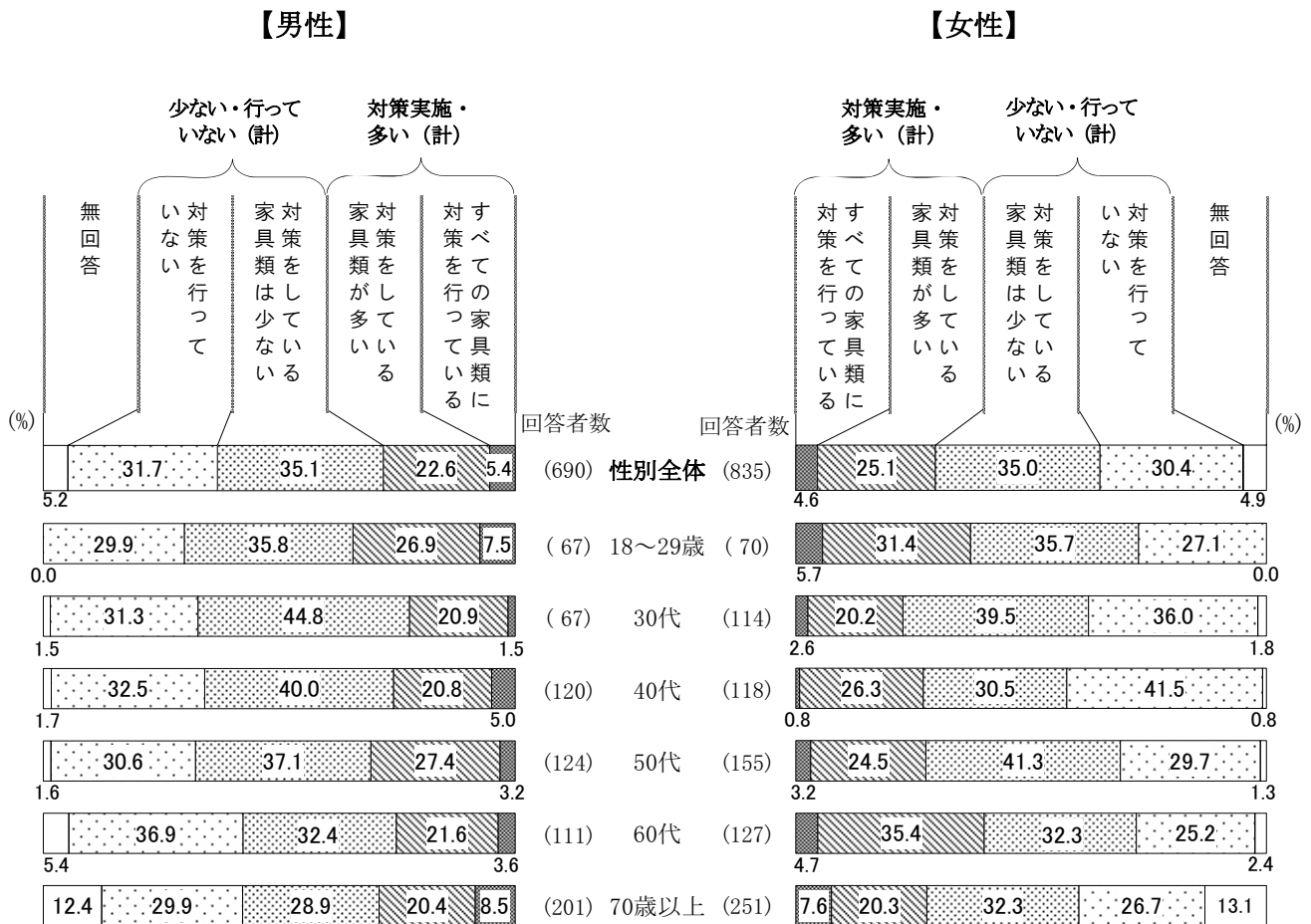


イ クロス集計・性別、性・年代別／家具類の転倒・落下・移動防止対策

(ア) 性別では、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別で見ると、【対策実施・多い】は、女性の60代(40.2%)で最も高く、次いで、女性の18～29歳(37.1%)、男性の18～29歳(34.3%)となっている。逆に、男女ともに30代(男性22.4%・女性22.8%)で2割強と低い割合となっている。

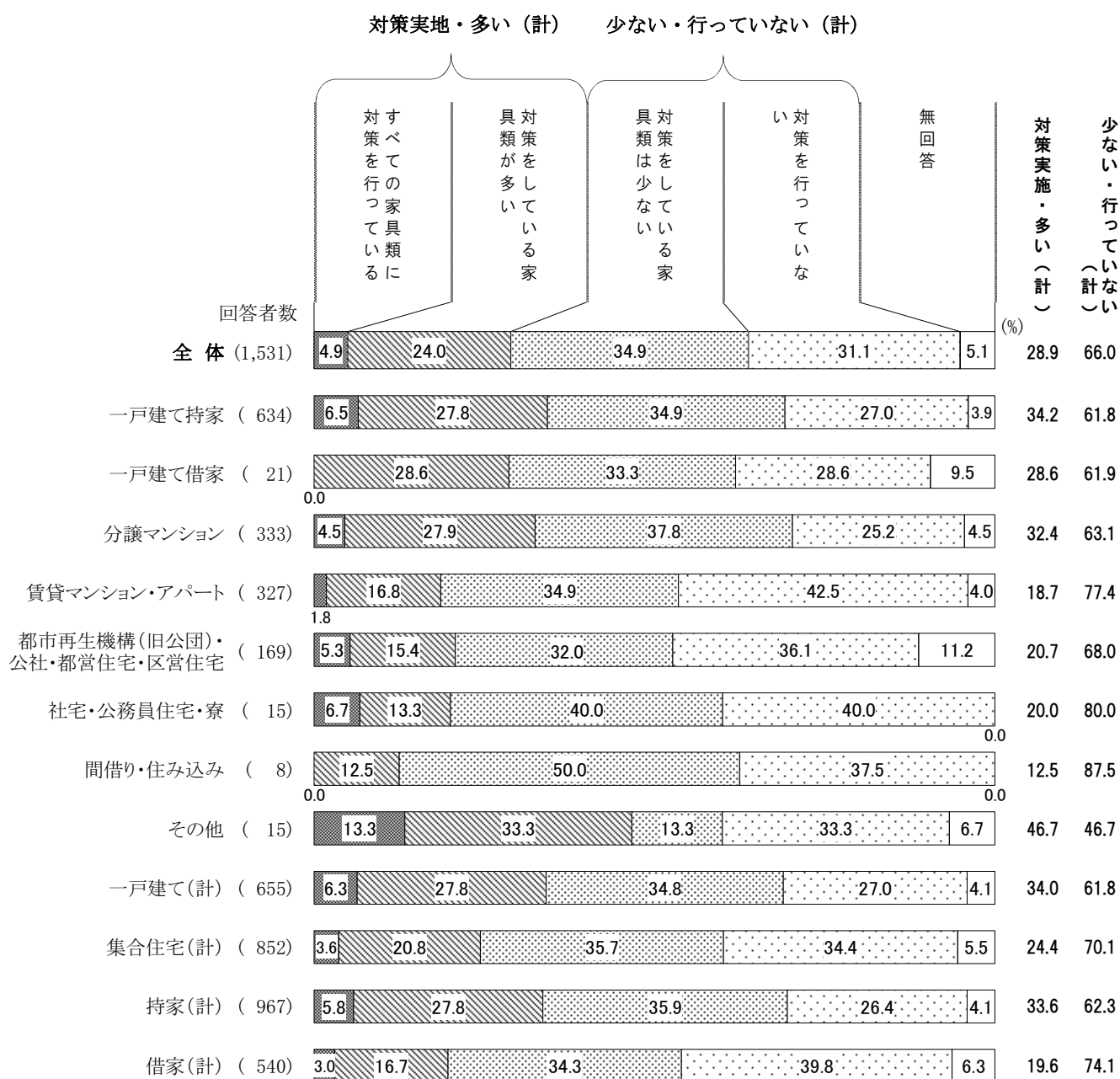
図2-5-2 性別、性・年代別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



ウ クロス集計・住居形態別／家具類の転倒・落下・移動防止対策

住居形態別に【対策実施・多い】を住宅の戸建て集合別にみると、〈一戸建て（計）〉（34.0%）の方が〈集合住宅（計）〉（24.4%）より9.6ポイント高く、住宅の所有形態別にみると、〈持家（計）〉（33.6%）の方が〈借家（計）〉（19.6%）より14.0ポイント高くなっている。

図2-5-3 住居形態別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



※「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、サンプル数が少ないため参考値。

(6) 対策をしていない理由

問5で「3 対策をしている家具類は少ない」または「4 対策を行っていない」とお答えの方に
 問5—1 どのような理由からですか（〇はあてはまるものすべて）。

■ 「面倒である」と「危険な家具類なく不要」が3割弱

ア 単純集計・経年比較／対策をしていない理由

(ア) 家具類への対策を【少ない・行っていない】という人にその理由を聞いたところ、「面倒である」が28.9%で最も高く、「室内に危険性のある家具類がないため不要である」(28.0%)が僅差で続いている。以下「建物の壁にキズをつけたくない」(23.4%)、「(賃貸のため)勝手に取り付けられない」(19.5%)などとなっている。

(イ) 経年でみると、上位項目の順位に変動はみられず、数値にも大きな変動はみられない。

図2-6-1-① 経年比較／対策をしていない理由

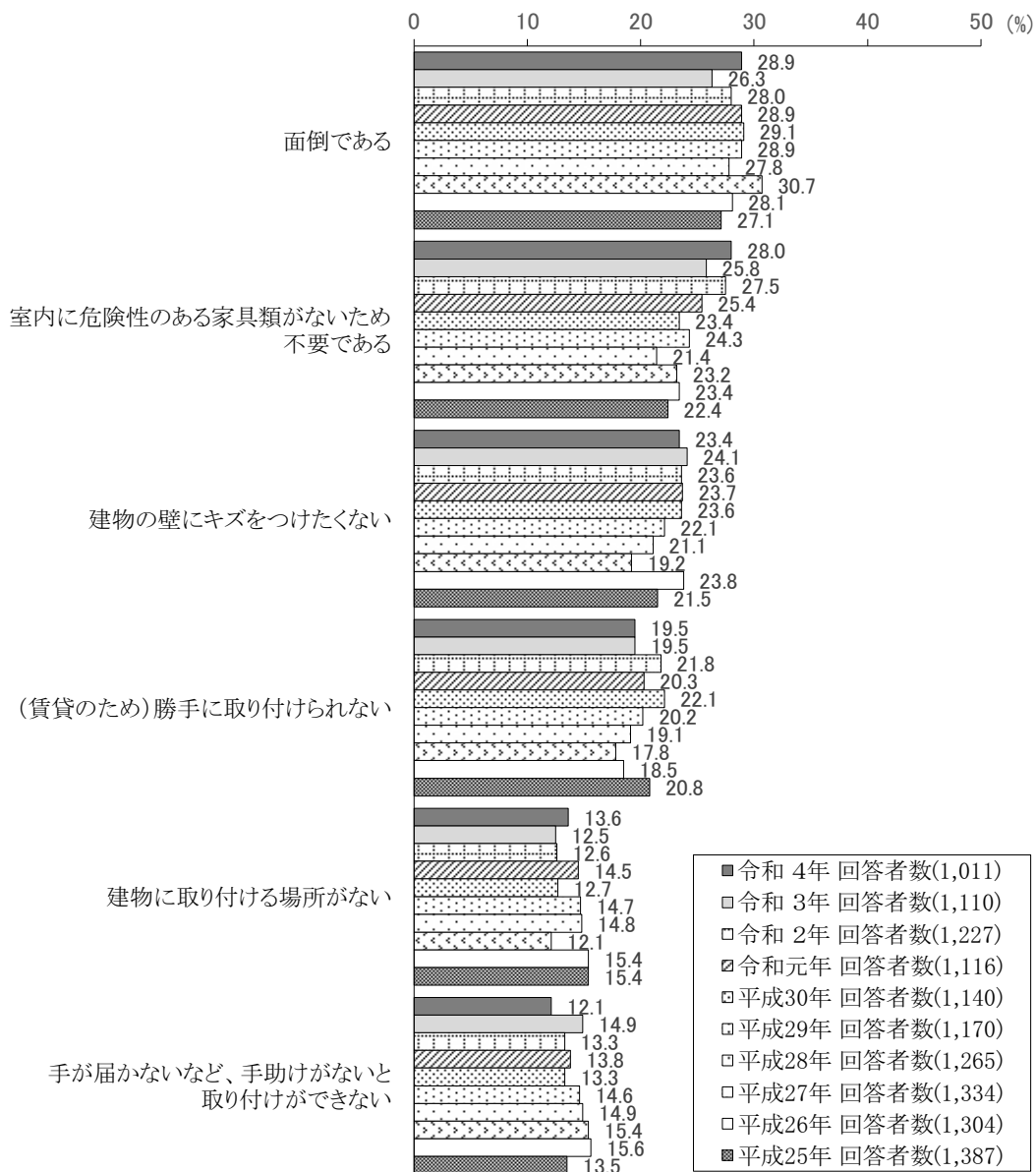
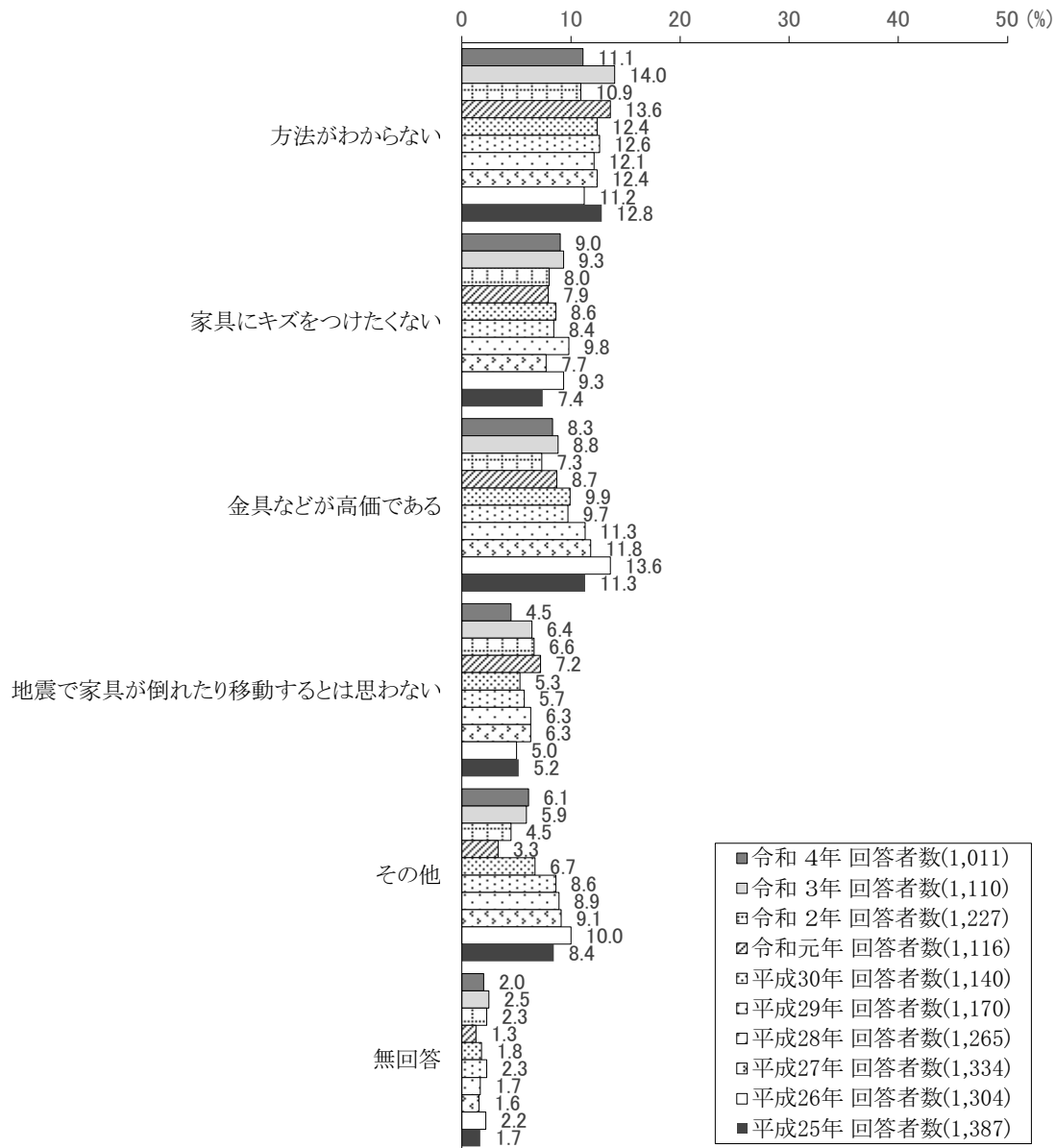


図2-6-1-② 経年比較／対策をしていない理由



イ クロス集計・住居形態別／対策をしていない理由／上位8項目

(ア) 対策をしていない理由（住宅の戸建て集合別）

a 〈一戸建て（計）〉の方が高くなっている項目

「面倒である」、「手が届かないなど、手助けがないと取り付けができない」

b 〈集合住宅（計）〉の方が高くなっている項目

「建物の壁にキズをつけたくない」、「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」など

(イ) 対策をしていない理由（住宅の所有形態別）

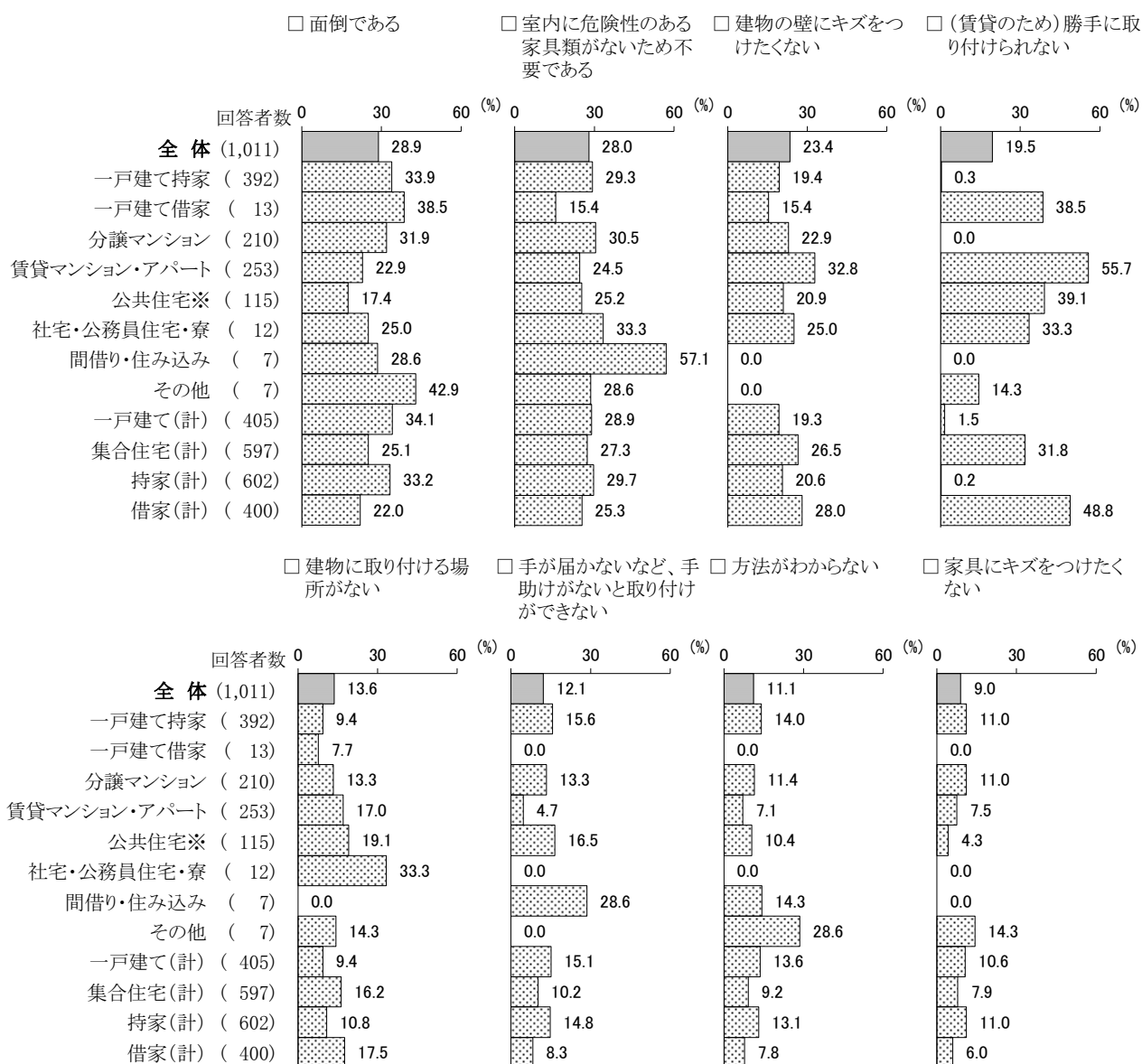
a 〈持家（計）〉の方が高くなっている項目

「面倒である」、「手が届かないなど、手助けがないと取り付けができない」

b 〈借家（計）〉の方が高くなっている項目

「建物の壁にキズをつけたくない」、「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」など

図2-6-2 住居形態別／対策をしていない理由／上位8項目



※「公共住宅」とは、都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅のこと。

※「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、サンプル数が少ないため参考値。

(7) 地域の3種の避難場所とその意味の認知

問6 大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、以下のア～ウのあなたの地域の避難場所とその意味を知っていますか（○はそれぞれ1つずつ）。

■ 「知っている」は【避難場所】の〈場所〉が最高（36.7%）、【第一次避難所】の〈意味〉が最低（21.0%）

ア 単純集計・経年比較／地域の3種の避難場所とその意味の認知

(ア) 地域の3種の避難場所の意味を「知っている」の割合は、「イ 避難場所」が32.6%で最も高く、「ア 一時集合場所」(29.1%)、「ウ 第一次避難所」(21.0%)の順となっている。

(イ) 地域の3種の避難場所の場所を「知っている」の割合は、「イ 避難場所」が36.7%で最も高く、「ア 一時集合場所」(33.1%)、「ウ 第一次避難所」(23.1%)の順となっている。

(ウ) いずれの項目も「意味」より「場所」の認知割合が高くなっており、その差が大きい順に、「イ 避難場所」(4.1ポイント)、「ア 一時集合場所」(4.0ポイント)、「ウ 第一次避難所」(2.1ポイント)となっている。

図2-7-1-① 経年比較／地域の3種の避難場所とその意味の認知

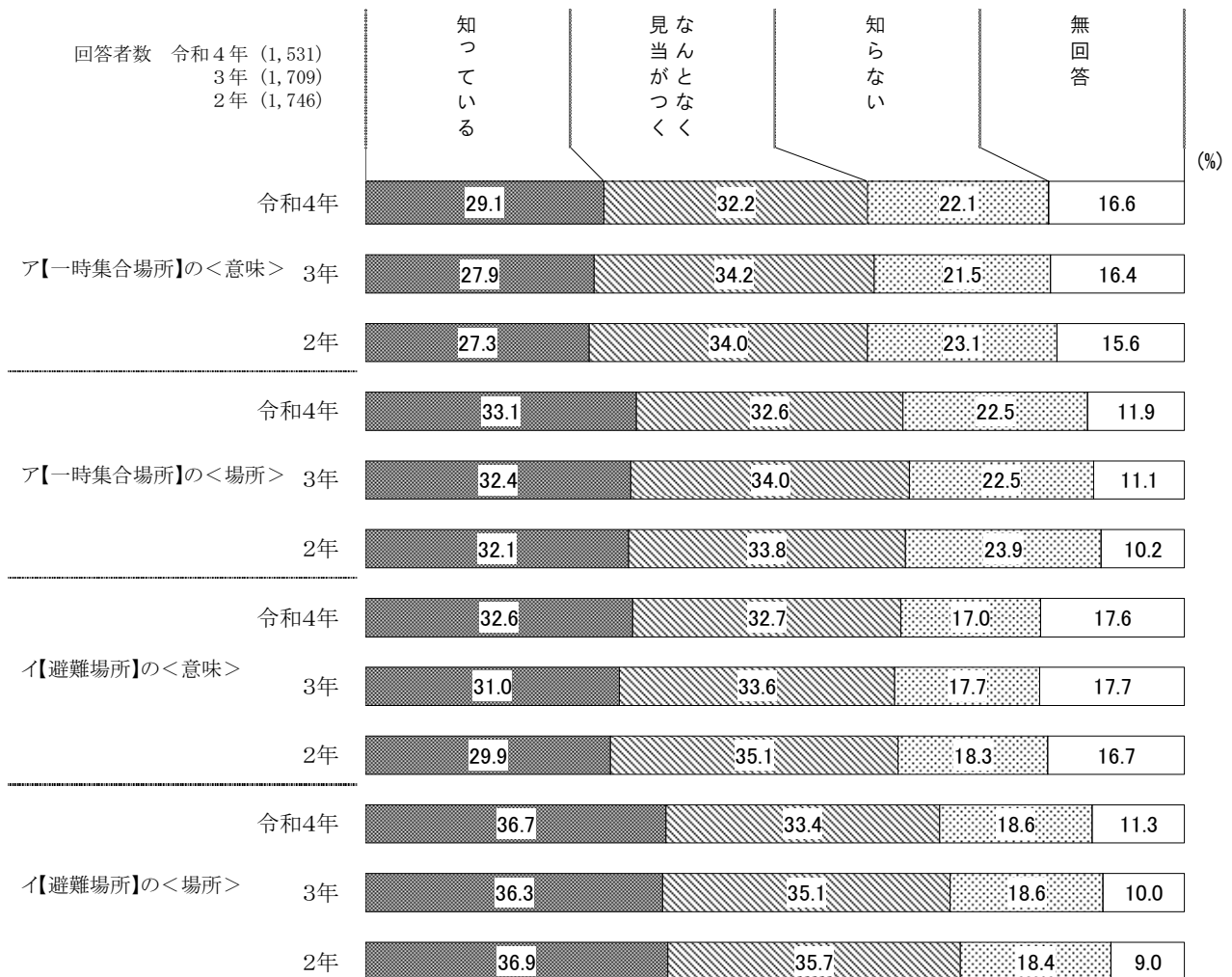
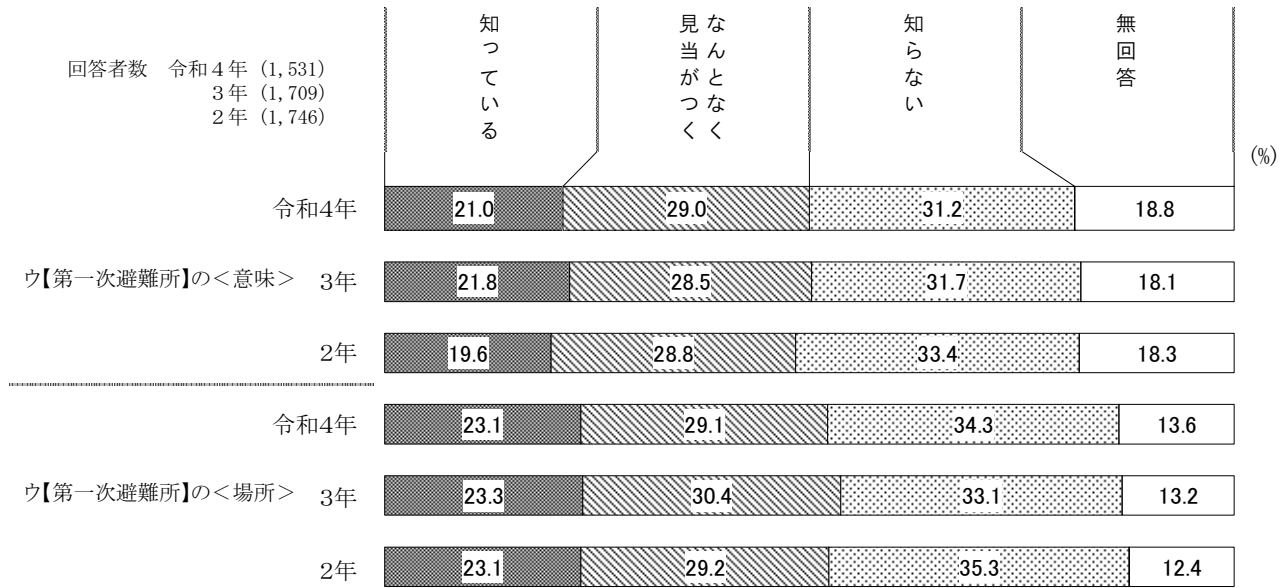
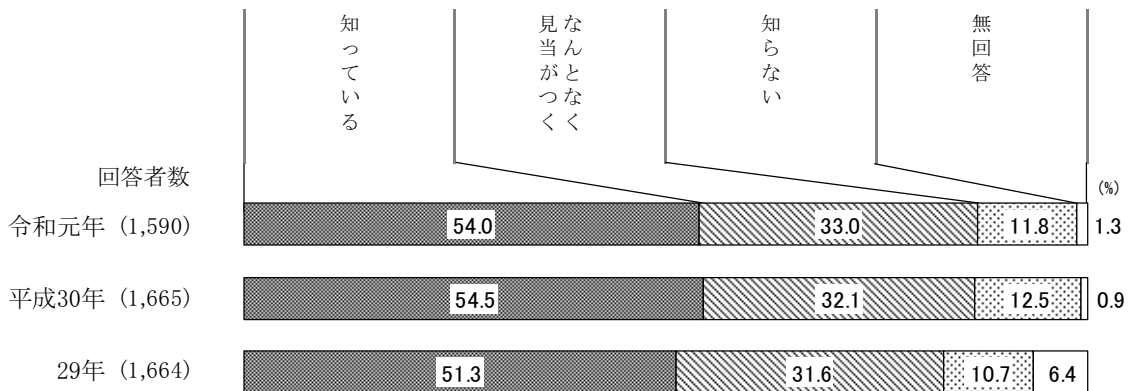


図2-7-1-② 経年比較／地域の3種の避難場所とその意味の認知



参考／地域の避難場所の認知

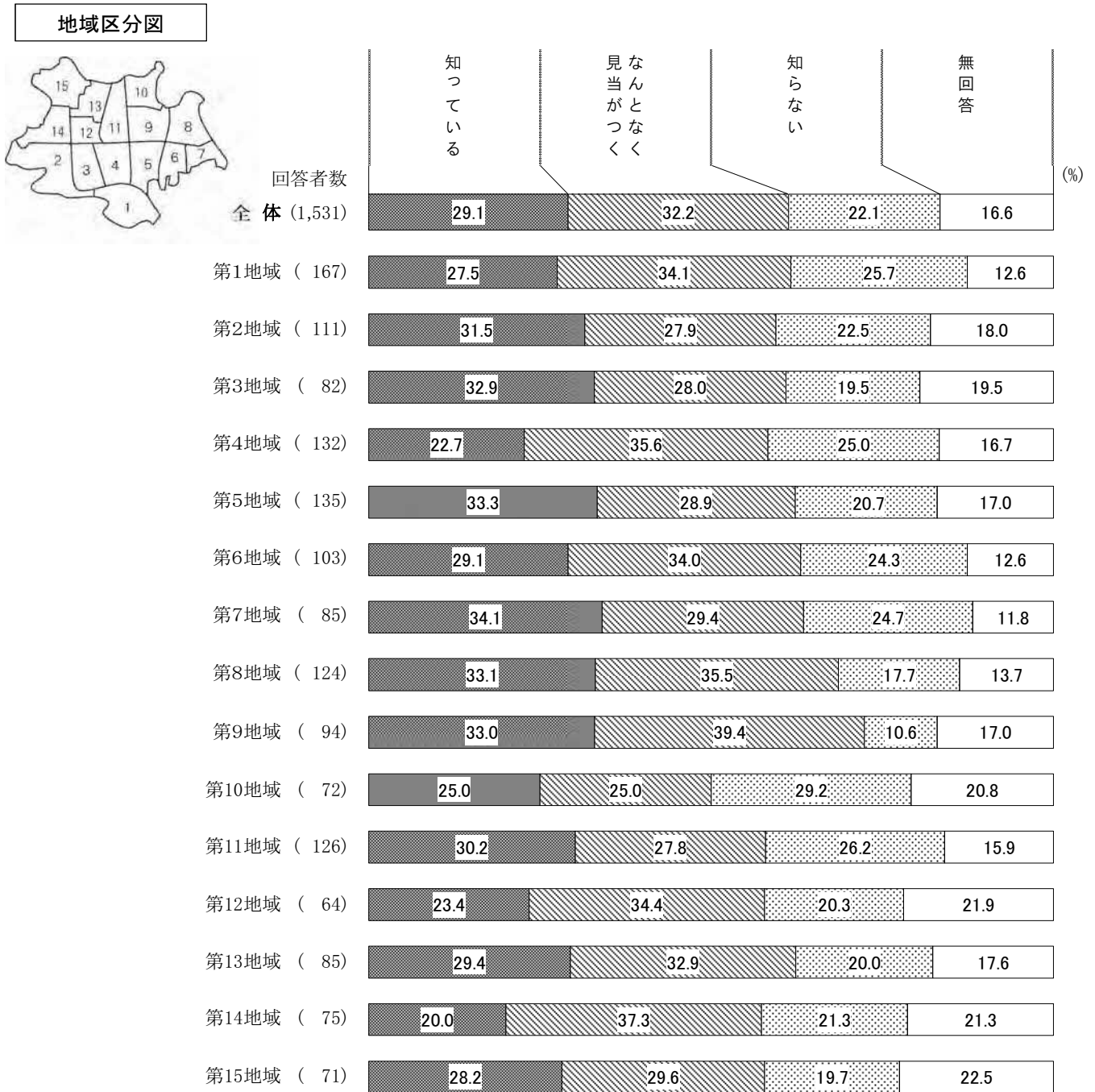
問 大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、あなたの地域の避難場所を知っていますか（○は1つだけ）。



イ クロス集計・地域別／「ア【一時集合場所】の〈意味〉」の認知

「ア【一時集合場所】の〈意味〉」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第7地域が34.1%で最も高く、次いで第5地域（33.3%）となっている。一方、第14地域が20.0%で最も低く、次いで第4地域（22.7%）となっている。

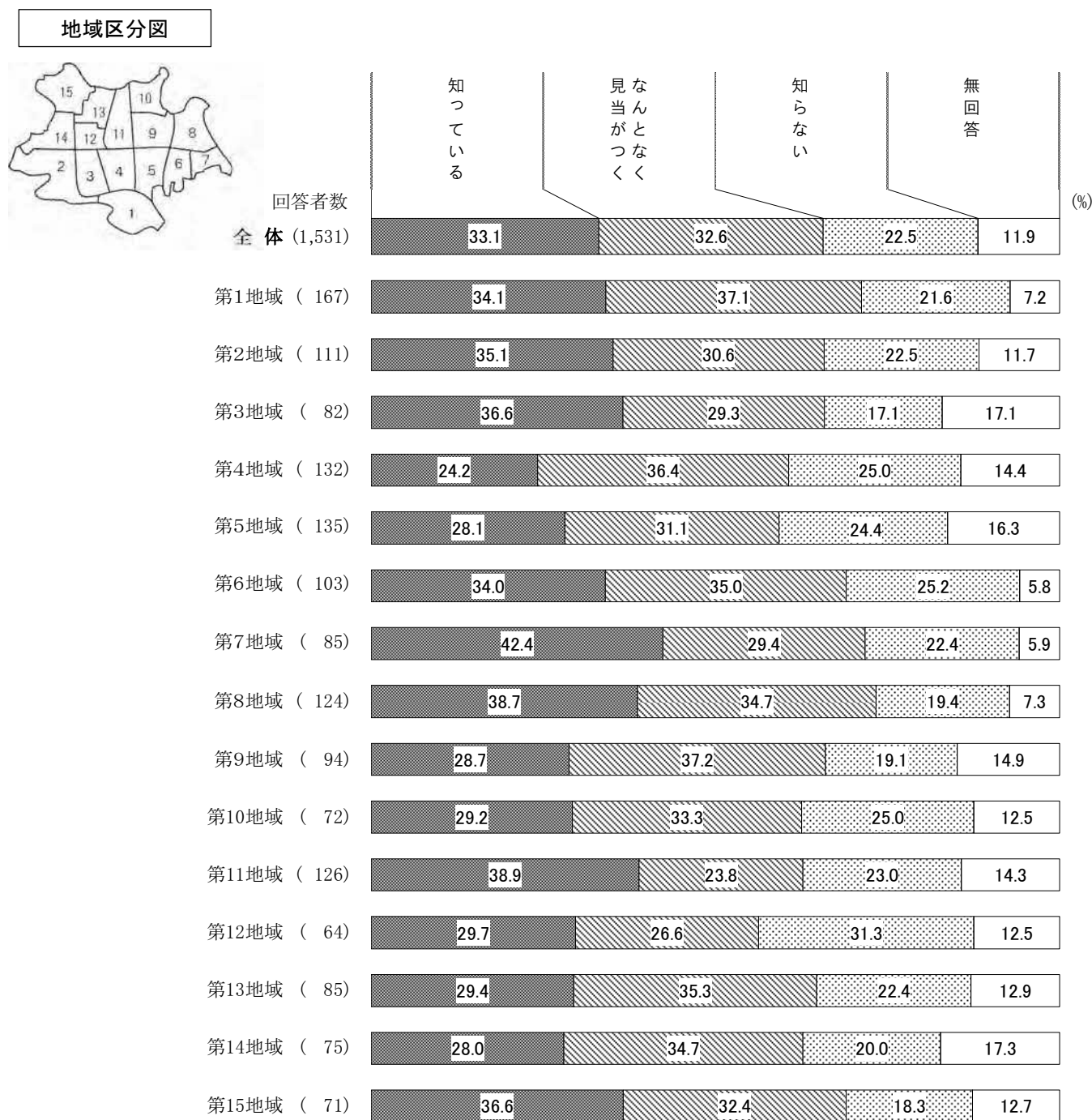
図2-7-2-① 地域別／「ア【一時集合場所】の〈意味〉」の認知



ウ クロス集計・地域別／「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知

「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第7地域が42.4%で最も高く、次いで第11地域（38.9%）となっている。一方、第4地域が24.2%で最も低く、次いで第14地域（28.0%）となっている。

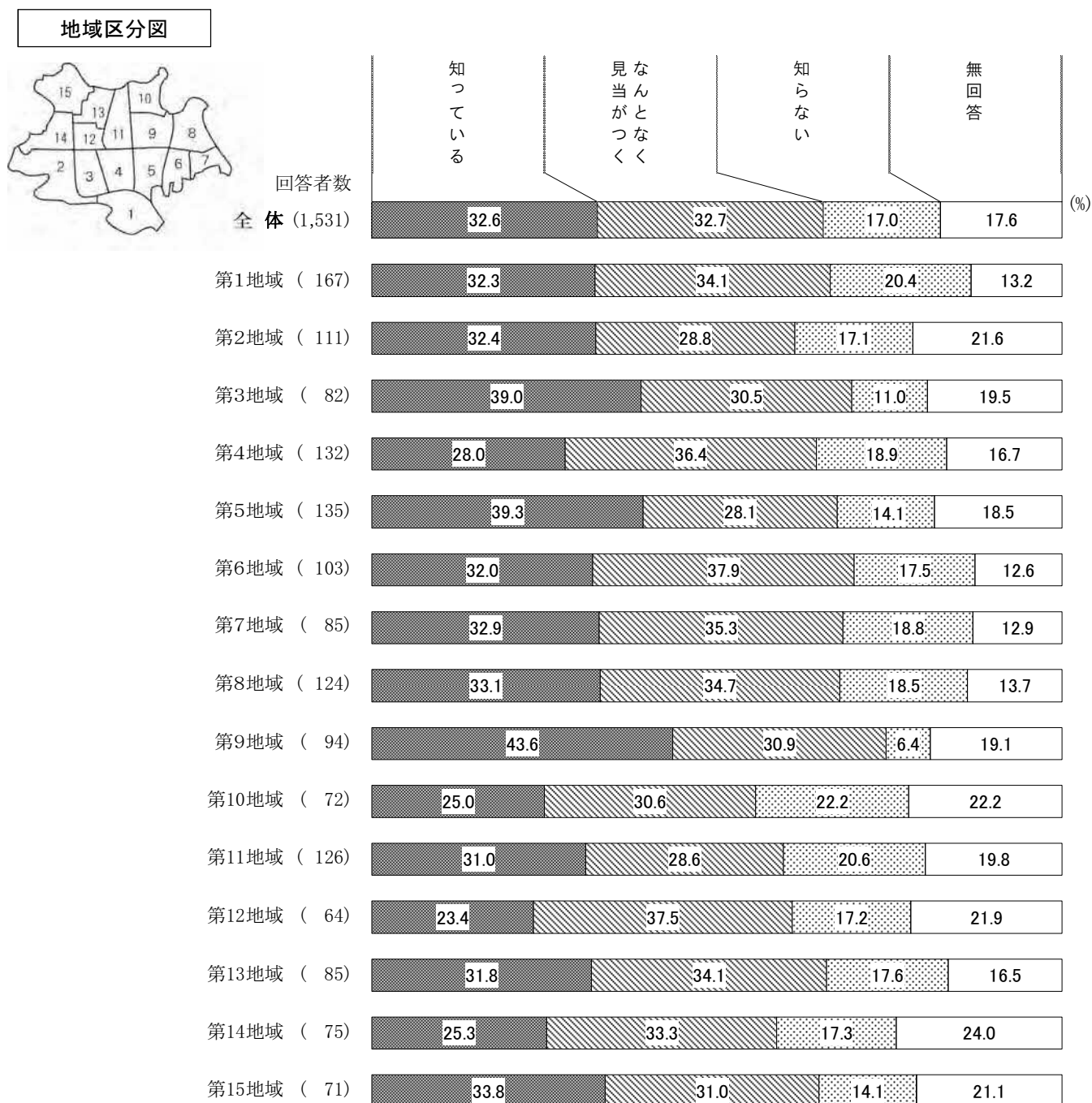
図2-7-2-② 地域別／「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知



エ クロス集計・地域別／「イ【避難場所】の＜意味＞」の認知

「イ【避難場所】の＜意味＞」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第9地域が43.6%で最も高く、次いで第5地域（39.3%）となっている。一方、第12地域が23.4%で最も低く、次いで第10地域（25.0%）となっている。

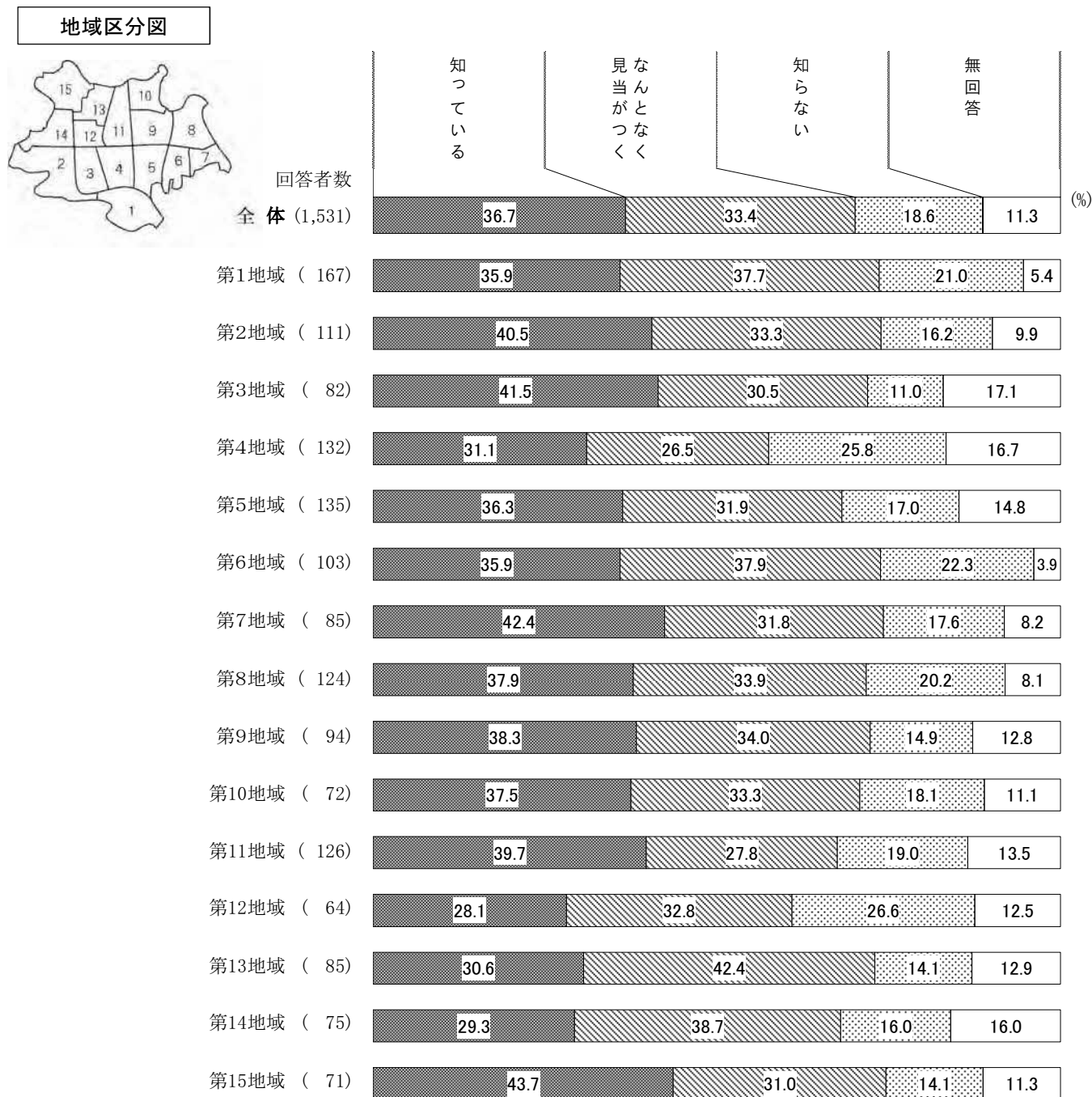
図2-7-2-③ 地域別／「イ【避難場所】の＜意味＞」の認知



オ クロス集計・地域別／「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知

「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第15地域が43.7%で最も高く、次いで第7地域（42.4%）となっている。一方、第12地域が28.1%で最も低く、次いで第14地域（29.3%）となっている。

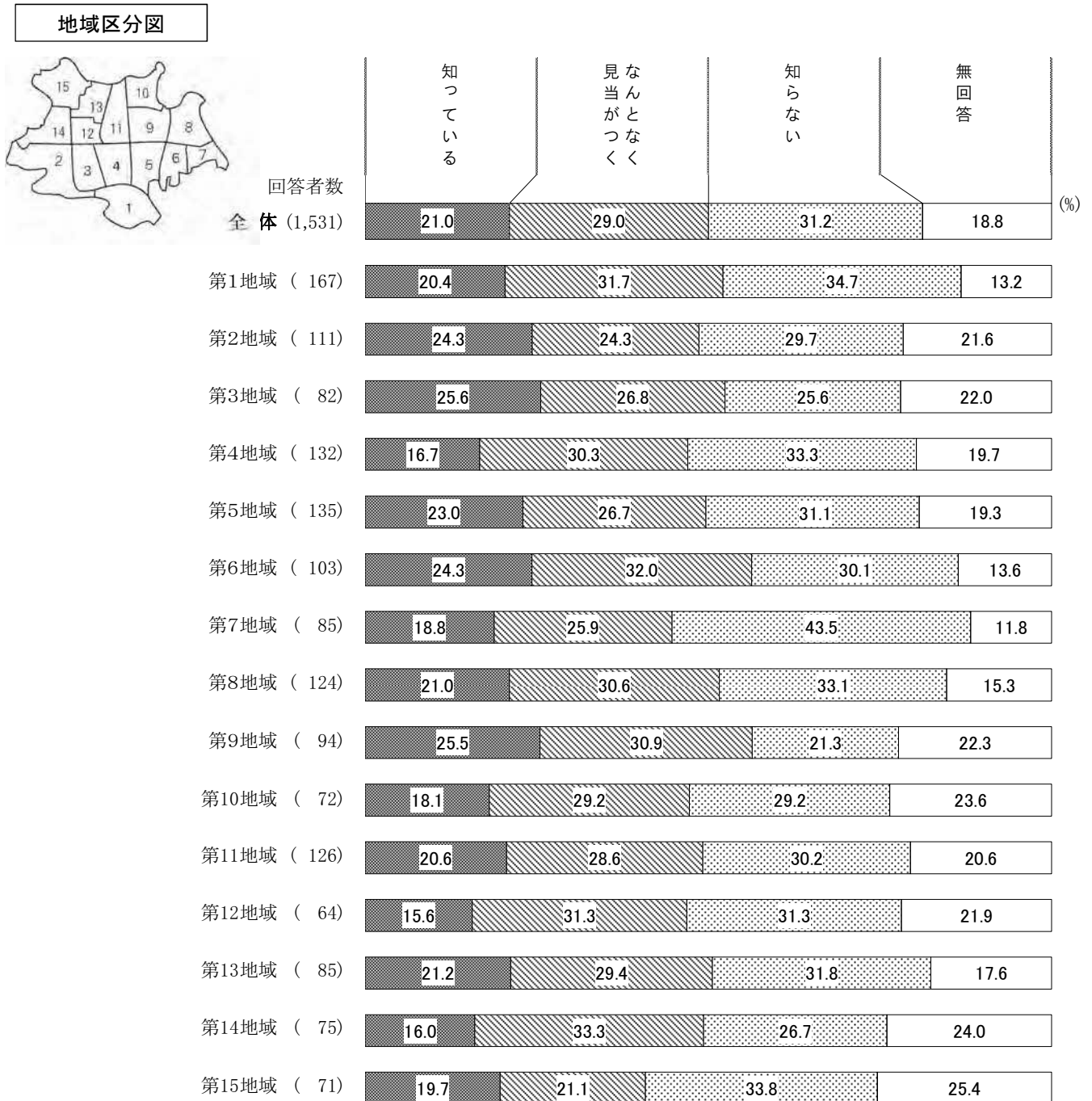
図2-7-2-④ 地域別／「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知



カ クロス集計・地域別／「ウ【第一次避難所】の〈意味〉」の認知

「ウ【第一次避難所】の〈意味〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第3地域が25.6%と最も高く、次いで第9地域(25.5%)となっている。一方、第12地域が15.6%で最も低く、次いで第14地域(16.0%)となっている。

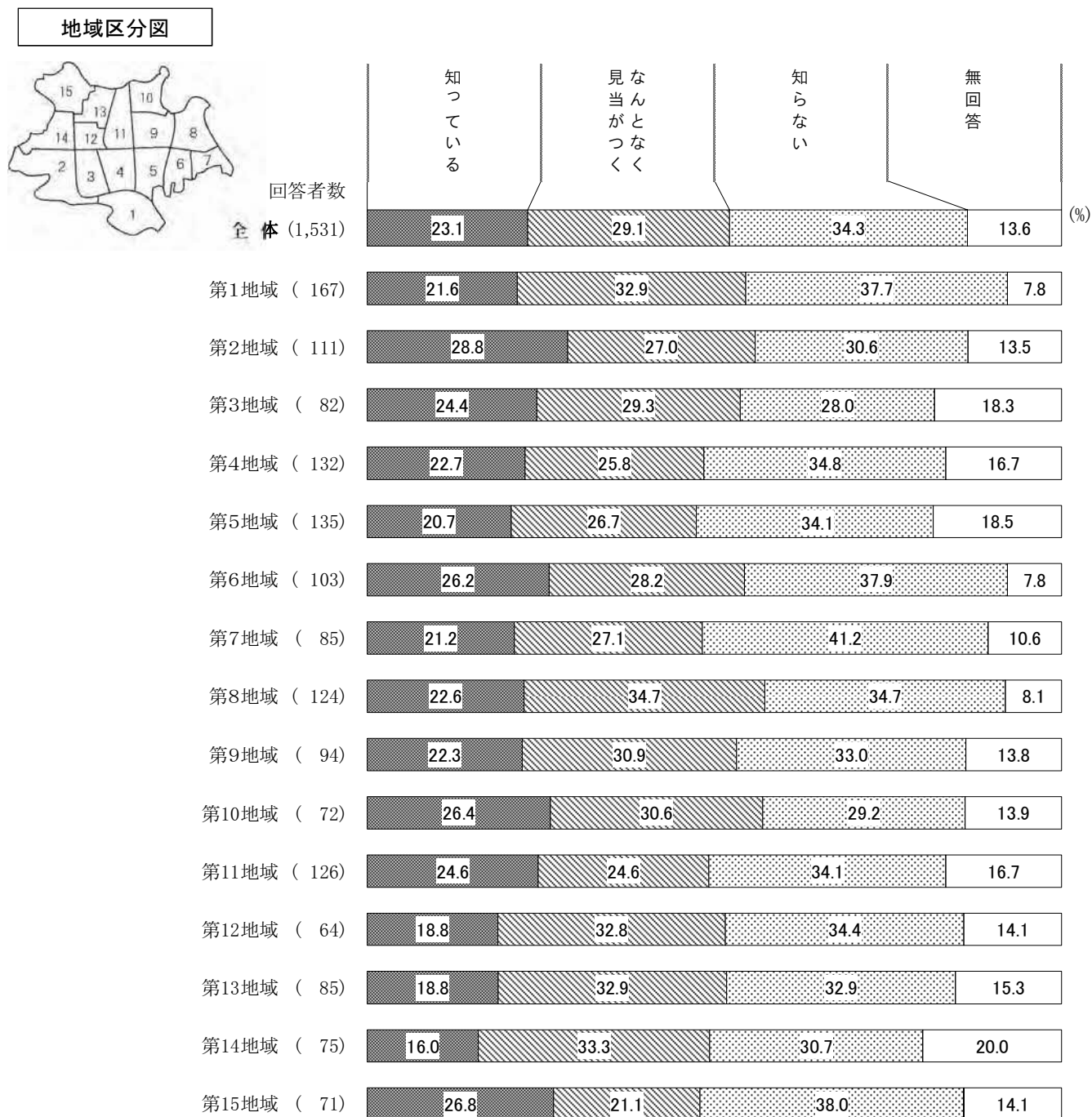
図2-7-2-⑤ 地域別／「ウ【第一次避難所】の〈意味〉」の認知



キ クロス集計・地域別／「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知

「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第2地域が28.8%で最も高く、次いで第15地域(26.8%)となっている。一方、第14地域が16.0%で最も低く、次いで第12地域と第13地域(各18.8%)となっている。

図2-7-2-⑥ 地域別／「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知



（8）避難場所の認知経路

問6のいずれかで「1 知っている」とお答えの方に

問6—1 それぞれの避難場所をどのように知りましたか（○はあてはまるものすべて）。

■ “防災マップ&ガイド” が5割強で最も高く、次いで“広報”が3割

ア 単純集計・経年比較／避難場所の認知経路

（ア）問6の3種の避難場所の場所又は意味のいずれかを認知している場合の認知経路を高い順にみると、以下のとおりとなっている。

- ① 「あだち防災マップ&ガイド」(51.8%)
- ② 「あだち広報」(30.5%)
- ③ 「公園などに設置している表示板・標識」(27.3%)
- ④ 「区が配布した資料」(25.9%)
- ⑤ 「足立区防災アプリ」(21.2%)

（イ）経年でみると、前回調査との比較では上位3位の順位は変わっていないが、「区が配布した資料」（5位→4位）、「足立区防災アプリ」（6位→5位）が順位を上げ、「町会・自治会の掲示板・回覧板」（4位→6位）が順位を下げた。

（ウ）割合の増減では、「区が配布した資料」が4.4ポイント、「あだち防災マップ&ガイド」が3.2ポイントそれぞれ増加し、「インターネット（区のホームページ、Aメール、ツイッター、フェイスブック）」が2.6ポイント、「町会・自治会の掲示板・回覧板」が2.3ポイントそれぞれ減少となっている。

図2-8-1-① 経年比較／避難場所の認知経路

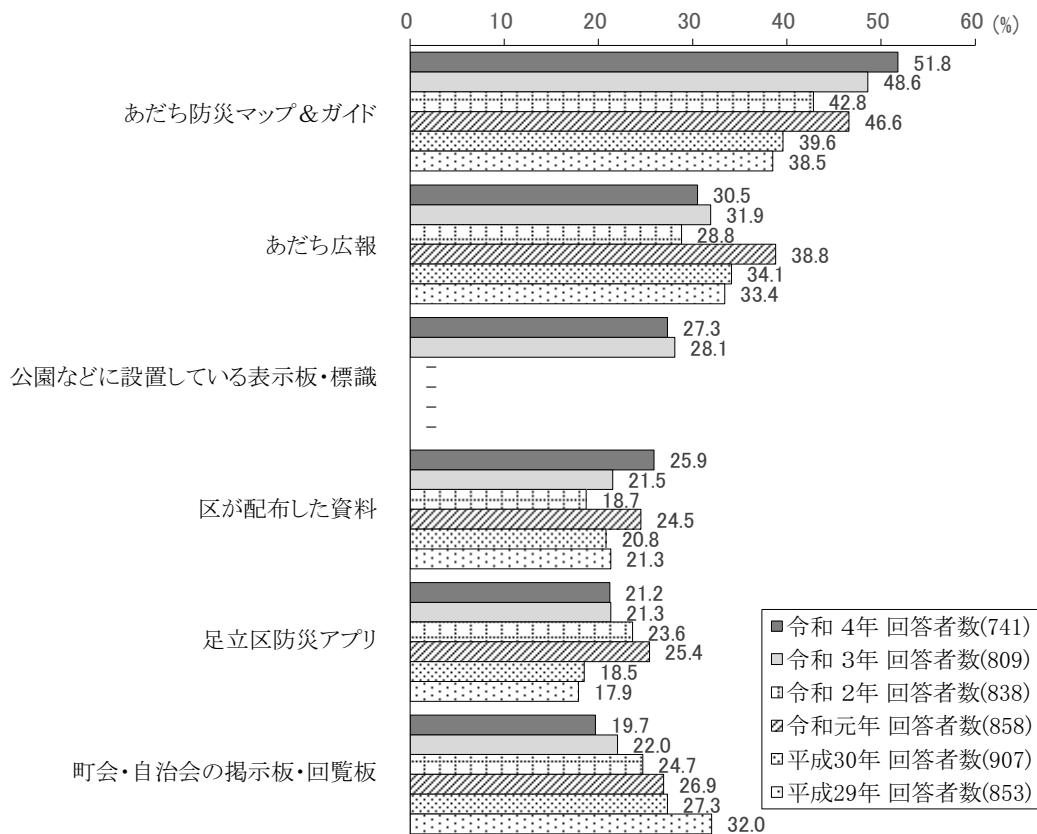
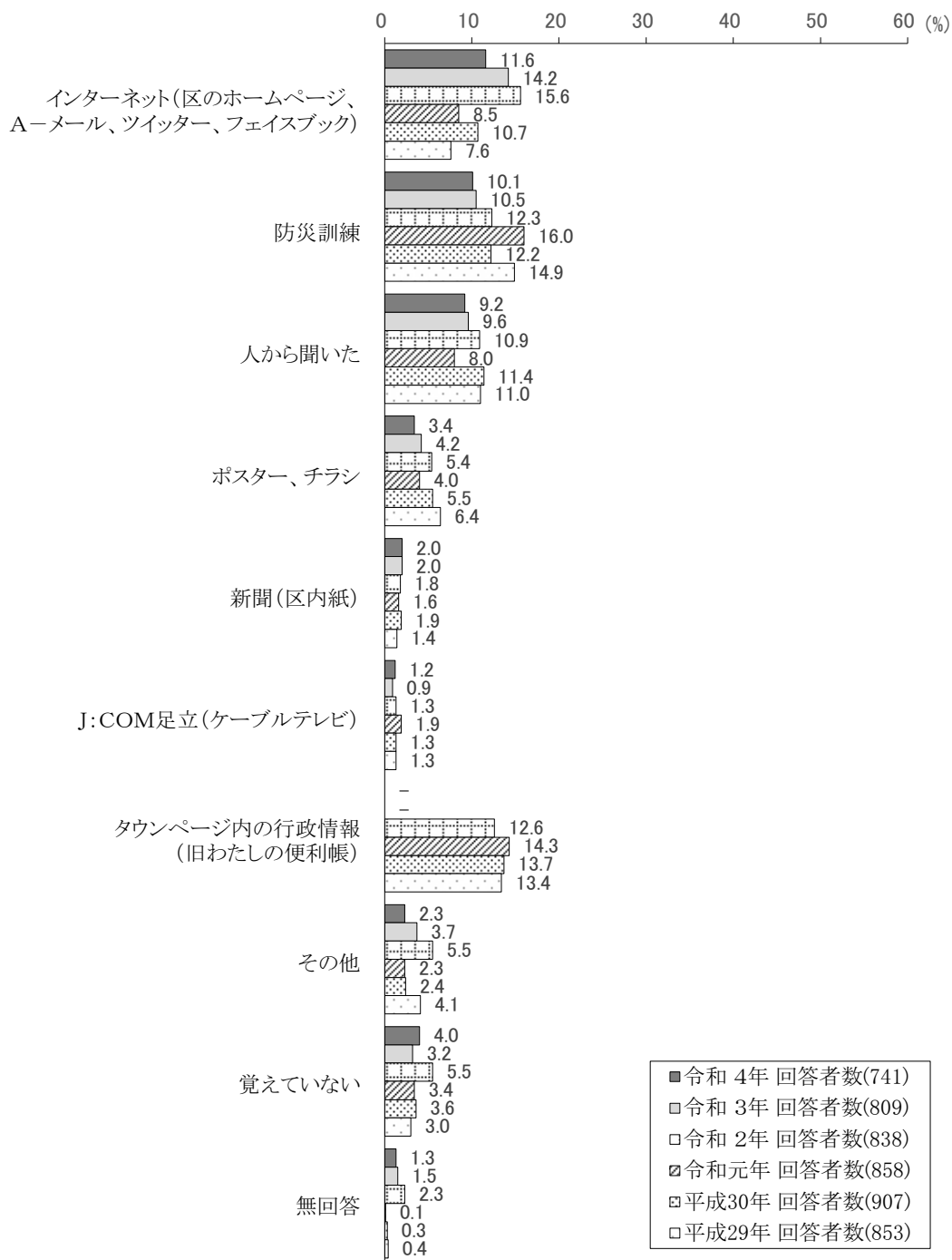


図2-8-1-② 経年比較／避難場所の認知経路

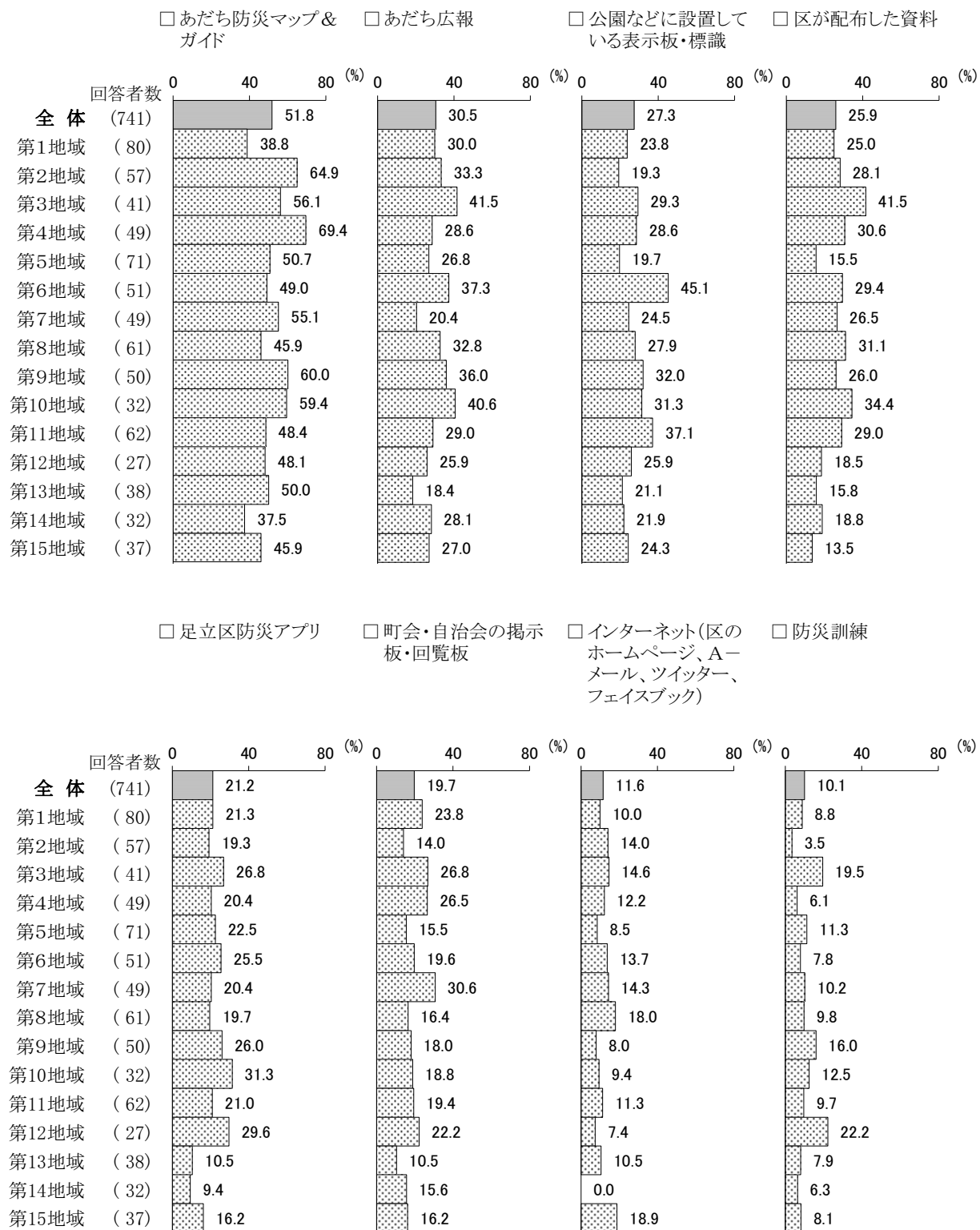


※「足立区防災アプリ」は、令和3年度までは「足立区防災ナビ」。
 ※「公園などに設置している表示板・標識」は、令和3年度新設。
 ※「タウンページ内の行政情報(旧わたしの便利帳)」は、令和3年度から削除。

イ クロス集計・地域別／避難場所の認知経路（上位8項目）

地域別でみると、「あだち防災マップ&ガイド」は第4地域で69.4%と最も高く、「あだち広報」は第3地域（41.5%）、「公園などに設置している表示板・標識」は第6地域（45.1%）、「区が配布した資料」は第3地域（41.5%）、「足立区防災アプリ」は第10地域（31.3%）で最も高くなっている。

図2-8-2 地域別／避難場所の認知経路／上位8項目



(9) 大規模災害時の避難生活場所

問7 大規模な災害が発生し家屋の倒壊などにより自宅で生活できない場合、どこで生活しようと考えていますか（○は1つだけ）。

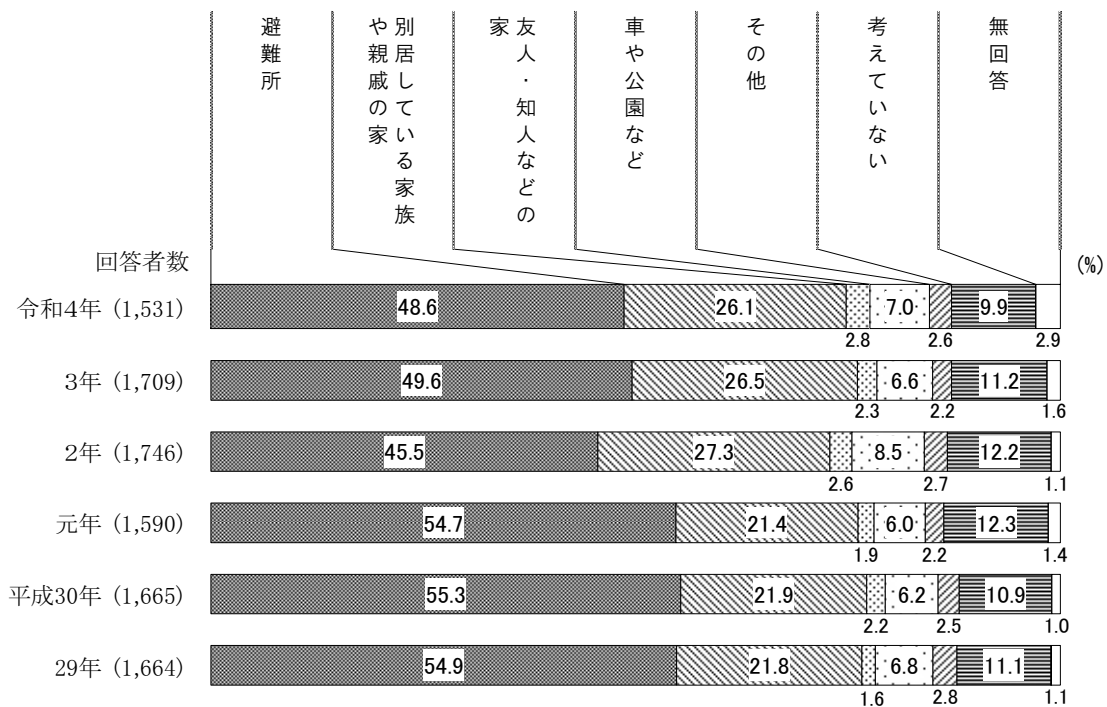
■「避難所」が5割弱で最も高いが、コロナ禍以前の3年間平均の5割台半ばに比べると低い

ア 単純集計・経年比較／大規模災害時の避難生活場所

(ア) 大規模災害時に避難生活を送る場所としては、「避難所」が48.6%で最も高く、次いで「別居している家族や親戚の家」(26.1%)となっている。

(イ) 経年でみると、前回の令和3年調査と比べると特に大きな違いはみられないが、コロナ禍以前の3年間と比べると、「避難所」は約6ポイント減少し、「別居している家族や親戚の家」が約5ポイント増加している。

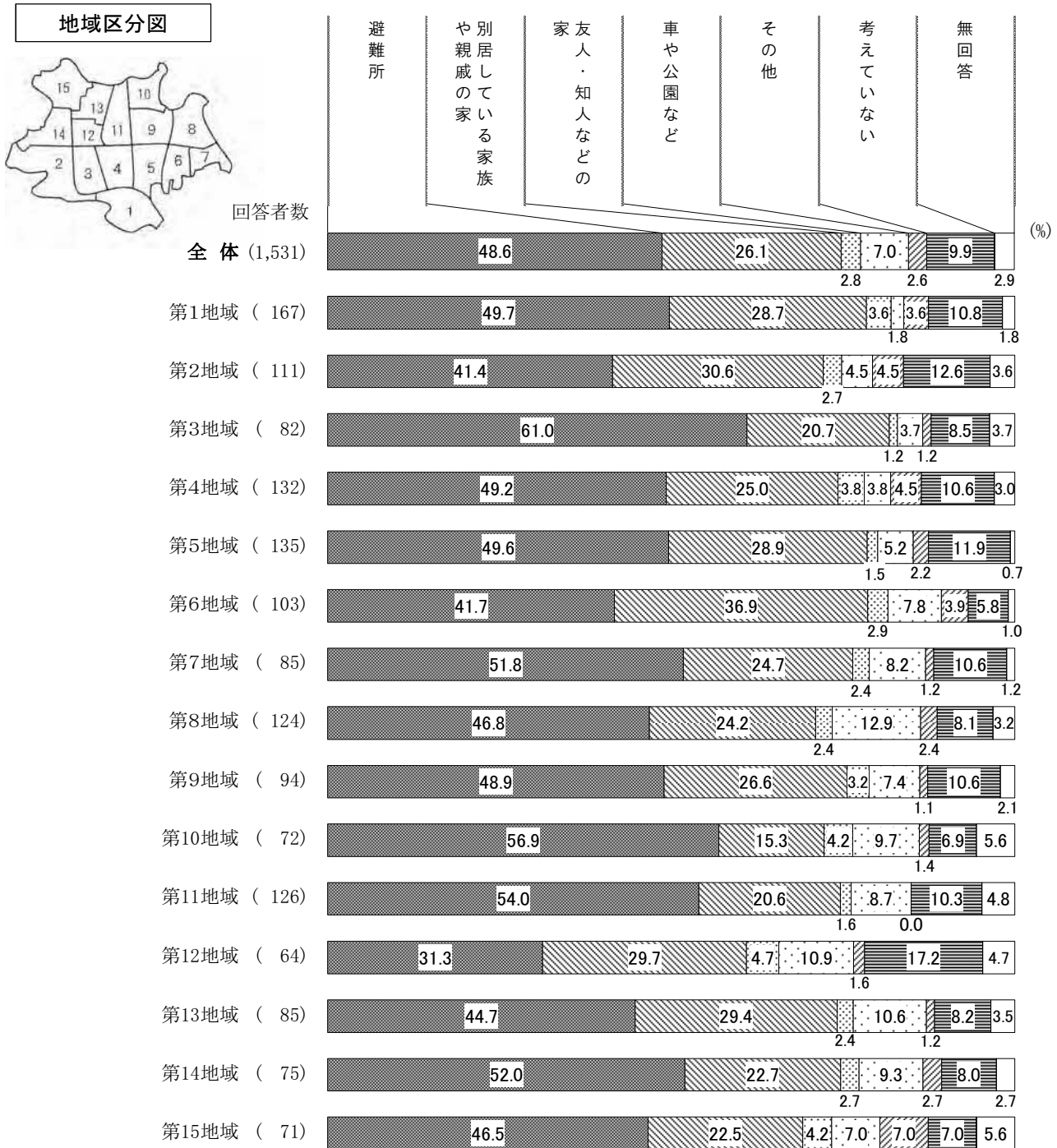
図2-9-1 経年比較／大規模災害時の避難生活場所



イ クロス集計・地域別／大規模災害時の避難生活場所

地域別でみると、「避難所」は第3地域（61.0%）で最も高く、次いで第10地域（56.9%）となっている。「別居している家族や親戚の家」は第6地域（36.9%）、「車や公園など」は第8地域（12.9%）で最も高くなっている。一方、「考えていない」は第12地域（17.2%）で最も高く、第6地域（5.8%）で最も低くなっている。

図2-9-2 地域別／大規模災害時の避難生活場所



(10) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

問8 あなたが、大地震の際の防災対策として、足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか（〇は5つまで）。

※ 災害時における要配慮者とは、高齢者、障がい者、外国人、難病患者、乳幼児、妊産婦など、災害発生時に避難行動を取る際や、避難所における生活などにおいて、特に配慮を要する方々を指します。

■ “ライフラインの確保”と“衛生対策の充実”が約6割で1位と2位

ア 単純集計・経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

(ア) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいことを高い順にみると以下のとおりとなっている。

- ① 「ライフラインやエネルギーの確保」(59.0%)
- ② 「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」(58.9%)
- ③ 「水・食料の備蓄の充実」(56.4%)

(イ) 経年でみると、「ライフラインやエネルギーの確保」が前回の令和3年調査時の2位から、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」に代わって1位となったが、割合では大きな違いはみられない。多くの項目で前回調査より割合が減少しており、特に「災害時医療体制の充実」で5.4ポイントの減少となっている。

図2-10-1-① 経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

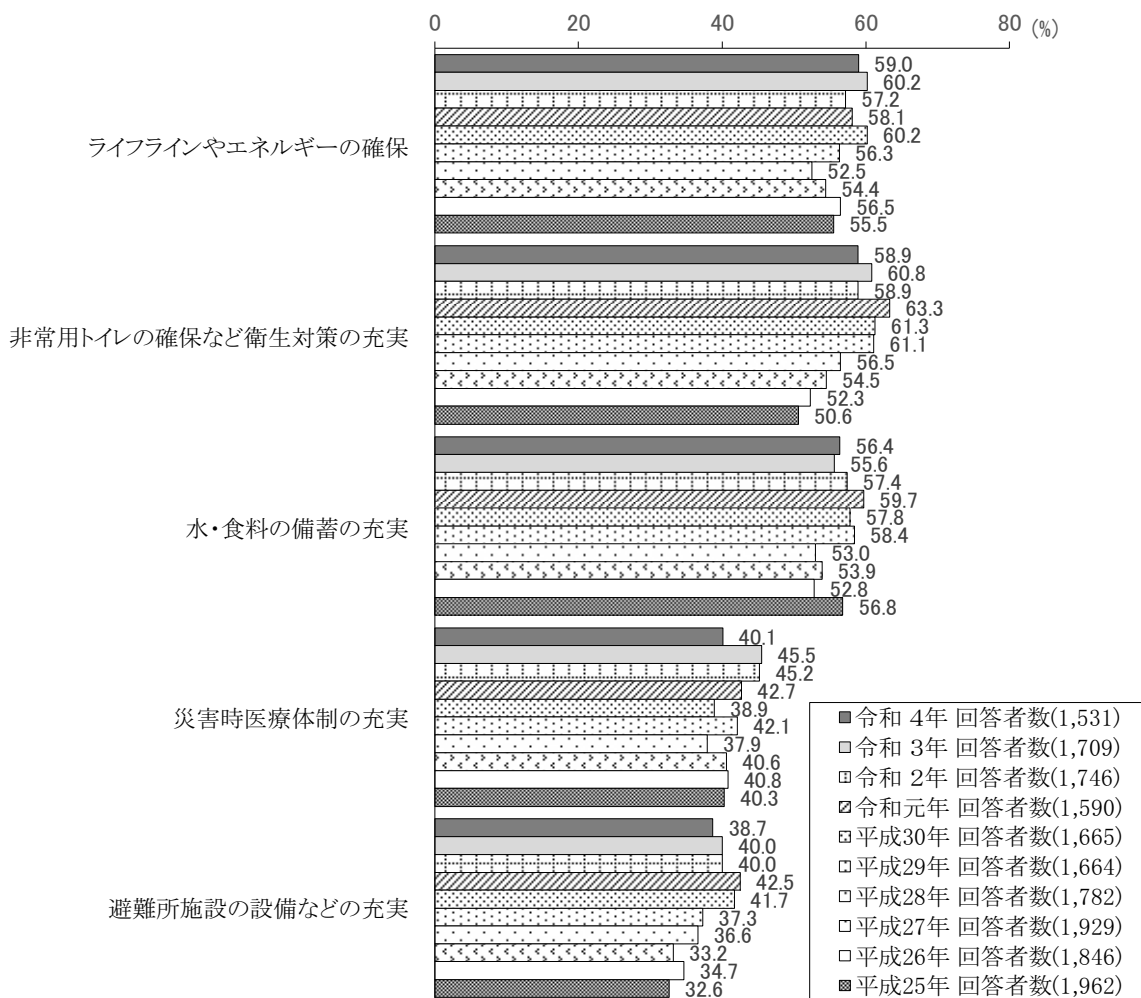


図2-10-1-② 経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

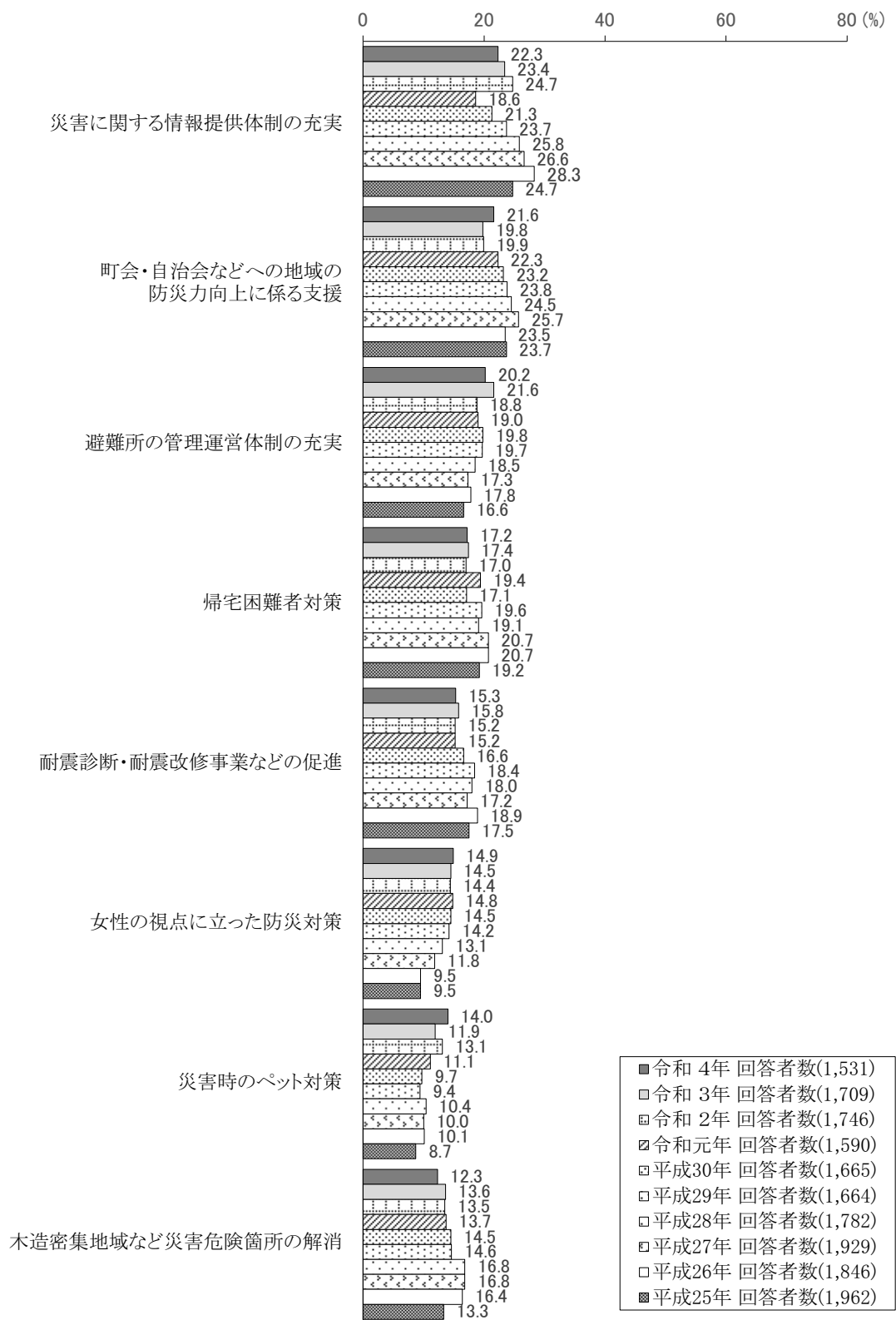
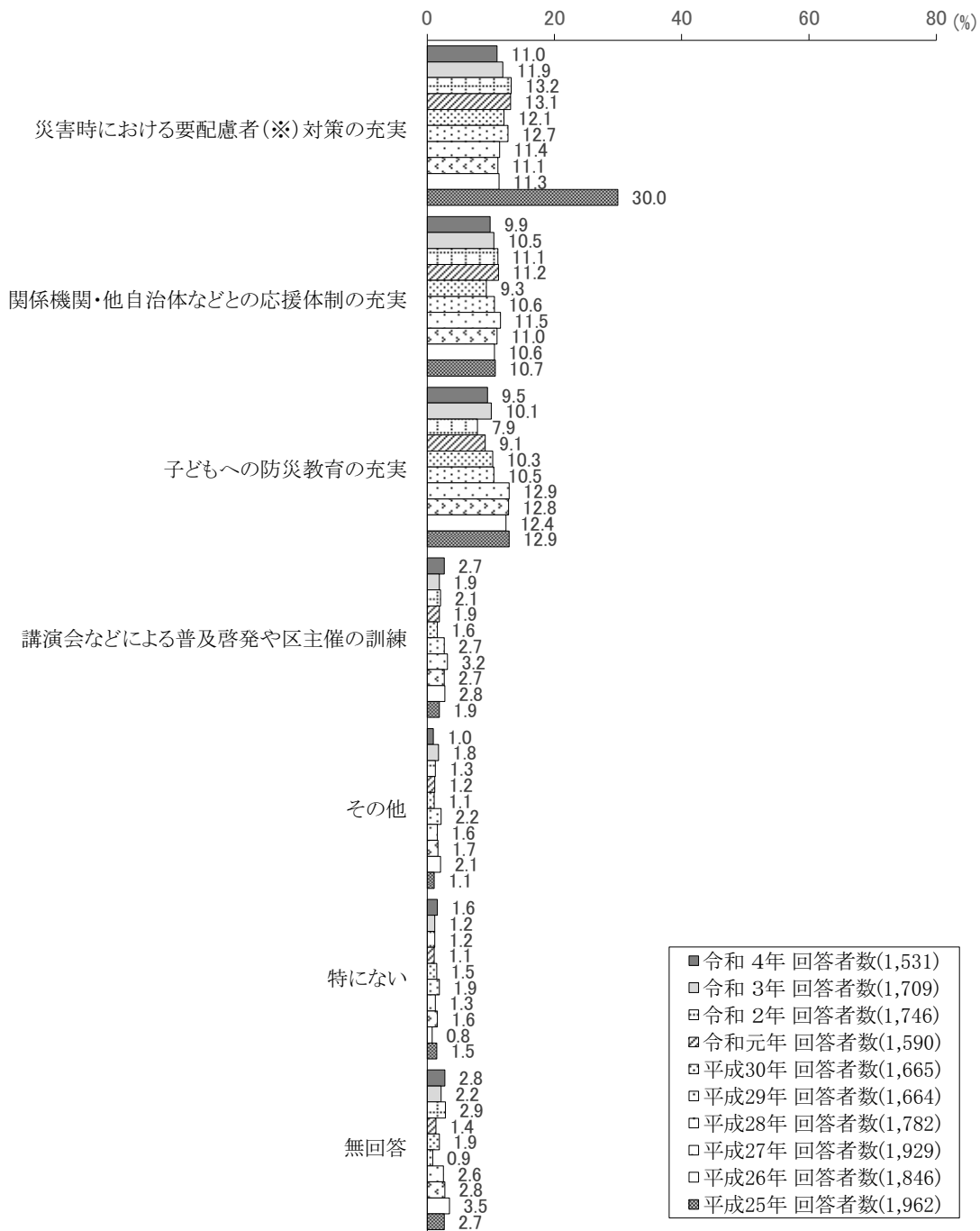


図2-10-1-③ 経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと



※「水・食料の備蓄の充実」は、平成25年度では「水・食料等災害用備蓄の充実」。

※「災害時における要配慮者対策の充実」は、平成25年度では「高齢者・障がい者・乳幼児などの要援護者対策の充実」。

イ クロス集計・性別、性・年代別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと
(上位8項目)

(ア) 性別でみたときに男性の方が高い項目

a 「ライフラインやエネルギーの確保」(+4.4ポイント)

b 「水・食料の備蓄の充実」(+5.3ポイント)

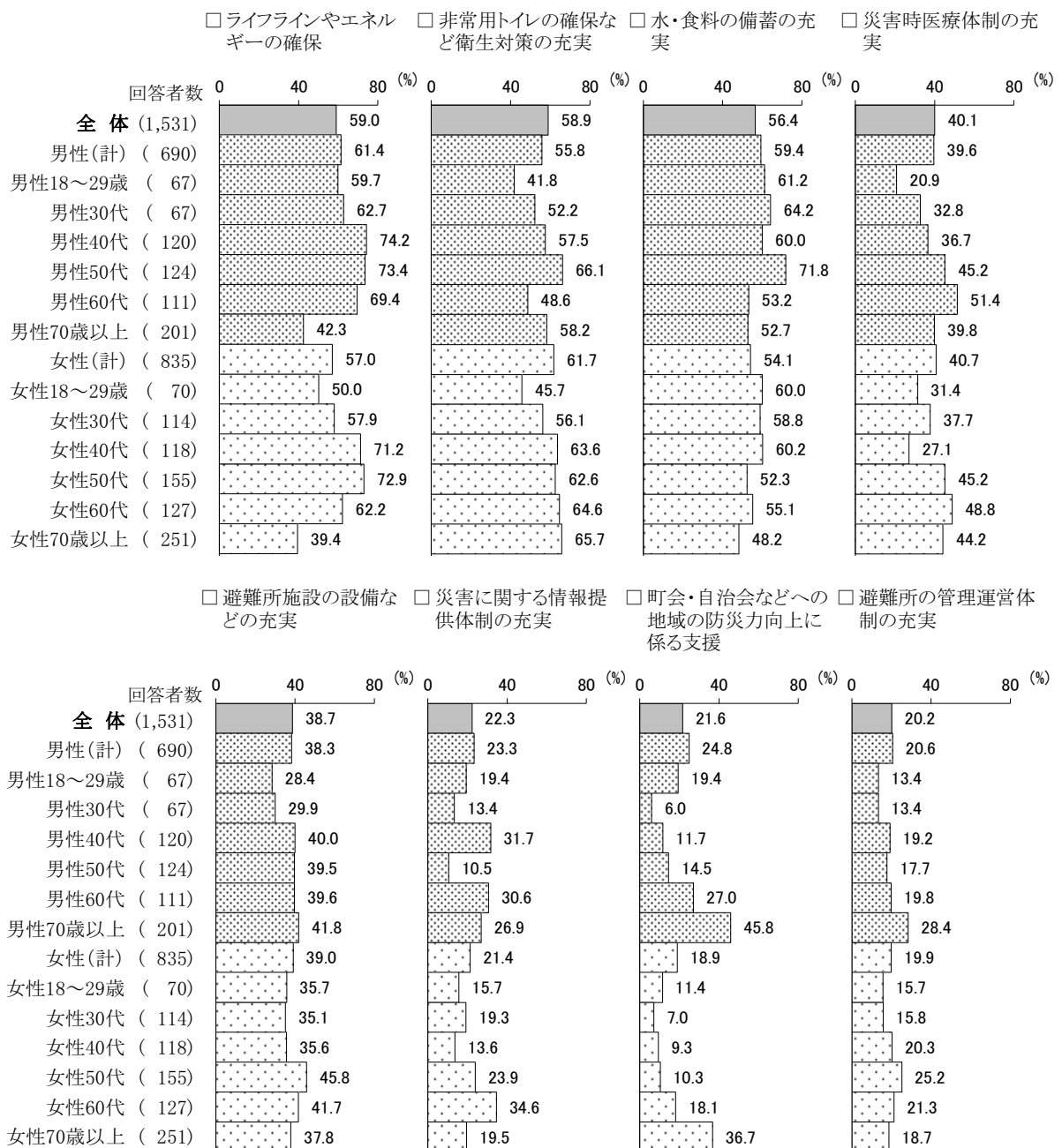
(イ) 性別でみたときに女性の方が高い項目

a 「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」(+5.9ポイント)

(ウ) 性・年代別でみると、「ライフラインやエネルギーの確保」は男女ともに40～50代で7割台と高く、逆に男女とも70歳以上で4割前後と低くなっている。「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」は男性の50代、女性の40歳以上で6割台と高く、逆に男女とも18～29歳で4割台と低くなっている。

図2-10-2 性別、性・年代別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

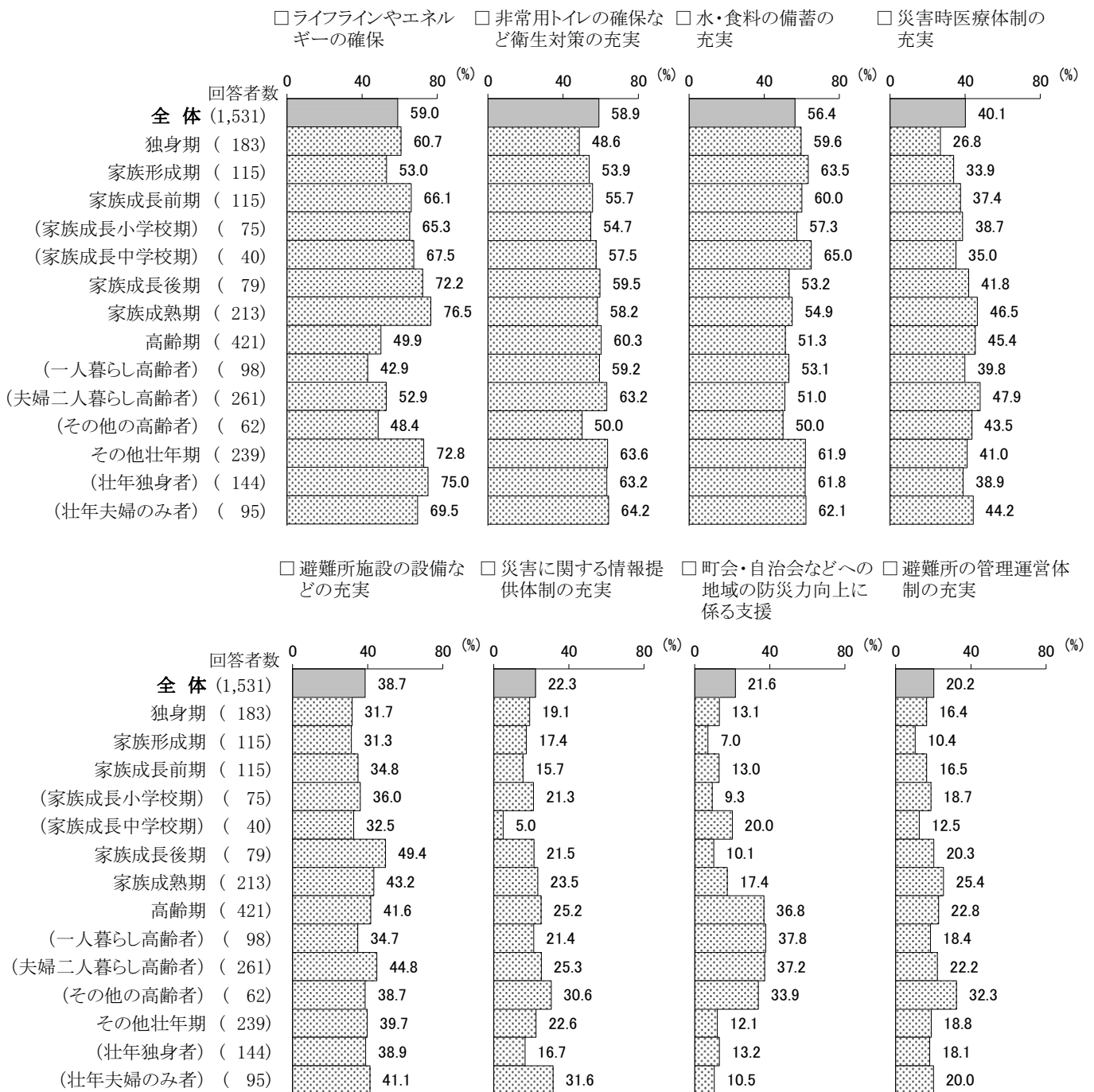
／上位8項目



ウ クロス集計・ライフステージ別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと
(上位8項目)

ライフステージ別で見ると、「ライフラインやエネルギーの確保」は〈家族成熟期〉(76.5%)で最も高く、〈高齢期〉(49.9%)で5割弱と最も低くなっている。「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」は、〈その他壮年期〉(63.6%)で最も高く、〈独身期〉(48.6%)で5割弱と最も低くなっている。また、「水・食料の備蓄の充実」は〈家族形成期〉(63.5%)で6割台半ばと最も高くなっている。

図2-10-3 ライフステージ別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと
／上位8項目



3 洪水対策

-
- (1) 「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知
 - (2) 河川はん濫時の避難場所の事前決定状況
 - (3) 事前に決めている河川はん濫時の避難場所
 - (4) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由
 - (5) 河川はん濫による浸水被害の際の対処
-

3 洪水対策

(1) 「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知

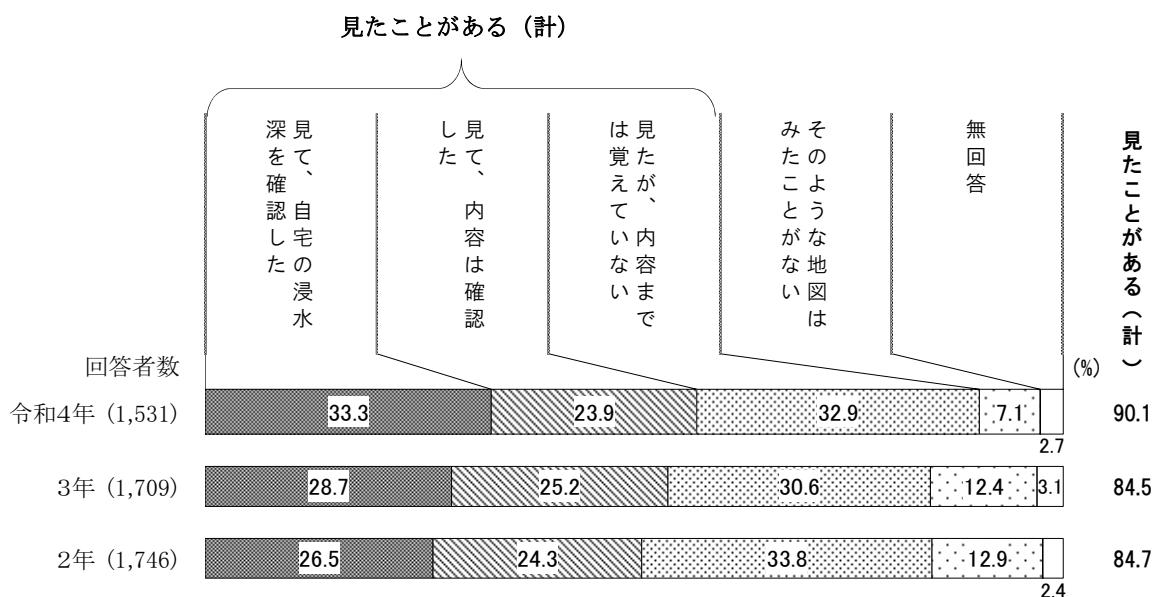
問9 あなたは、足立区が発行（区のホームページにも掲載）している「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」を見たことがありますか（○は1つだけ）。

■【見たことがある】は5ポイント増加し9割

ア 単純集計・経年比較／「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知

(ア) 『足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ』について、「見て、自宅の浸水深を確認した」が33.3%で最も高く、次いで「見たが、内容までは覚えていない」（32.9%）、「見て、内容は確認した」（23.9%）となり、これらを合わせた【見たことがある】は9割を占めている。
 (イ) 経年でみると、「見て、自宅の浸水深を確認した」が前回調査（28.7%）から4.6ポイント増加したことで、【見たことがある】では5.6ポイントの増加となり、平成27年度の調査開始以降、初めて9割台となった。

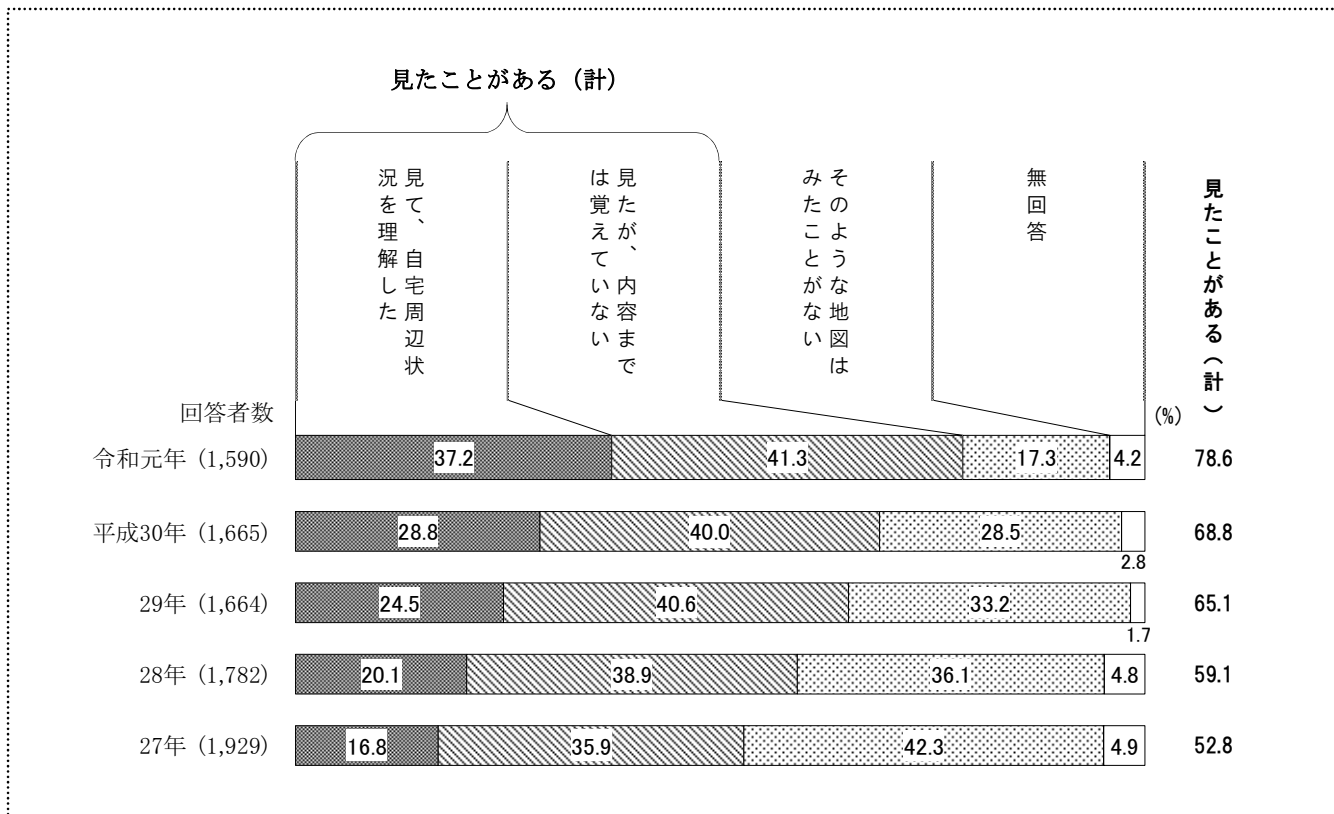
図3-1-1 経年比較／「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知



※ 令和3年度までの『足立区洪水ハザードマップ』は、令和4年度から、『足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ』に名称が変更となった。

第3章 調査結果の分析（洪水対策）

参考／「足立区洪水ハザードマップ」の認知（令和元年度までの選択肢）



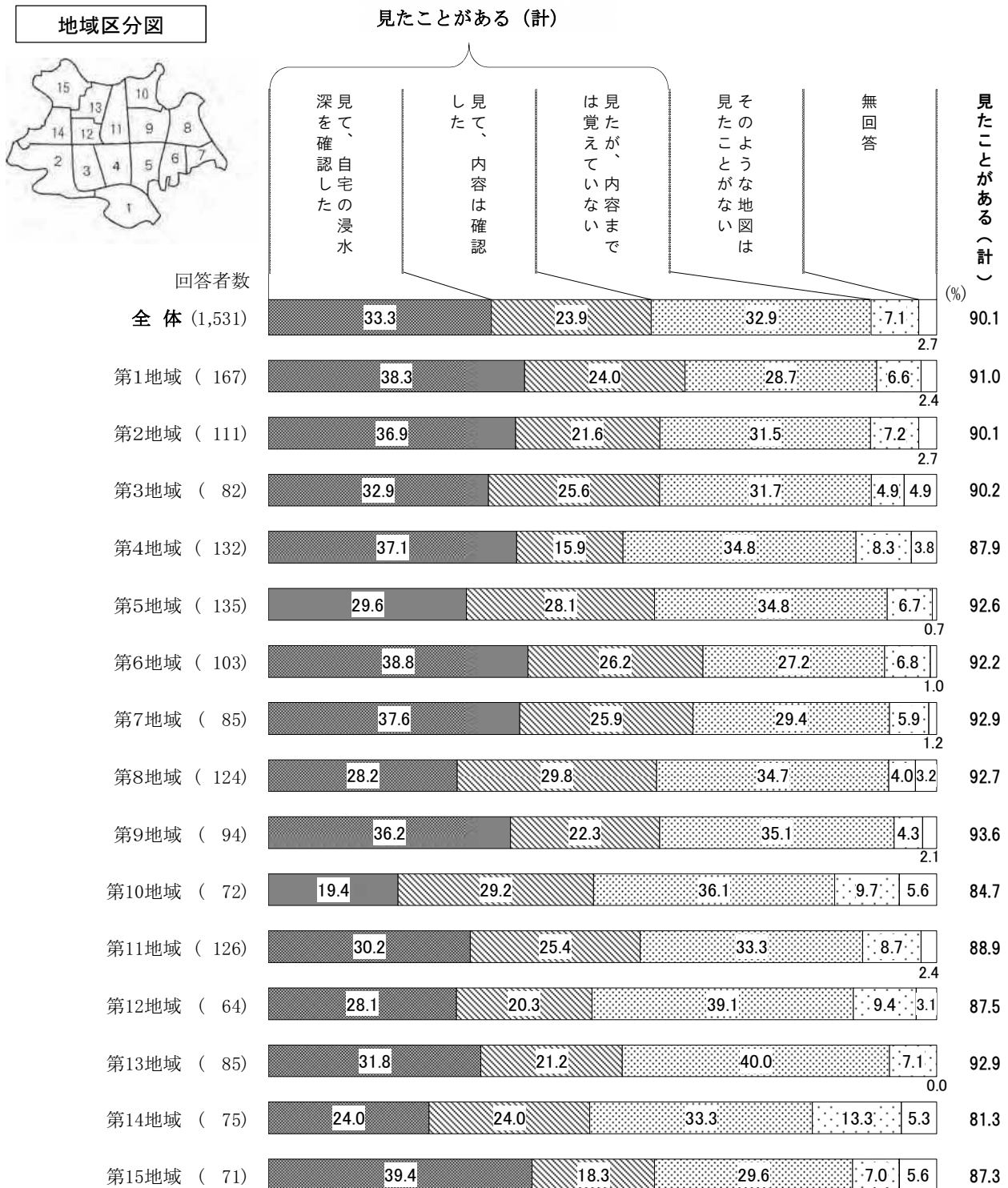
※ 令和2年度から、令和元年度までの「見て、自宅周辺の状況を理解した」が、「見て、自宅の浸水深を確認した」と「見て、内容は確認した」に2分割された。

※ 「見て、自宅周辺の状況を理解した」は、平成27年度は「見たことがあって、自宅周辺の状況を理解した」。

イ クロス集計・地域別／「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知

地域別でみると、「見て、自宅の浸水深を確認した」は第15地域で39.4%と最も高く、第6地域と第1地域が4割弱で続いており、第10地域で19.4%と最も低くなっている。また、【見たことがある】では第9地域で93.6%と最も高く、僅差で第5地域、第6地域、第7地域、第8地域、第13地域が9割強で続いており、第14地域が81.3%で最も低くなっている。

図3-1-2 地域別／「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知

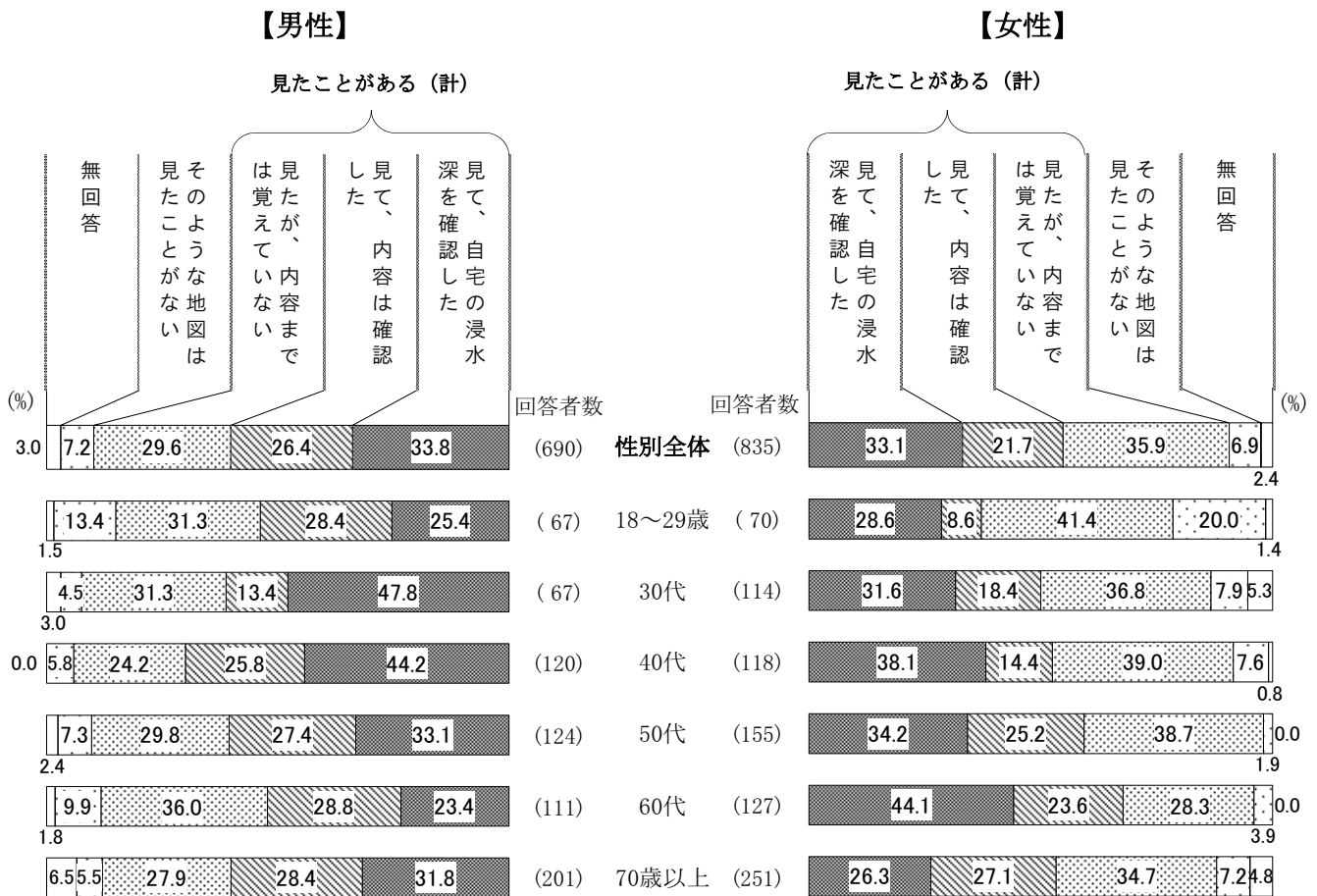


ウ クロス集計・性別、性・年代別／「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知

(ア) 性別でみると、【見たことがある】では性差が無いものの、「見て、内容は確認した」は男性（26.4%）の方が女性（21.7%）より4.7ポイント高く、「見たが、内容までは覚えていない」は女性（35.9%）の方が男性（29.6%）より6.3ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、「見て、自宅の浸水深を確認した」は男性の30代で47.8%と最も高く、男性の60代が23.4%で最も低くなっている。【見たことがある】でみると、女性の50代で98.1%と最も高く、女性の18～29歳で78.6%と最も低くなっている。

図3-1-3 性別、性・年代別／「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知



(2) 河川はん濫時の避難場所の事前決定状況

問10 あなたは、河川がはん濫する恐れがある場合、避難する場所を事前に決めていますか
(○は1つだけ)。

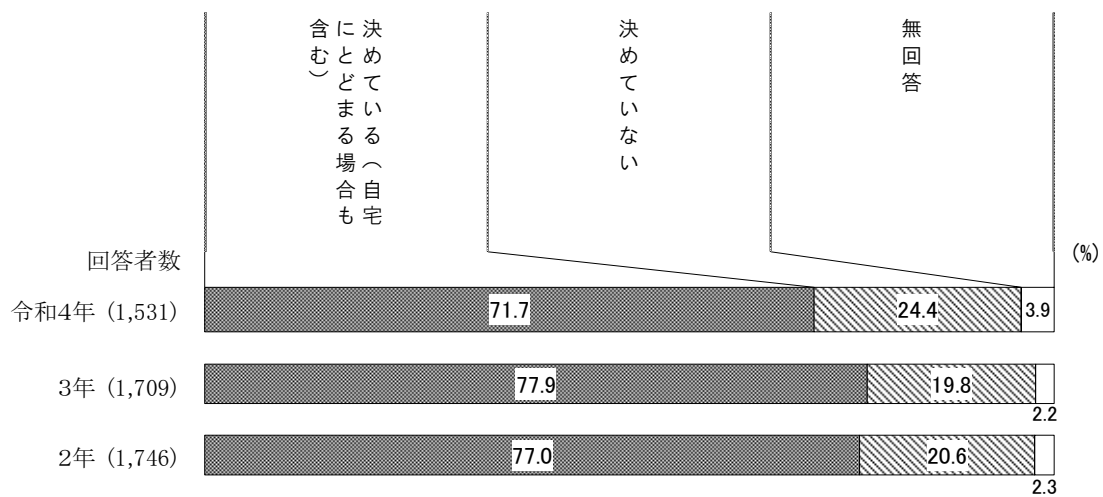
■「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」が7割強

ア 単純集計・経年比較／河川はん濫時の避難場所の事前決定状況

(ア) 河川はん濫の恐れがある場合の避難場所の事前決定状況は、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」が71.7%を占めており、「決めていない」は24.4%となっている。

(イ) 経年でみると、前回の令和3年調査に比べて「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」が6.2ポイント減少し、「決めていない」が4.6ポイント増加している。

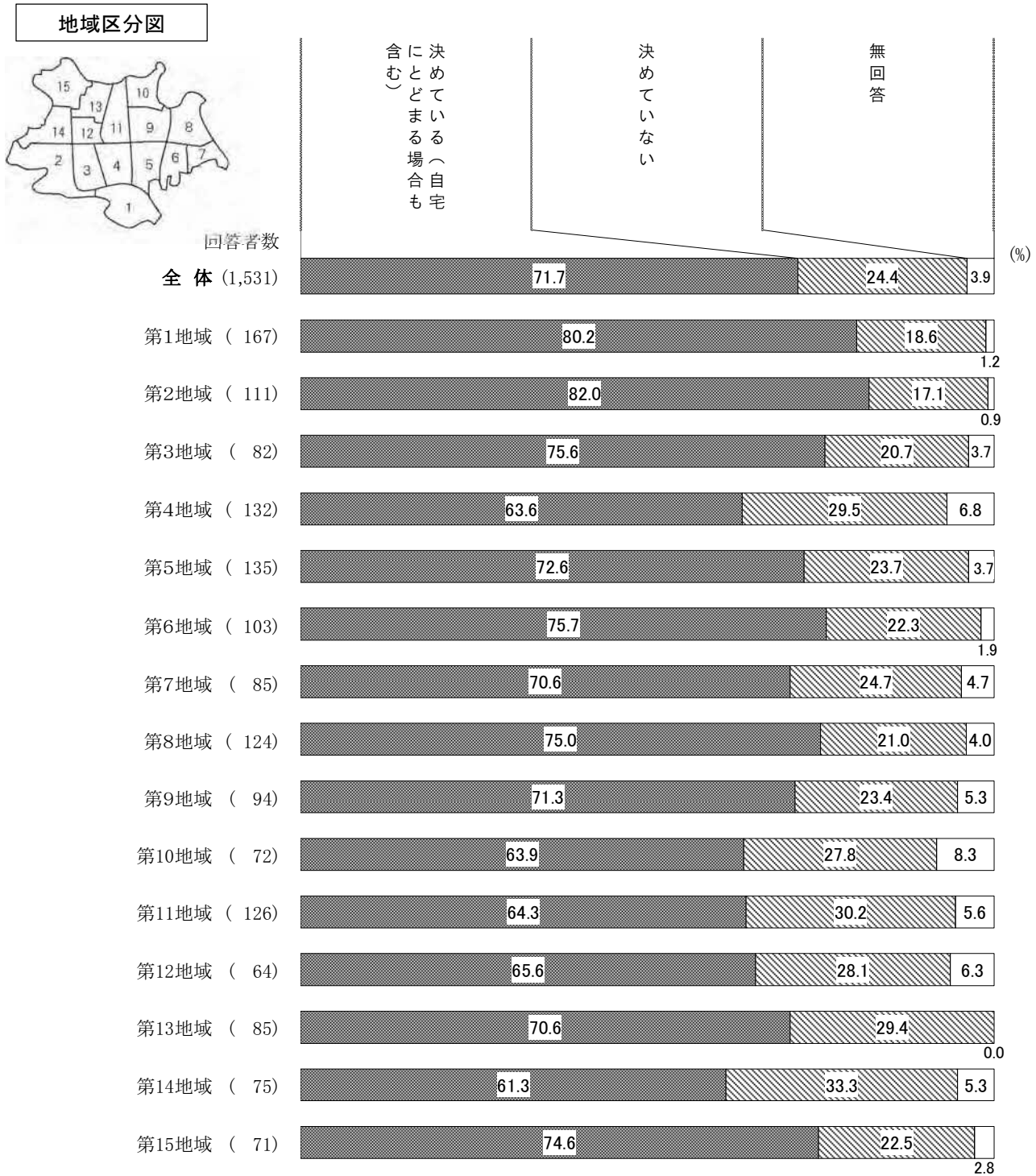
図3-2-1 経年比較／河川はん濫時の避難場所の事前決定状況



イ クロス集計・地域別／河川はん濫時の避難場所の事前決定状況

地域別にみると、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」は第2地域が82.0%と最も高く、次いで、第1地域が80.2%と高くなっている。一方、第14地域が61.3%と最も低く、第4地域、第10地域、第11地域、第12地域が6割台半ばと低くなっている。

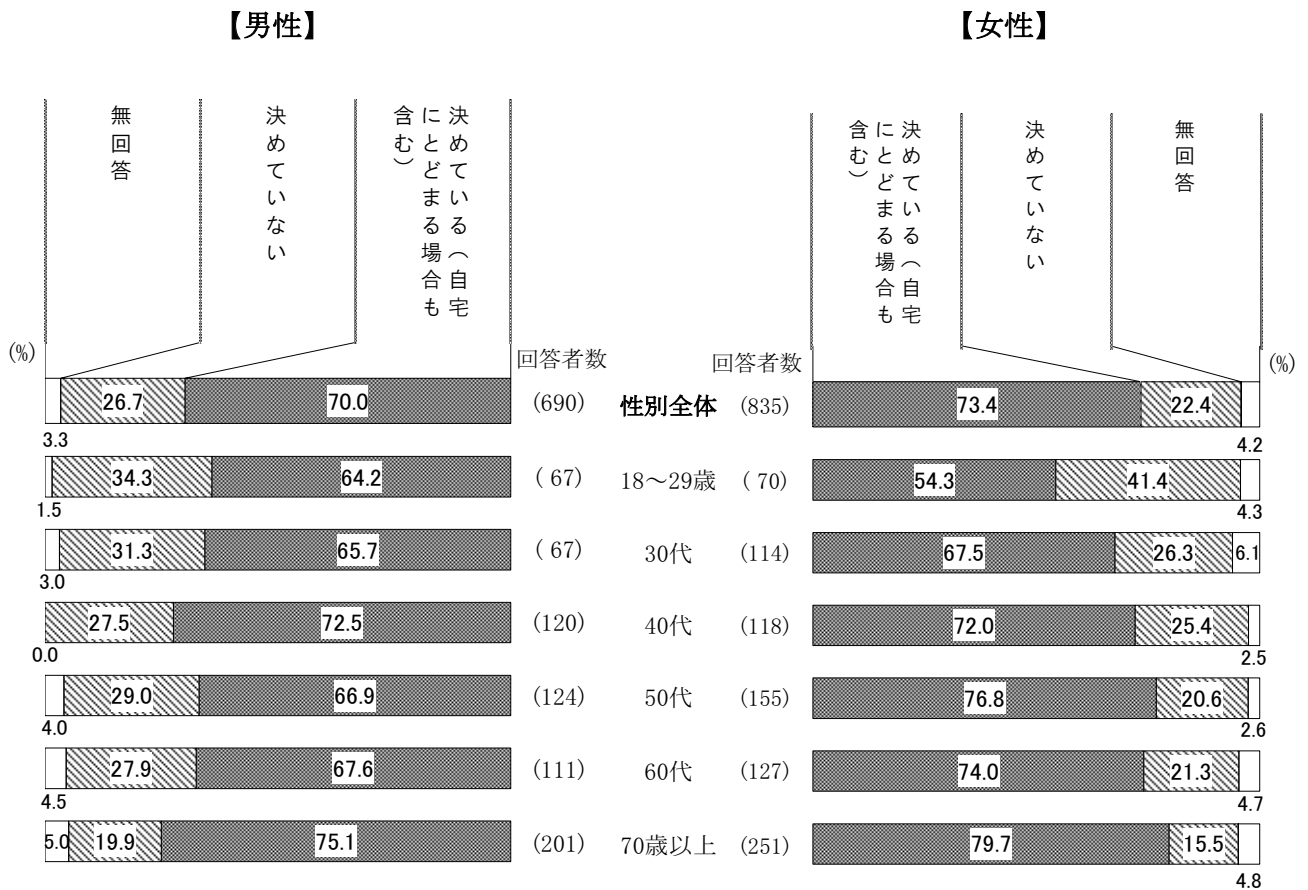
図3-2-2 地域別／河川はん濫時の避難場所の事前決定状況



ウ クロス集計・性別、性・年代別／河川はん濫時の避難場所の事前決定状況

- (ア) 性別にみると、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」は、女性（73.4%）の方が男性（70.0%）より3.4ポイント高くなっている。
- (イ) 性・年代別にみると、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」は女性の70歳以上（79.7%）で最も高く、女性の18～29歳（54.3%）で最も低く、男女ともおおむね年齢が下がるほど割合が低くなっている。

図3-2-3 性別、性・年代別／河川はん濫時の避難場所の事前決定状況



（3）事前に決めている河川はん濫時の避難場所

問10で「1 決めている（自宅にとどまる場合も含む）」とお答えの方に

問10—1 あなたが、避難する場所はどこですか（○は1つだけ）。

■「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」が6割台半ば

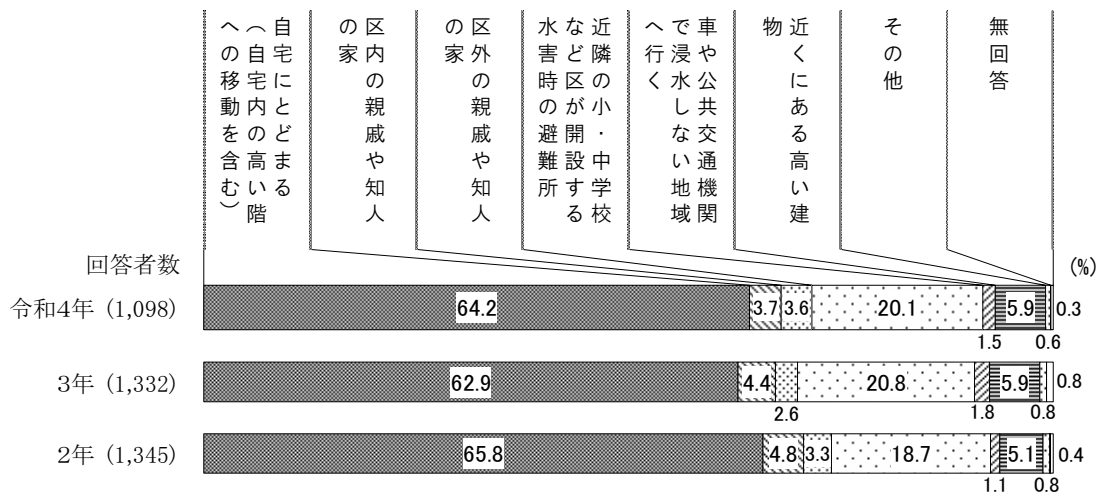
ア 単純集計・経年比較／事前に決めている河川はん濫時の避難場所

（ア）河川はん濫の恐れがある場合に避難する場所を事前に「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」と回答した人に、決めている避難場所を聞いた結果、高い順に以下のとおりとなっている。

- ①「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」（64.2%）
- ②「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所」（20.1%）
- ③「近くにある高い建物」（5.9%）
- ④「区内の親戚や知人の家」（3.7%）
- ⑤「区外の親戚や知人の家」（3.6%）

（イ）経年で見ると、「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」は前回の令和3年調査（62.9%）から1.3ポイント微増しているが、特に大きな違いはみられない。

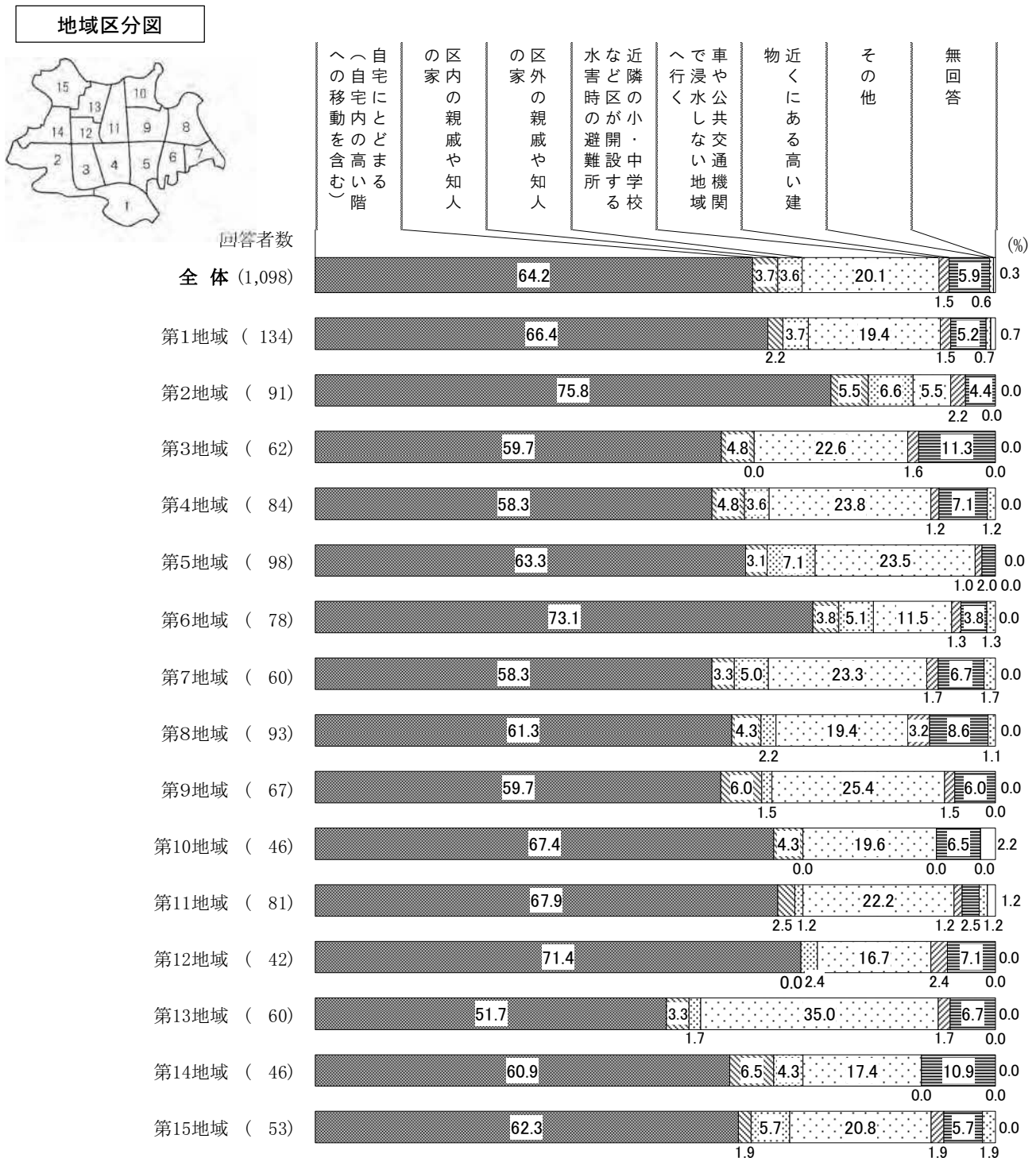
図3-3-1 経年比較／事前に決めている河川はん濫時の避難場所



イ クロス集計・地域別／事前に決めている河川はん濫時の避難場所

地域別にみると、「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」は、第2地域で75.8%と最も高く、次いで第6地域（73.1%）と第12地域（71.4%）が7割台で続き、第13地域で51.7%と最も低くなっている。「近隣の小・中学校などが開設する避難場所」は第13地域が35.0%で他の地域に比べ特に高く、第2地域が5.5%で他の地域に比べ特に低くなっている。

図3-3-2 地域別／事前に決めている河川はん濫時の避難場所

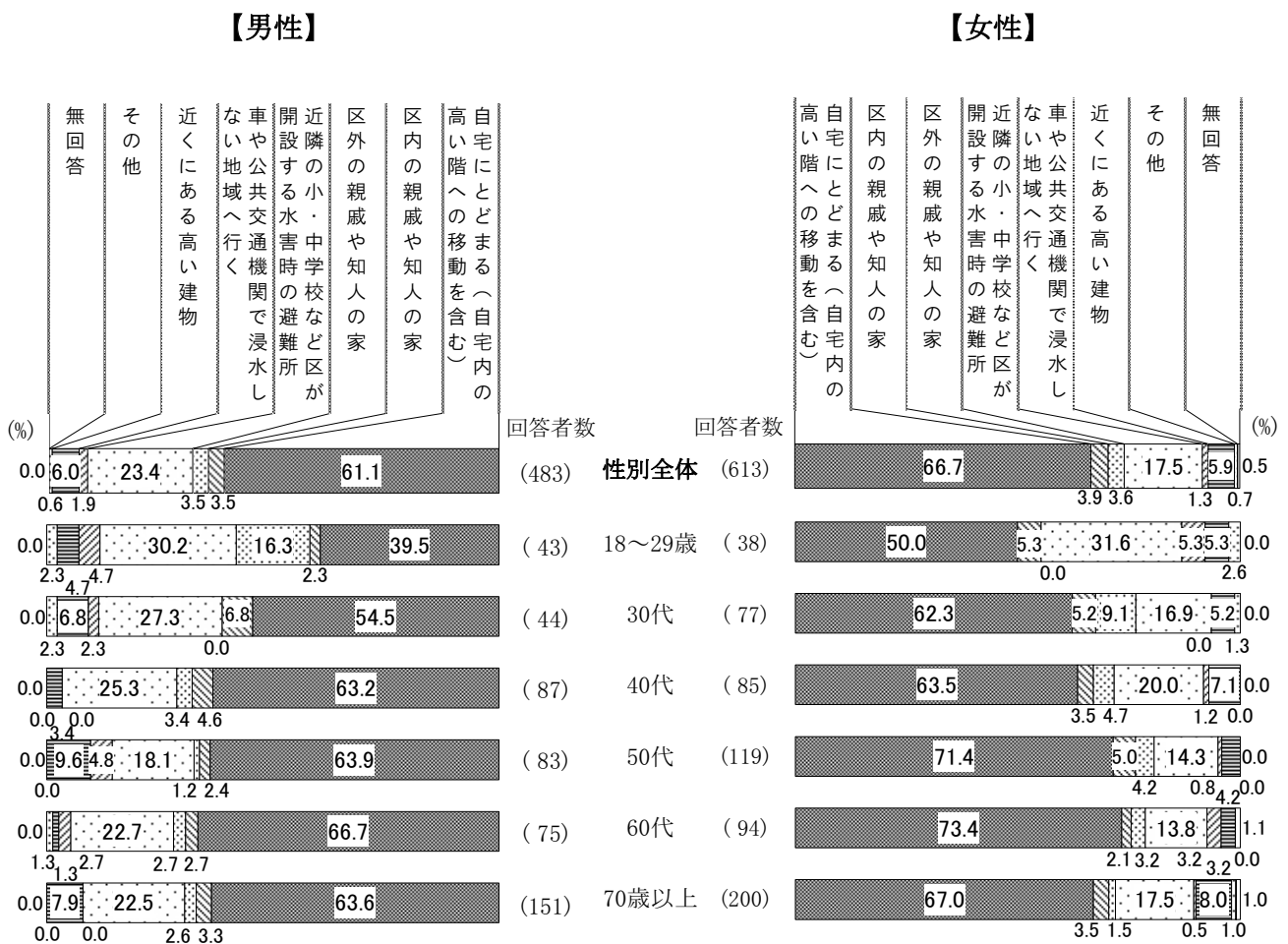


ウ クロス集計・性別、性・年代別／事前に決めている河川はん濫時の避難場所

(ア) 性別にみると、「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」は女性（66.7%）の方が男性（61.1%）より5.6ポイント高く、「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所」は男性（23.4%）の方が女性（17.5%）より5.9ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」は女性の60代（73.4%）と50代（71.4%）で7割台と高く、男性の18～29歳で39.5%と他の性、年代層に比べて特に低くなっている。一方、「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所」では男女ともに18～29歳（男性30.2%・女性31.6%）が3割台と高くなっている。

図3-3-3 性別、性・年代別／事前に決めている河川はん濫時の避難場所



(4) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由

問10で「2 決めていない」とお答えの方に

問10-2 避難する場所を決めていない理由はなんですか (○は1つだけ)。

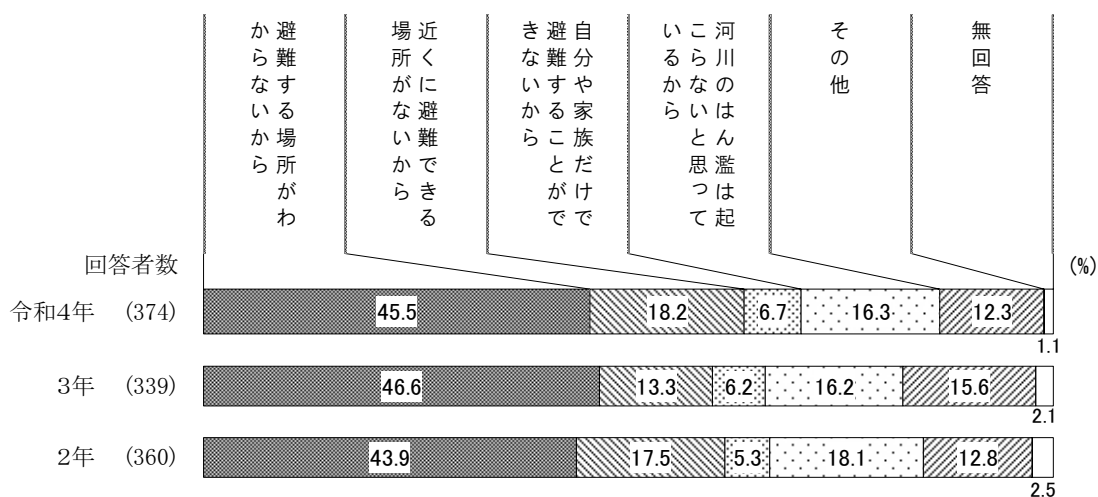
■「避難する場所がわからないから」が4割台半ば

ア 単純集計・経年比較／河川はん濫時の避難場所を決めていない理由

(ア) 河川はん濫の恐れがある場合に避難する場所を事前に「決めていない」と回答した人に、決めていない理由を聞いた結果、「避難する場所がわからないから」が4割台半ばと最も高く、次いで「近くに避難できる場所がないから」(18.2%)、「河川のはん濫は起こらないと思っているから」(16.3%) などとなっている。

(イ) 経年でみると、「避難する場所がわからないから」は前回の令和3年調査と大きな違いはないが、「近くに避難できる場所がないから」(前回13.3%)が4.9ポイント増加している。

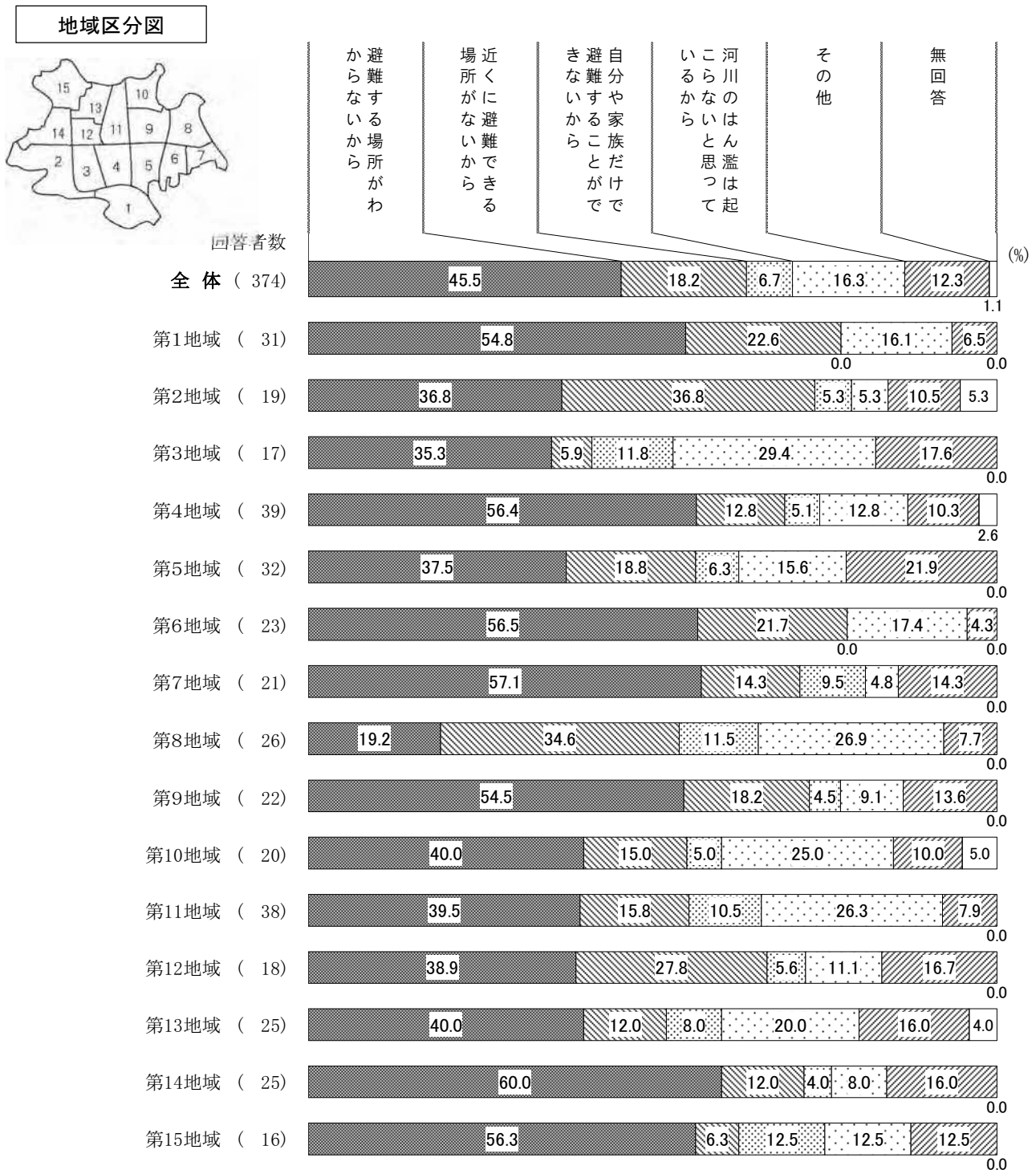
図3-4-1 経年比較／河川はん濫時の避難場所を決めていない理由



イ クロス集計・地域別／河川はん濫時の避難場所を決めていない理由

地域別にみると、大半の地域でサンプル数が少ないことからあくまで参考値ながら、「避難する場所がわからないから」は第14地域が60.0%と最も高く、第4地域、第6地域、第7地域、第15地域で5割台後半と高くなっている。一方、第8地域が19.2%と他の地域に比べて特に低くなっている。また、「近くに避難できる場所がないから」は第2地域と第8地域で3割台半ばと他の地域に比べて高く、第3地域と第15地域で1割未満と低くなっている。

図3-4-2 地域別／河川はん濫時の避難場所を決めていない理由

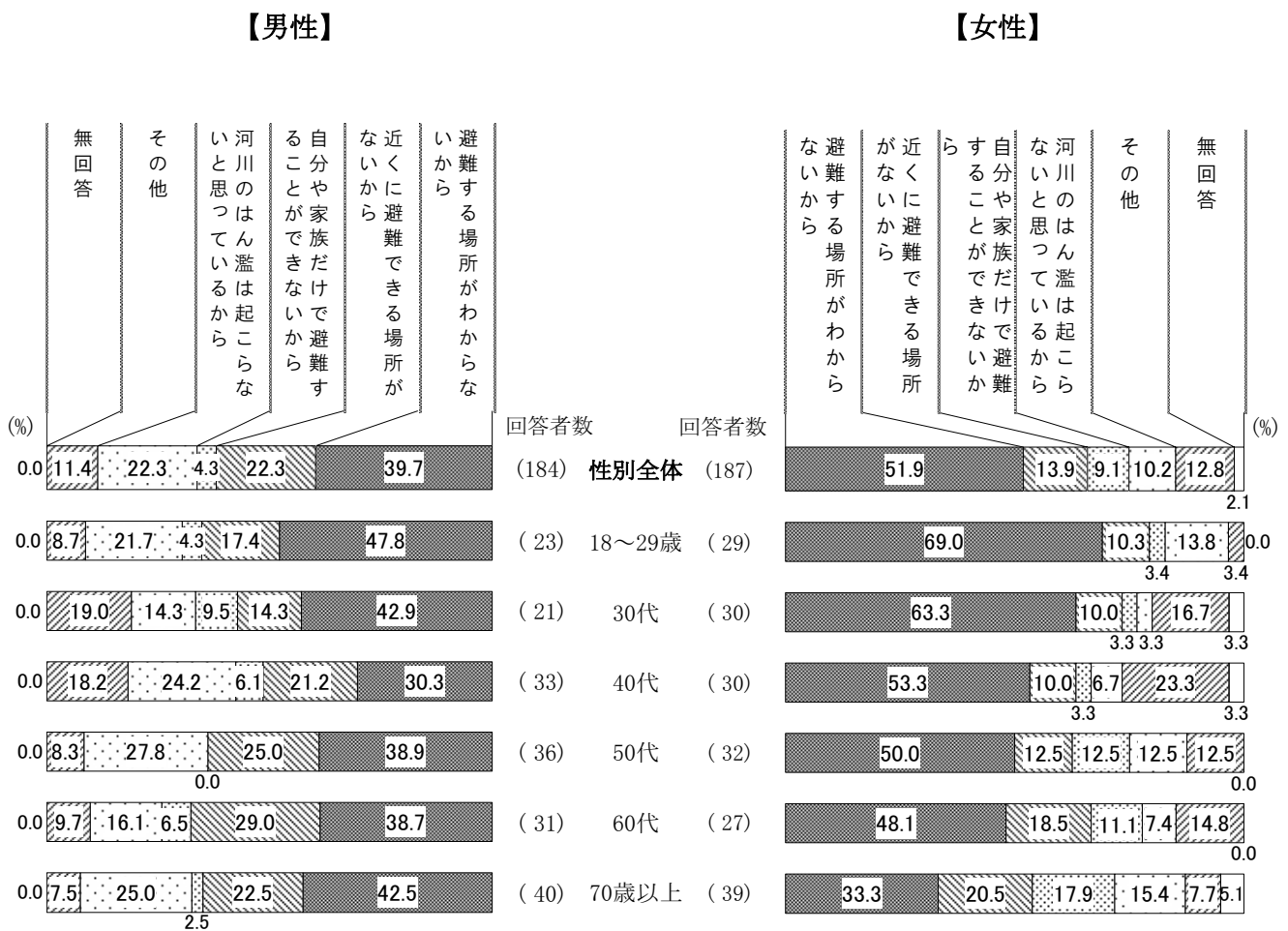


ウ クロス集計・性別、性・年代別／河川はん濫時の避難場所を決めていない理由

(ア) 性別にみると、「避難する場所がわからないから」は女性 (51.9%) の方が男性 (39.7%) より12.2ポイント高くなっている。逆に、「河川のはん濫は起こらないから」は男性 (22.3%) の方が女性 (10.2%) より12.1ポイント高く、「近くに避難できる場所がないから」でも男性 (22.3%) の方が女性 (13.9%) より8.4ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、いくつかの性・年代層でサンプル数が少ないことからあくまで参考値ながら、「避難する場所がわからないから」は女性の18～29歳と30代で6割台と高く、男性の40代で3割と低くなっている。

図3-4-3 性別、性・年代別／河川はん濫時の避難場所を決めていない理由



（5）河川はん濫による浸水被害の際の対処

問11 河川がはん濫して、浸水被害になるような大洪水が迫っている場合、以下のア～カまでの情報を知ったとき、あなたは避難しますか（自宅内の高い場所への移動も含む）。
（○はそれぞれ1つずつ）

■「避難する」は〈区から避難指示が発令〉が6割台半ば、〈自宅付近が浸水〉が6割

ア 単純集計・経年比較／河川はん濫による浸水被害の際の対処

（ア）情報を知って「避難する」の割合が多い順にみると、以下のとおりとなっている。

- ① 〈オ 区から避難指示が発令されたとき〉（65.1%）
- ② 〈カ 自宅付近が浸水したとき〉（60.7%）
- ③ 〈イ 近所の人が避難をしているのを見たとき〉（38.3%）
- ④ 〈エ 区から高齢者等避難が発令されたとき〉（31.7%）

（イ）「避難する」は前回調査に比べてすべての項目で減少しており、減少が大きい順に、〈ア 数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき〉（-5.7ポイント）、〈ウ 足立区に大雨・洪水警報が出たとき〉（-5.4ポイント）、〈イ 近所の人が避難をしているのを見たとき〉（-3.8ポイント）、〈カ 自宅付近が浸水したとき〉（-3.8ポイント）などとなっている。

図3-5-1-① 経年比較／河川はん濫による浸水被害の際の対処

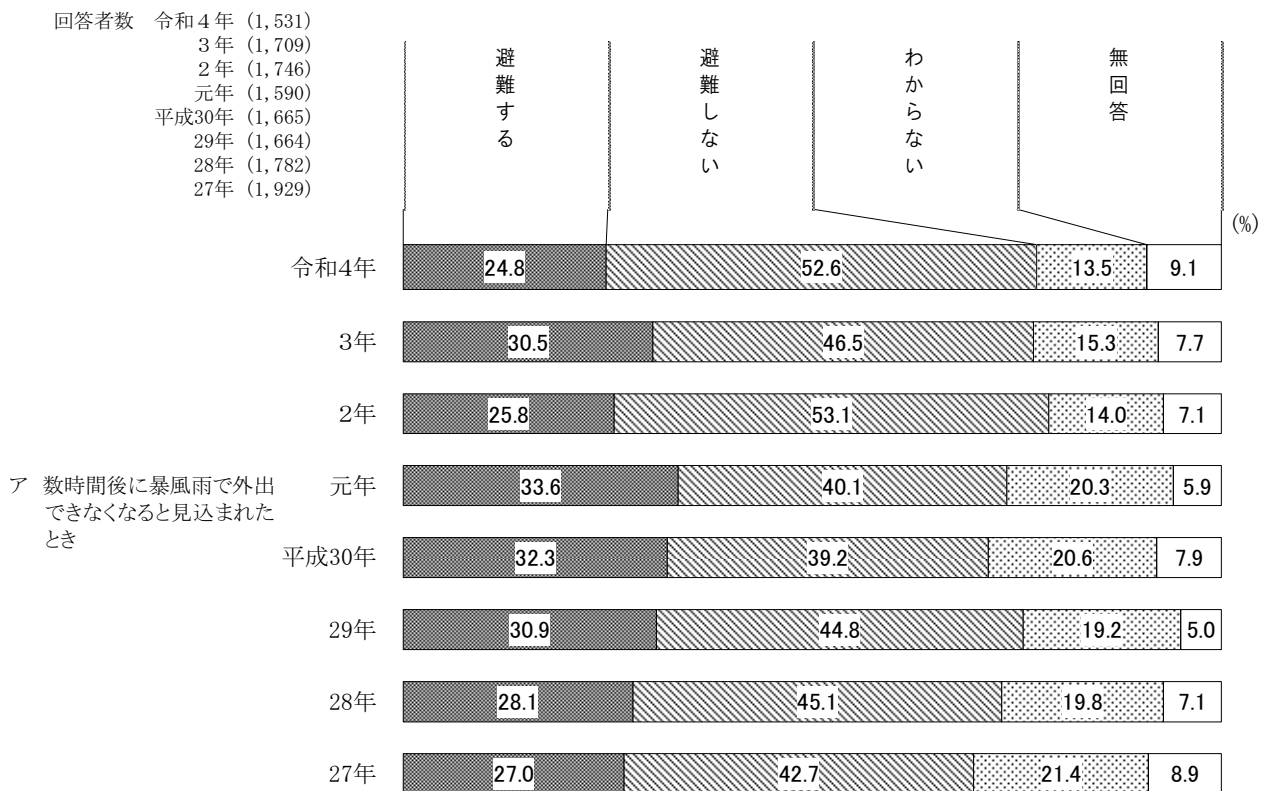


図3-5-1-② 経年比較／河川はん濫による浸水被害の際の対処

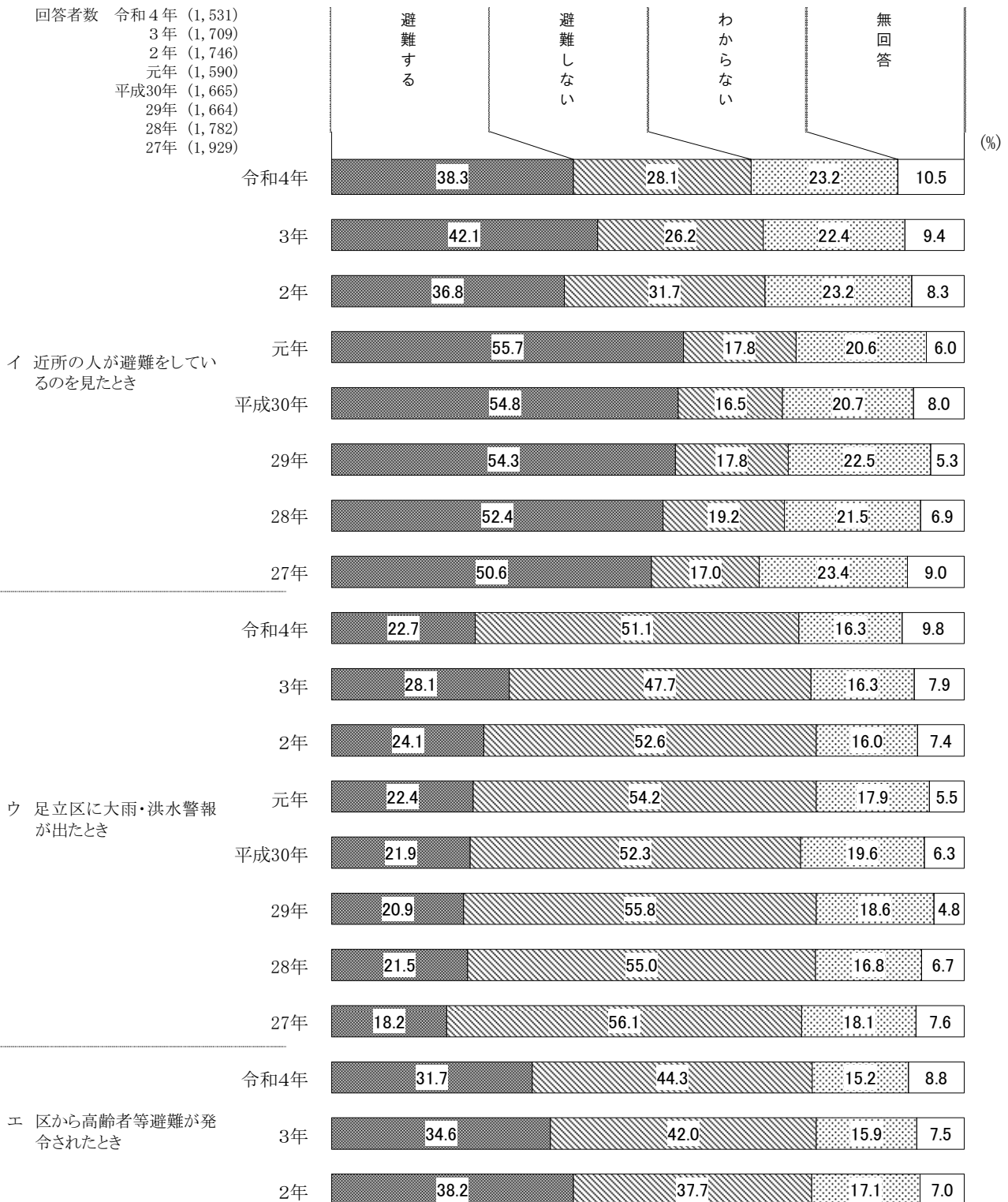
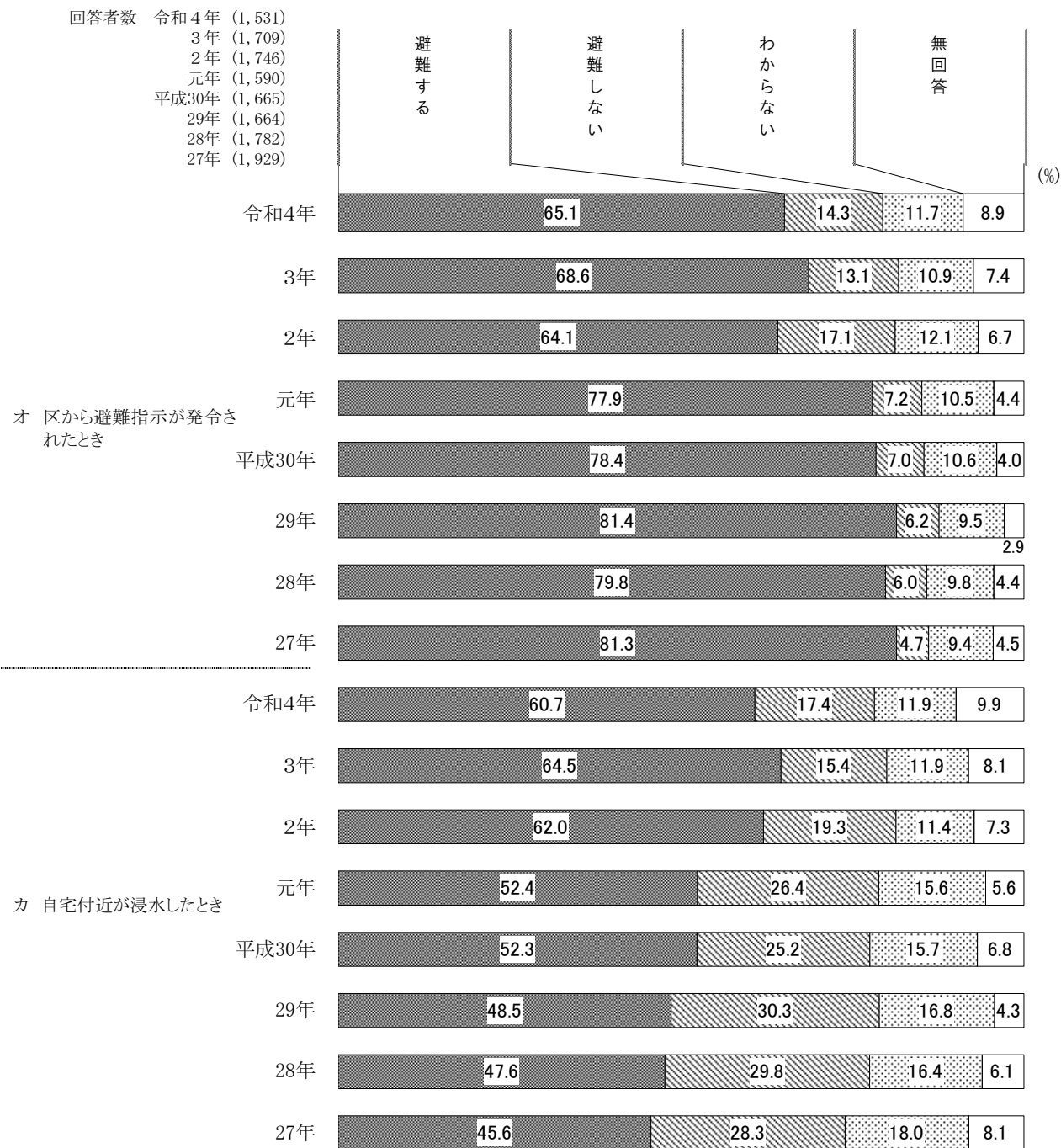


図3-5-1-③ 経年比較／河川はん濫による浸水被害の際の対処



※「エ」は令和2年度からの新設項目。令和2年度の「区から避難準備・高齢者等避難開始が発令されたとき」から令和3年度で表現をかえた。

※「オ」は令和2年度の「区から避難勧告・指示が発令されたとき」から令和3年度で表現をかえた。

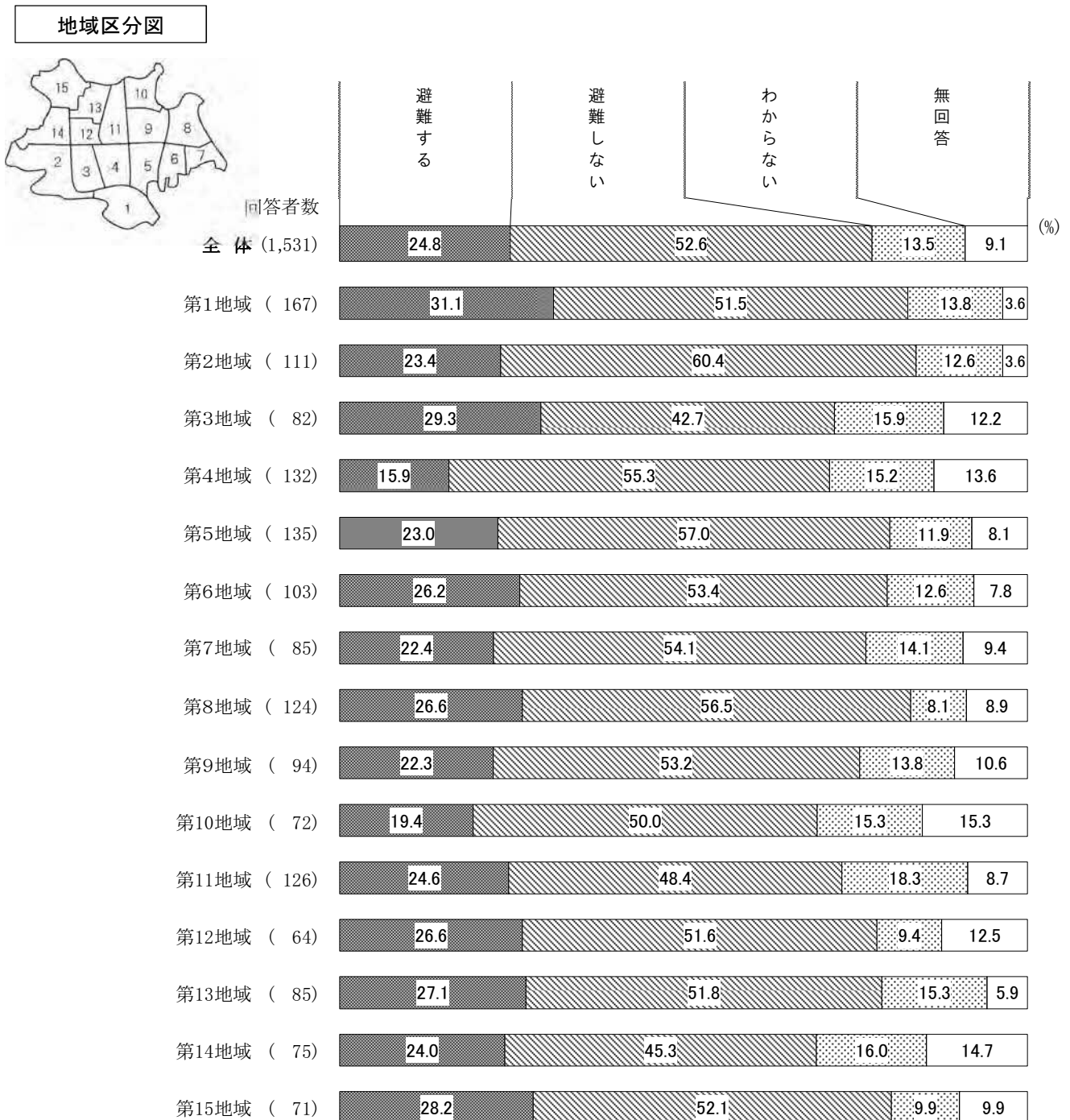
イ クロス集計・地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／〈ア 数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき〉

〈ア 数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき〉を地域別でみると、「避難する」は第1地域で31.1%と最も高く、次いで第3地域（29.3%）となっている。一方、「避難しない」は第2地域で60.4%と最も高く、次いで第5地域（57.0%）となっている。

図3-5-2-① 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／〈ア 数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき〉



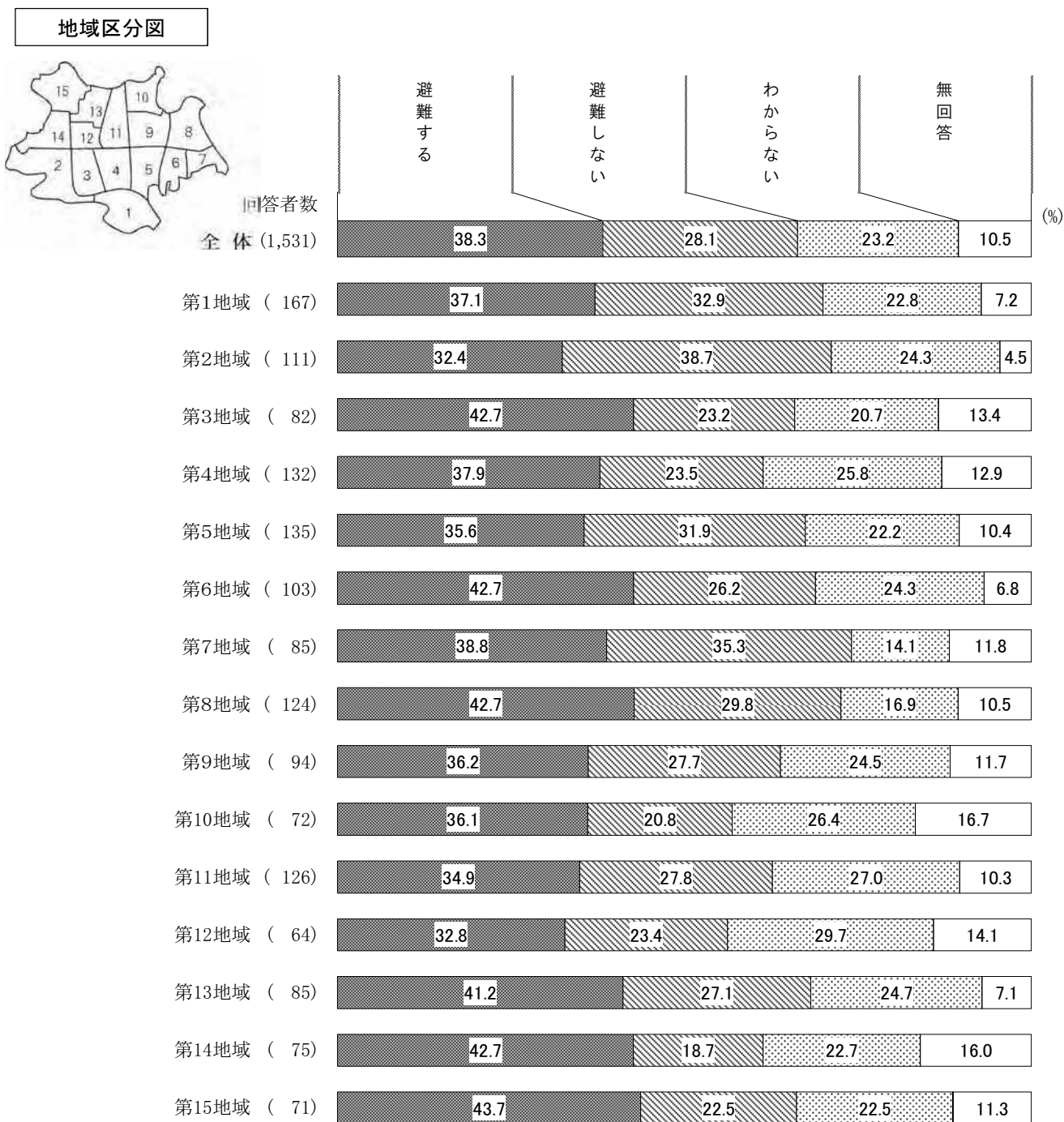
ウ クロス集計・地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／〈イ 近所の人が避難をしているのを見たとき〉

〈イ 近所の人が避難をしているのを見たとき〉について地域別でみると、「避難する」は第15地域で43.7%と最も高く、次いで第3地域、第6地域、第8地域、第14地域（各42.7%）などとなっている。一方、「避難しない」は第2地域で38.7%と最も高く、次いで第7地域（35.3%）となっている。

図3-5-2-② 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／〈イ 近所の人が避難をしているのを見たとき〉



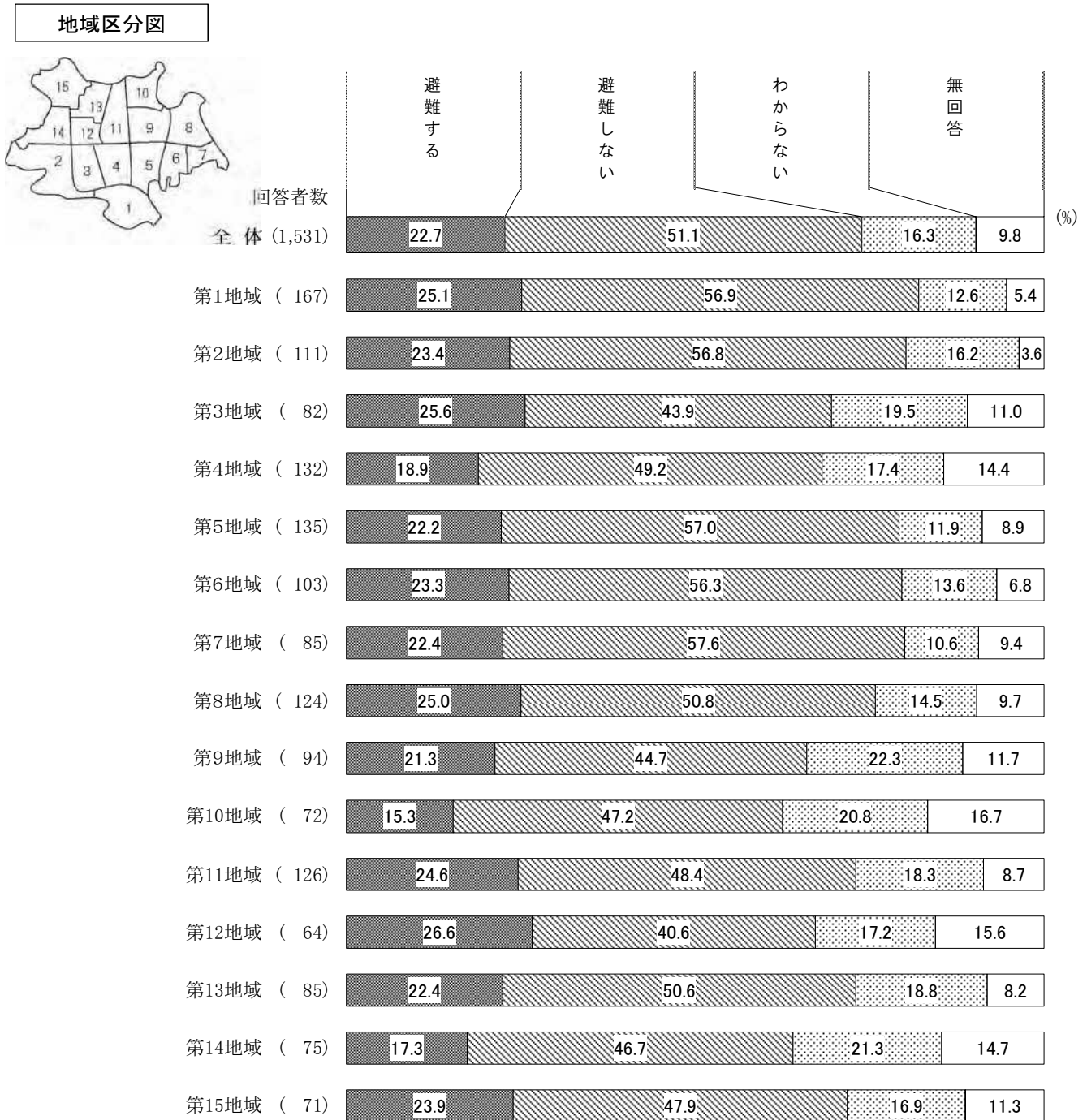
エ クロス集計・地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／〈ウ 足立区に大雨・洪水警報が出たとき〉

〈ウ 足立区に大雨・洪水警報が出たとき〉について地域別でみると、「避難する」は第12地域で26.6%と最も高く、次いで第3地域（25.6%）となっている。一方、「避難しない」は第7地域で57.6%と最も高く、次いで第5地域（57.0%）となっている。

図3-5-2-③ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／〈ウ 足立区に大雨・洪水警報が出たとき〉



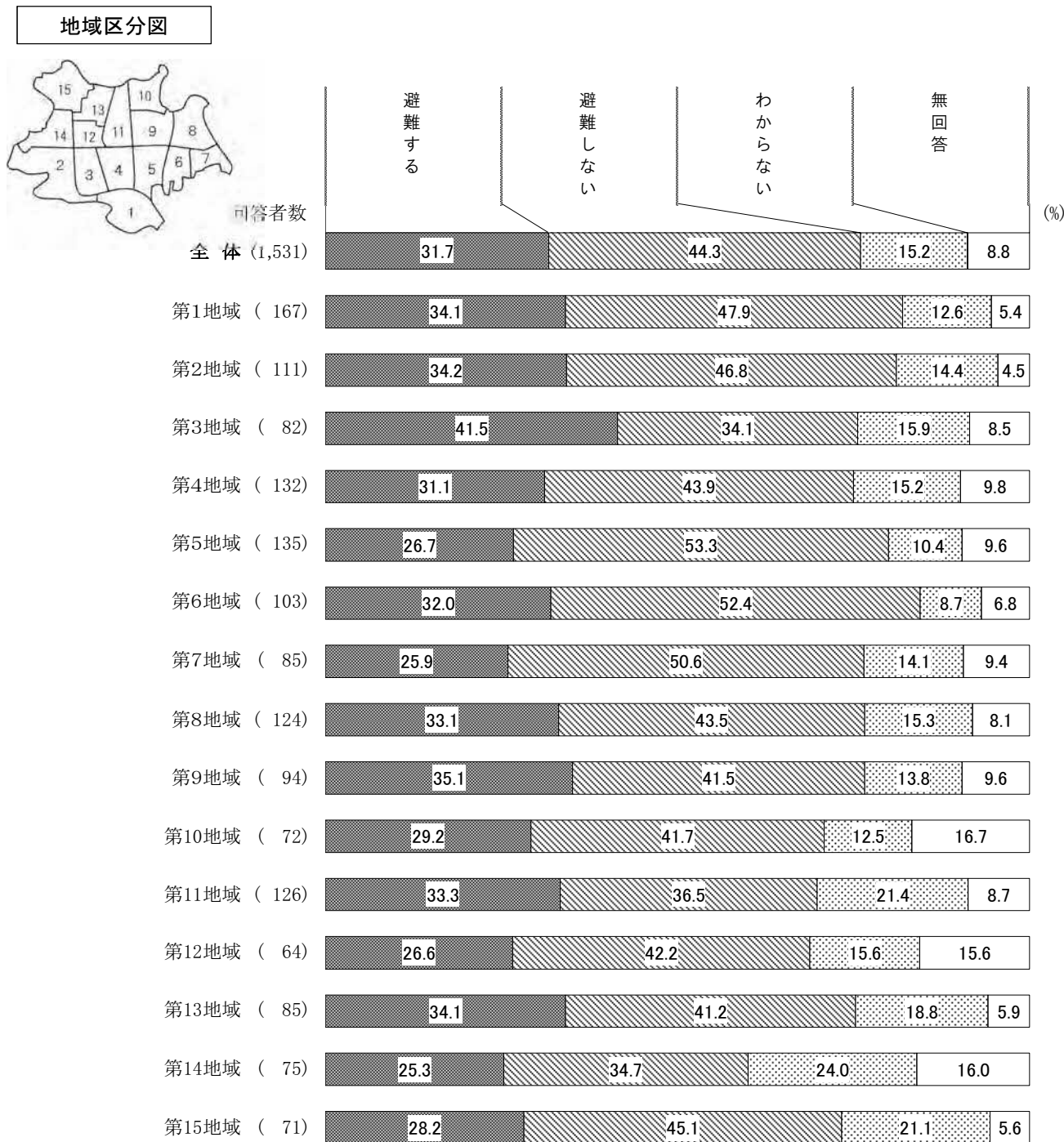
オ クロス集計・地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／〈エ 区から高齢者等避難が発令されたとき〉

〈エ 区から高齢者等避難が発令されたとき〉について地域別でみると、「避難する」は第3地域で41.5%と他の地域に比べ特に高く、次いで第9地域（35.1%）となっている。一方、「避難しない」は第5地域で53.3%と最も高く、次いで第6地域（52.4%）となっている。

図3-5-2-④ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／〈エ 区から高齢者等避難が発令されたとき〉



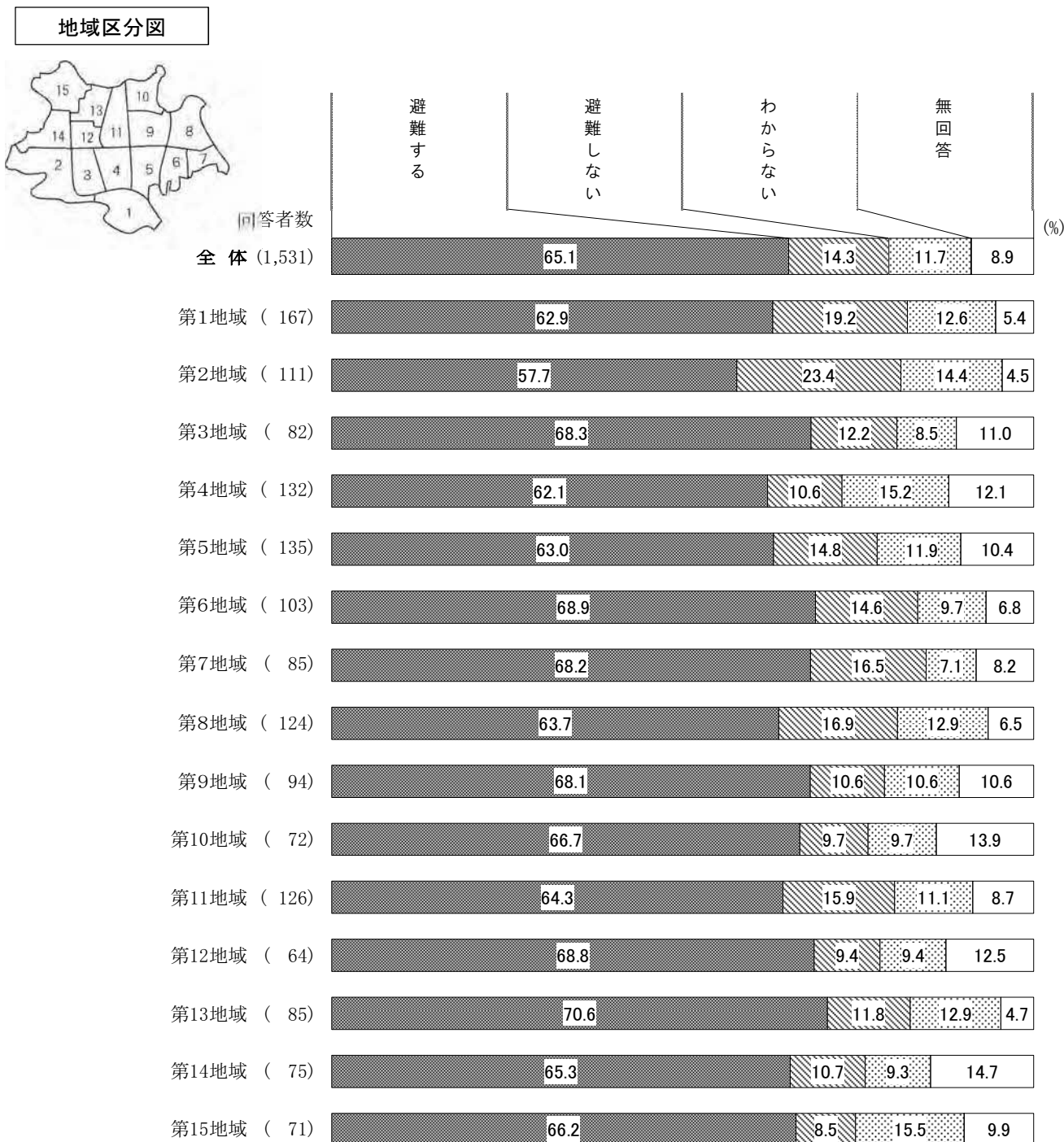
カ クロス集計・地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／〈オ 区から避難指示が発令されたとき〉

〈オ 区から避難指示が発令されたとき〉について地域別でみると、「避難する」は第13地域で70.6%と最も高く、次いで第6地域（68.9%）となっている。一方、「避難しない」は第2地域で23.4%と最も高く、次いで第1地域（19.2%）となっている。

図3-5-2-⑤ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／〈オ 区から避難指示が発令されたとき〉



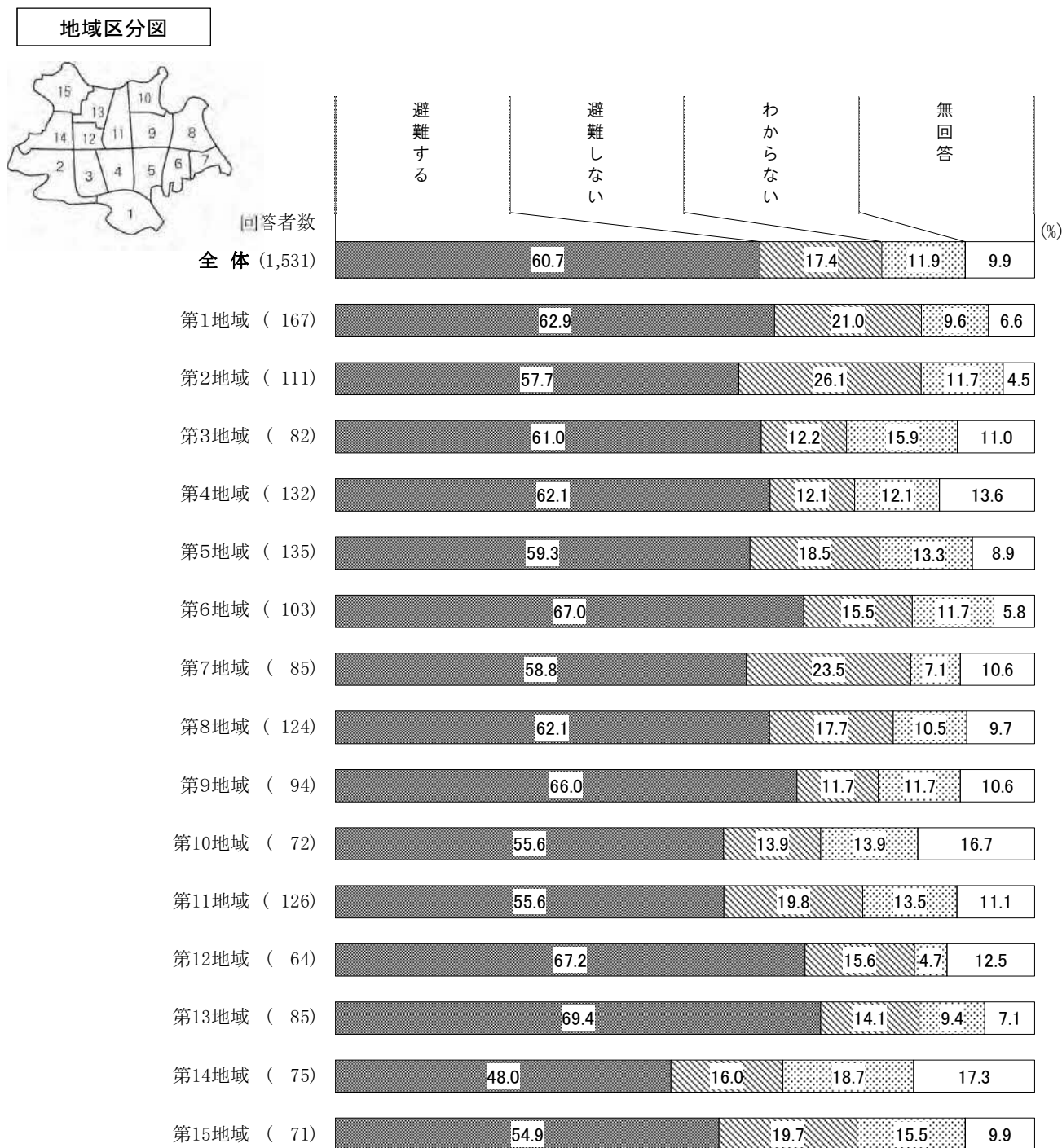
キ クロス集計・地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／〈カ 自宅付近が浸水したとき〉

〈カ 自宅付近が浸水したとき〉について地域別でみると、「避難する」は第13地域で69.4%と最も高く、次いで第12地域(67.2%)となっている。一方、「避難しない」は第2地域で26.1%と最も高く、次いで第7地域(23.5%)となっている。

図3-5-2-⑥ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／〈カ 自宅付近が浸水したとき〉



4 区の情報発信のあり方

-
- (1) 区の情報入手手段
 - (2) 重要と考える区の情報
 - (3) 必要な時に必要とする区の情報入手状況
 - (4) 区の情報得られない理由
 - (5) 区の情報得られない理由の詳細
-

4 区の情報発信のあり方

(1) 区の情報入手手段

問12 あなたは、足立区に関する情報をどのような手段で入手していますか

(〇はあてはまるものすべて)。

■ 「あだち広報」が6割台半ばで最も高く、次いで「トキメキ」が約3割

ア 単純集計・経年比較／区の情報入手手段

(ア) 足立区に関する情報の入手媒体の上位は以下のとおりとなっている。

- ① 「あだち広報」(67.1%)
- ② 「トキメキ」(29.4%)
- ③ 「区のホームページ」(25.7%)
- ④ 「町会・自治会の掲示板・回覧板」(25.1%)
- ⑤ 「テレビ、ラジオ」(20.2%)

(イ) 経年でみると、上位5項目では「トキメキ」(+0.3ポイント)を除く4項目で減少となっており、「区のホームページ」で4.7ポイントの減少、「町会・自治会の掲示板・回覧板」で4.3ポイントの減少となっている。また、「Aメール」でも3.7ポイントの減少となっている。

図4-1-1-① 経年比較／区の情報入手手段

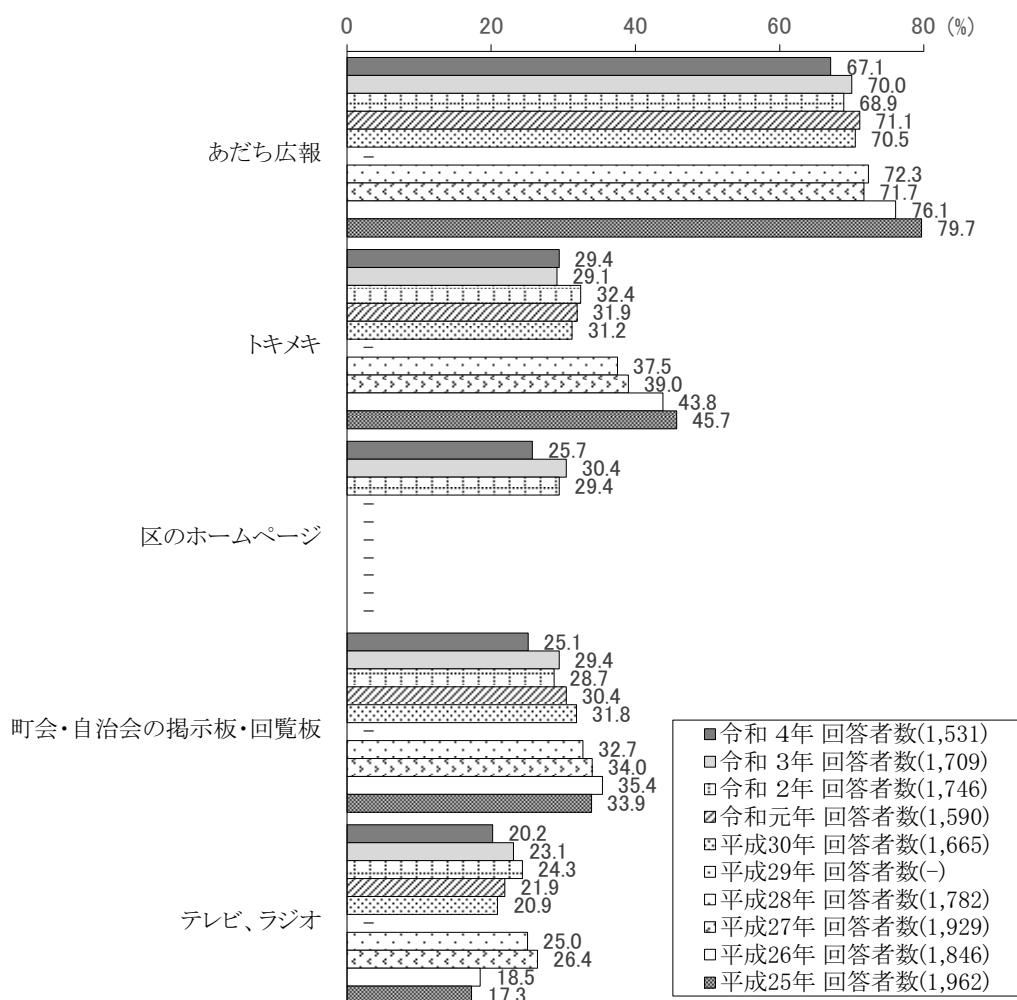


図4-1-1-② 経年比較／区の情報入手手段

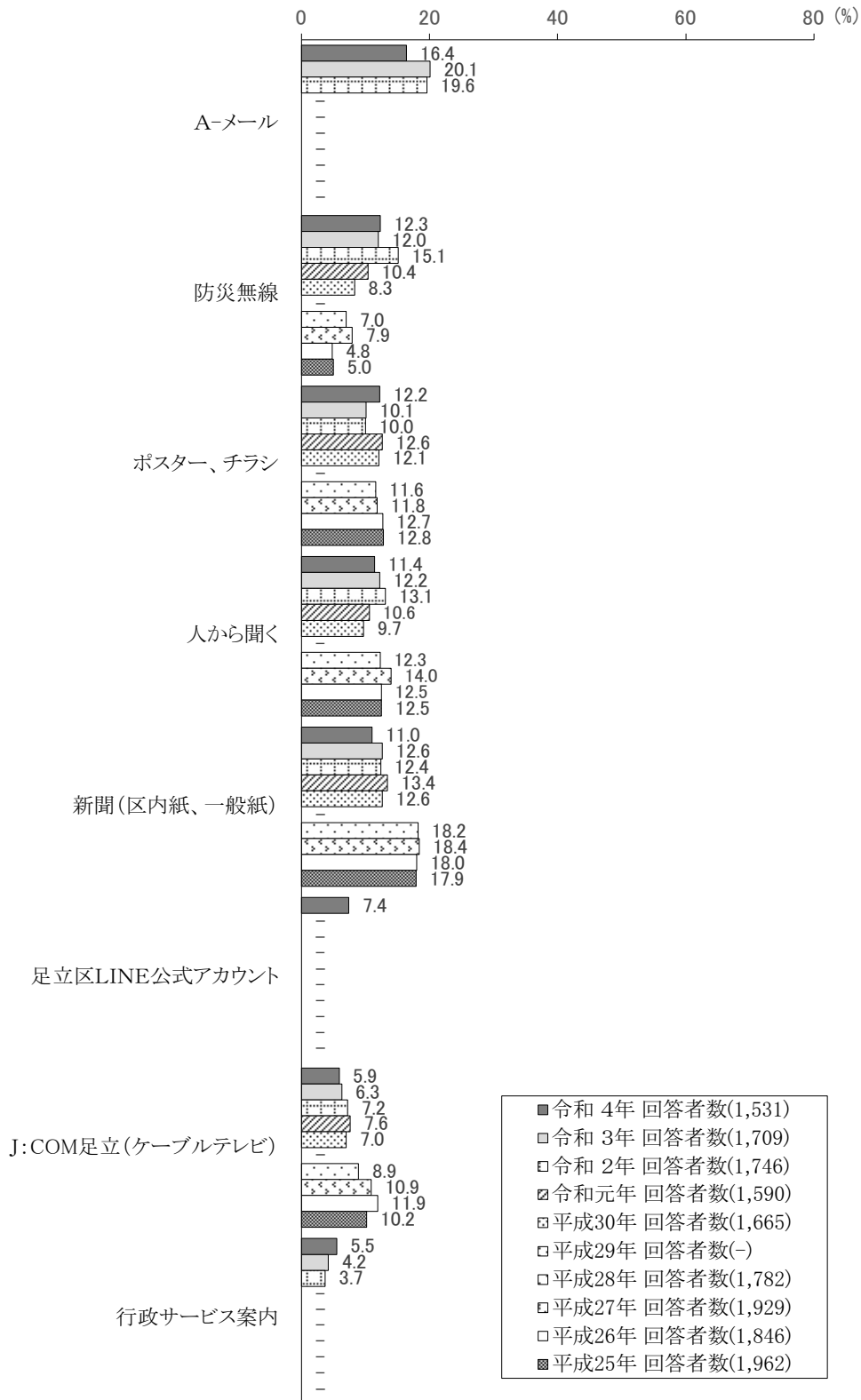
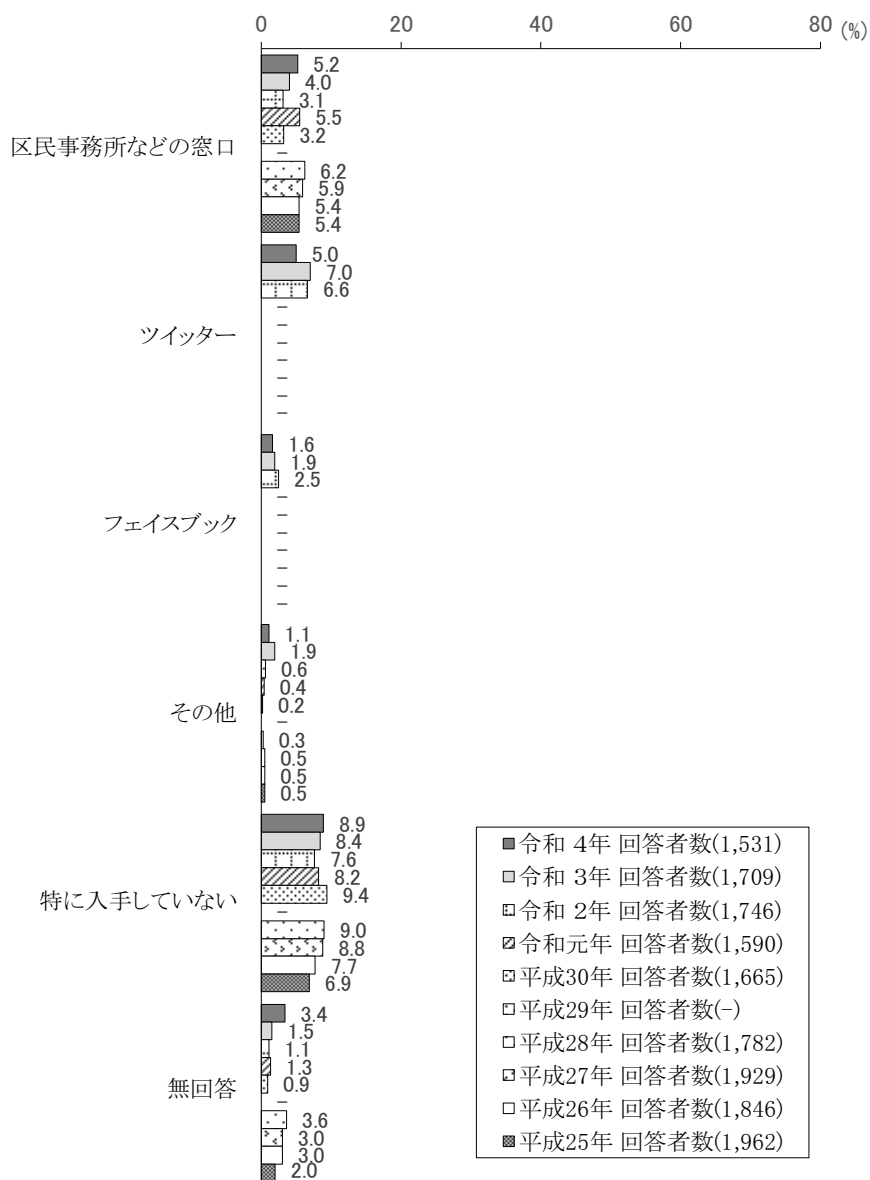


図4-1-1-③ 経年比較／区情報の入手手段



※ 本設問は、平成25年度以降から聴取しているが、平成29年度では聴取していない。

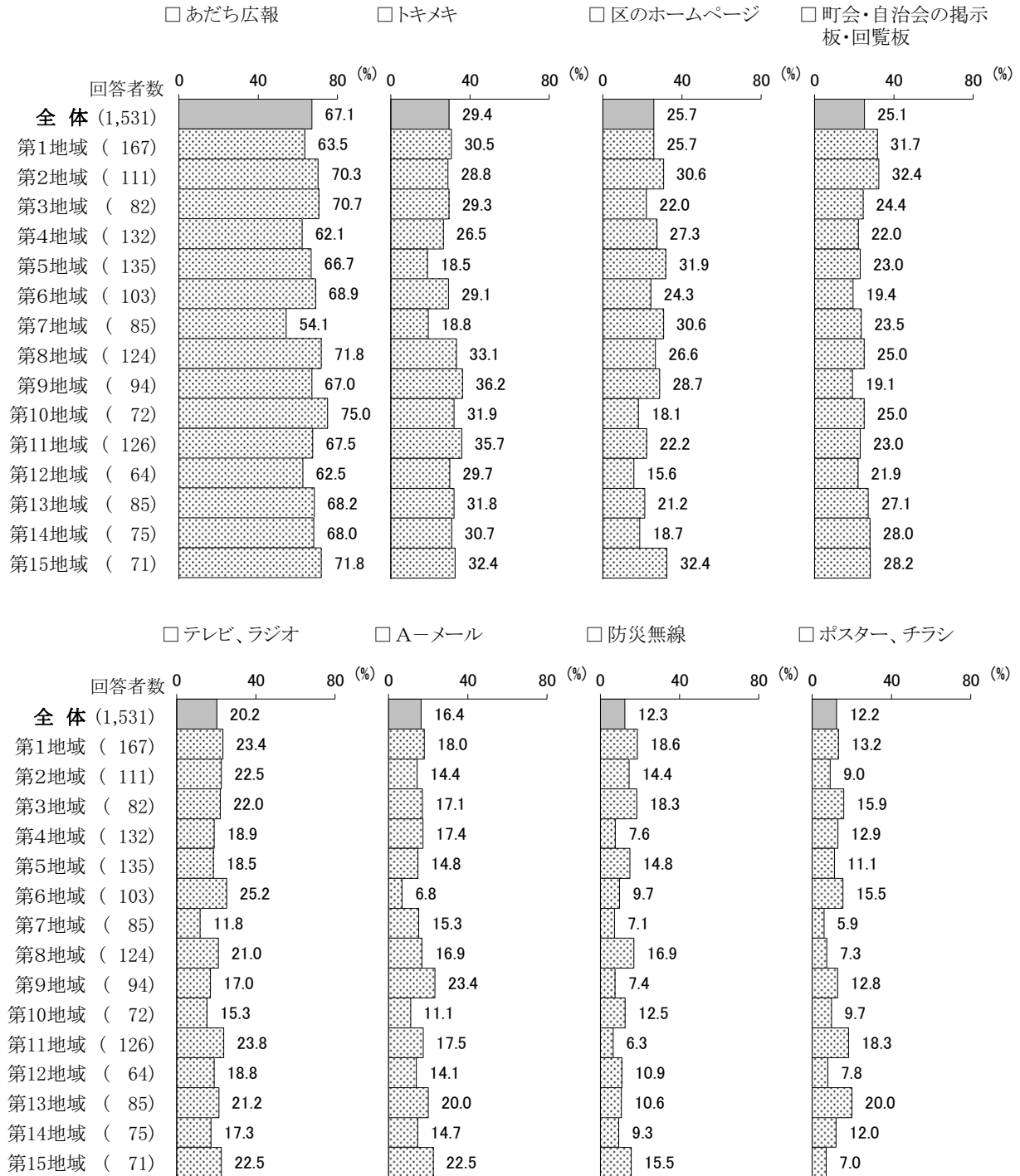
※ 令和元年度まで「インターネット（区のホームページ、Aメール、ツイッター、フェイスブック）」の単独1項目で測定していたものを、令和2年度よりそれぞれの4項目に細分化して聴取している。

※ 「足立区LINE公式アカウント」は今回の令和4年度調査で新設。

イ クロス集計・地域別／区の情報入手手段（上位8項目）

地域別でみると、「あだち広報」は第10地域で75.0%と最も高く、第7地域で54.1%と最も低くなっている。また、「トキメキ」は第9地域と第11地域で3割台半ば、「区のホームページ」は第15地域で3割強、「町会・自治会の掲示板・回覧板」は第2地域で3割強とそれぞれ最も高くなっている。

図4-1-2 地域別／区の情報入手手段／上位8項目

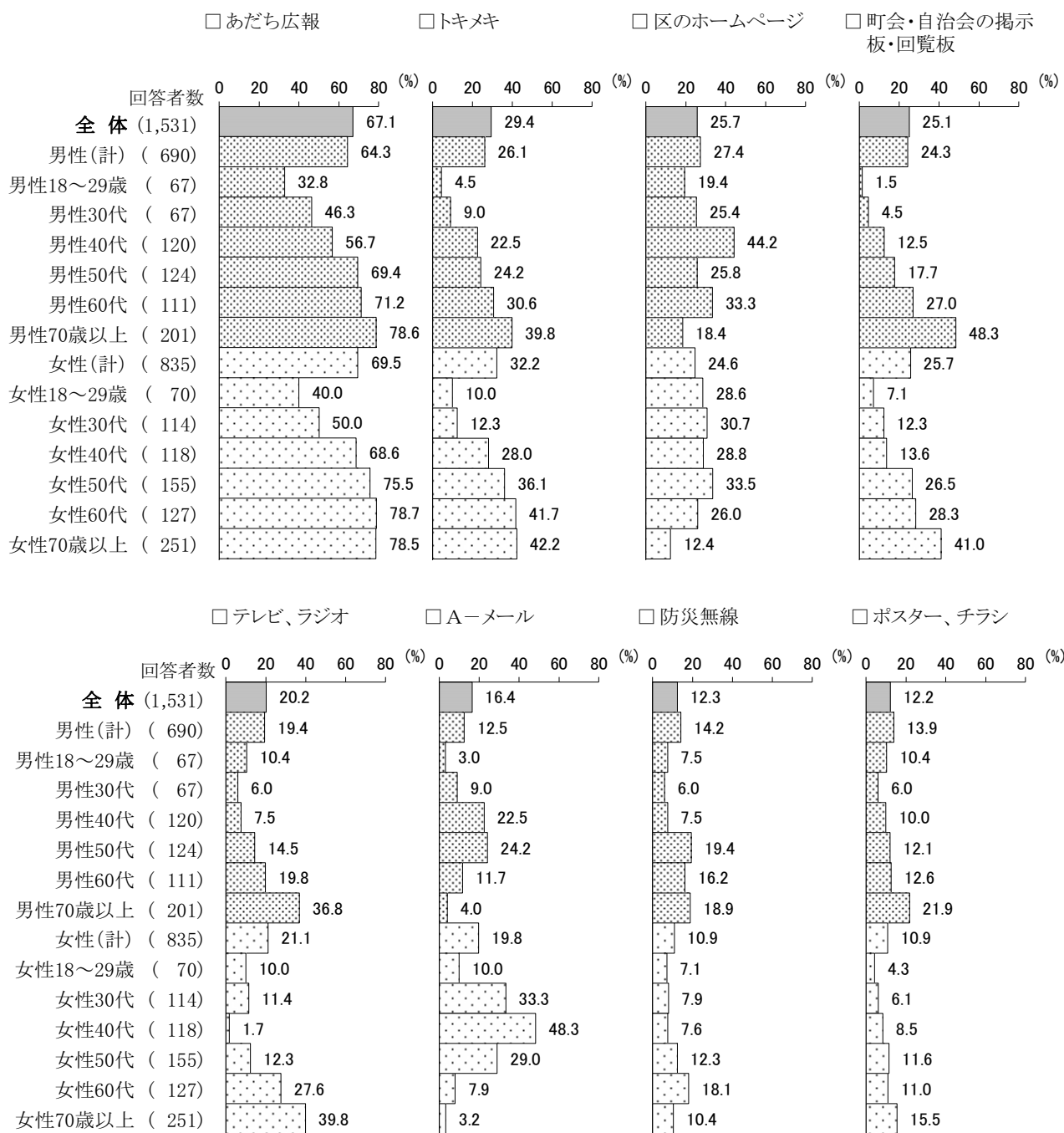


ウ クロス集計・性別、性・年代別／区の情報入手手段（上位8項目）

(ア) 性別で見ると、上位の項目では女性の方が高く、「A-メール」、「トキメキ」、「あだち広報」でそれぞれ5ポイント以上女性の方が男性より高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、「あだち広報」、「トキメキ」、「町会・自治会の掲示板・回覧板」などの紙媒体は男女とも年代が上がるほど割合も高く、年代層での差が大きくなっている。また、「区のホームページ」、「A-メール」などの電子媒体は30～50代の中間年代層で高くなっている。

図4-1-3 性別、性・年代別／区の情報入手手段／上位8項目



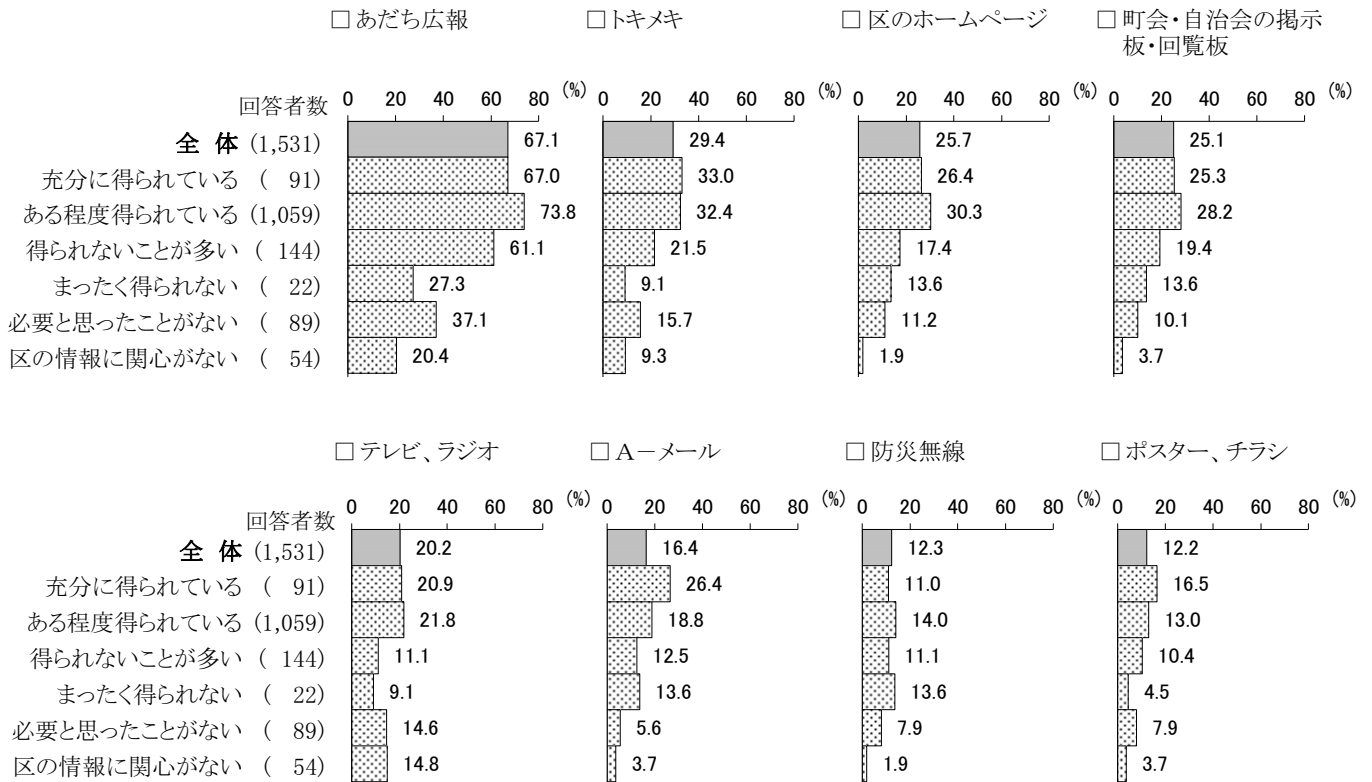
第3章 調査結果の分析 〈 区の情報発信のあり方 〉

エ クロス集計・必要な時に必要とする区の情報入手状況別／区の情報入手手段

(上位8項目)

必要な時に必要とする区の情報入手状況別にみると、「あだち広報」「トキメキ」「区のホームページ」「町会・自治会の掲示板・回覧板」などの上位の項目では、〈十分に得られている〉と〈ある程度得られている〉を合わせた【情報が得られている層】の割合が高くなっている。

図4-1-4 必要な時に必要とする区の情報入手状況別／区の情報入手手段／上位8項目



(2) 重要と考える区の情報

問13 あなたは、区が発信するどのような情報が重要だと考えていますか

(〇はあてはまるものすべて)。

■ “健康や福祉”が6割、“災害や気象”が6割弱

ア 単純集計・経年比較／重要と考える区の情報

(ア) 重要と考える区の情報の上位は、以下のとおりとなっている。

- ① 「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」(60.2%)
- ② 「災害や気象に関する情報」(58.6%)
- ③ 「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」(52.5%)
- ④ 「ごみ・リサイクルなど環境に関する情報」(46.2%)

(イ) 前回の令和3年調査との比較で見ると、上位4位までの順に変動はないが、1位の「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」(-3.6ポイント)と2位の「災害や気象に関する情報」(-4.5ポイント)でそれぞれ3ポイント以上減少している。

図4-2-1-① 経年比較／重要と考える区の情報

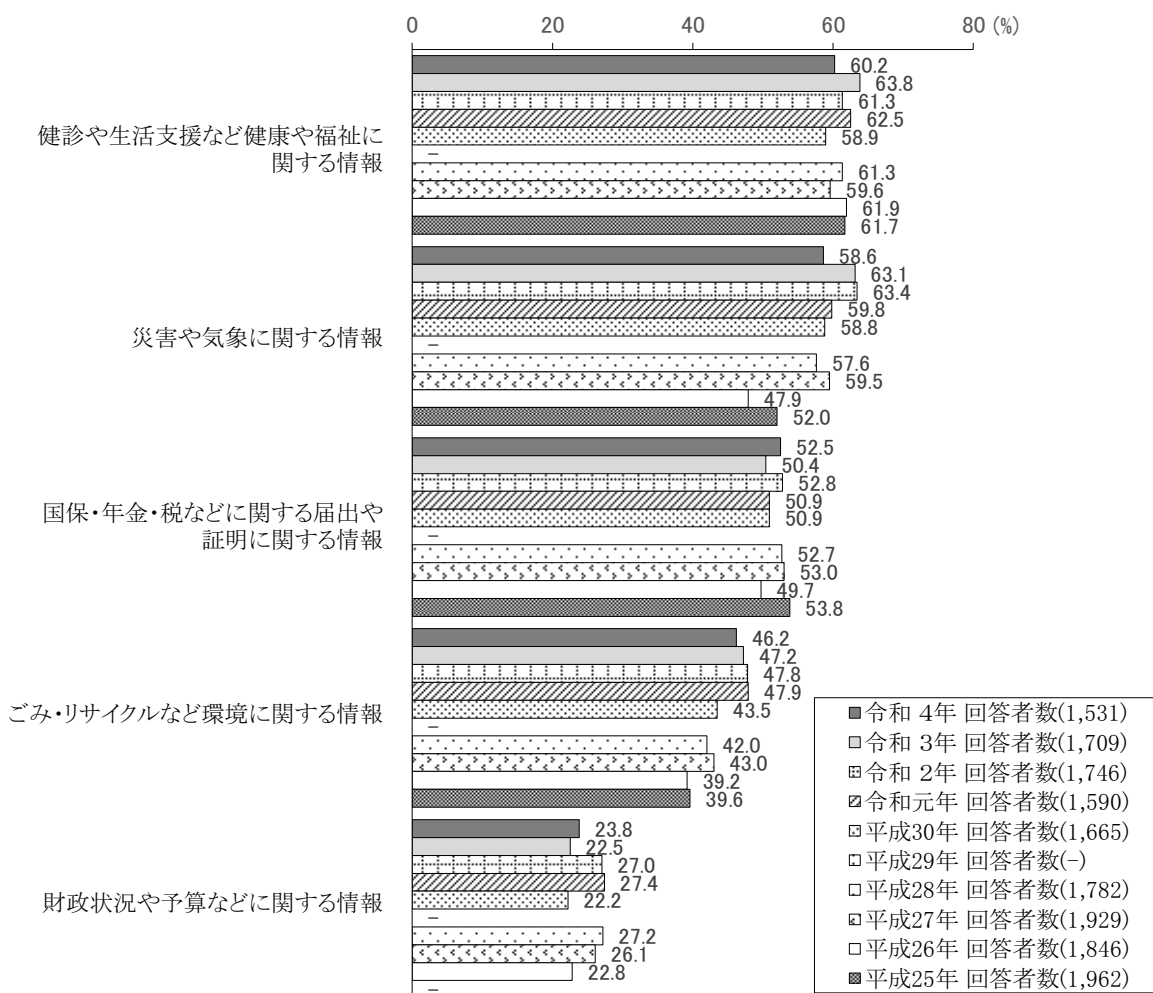
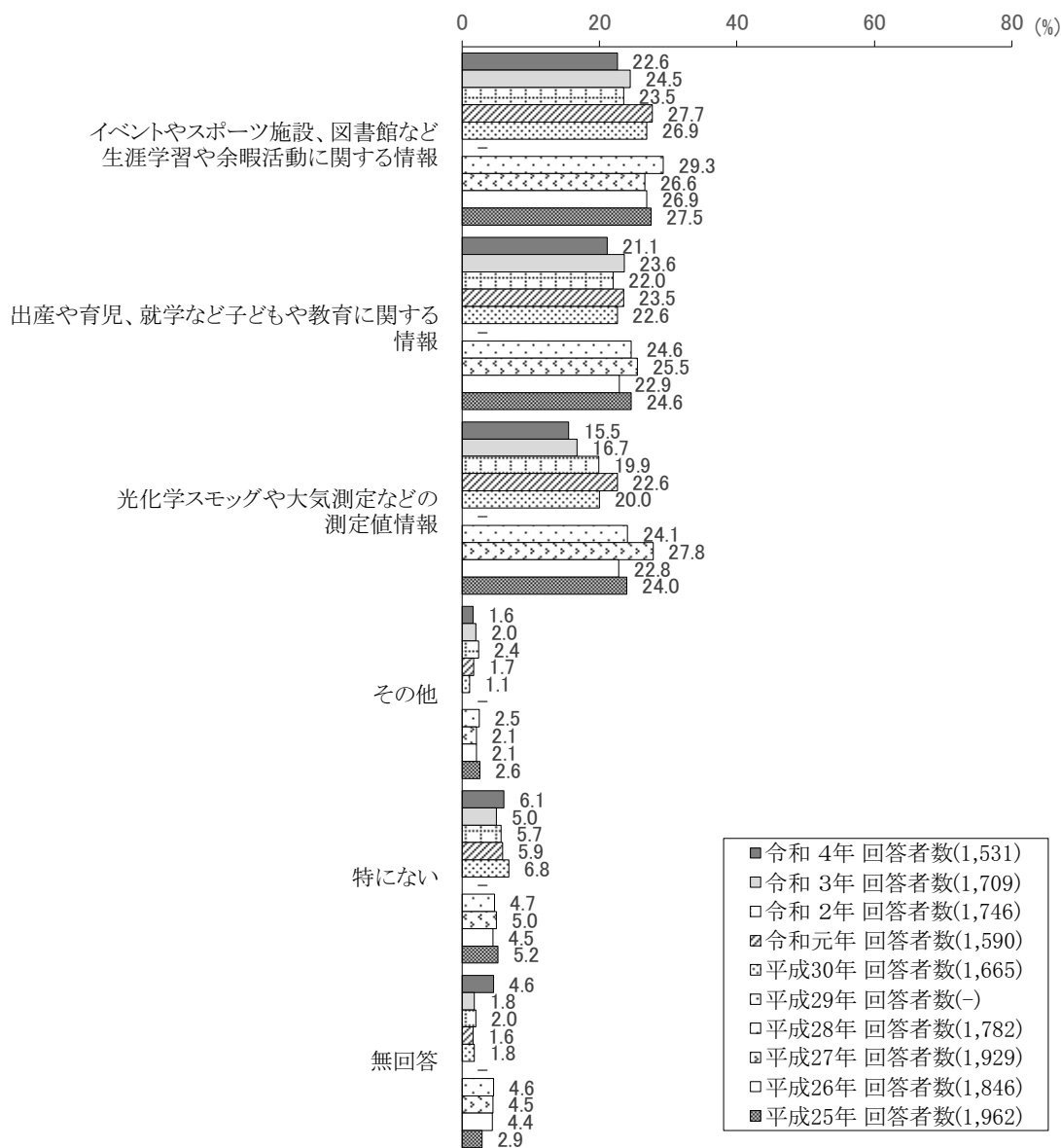


図4-2-1-② 経年比較／重要と考える区の情報



- ※ 本設問は、令和元年度まで「どのような情報が必要だと思いますか」という設問文で聴取していたが、令和2年調査から「どのような情報が重要だと考えていますか」という設問文にかえた。
- ※ 本設問は、平成25年度以降聴取しているが、平成29年度では聴取していない。
- ※ 「財政状況や予算などに関する情報」は平成26年度で新設。

イ クロス集計・性別、性・年代別／重要と考える区の情報（上位8項目）

(ア) 性別で見ると、男性の方が女性よりも高くなっている項目

a 「財政状況や予算などに関する情報」(+6.8ポイント)

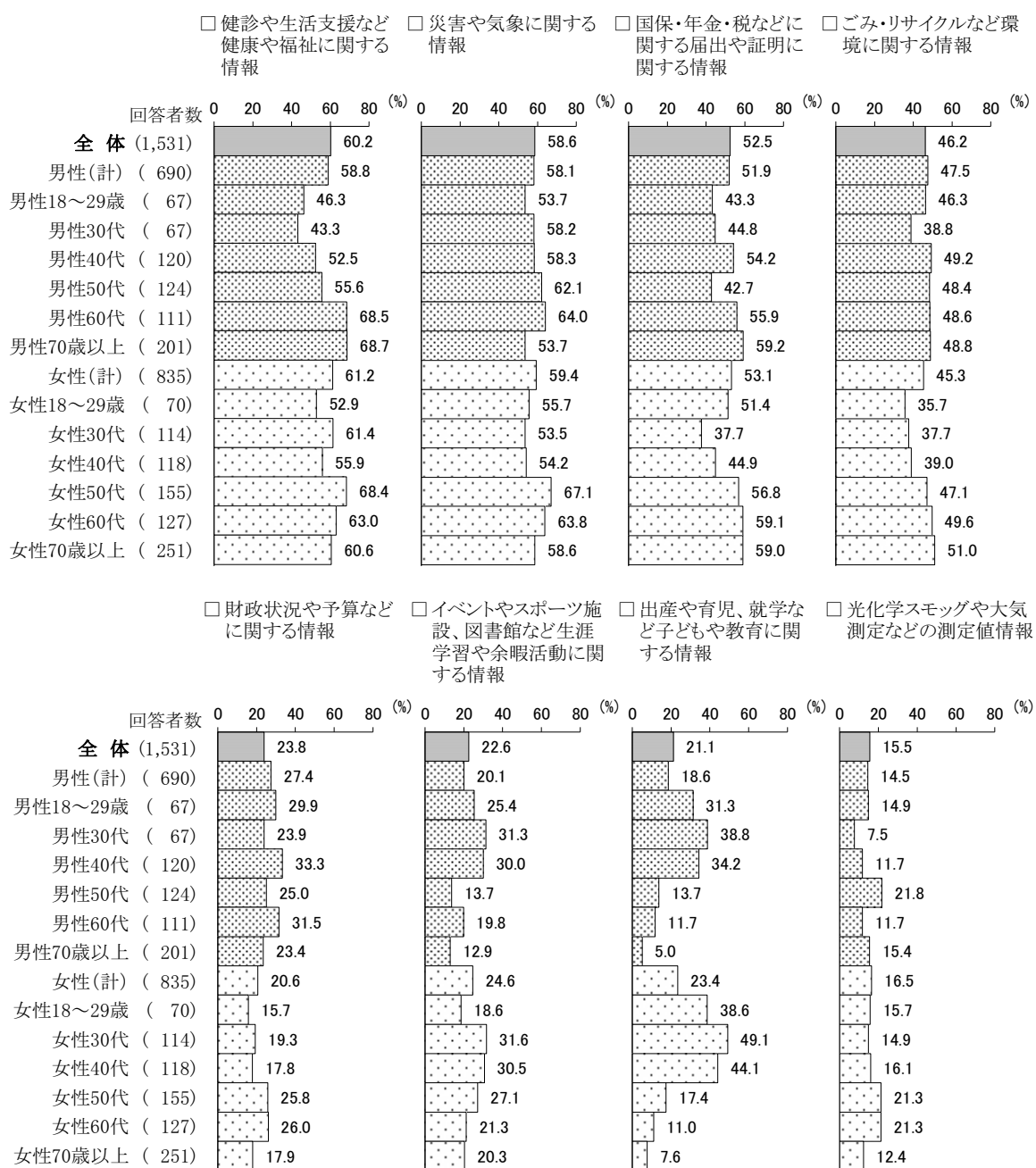
(イ) 性別で見ると、女性の方が男性よりも高くなっている項目

a 「出産や育児、就学など子どもや教育に関する情報」(+4.8ポイント)

b 「イベントやスポーツ施設、図書館など生涯学習や余暇活動に関する情報」(+4.5ポイント)

(ウ) 性・年代別で見ると、男女ともに「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」と「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」はおおむね年齢が上がるほど割合も高くなる傾向がみられる。また、「災害や気象に関する情報」は女性の50代で67.1%と最も高く、「ごみ・リサイクルなど環境に関する情報」は女性の70歳以上で51.0%と最も高くなっている。

図4-2-2 性別、性・年代別／重要と考える区の情報／上位8項目

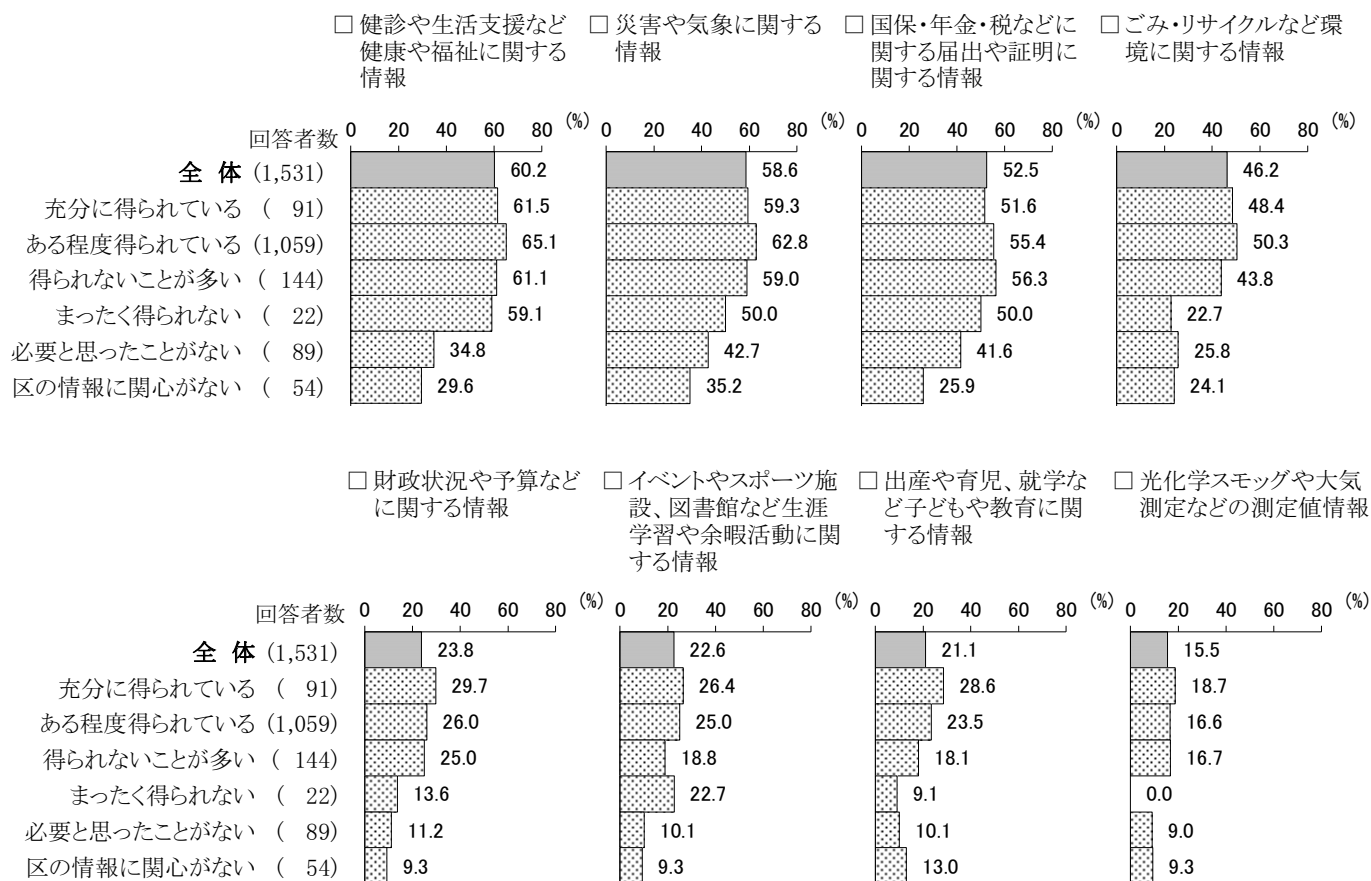


ウ クロス集計・必要な時に必要とする区の情報入手状況別／重要と考える区の情報

(上位8項目)

必要な時に必要とする区の情報入手状況別に上位項目をみると、〈まったく得られない〉はサンプル数が少ないため参考程度となるため、〈十分に得られている〉〈ある程度得られている〉〈得られないことが多い〉の3項目でみると、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」、「災害や気象に関する情報」、「ごみ・リサイクルなど環境に関する情報」では〈ある程度得られている〉が最も高く、「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」では〈得られないことが多い〉が最も高く、「財政状況や予算などに関する情報」や「出産や育児、就学など子どもや教育に関する情報」では〈十分に得られている〉が最も高くなっている。

図4-2-3 必要な時に必要とする区の情報入手状況別／重要と考える区の情報／上位8項目



(3) 必要な時に必要とする区の情報入手状況

問14 あなたは、必要な時に必要とする区の情報を得られていますか（○は1つだけ）。

■ 必要なときに【得られている】は7割台半ば、【得られていない】は1割

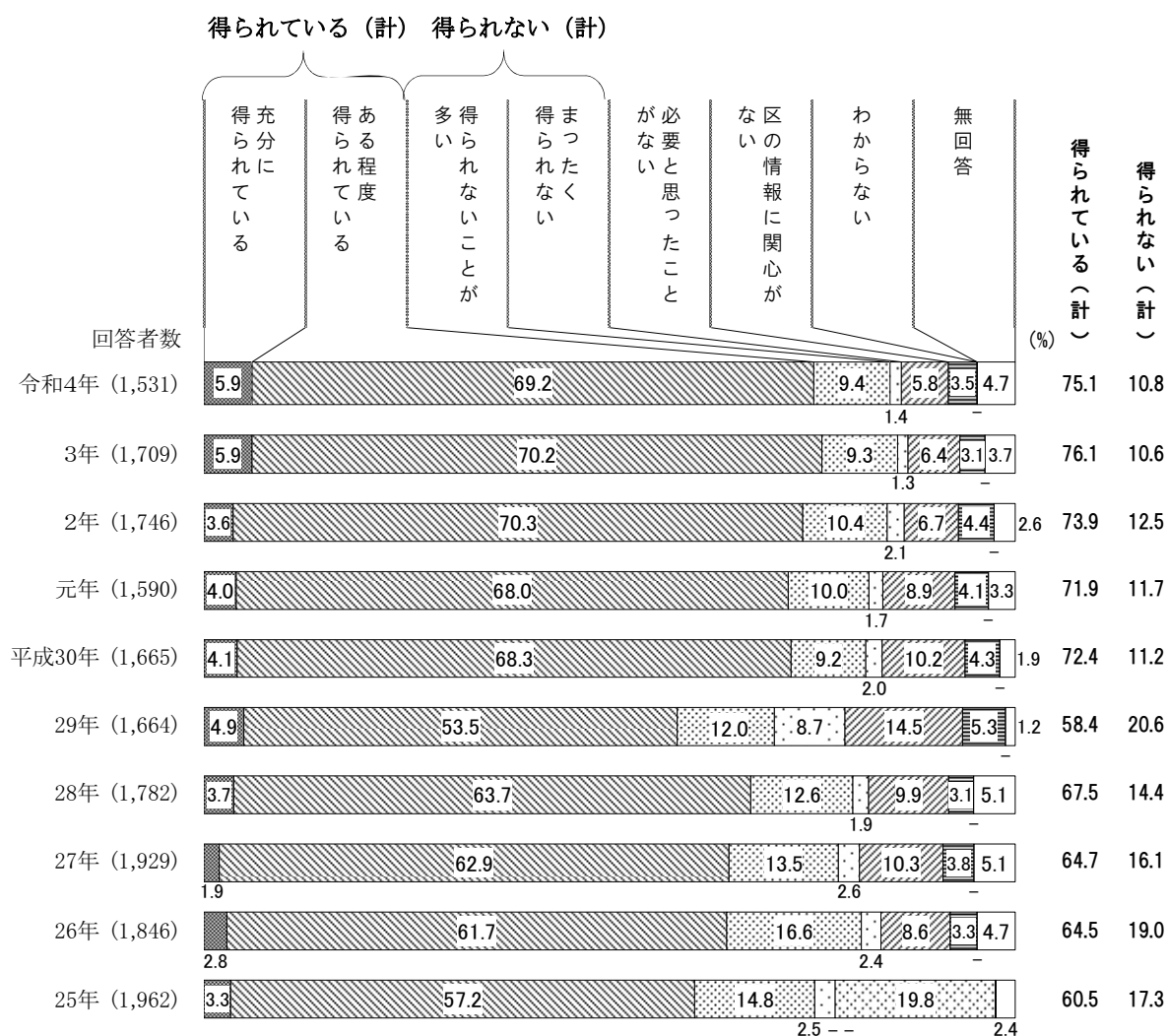
ア 単純集計・経年比較／必要な時に必要とする区の情報入手状況

(ア) 必要な時に必要とする情報を得られているかについては、「十分に得られている」が5.9%で、これに「ある程度得られている」の69.2%を合わせた【得られている】は75.1%となっている。

(イ) 必要な時に必要とする情報が「得られないことが多い」は9.4%、「まったく得られない」は1.4%で、これらを合わせた【得られない】は10.8%となっている。

(ウ) 経年でみると、前回の令和3年調査から特に大きな違いはみられない。

図4-3-1 経年比較／必要な時に必要とする区の情報入手状況



※ 「必要と思ったことがない」「区の情報に関心がない」は、平成26年度新設。

※ 「わからない」は、平成26年度から削除。

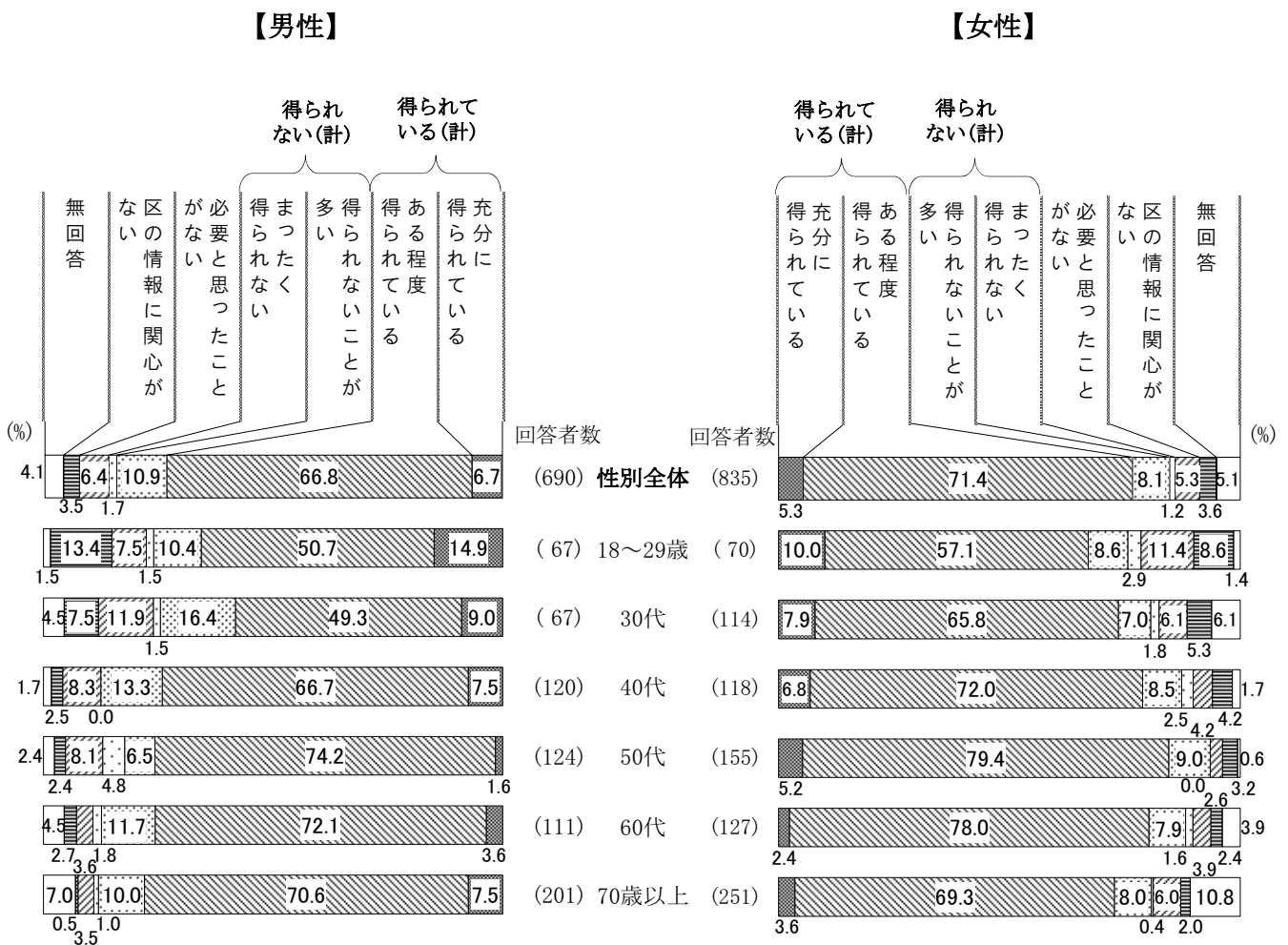
※ 平成29年調査では、本設問の前の問である〈区の情報入手手段〉および〈必要とする区の情報〉を聴取していないため、経年比較では平成29年度の結果との比較は行わない。

イ クロス集計・性別、性・年代別／必要な時に必要とする区の情報入手状況

(ア) 性別でみると、【得られている】は女性 (76.6%) の方が男性 (73.5%) より3.1ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【得られている】は、女性の50代が84.5%で最も高く、次いで女性の60代 (80.3%) となっている。一方、「区の情報に関心がない」は男性の18～29歳 (13.4%) で1割台半ば近くと他の性・年代層に比べて特に高くなっている。

図4-3-2 性別、性・年代別／必要な時に必要とする区の情報入手状況



(4) 区の情報得られない理由

問14で「3 得られないことが多い」または「4 まったく得られない」とお答えの方に
問14-1 主にどのような理由からですか（○は1つだけ）。

■ “情報が探しにくい”が3割台半ば、“情報の探し方がわからない”が2割台半ば近く

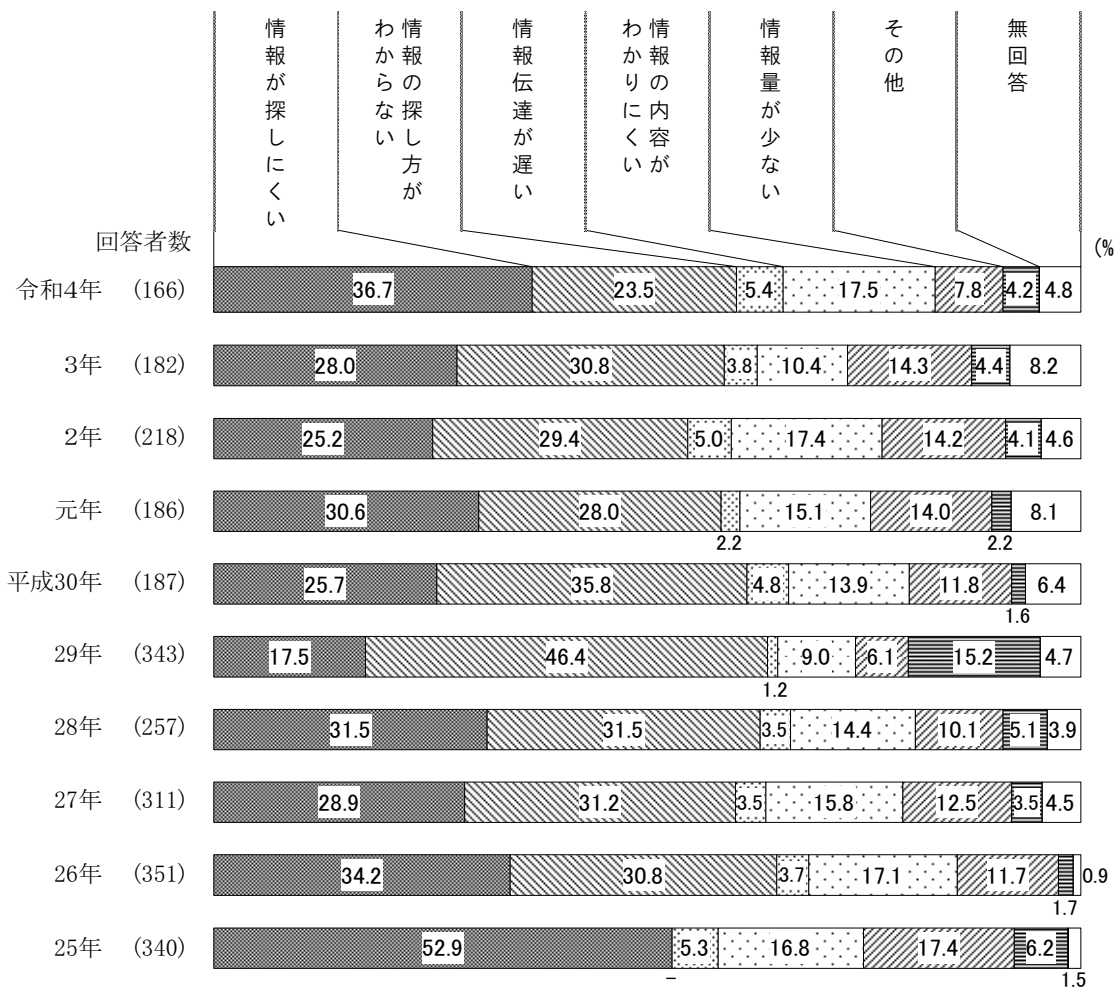
ア 単純集計・経年比較／区の情報得られない理由

(ア) 区の情報【得られない】という人にその主な理由を聞いたところ、割合が高い順に以下のとおりとなっている。

- ① 「情報が探しにくい」(36.7%)
- ② 「情報の探し方がわからない」(23.5%)
- ③ 「情報の内容がわかりにくい」(17.5%)

(イ) 前回の令和3年調査との比較でみると、「情報が探しにくい」が8.7ポイント増加し、「情報の内容がわかりにくい」も7.1ポイント増加している。

図4-4-1 経年比較／区の情報得られない理由



※ 「情報の探し方がわからない」は、平成26年度新設。

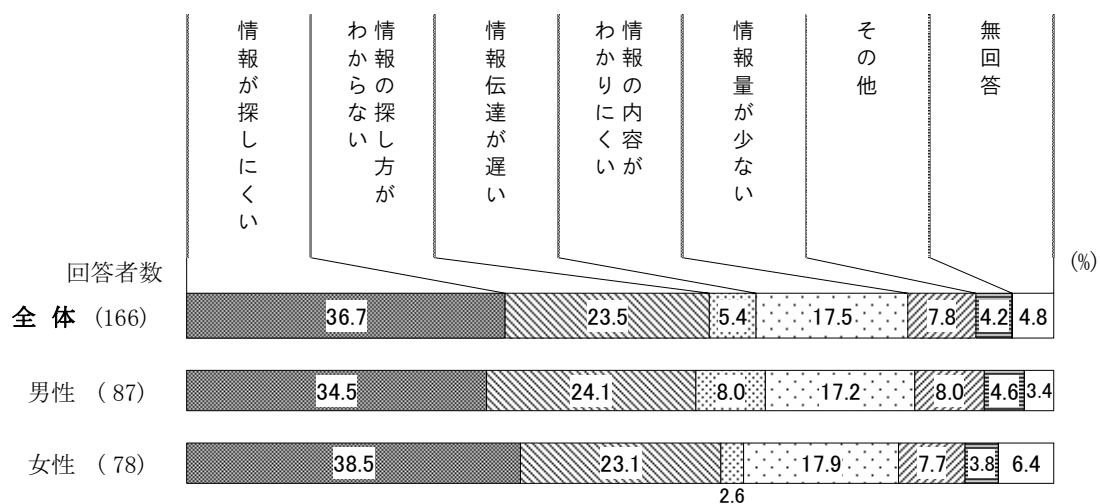
※ 平成29年調査では、本設問の前問である〈区の情報入手手段〉および〈必要とする区の情報〉を聴取していないため、経年比較では平成29年度の結果との比較は行わない。

第3章 調査結果の分析 〈 区の情報発信のあり方 〉

イ クロス集計・性別／区の情報得られない理由

性別で見ると、「情報が探しにくい」は女性（38.5%）の方が男性（34.5%）より4.0ポイント高く、逆に「情報伝達が遅い」は男性（8.0%）の方が女性（2.6%）より5.4ポイント高くなっている。

図4-4-2 性別／区の情報得られない理由



(5) 区の情報得られない理由の詳細

問14で「3 得られないことが多い」または「4 まったく得られない」とお答えの方に
問14-2 問14-1の回答のように思われるのは、どうしてですか。理由をお書きください。

区の情報得られない理由として寄せられた自由回答の内容を「あだち広報」「区のホームページ」「その他」の3項目ごとに、主な内容と件数をまとめてみた。

あだち広報 (69名のご回答)	件数
読みづらい、わかりづらいから	21
見る時間がない・見る機会が少ないから	14
自分にとって必要ない情報が多いから	10
そもそも読んでいない	6
情報が多すぎる	5
内容が少ない・薄いから	3
情報の提供が遅い	3
その他	9

区ホームページ (58名のご回答)	件数
探しにくい、わかりづらいから	27
(あまり) 見ないから	16
操作方法がわからないから	4
スマホ・PCを使わない・所有していない	4
情報が少ない・欲しい情報がないから	3
区のホームページを知らなかった	2
その他	3

その他 (24名のご回答)	件数
情報の提供が少ない・わかりにくい	7
情報の入手方法がわからない	4
放送が聞き取れないから	2
住民の交流が少ないから	2
外国人のため情報が得にくい	2
その他	7

5 健康

-
- (1) 区のキャッチフレーズの認知状況
 - (2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識
 - (3) 野菜から食べ始めることの実践状況
 - (4) 1日野菜350g以上の摂取
 - (5) 体調や習慣
 - (6) 健康維持のために実行している、心がけているもの
 - (7) 自身の健康状態について
 - (8) がん検診の受診状況
 - (9) 受けたがん検診の種類
 - (10) かかりつけ歯科医院
 - (11) 歯科医院で治療のほかに受けている内容
 - (12) 感染症予防としての手洗いの実践状況
 - (13) 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況
-

5 健康

(1) 区のキャッチフレーズの認知状況

問15 あなたは、「あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～(※)」を知っていますか
(○は1つだけ)。

※ 糖尿病予防や糖尿病の悪化防止のために「野菜から食べる」「野菜をよくかんで食べる」
ことを推進する足立区のキャッチフレーズです。

■【知っている】は4割強で最高値を更新

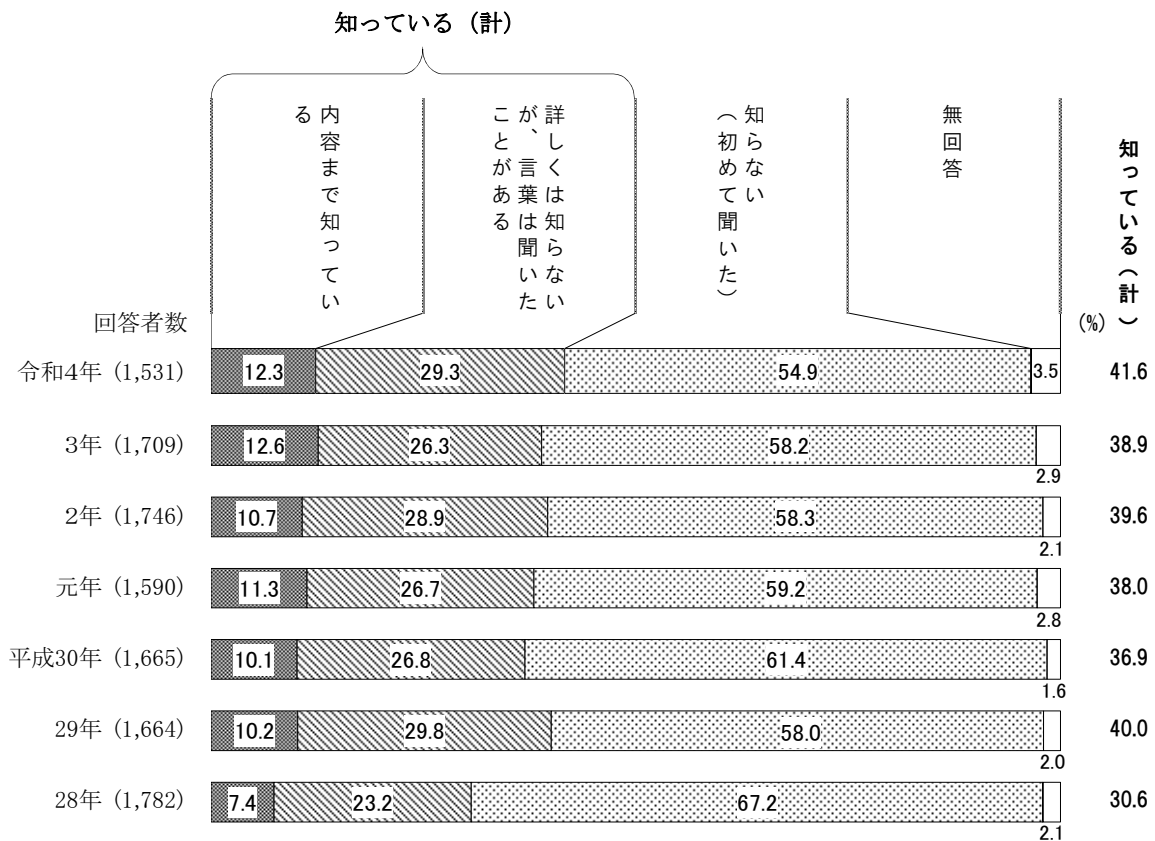
ア 単純集計・経年比較／区のキャッチフレーズの認知状況

(ア) 区のキャッチフレーズ『あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、
「内容まで知っている」は12.3%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」(29.3%)を合わせた【知っている】は41.6%となっている。

(イ) 区のキャッチフレーズを「知らない(初めて聞いた)」は54.9%となっている。

(ウ) 経年でみると、【知っている】は、前回調査から2.7ポイント増加し、平成29年調査の40.0%
を上回る割合となった。

図5-1-1 経年比較／区のキャッチフレーズの認知状況

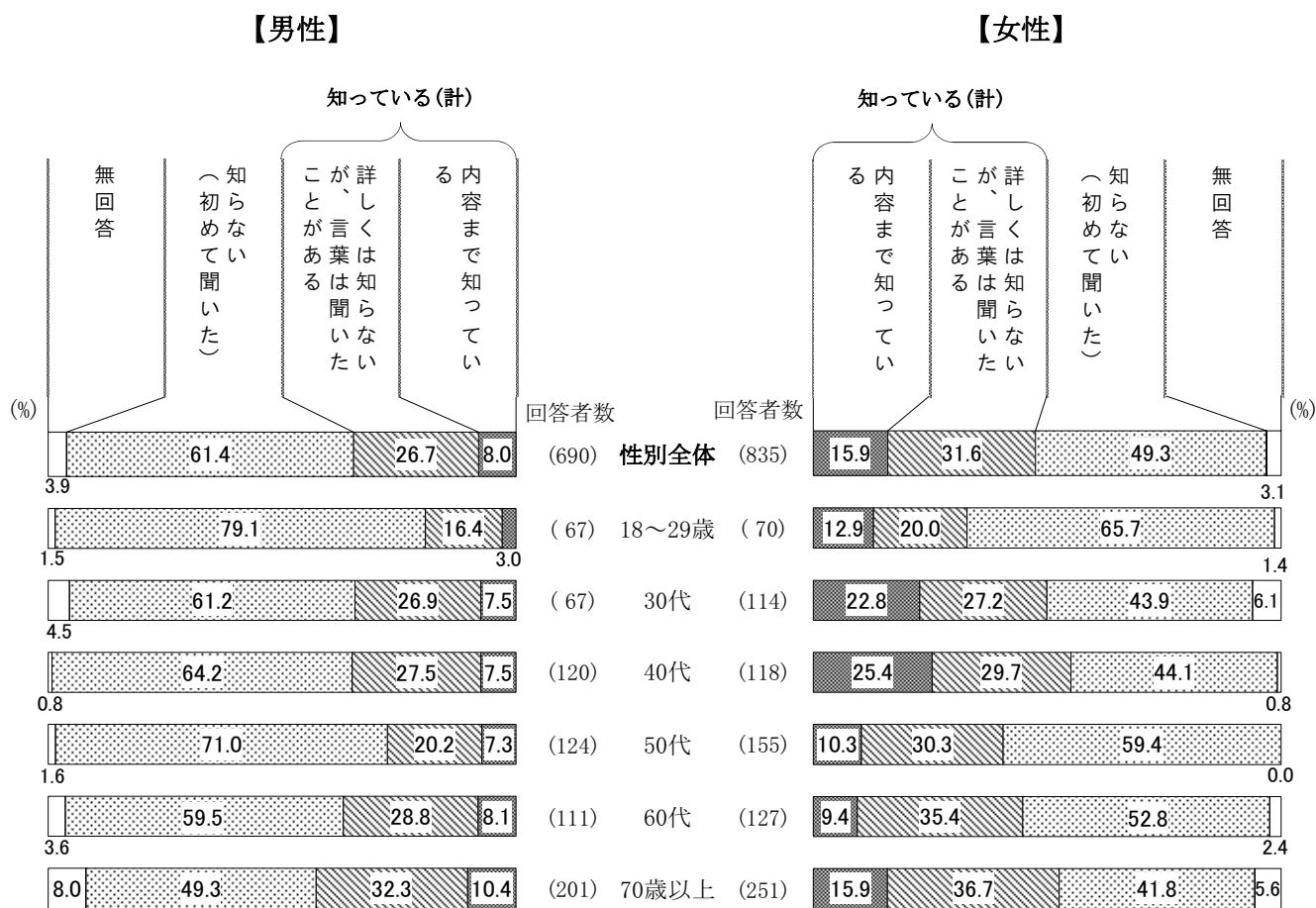


イ クロス集計・性別、性・年代別／キャッチフレーズの認知状況

(ア) 性別で見ると、【知っている】は女性（47.5%）の方が男性（34.6%）より12.9ポイント大きく上回っている。

(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は女性の40代で55.1%と最も高く、次いで、女性の70歳以上で5割強となっている。また、男性の18～29歳で19.4%と他の性・年代層に比べて特に低くなっている。

図5-1-2 性別、性・年代別／区のキャッチフレーズの認知状況



(2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識

問16 初期の糖尿病には自覚症状がありませんが、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいの中で、あなたが知っているものはどれですか（〇はあてはまるものすべて）。

■「失明」が6割、「足の壊疽（えそ）」が6割弱

ア 単純集計・経年比較／糖尿病の進行による病気や障がいの認識

(ア) 糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいの中で“知っているもの”を回答してもらった結果の上位は以下のとおりとなっている。

- ①「失明」(60.2%)
- ②「足の壊疽（えそ）」(58.2%)
- ③「人工透析」(46.2%)
- ④「口の渇き」(45.5%)
- ⑤「腎不全」(34.7%)

(イ) 前回調査と比較してみると、上位5項目の順位に変動はなく、割合でも特に大きな違いはみられない。

図5-2-1-① 経年比較／糖尿病の進行による病気や障がいの認識

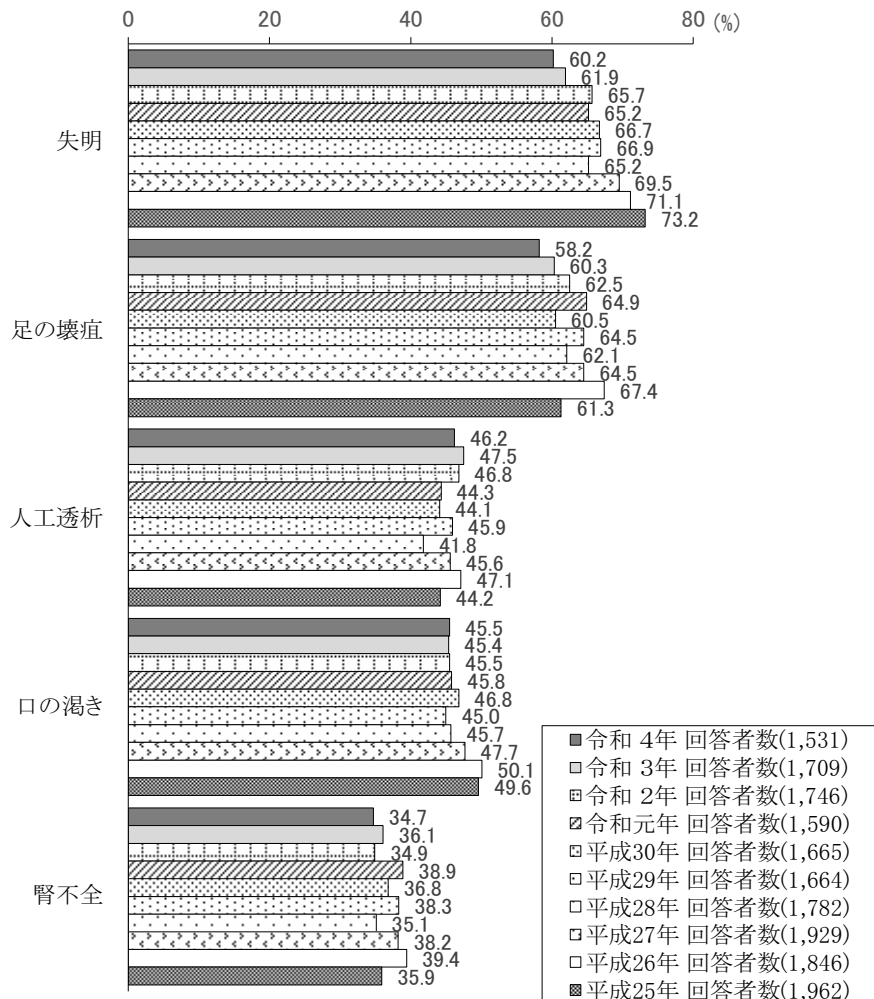
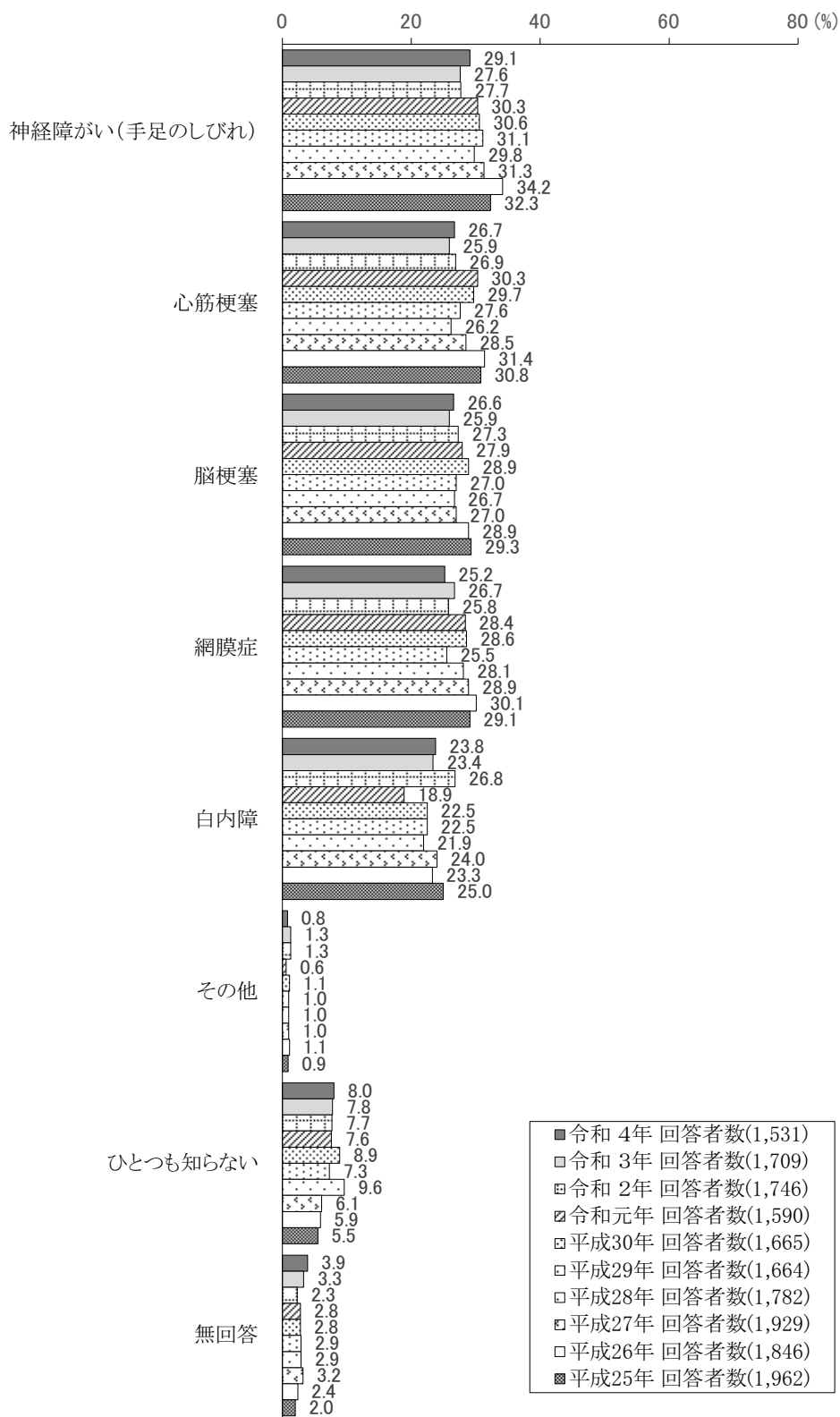


図5-2-1-② 経年比較／糖尿病の進行による病気や障がいの認識

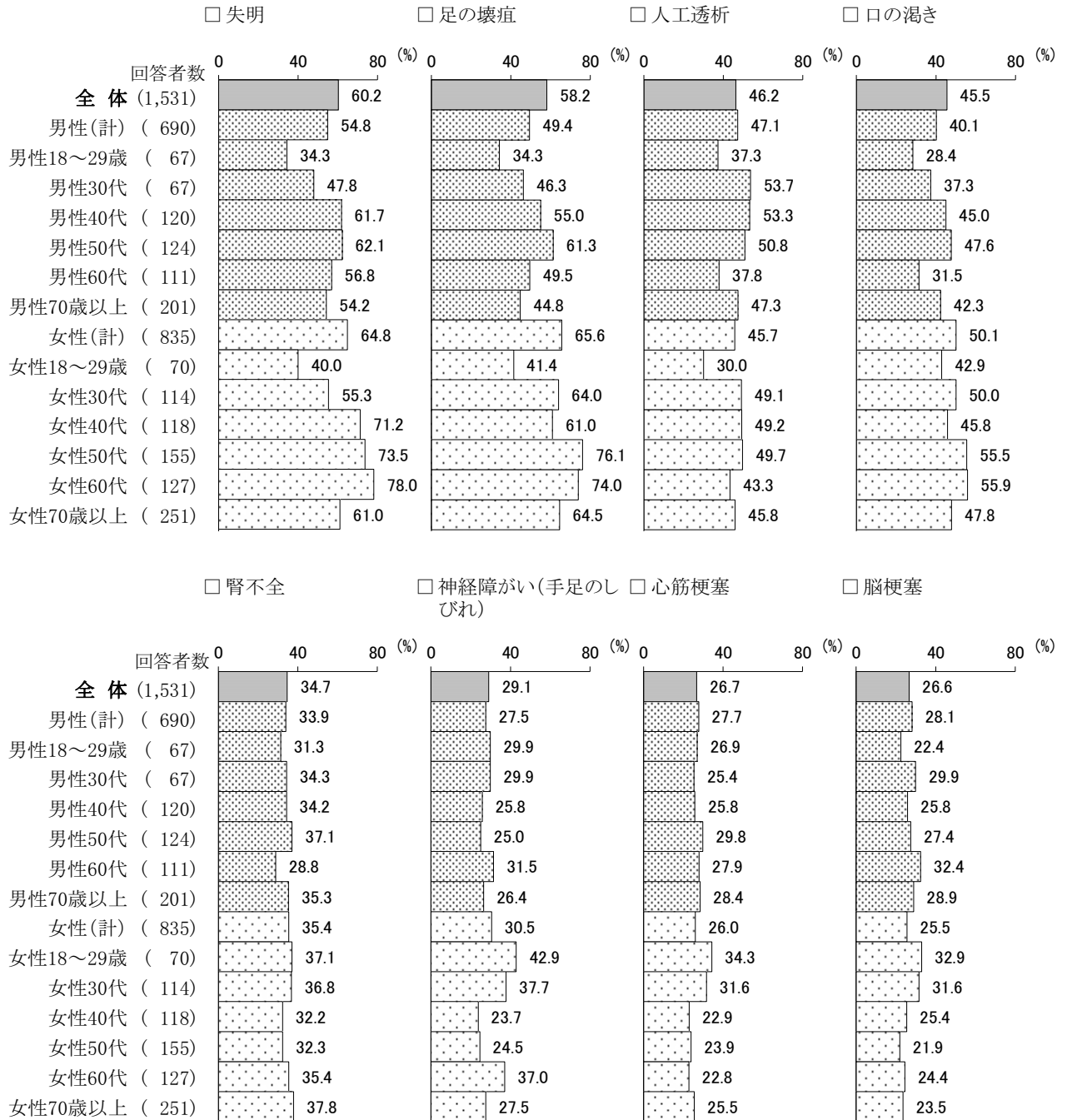


※「ひとつも知らない」は、令和元年調査まで「わからない」で聴取していた。

イ クロス集計・性別、性・年代別／糖尿病の進行による病気や障がいの認識（上位8項目）

- (ア) 性別で見ると、「足の壊疽」で女性の方が16.2ポイント高いのをはじめ、「口の渇き」と「失明」(各10.0ポイント)など上位の項目では女性の方が男性より高くなっている。
- (イ) 性・年代別で見ると、「失明」は女性の40～60代で7割台、「足の壊疽」は女性の50～60代で7割台、「人工透析」は男性の30～40代で5割台半ば近くと高い割合となっている。

図5-2-2 性別、性・年代別／糖尿病の進行による病気や障がいの認識／上位8項目



(3) 野菜から食べ始めることの実践状況

問17 野菜から食べることは、糖尿病予防に効果がありますが、あなたは、野菜から食べていますか（○は1つだけ）。

※ 糖尿病が進行して起こる様々な合併症は、食後に血糖値が急上昇し、血管を傷つけることが原因で起こります。このような血糖値の急上昇を抑えるためには、食事の最初に野菜をよくかんで食べるのが効果的です。

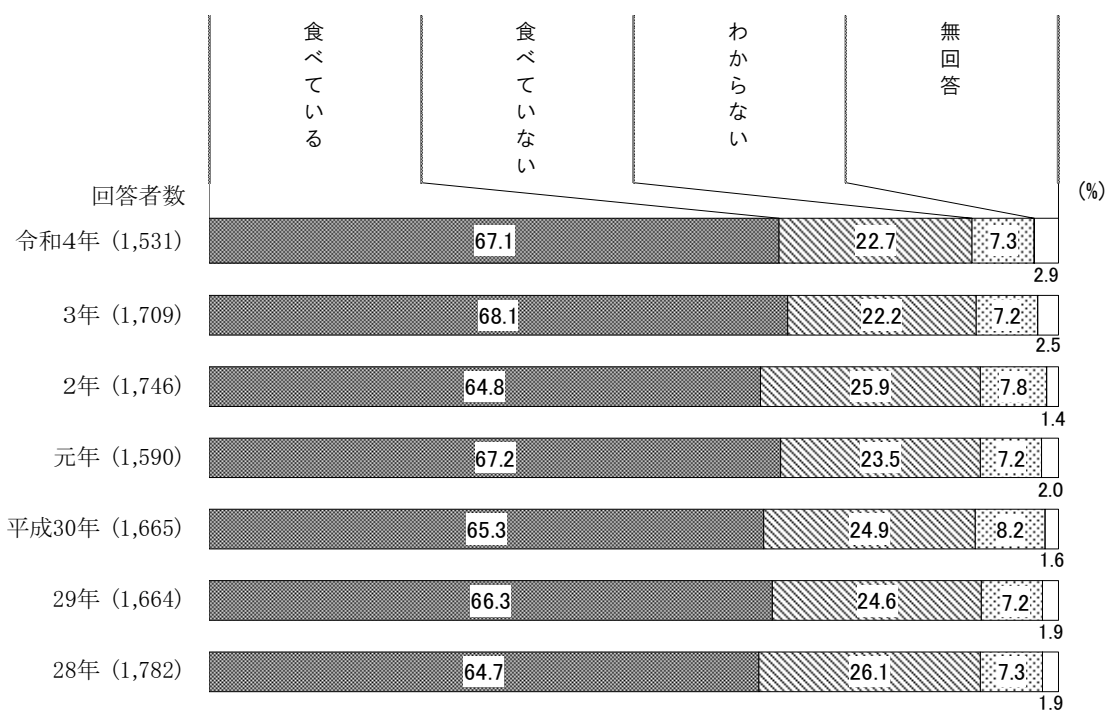
■ 「食べている」は6割台半ばを超えて変わらず

ア 単純集計・経年比較／野菜から食べ始めることの実践状況

(ア) 野菜から「食べている」は67.1%を占めており、「食べていない」は22.7%となっている。

(イ) 経年でみると、前回の令和3年調査に比べて特に大きな違いはみられない。

図5-3-1 経年比較／野菜から食べ始めることの実践状況

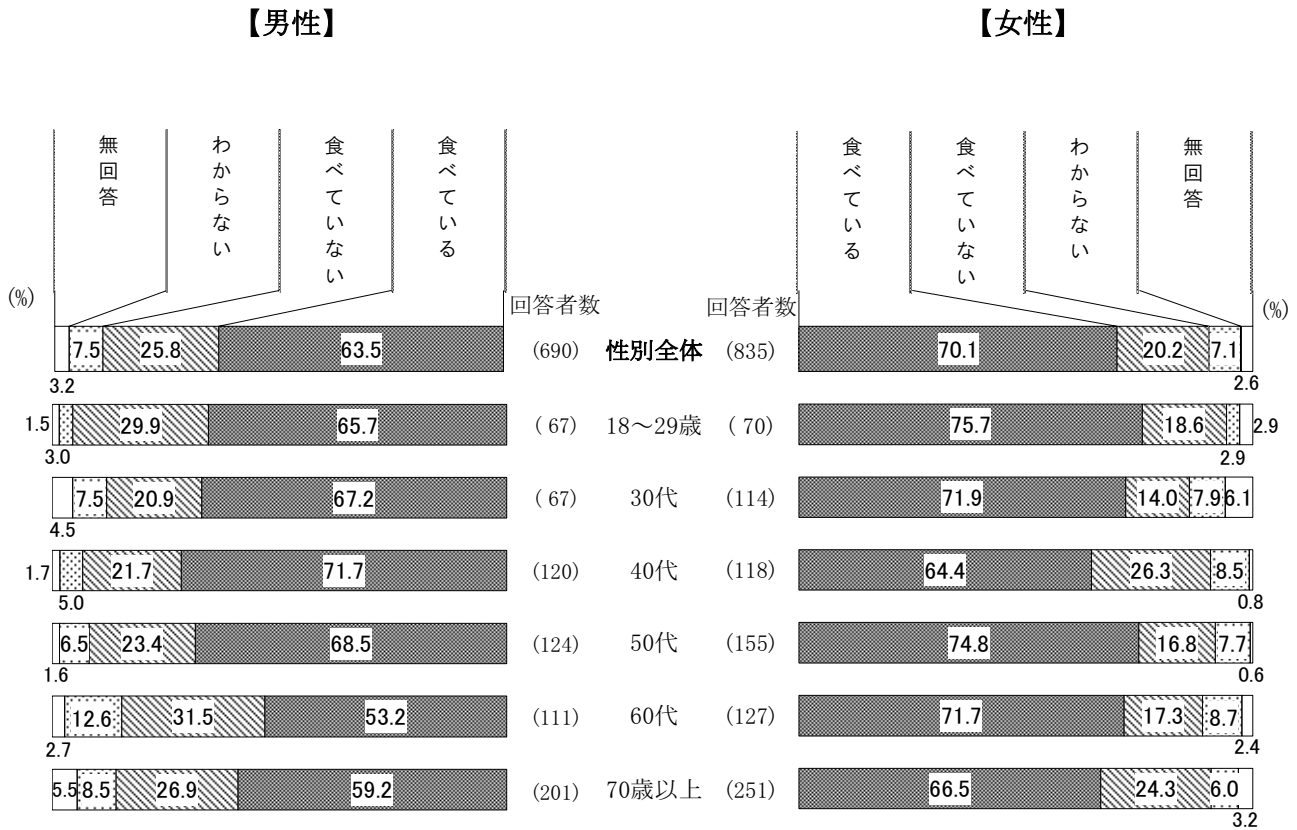


イ クロス集計・性別、性・年代別／野菜から食べ始めることの実践状況

(ア) 性別で見ると、「食べている」は女性（70.1%）の方が男性（63.5%）より6.6ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、「食べている」は、女性の18～29歳で75.7%と最も高く、次いで女性の50代が74.8%となっている。一方、男性の60代と70歳以上で5割台と低くなっている。

図5-3-2 性別、性・年代別／野菜から食べ始めることの実践状況



(4) 1日野菜350g以上の摂取

問18 1日の野菜摂取量の目標は350g以上（調理前の生の状態）です。あなたは、毎日350g以上の野菜が摂取できていますか（○は1つだけ）。

※ 野菜350gとは、1例をあげると、レタス1枚、きゅうり1本、プチトマト2個、にんじん1/2本、たまねぎ1/2個の合計に相当する量です。

■【できている】が4割強で、【できていない】（5割）に及ばず

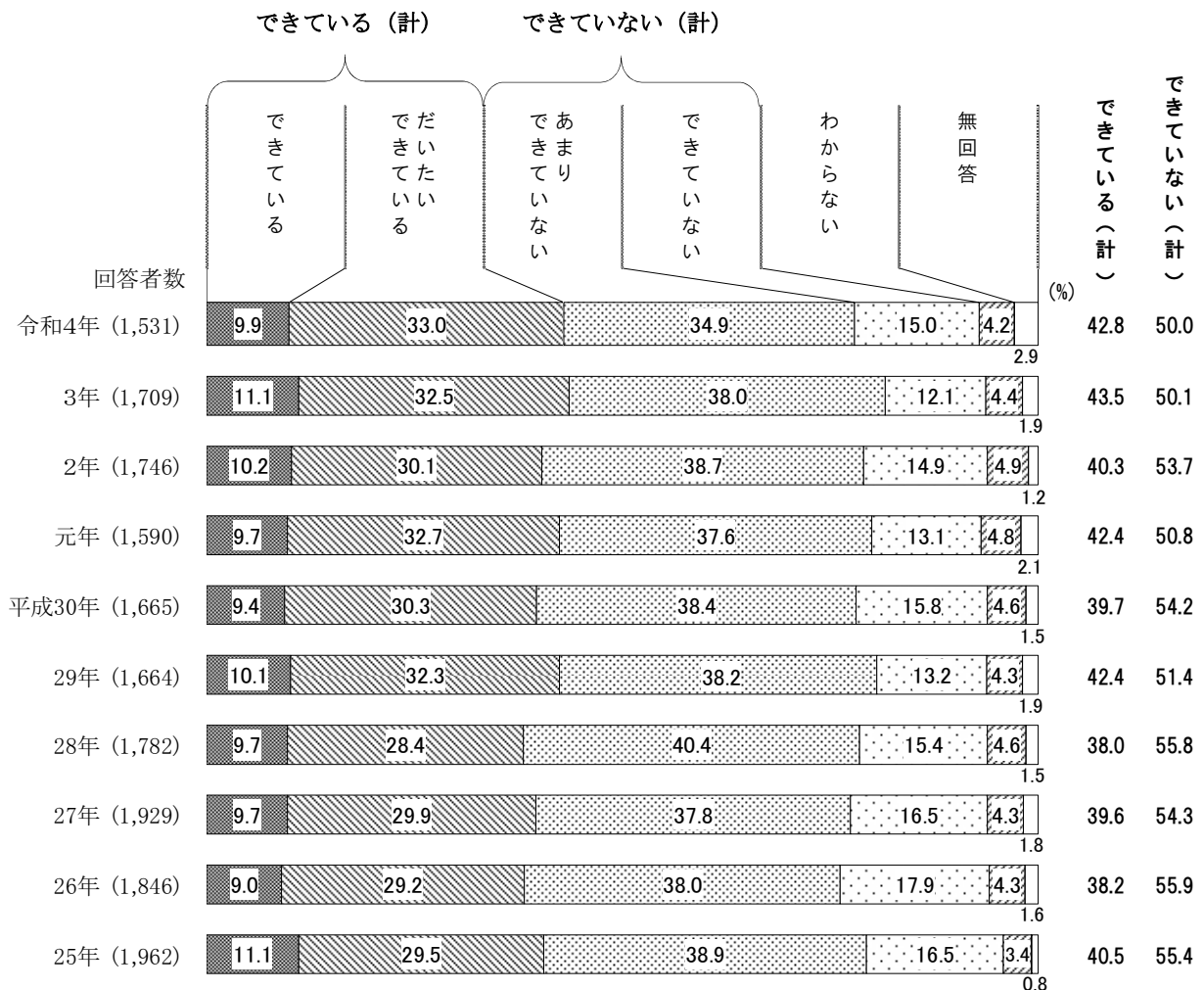
ア 単純集計・経年比較／1日野菜350g以上の摂取

(ア) 毎日350g以上の野菜の摂取については、「できている」が9.9%で、これに「だいたいできている」(33.0%)を合わせた【できている】は42.8%となっている。

(イ) 野菜の摂取を「あまりできていない」(34.9%)と「できていない」(15.0%)を合わせた【できていない】は50.0%となっている。

(ウ) 経年で見ると、前回の令和3年調査に比べて、【できている】と【できていない】の割合では大きな違いはないが、「あまりできていない」が3.1ポイント減少し、「できていない」が2.9ポイント増加している。

図5-4-1 経年比較／1日野菜350g以上の摂取

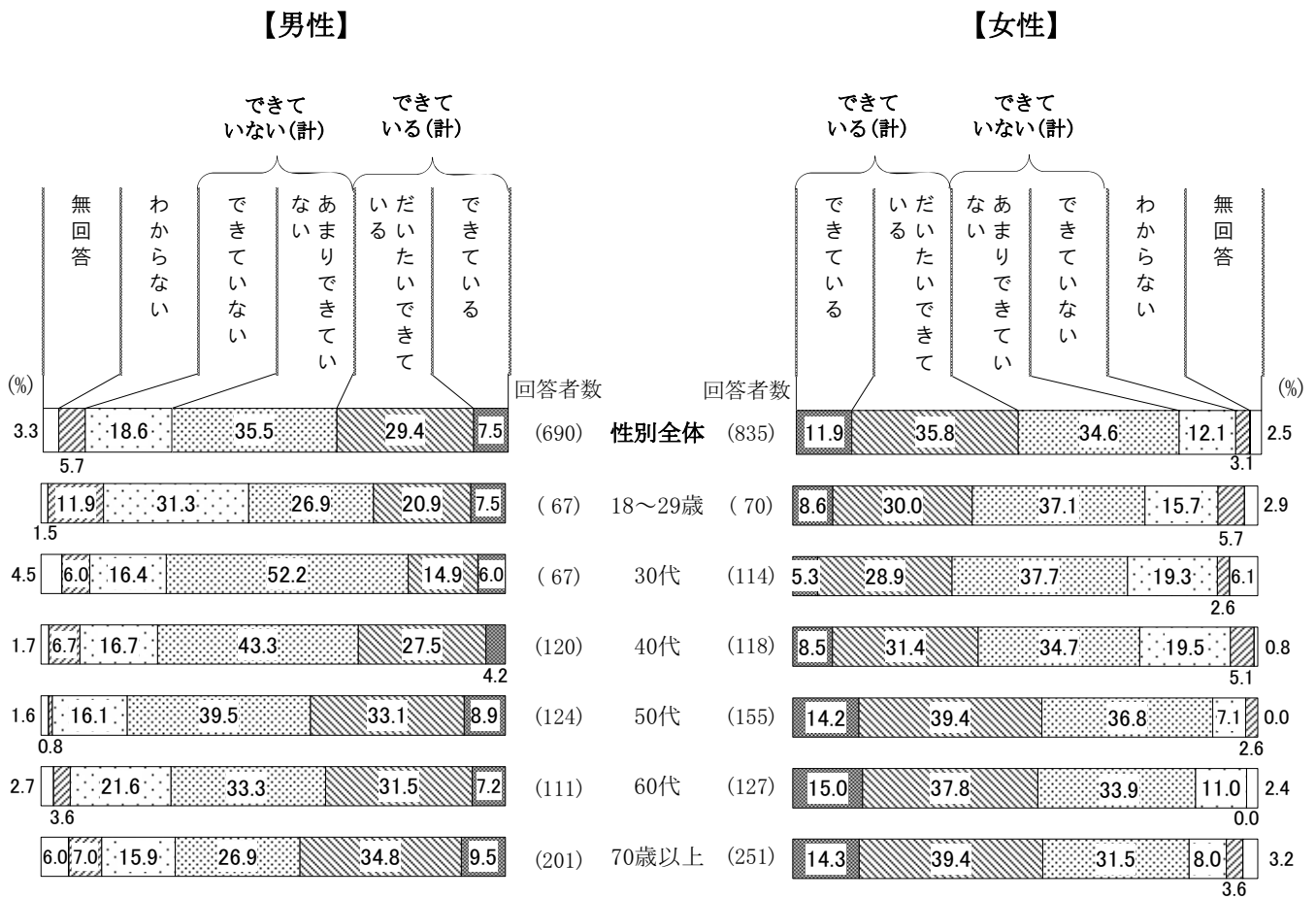


イ クロス集計・性別、性・年代別／1日野菜350g以上の摂取

(ア) 性別で見ると、【できている】は、女性（47.7%）の方が男性（37.0%）より10.7ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【できている】は男性では40代以下が2割から3割強、50代以上が4割弱から4割台半ば、女性では40代以下が3割台、50代以上が5割台と、男女ともに40代以下と50代以上の2層に分かれている。

図5-4-2 性別、性・年代別／1日野菜350g以上の摂取



(5) 体調や習慣

問19 あなたの体調や習慣、身近な医療機関についてお答えください

(○はそれぞれ1つずつ)。

■ 〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚めるなどが2週間以上続くことがある〉という人が漸増しており2割台半ば

ア 単純集計・経年比較／体調や習慣

(ア) 睡眠度合い、喫煙習慣、身近な医療機関の3項目について、「あてはまる」の割合をみると、〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉が66.3%と最も高くなっている。また、〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある〉が26.4%、〈習慣的にタバコを吸っている〉は17.6%となっている。

(イ) 各項目とも前回調査比較では大きな変化はみられない。

(ウ) 平成25年調査と比較すると、〈習慣的にタバコを吸っている〉は漸減しており9年間で5.3ポイント減少し、〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある〉は微増傾向にあり9年間で7.2ポイント増加するなど、ゆるやかに変化している。一方、〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉は6割台半ばで推移しており、9年間で大きな変化はみられない。

図5-5-1-① 経年比較／体調や習慣

回答者数 令和4年 (1,531)
3年 (1,709)
2年 (1,746)
元年 (1,590)
平成30年 (1,665)
29年 (1,664)
28年 (1,782)
27年 (1,929)
26年 (1,846)
25年 (1,962)

ア 疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある

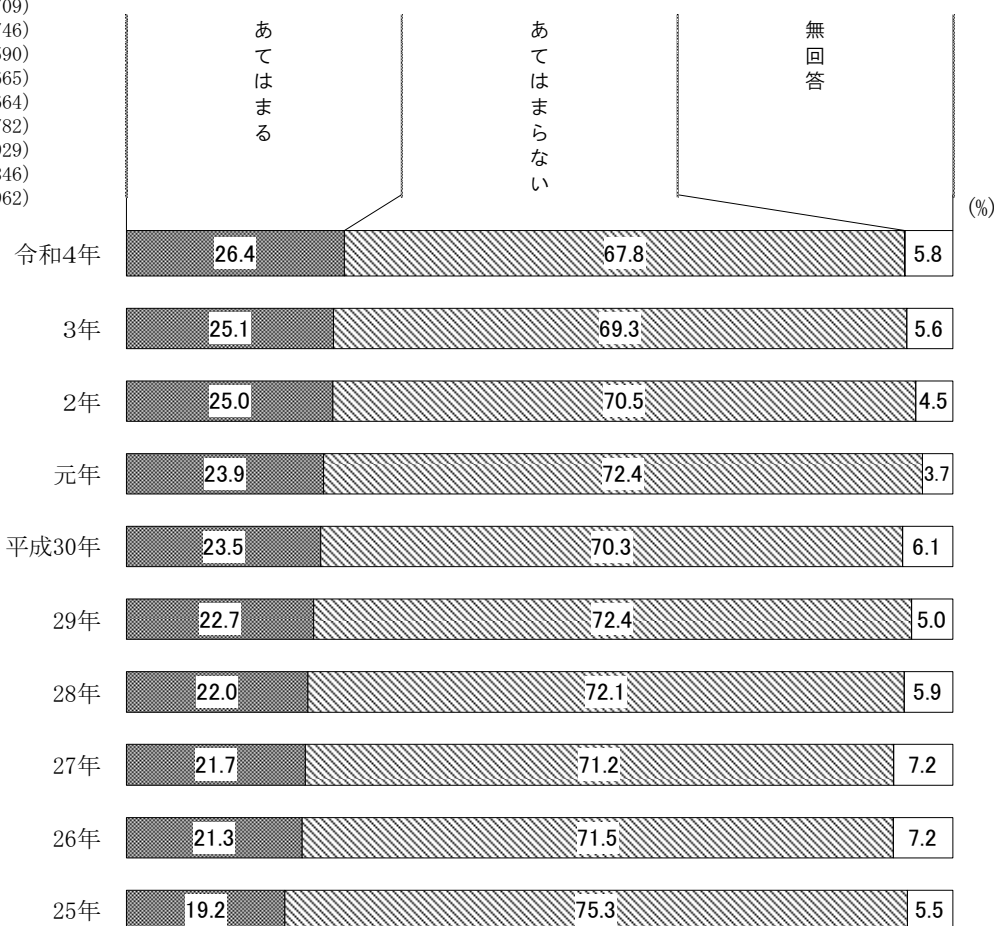
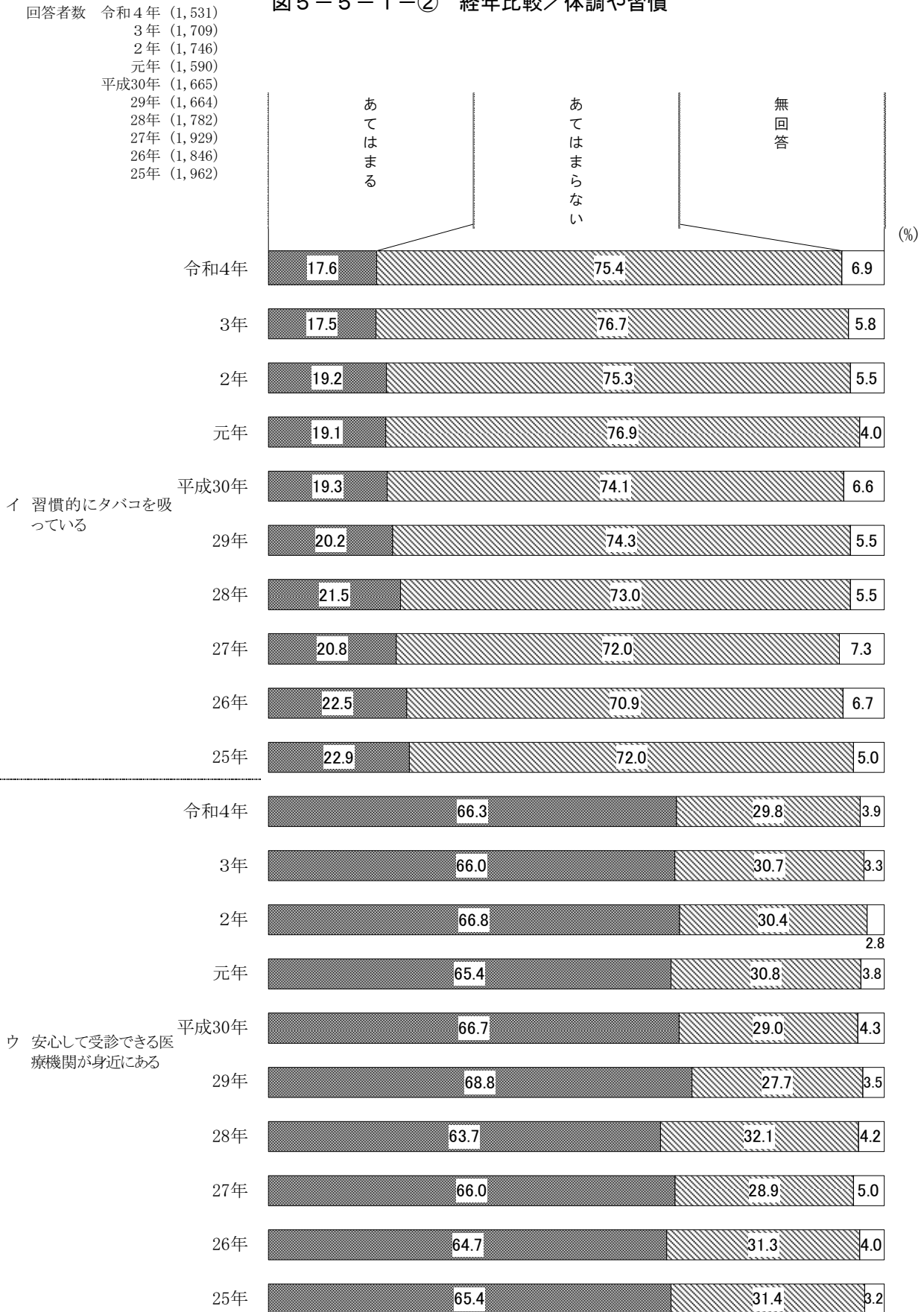


図5-5-1-② 経年比較／体調や習慣



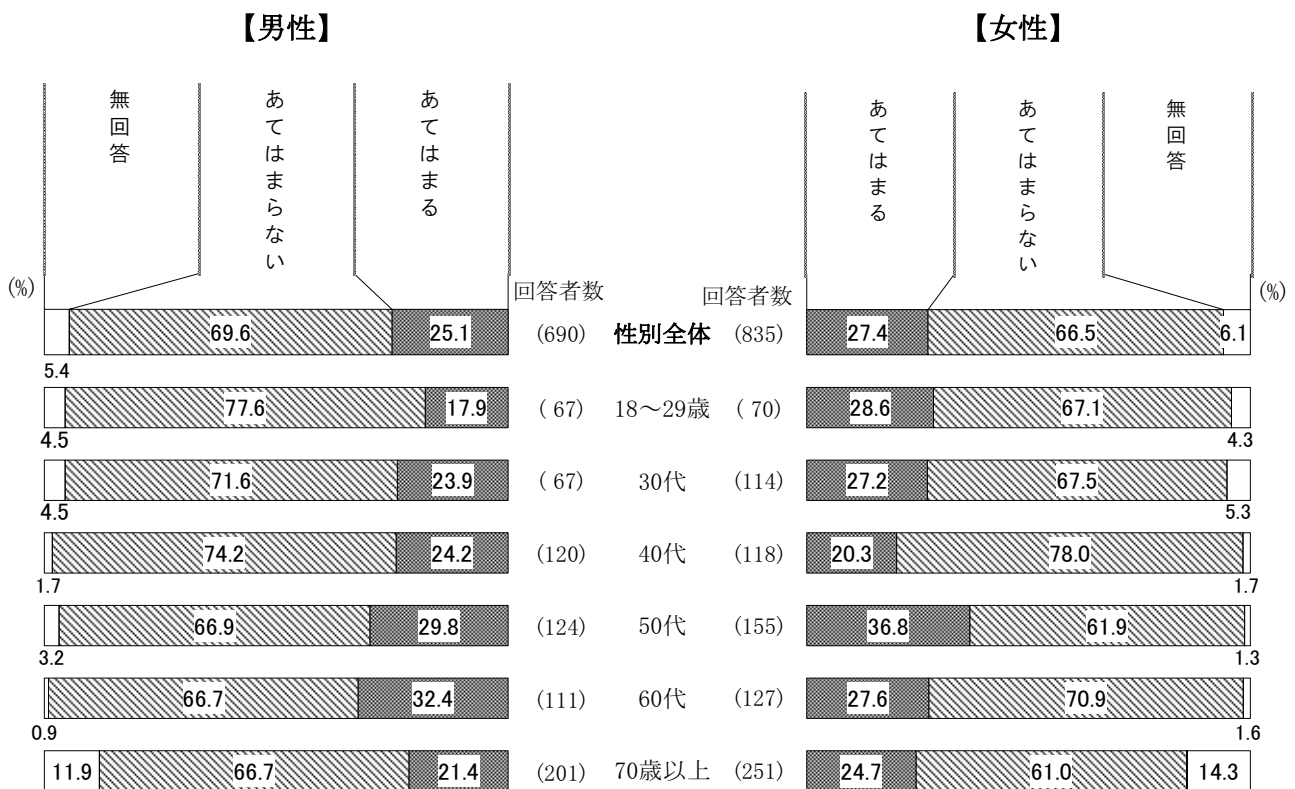
イ クロス集計・性別、性・年代別／体調や習慣／疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある

(ア) 〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある〉について、性別でみると、「あてはまる」は女性(27.4%)の方が男性(25.1%)より2.3ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、「あてはまる」は、女性の50代が36.8%で最も高く、次いで、男性の60代が32.4%となっている。一方、男性の18～29歳が17.9%で最も低くなっている。

図5-5-2-① 性別、性・年代別／体調や習慣／

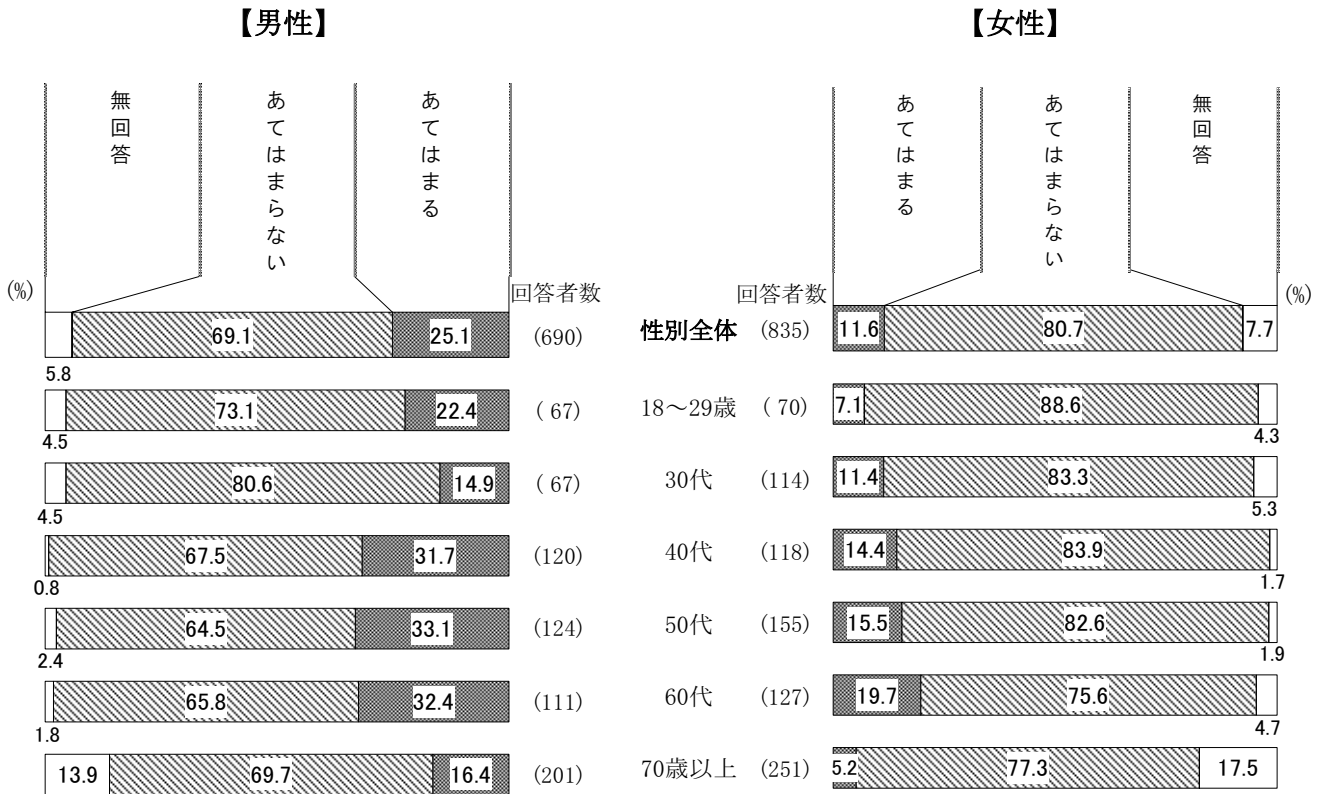
疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある



ウ クロス集計・性別、性・年代別／体調や習慣／習慣的にタバコを吸っている

- (ア) 〈習慣的にタバコを吸っている〉について、性別で見ると、「あてはまる」は男性(25.1%)の方が女性(11.6%)より13.5ポイント高くなっている。
- (イ) 性・年代別で見ると、「あてはまる」は、男性の40～60代で3割台前半と高く、女性の70歳以上と18～29歳で1割未満と低くなっている。

図5-5-2-② 性別、性・年代別／体調や習慣／習慣的にタバコを吸っている

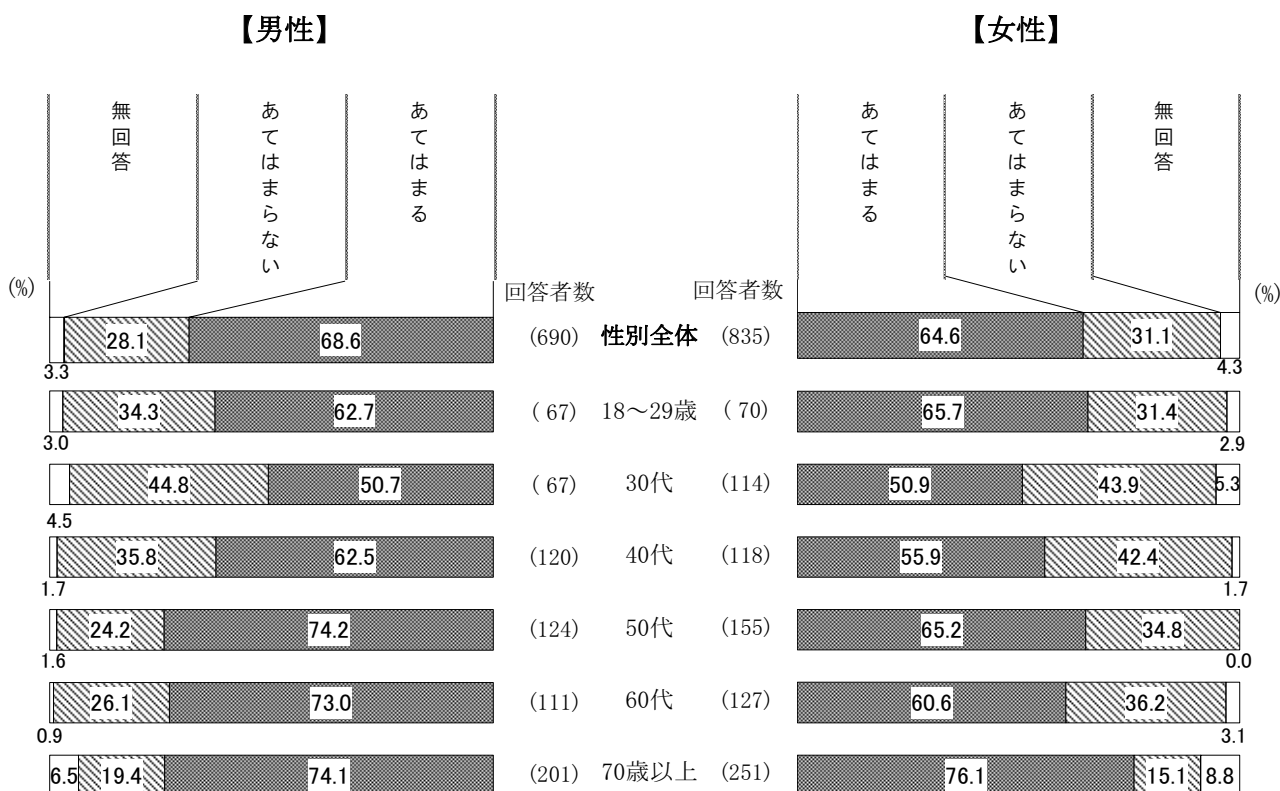


エ クロス集計・性別、性・年代別／体調や習慣／安心して受診できる医療機関が身近にある

(ア) 〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉について、性別で見ると、「あてはまる」は男性(68.6%)の方が女性(64.6%)より4.0ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、「あてはまる」は、男性の50代(74.2%)、60代(73.0%)、70歳以上(74.1%)と女性の70歳以上(76.1%)で7割台と高く、男性の30代(50.7%)と女性の30代(50.9%)で5割と低くなっている。

図5-5-2-③ 性別、性・年代別／体調や習慣／安心して受診できる医療機関が身近にある



(6) 健康維持のために実行している、心がけているもの

問20 あなた自身が健康維持のために実行している、または心がけているものをお答えください（〇はあてはまるものすべて）。

■「毎年健康診断を受けている」と「毎日朝ごはんを食べている」がともに6割台半ば近く

ア 単純集計・経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの

(ア) 健康維持のために心がけていることについて、上位は以下のとおりとなっている。

- ①「毎年健康診断を受けている」と「毎日朝ごはんを食べている」(各63.7%)
- ②「毎食、野菜料理（サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具だくさん味噌汁など）を食べるようにしている」(43.5%)
- ③「主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている」(39.5%)
- ④「日ごろ、健康のために適度に運動（スポーツを含む）をするか身体を動かしている」(38.7%) などとなっている。

(イ) 経年でみると、漸増を続けていた「毎年健康診断を受けている」が前回調査から2.7ポイント減少となった。また、「日ごろ、健康のために適度に運動（スポーツを含む）をするか身体を動かしている」は前回調査から3.0ポイント増加し、「主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている」も前回調査から2.0ポイントの増加となった。

図5-6-1-① 経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの

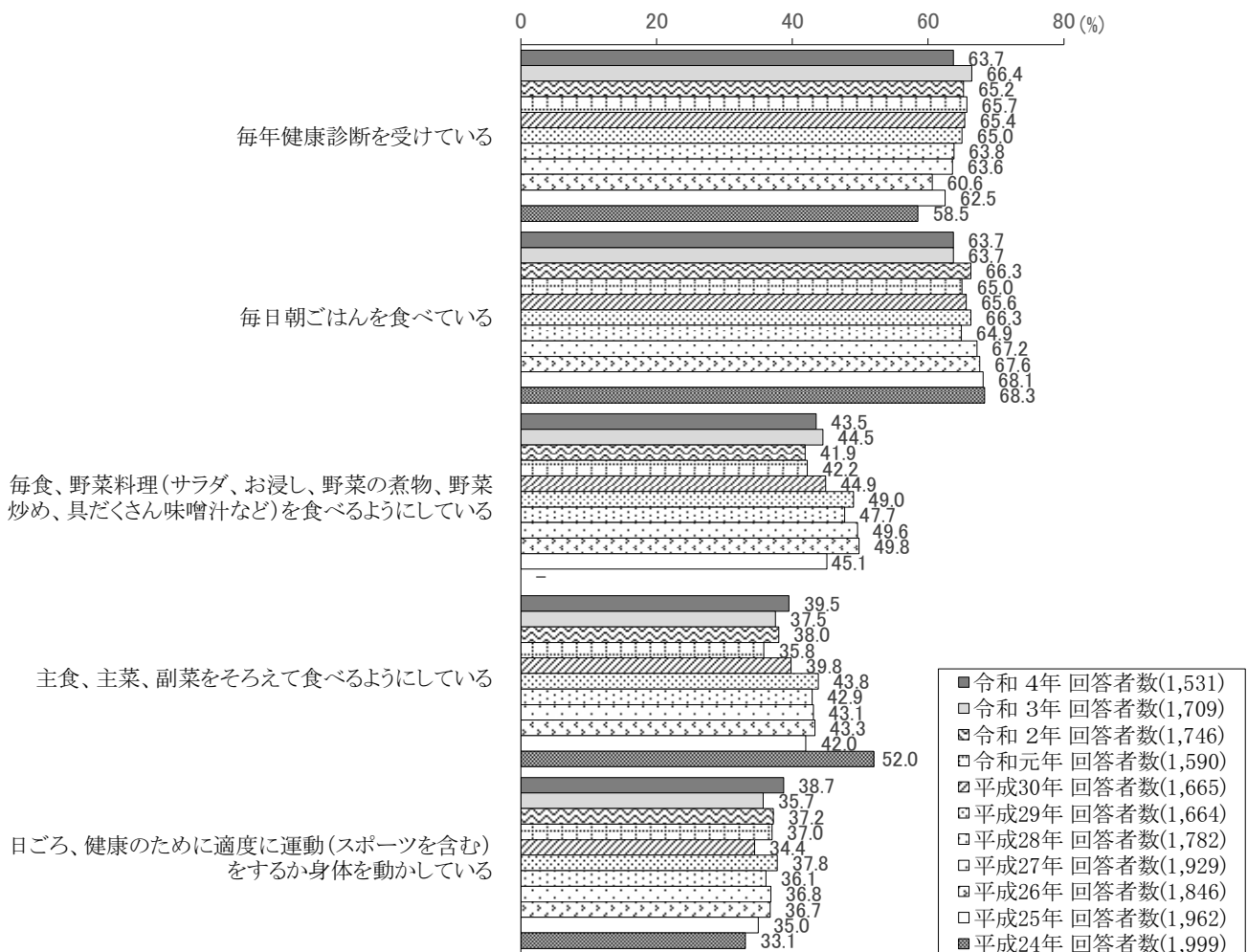
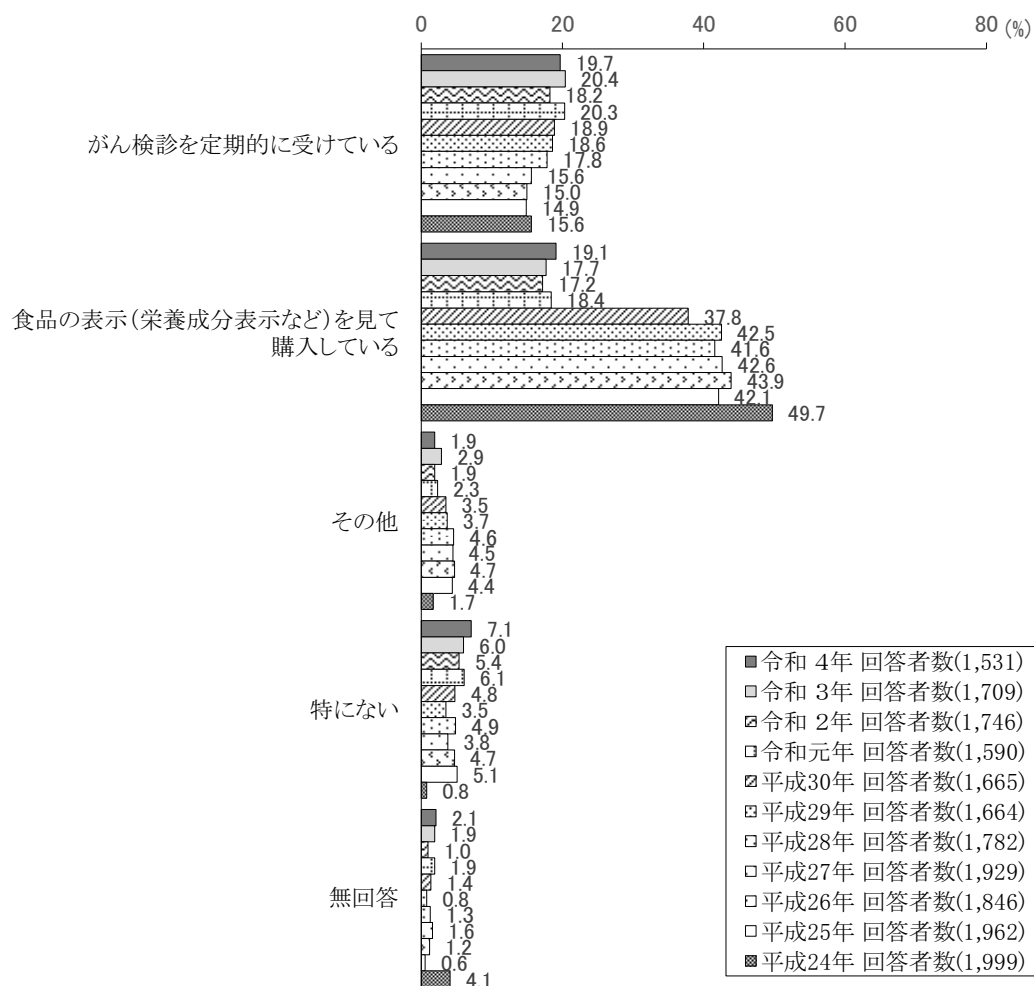


図5-6-1-② 経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの



※「毎食、野菜料理を食べるようにしている」は平成25年度～平成30年度までは「毎食、野菜料理を食べるように心がけている」。なお、この項目は平成25年度新設。

※「日ごろ、健康のために適度に運動(スポーツを含む)をするか身体を動かしている」は平成26年度～平成30年度は「健康のため仕事や家事以外で毎日30分は歩行する、またはそれと同等以上、身体を動かす習慣がある」、平成25年度では「健康のため仕事や家事以外で身体を動かす習慣がある」。

※「主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている」は平成24年度～平成30年度までは「主食、主菜、副菜をそろえて食べるように心がけている」。

※「食品の表示(栄養成分表示など)を見て購入している」は平成24年度～平成30年度までは「食品の表示(添加物、消費期限など)を見て購入している」。

イ クロス集計・性別、性・年代別／健康維持のために実行している、心がけているもの

(ア) 性別で見ると男性の方が女性より高い項目

a 「毎年健康診断を受けている」(+8.4ポイント)

(イ) 性別で見ると女性の方が男性より高い項目

a 「主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている」(+9.2ポイント)

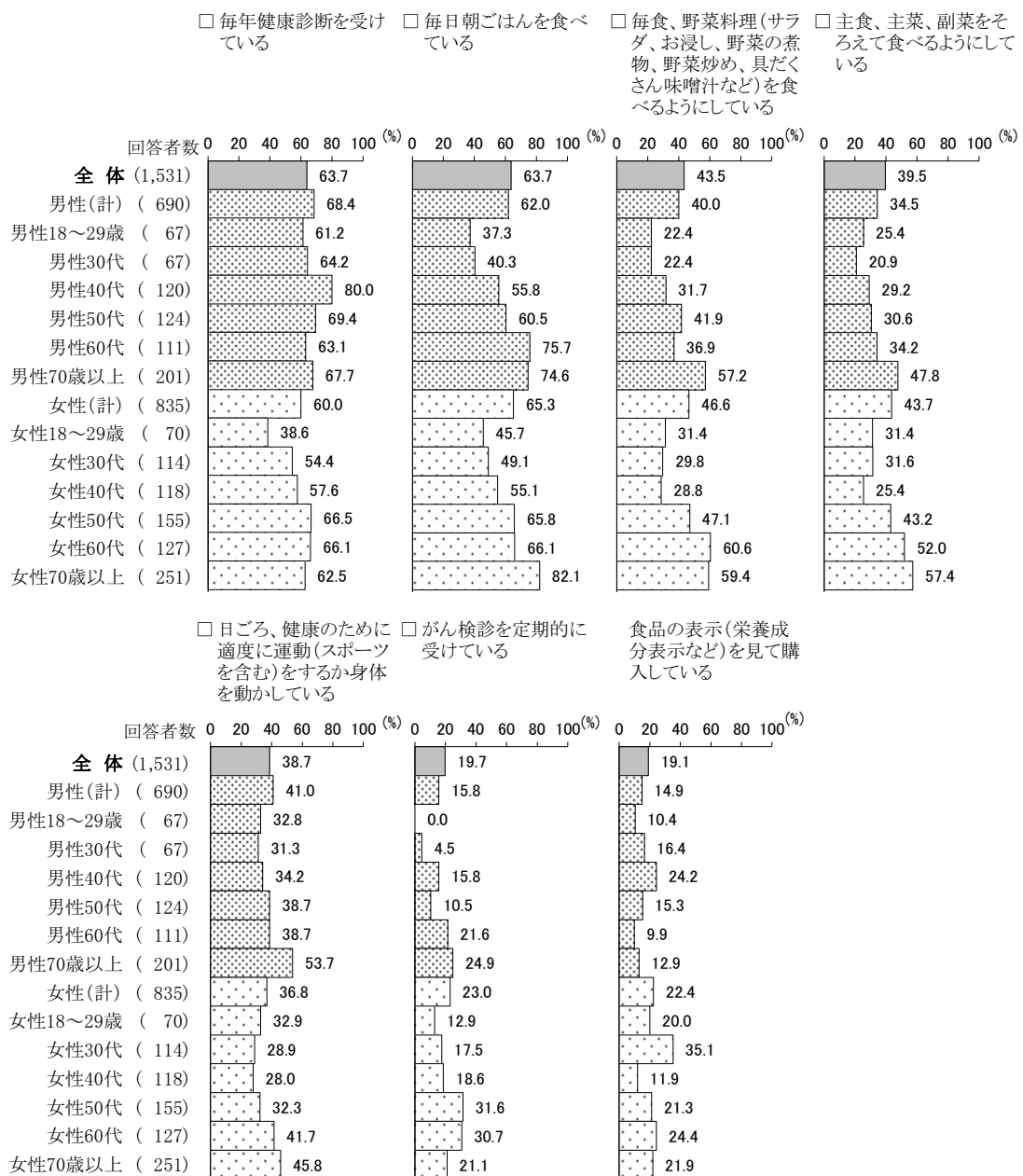
b 「食品の表示(栄養成分表示など)を見て購入している」(+7.5ポイント)

c 「がん検診を定期的に受けている」(+7.2ポイント)

d 「毎食、野菜料理(サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具たくさん味噌汁など)を食べるようにしている」(+6.6ポイント)

(ウ) 性・年代別で見ると、「毎年健康診断を受けている」は男性の40代(80.0%)で特に高くなっている。また、「毎日朝ごはんを食べている」、「毎食、野菜料理(サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具たくさん味噌汁など)を食べるようにしている」、「主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている」の食事項目については、男女ともおおむね年代が上がるほど割合も高くなっている。

図5-6-2 性別、性・年代別／健康維持のために実行している、心がけているもの



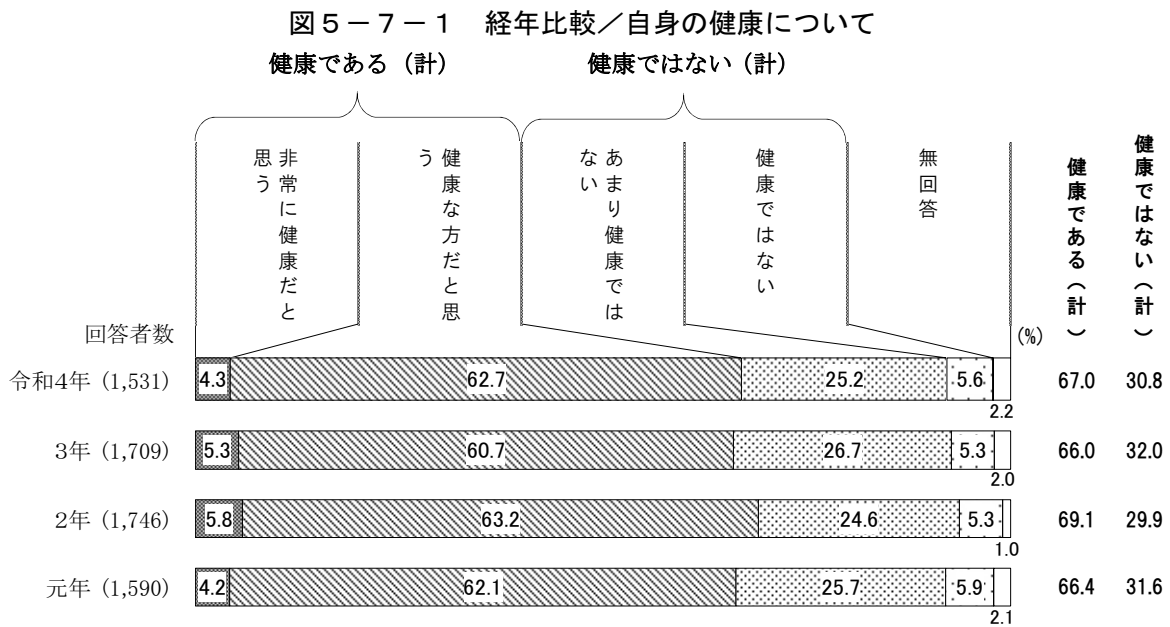
(7) 自身の健康状態について

問21 あなたは普段、ご自分のことを健康だと感じていますか（○は1つだけ）。

■ 自分は【健康である】と自認している人は6割台半ば

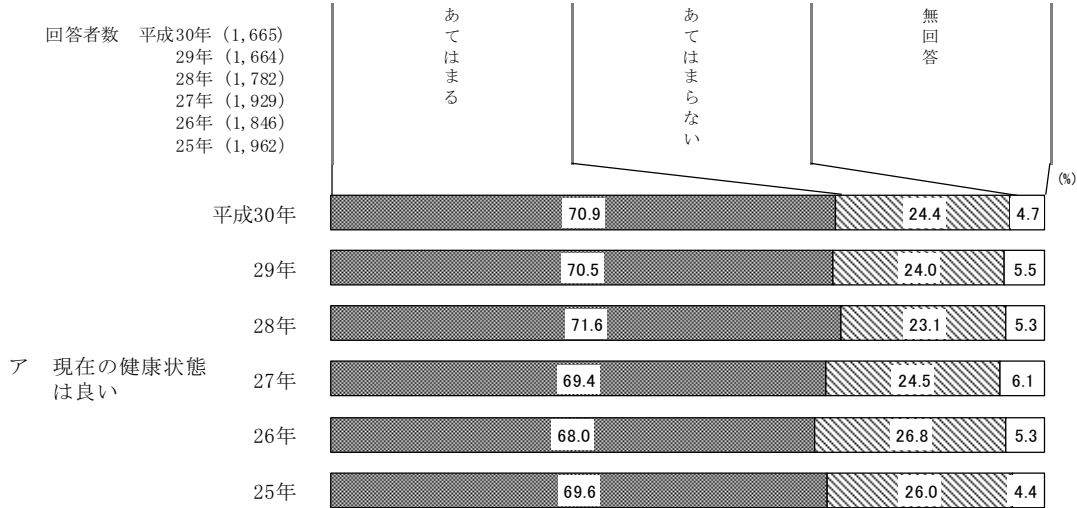
ア 単純集計・経年比較／自身の健康について

- (ア) 自身の健康状態については、「健康な方だと思う」が62.7%を占めており、これに「非常に健康だと思う」(4.3%)を合わせた【健康である】が67.0%となっている。
- (イ) 自身の健康状態は「あまり健康ではない」(25.2%)と「健康ではない」(5.6%)を合わせた【健康ではない】は30.8%となっている。
- (ウ) 前回の令和3年調査と比べると、特に大きな違いはみられない。



参考／体調や習慣

問 あなたの体調などについてお答えください（○はそれぞれ1つずつ）。



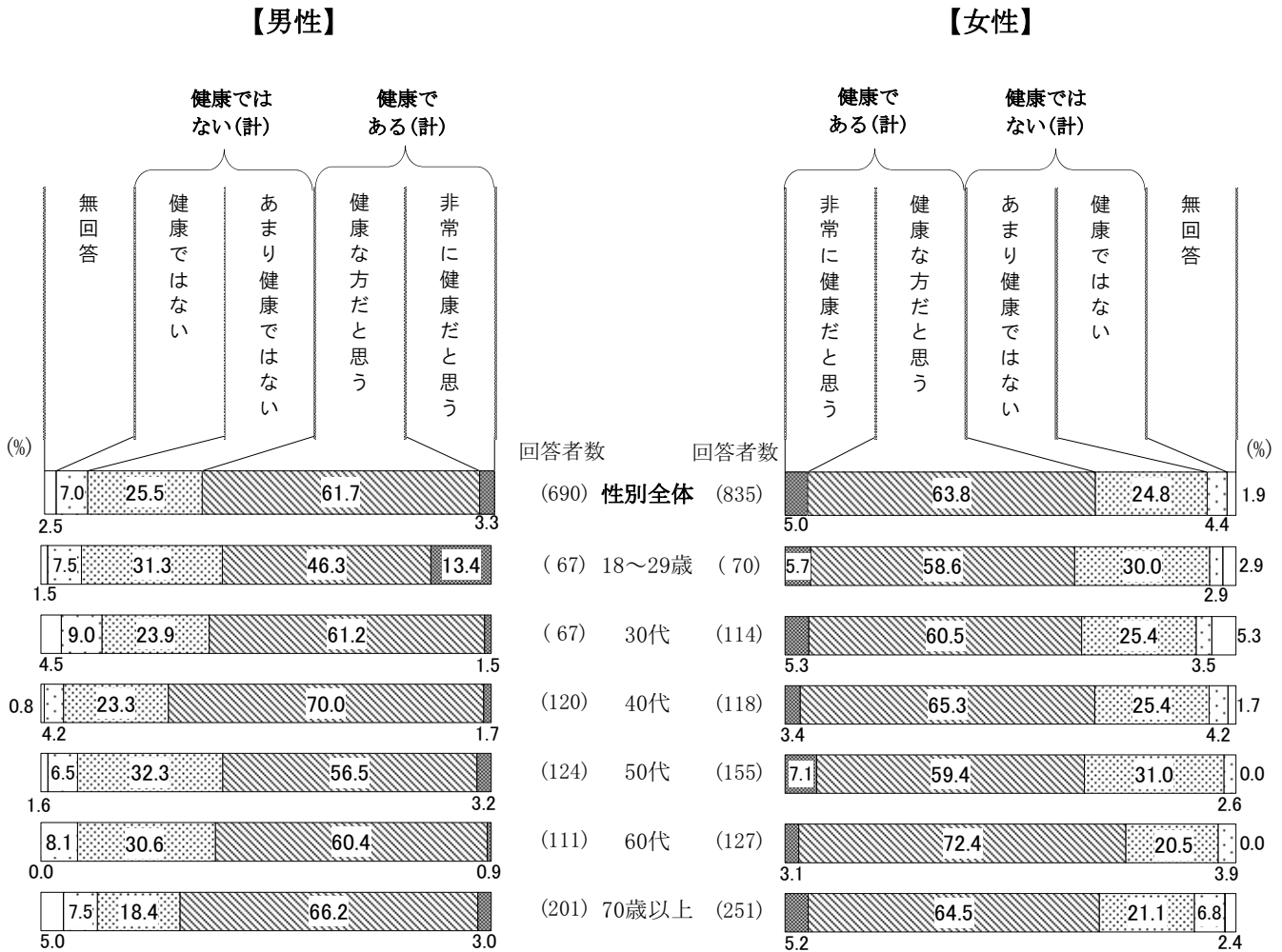
※ 令和元年度より独立設問として、4つの選択肢から選んでもらった「自身の健康状態」については、平成25～30年度では、「現在の健康状態は良い」という項目に対して「あてはまる」と「あてはまらない」の2択で聴取していた。

イ クロス集計・性別、性・年代別／自身の健康について

(ア) 性別でみると、【健康である】は女性（68.9%）の方が男性（65.1%）より3.8ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【健康である】は、女性の60代で75.6%と最も高く、男性の40代でも71.7%と高くなっている。逆に、男性の18～29歳と50代がともに59.7%で最も低くなっている。

図5-7-2 性別、性・年代別／自身の健康について



(8) がん検診の受診状況

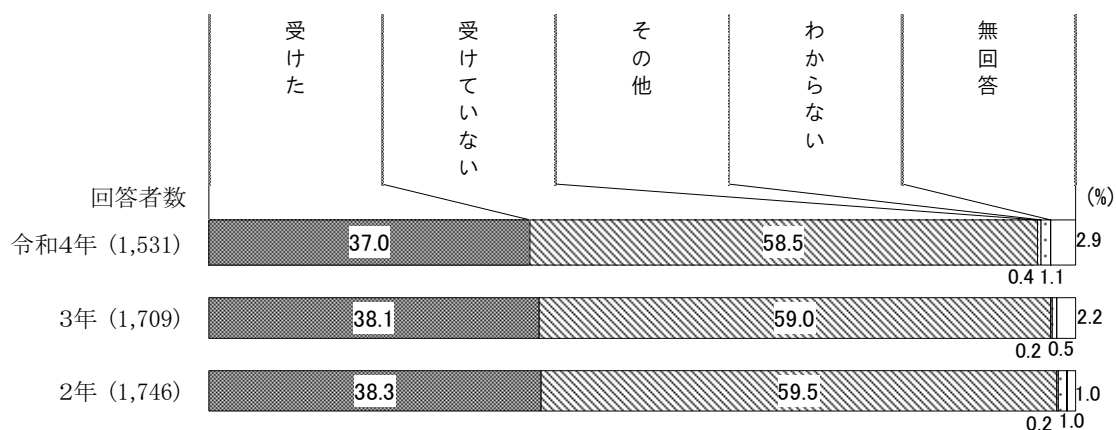
問22 あなたは、この一年間で、何らかのがん検診を受けましたか（○は1つだけ）。

■ この一年間にかん検診を受けた人の割合は3割台半ばで、「受けていない」が6割弱

ア 単純集計・経年比較／がん検診の受診状況

- (ア) この一年間のがん検診の受診状況は、「受けた」が37.0%で、「受けていない」(58.5%)より20ポイント以上上下回っている。
- (イ) 前回の令和3年調査と比較すると、ほぼ同じ割合で変動はみられない。

図5-8-1 経年比較／がん検診の受診状況

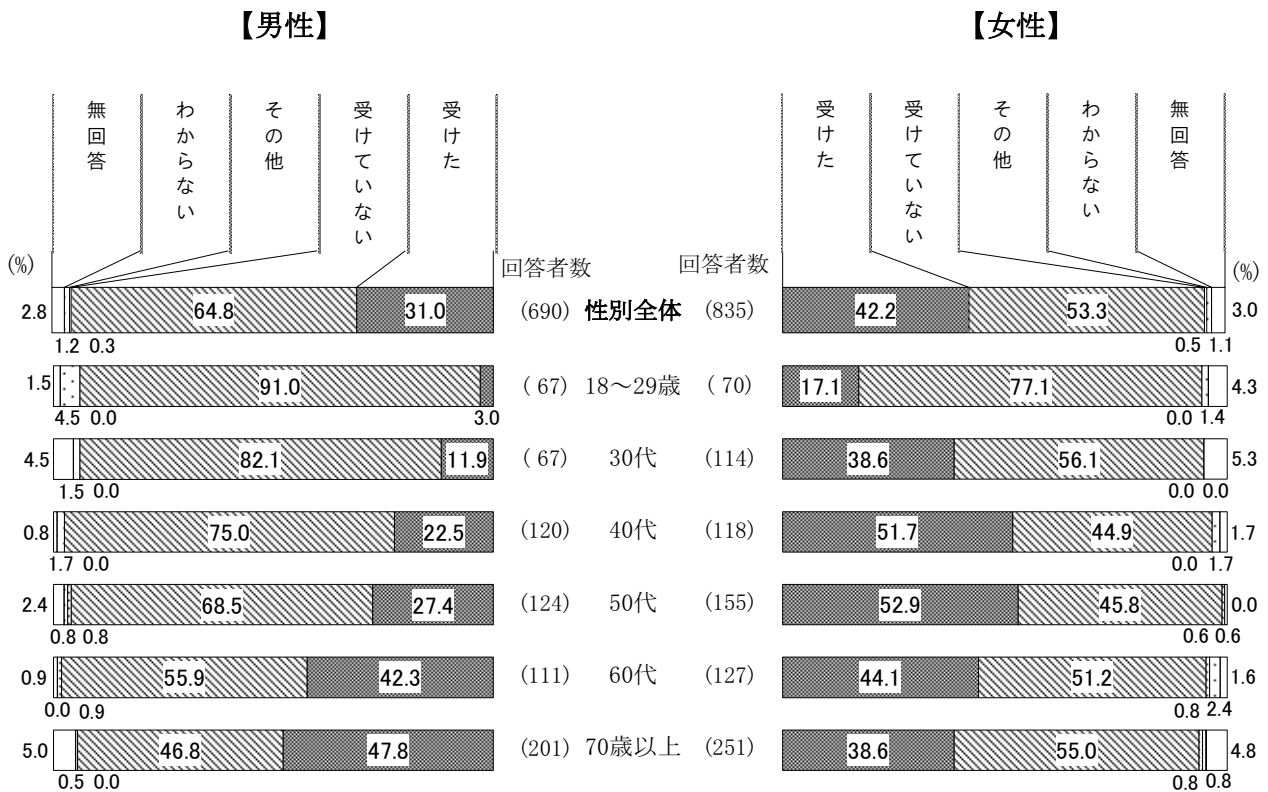


イ クロス集計・性別、性・年代別／がん検診の受診状況

(ア) 性別で見ると、「受けた」は、女性(42.2%)の方が男性(31.0%)より11.2ポイント高く、性差が大きくなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、「受けた」は、男性では18～29歳(3.0%)で最も低く、年代が上がるほど割合が高くなり70歳以上で47.8%となっている。女性では、40代(51.7%)と50代(52.9%)で5割強と高く、18～29歳で17.1%と最も低くなっている。

図5-8-2 性別、性・年代別／がん検診の受診状況



(9) 受けたがん検診の種類

問22で「1 受けた」とお答えの方に

問22-1 あなたが受けたがん検診は以下のどれですか（〇はあてはまるものすべて）。

■「大腸がん検診」が5割弱、「胃がん検診」が3割台半ば超え

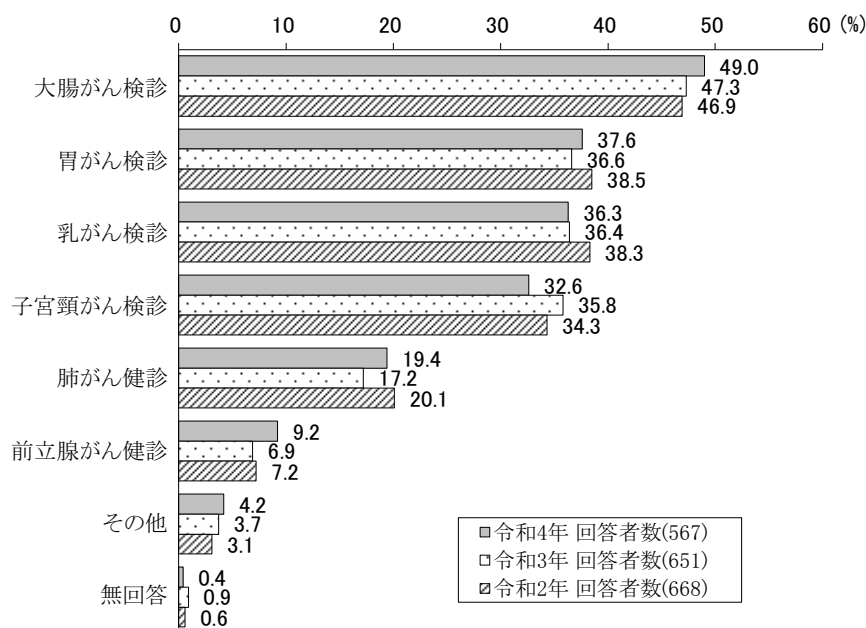
ア 単純集計・経年比較／受けたがん検診の種類

(ア) この一年間に受けたがん検診の種類について、上位は以下のとおりとなっている。

- ①「大腸がん検診」(49.0%)
- ②「胃がん検診」(37.6%)
- ③「乳がん検診」(36.3%)

(イ) 前回の令和3年調査と比べると、上位の3検診には大きな違いはないが、「子宮頸がん検診」で前回調査(35.8%)に比べて3.2ポイント減少し「肺がん検診」で前回調査(17.2%)に比べて2.2ポイント増加している。

図5-9-1 経年比較／受けたがん検診の種類



<参考> 足立区が区民対象に行っているがん検診

検査項目	受診対象	自己負担金	備考
胃がんハイリスク検診	40歳から74歳の間に1回のみ受診可	1,000円	
胃がん内視鏡検診	50歳以上 ※2年度に1回受診可	2,000円	
肺がん検診	40歳以上毎年度受診可	800円	かく痰検査は+300円
大腸がん検診	40歳以上毎年度受診可	300円	
子宮頸がん検診	20歳以上 ※2年度に1回受診可	500円	初該当年に無料クーポン券あり
乳がん検診	40歳以上 ※2年度に1回受診可	500円	
前立腺がん検診	60歳から64歳の間毎年度受診可	800円	

※ がん検診は足立区が行っている「区のがん検診」以外に、職場で行う「職場のがん検診」、医療機関で行う人間ドックなどの「個人的な検診」などがあり、また上記表のとおり検査項目によって受診対象が異なることを考慮する必要がある。

イ クロス集計・性別、性・年代別／受けたがん検診の種類

(ア) 性別で見ると、がん検診の種類に応じて性差が大きい。

(イ) 性別で見ると、男性の受診が高い項目

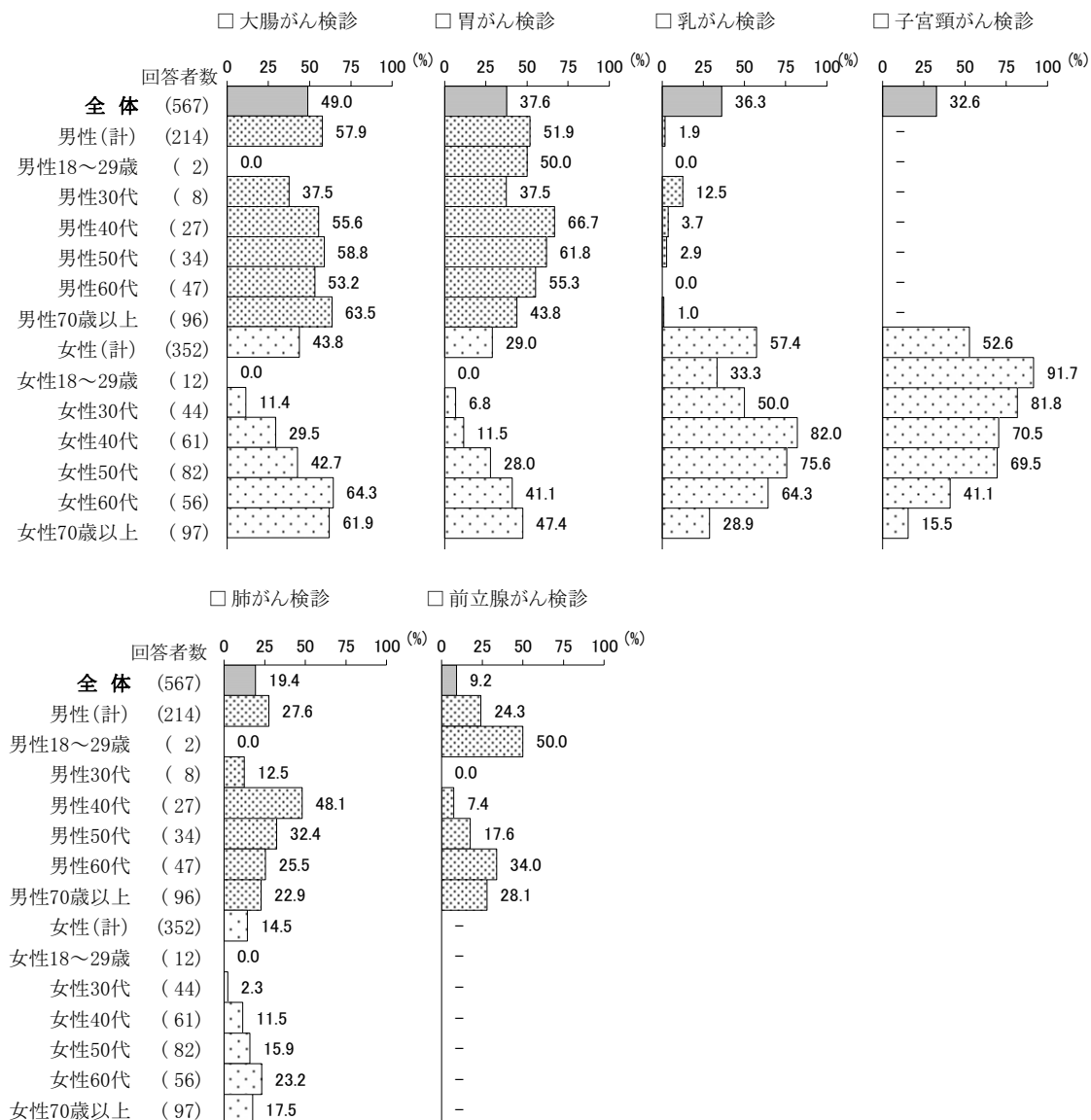
- a 「大腸がん検診」(57.9%)
- b 「胃がん検診」(51.9%)
- c 「肺がん検診」(27.6%)
- d 「前立腺がん検診」(24.3%)

(ウ) 性別で見ると女性の受診が高い項目

- a 「乳がん検診」(57.4%)
- b 「子宮頸がん検診」(52.6%)

(エ) 性・年代別にみると、男性の18～29歳と30代、女性の18～29歳でサンプル数が少ないため分析から除外するが、男性の場合は、「胃がん検診」と「肺がん検診」で40代(66.7%・48.1%)が最も高く、「大腸がん検診」で70歳以上(63.5%)が最も高くなっている。女性の場合は、「子宮頸がん検診」は30代で81.8%と高く、年代が上がるほど割合が低くなる傾向がみられる。また、「乳がん検診」は40代(82.0%)と50代(75.6%)で高くなっている。

図5-9-2 性別、性・年代別／受けたがん検診の種類



(10) かかりつけ歯科医院

問23 あなたは、かかりつけ歯科医院を決めていますか（○は1つだけ）。

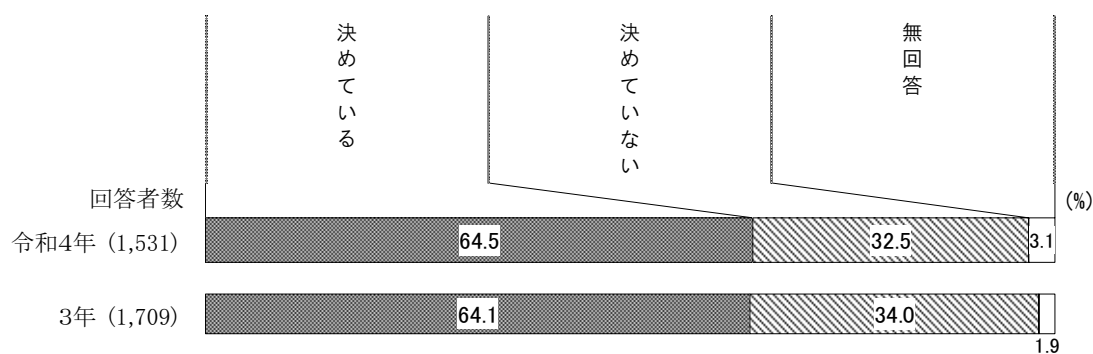
■「決めている」が6割台半ば

ア 単純集計・前回調査比較／かかりつけ歯科医院

(ア) かかりつけ歯科医院については、「決めている」が64.5%で、「決めていない」の32.5%を上回っている。

(イ) 前回の令和3年調査と比べると、特に大きな違いはみられない。

図5-10-1 前回調査比較／かかりつけ歯科医院



<参考>

令和元年度東京都福祉保健基礎調査「都民の健康と医療に関する実態と意識」（令和元年10月実施）

調査対象：都内6,000世帯を対象にし、3,283世帯の7,369人からの回答が得られた。

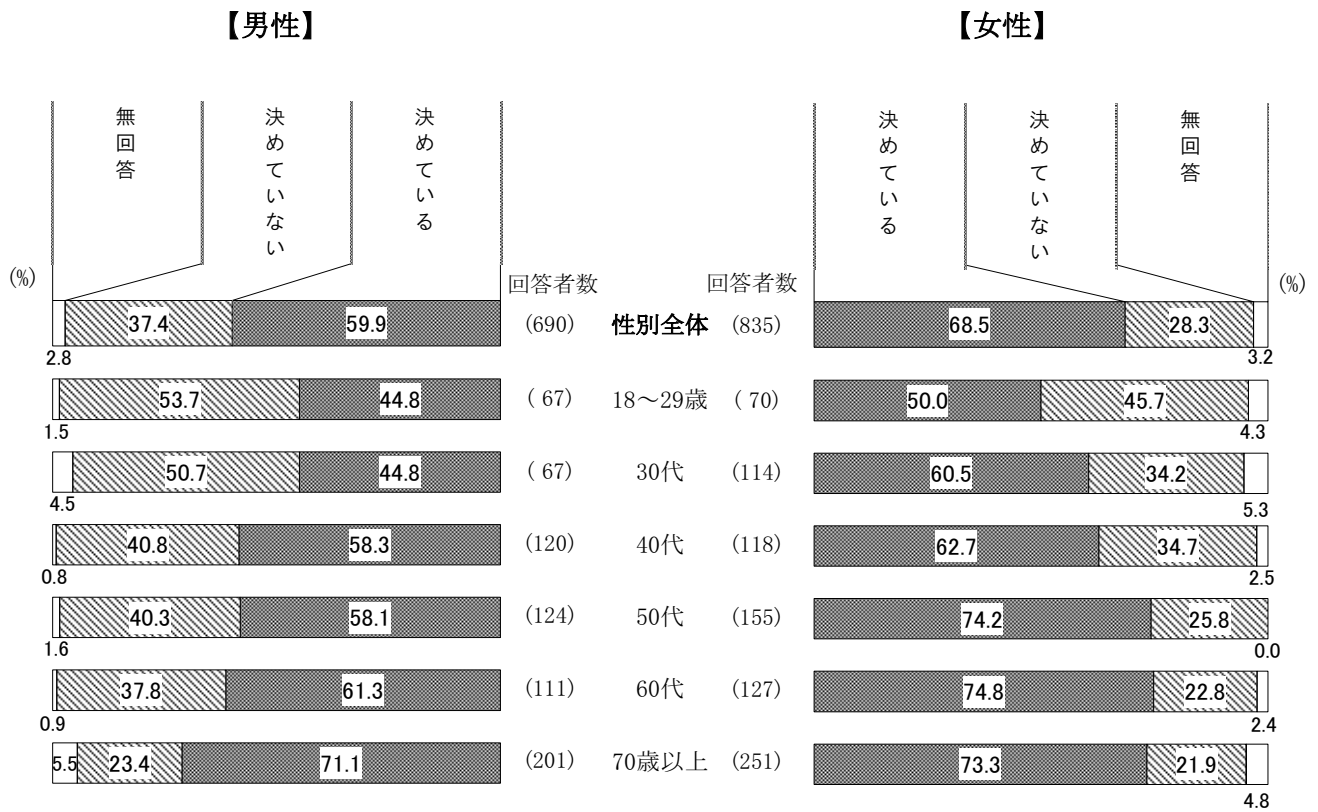
調査結果：「決めている」70.8%、「決めていない」(26.1%)、「無回答」(3.1%)

イ クロス集計・性別、性・年代別／かかりつけ歯科医院

(ア) 性別でみると、「決めている」は女性（68.5%）の方が男性（59.9%）より8.6ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、「決めている」は男女ともおおむね年代が上がるほど割合も高くなる傾向がみられ、男性の18～29歳と30代（各44.8%）で4割台半ばと低く、女性の50代以上と男性の70歳以上で7割台と高くなっている。

図5-10-2 性別、性・年代別／かかりつけ歯科医院



(11) 歯科医院で治療のほかに受けている内容

問23で「1 決めている」とお答えの方に

問23—1 その歯科医院では、むし歯・歯周病の治療や入れ歯の作製・修理などのほかに受けているものはありますか（○はあてはまるものすべて）。

■治療のほかに受けている内容は「歯石除去・歯面清掃」が6割台半ば近く

ア 単純集計・前回調査比較／歯科医院で治療のほかに受けている内容

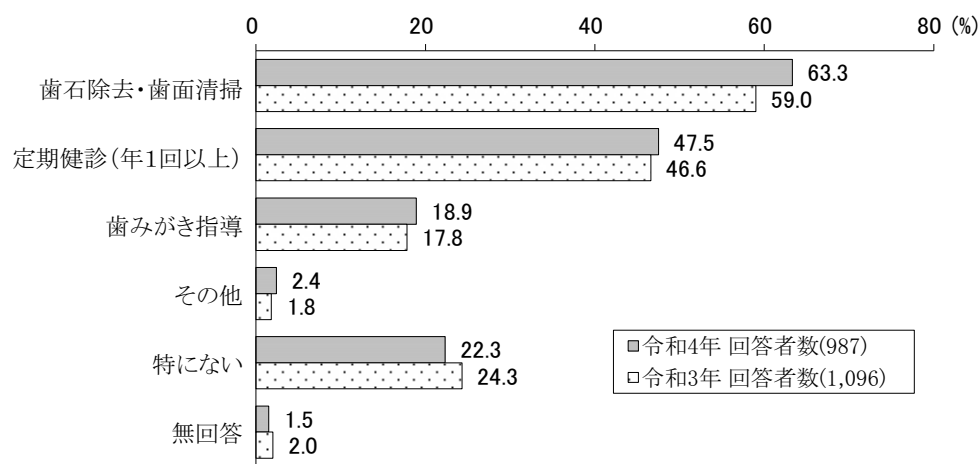
(ア) かかりつけ歯科医院でむし歯・歯周病の治療や入れ歯の作製・修理などのほかに受けているものを高い順にみると、以下のとおりとなっている。

- ①「歯石除去・歯面清掃」(63.3%)
- ②「定期健診(年1回以上)」(47.5%)
- ③「歯みがき指導」(18.9%)

(イ) 前述の3項目を合わせた【治療のほかに受けているものがある】は76.2%、「特にない」は22.3%となっている。

(ウ) 前回の令和3年調査と比べると、「歯石除去・歯面清掃」が4.3ポイント増加している。

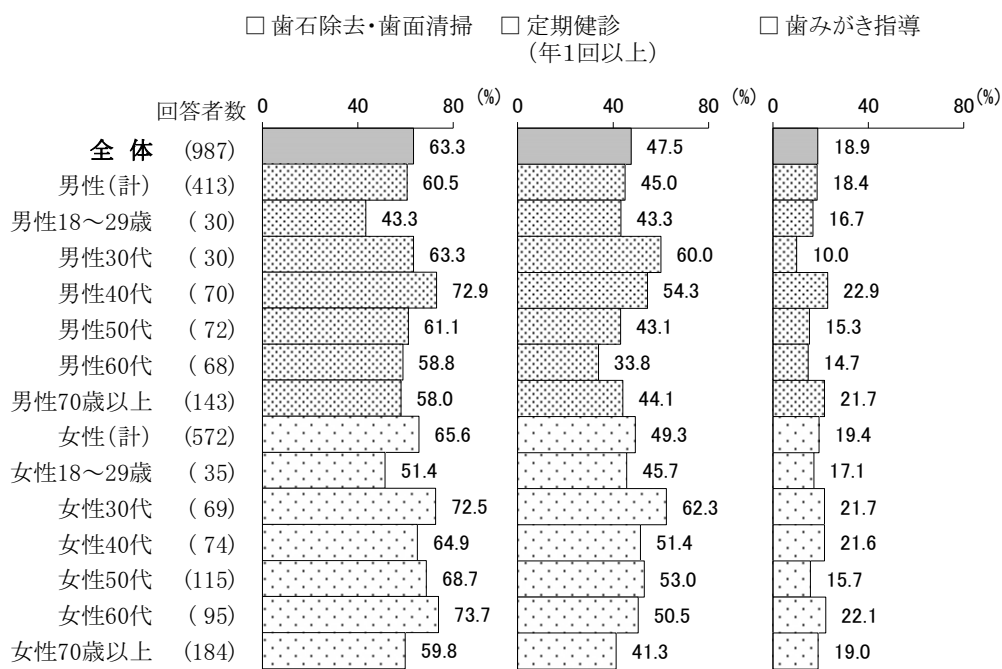
図5-11-1 前回調査比較／歯科医院で治療のほかに受けている内容



イ クロス集計・性別、性・年代別／歯科医院で治療のほかに受けている内容

- (ア) 性別にみると、【治療のほかに受けているものがある】(回答者数－「特にない」－「無回答」)は女性(77.4%)の方が男性(74.6%)より2.9ポイント高くなっている。
- (イ) 具体的な内容のすべての項目でも女性が高く、「歯石除去・歯面清掃」で5.1ポイント、「定期健診(年1回以上)」で4.3ポイントそれぞれ高くなっている。
- (ウ) 性・年代別にみると、【治療のほかに受けているものがある】は女性の30代で84.1%と最も高く、男性の60代で64.7%と最も低くなっている。「歯石除去・歯面清掃」は男性の40代と女性の30代、60代で7割台と高く、「定期健診(年1回以上)」は女性の30代と男性の30代で6割台と高くなっている。

図5-11-2 性別、性・年代別／歯科医院で治療のほかに受けている内容



(12) 感染症予防としての手洗いの実践状況

問24 あなたは、帰宅時に感染症予防として手洗いを実践していますか（○は1つだけ）。

■「毎日（毎回）行っている」人が8割台半ば

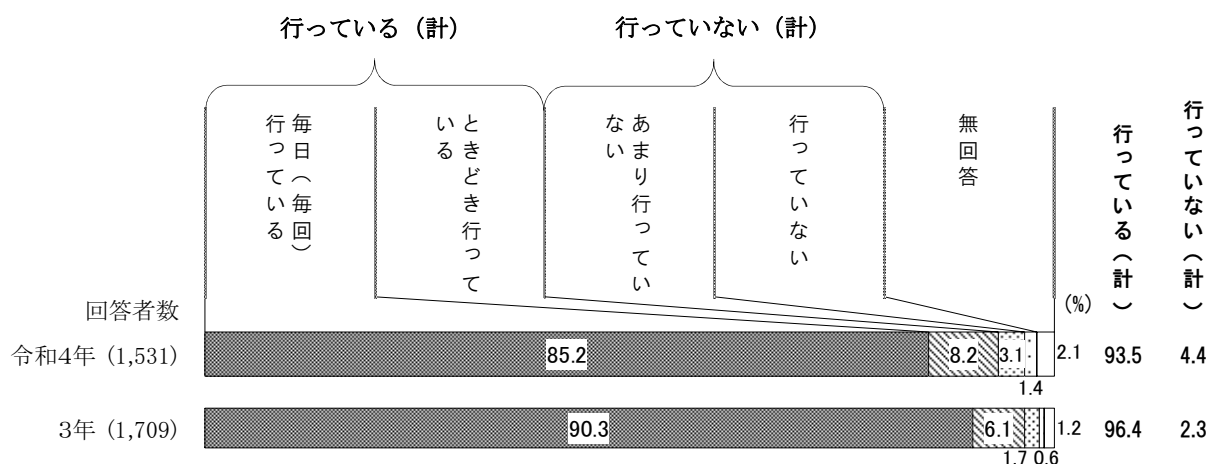
ア 単純集計・前回調査比較／感染予防としての手洗いの実践状況

(ア) 帰宅時における感染症予防としての手洗いの実践状況は、「毎日（毎回）行っている」が85.2%を占めており、これに「ときどき行っている」(8.2%)を合わせた【行っている】(93.5%)は9割台半ば近くとなっている。

(イ) 帰宅時における手洗いを「あまり行っていない」(3.1%)と「行っていない」(1.4%)を合わせた【行っていない】(4.4%)は僅かとなっている。

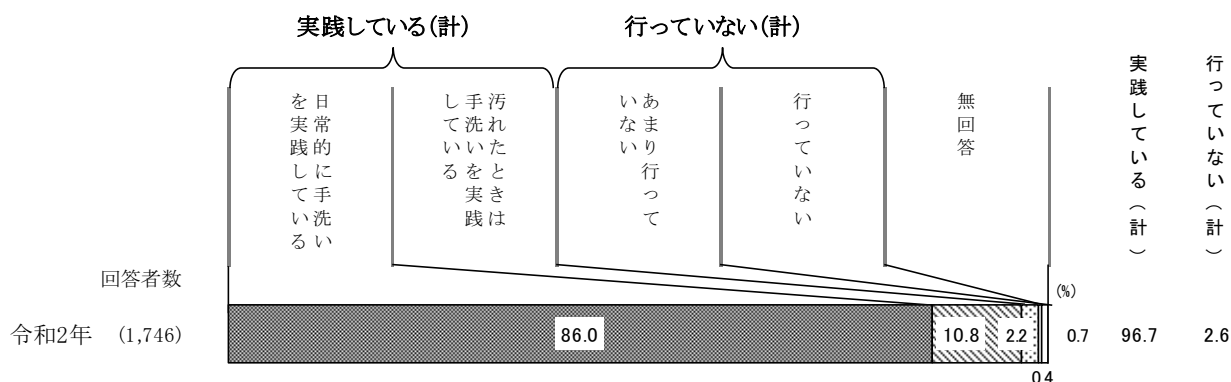
(ウ) 前回の令和3年調査と比べると、【行っている】が2.9ポイント減少している。

図5-12-1 前回調査比較／感染予防としての手洗いの実践状況



参考／（令和2年調査）感染症予防としての手洗いの実践状況

問 あなたは、日頃から感染症予防としての手洗いを実践していますか。（○は1つだけ）

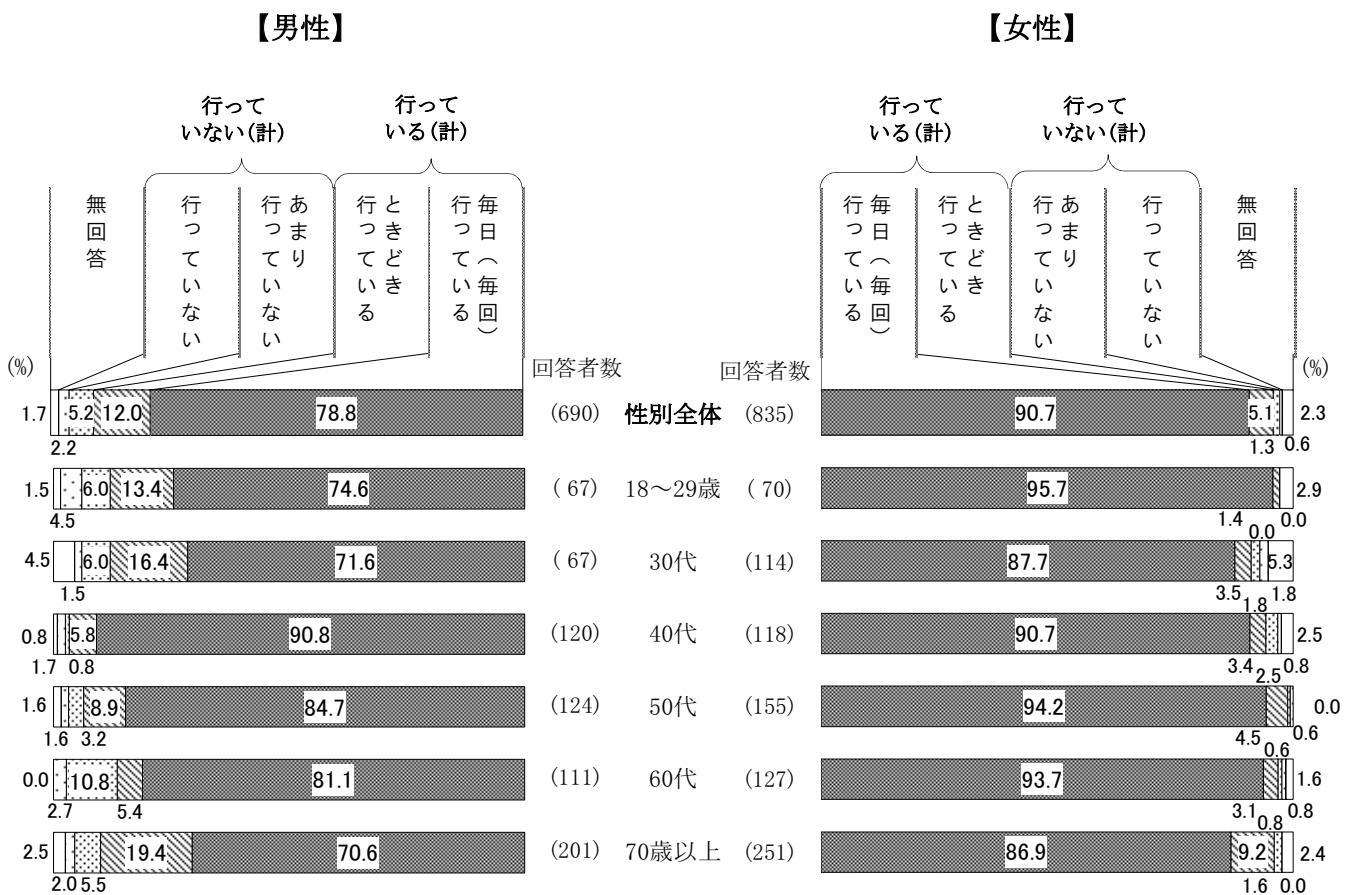


イ クロス集計・性別、性・年代別／感染予防としての手洗いの実践状況

(ア) 性別にみると、【行っている】は女性（95.8%）の方が男性（90.9%）より4.9ポイント高く、「毎日（毎回）行っている」でみると、女性（90.7%）の方が男性（78.8%）より11.9ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、【行っている】は、女性では30代と40代を除く年代層で9割台後半と高く、男性では40代のみ9割台後半となっている。逆に男性の60代で8割台半ばと最も低くなっている。

図5-12-2 性別、性・年代別／感染予防としての手洗いの実践状況



(13) 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況

問25 あなたは、「ゲートキーパー（※）」という言葉を知っていますか（○は1つだけ）。

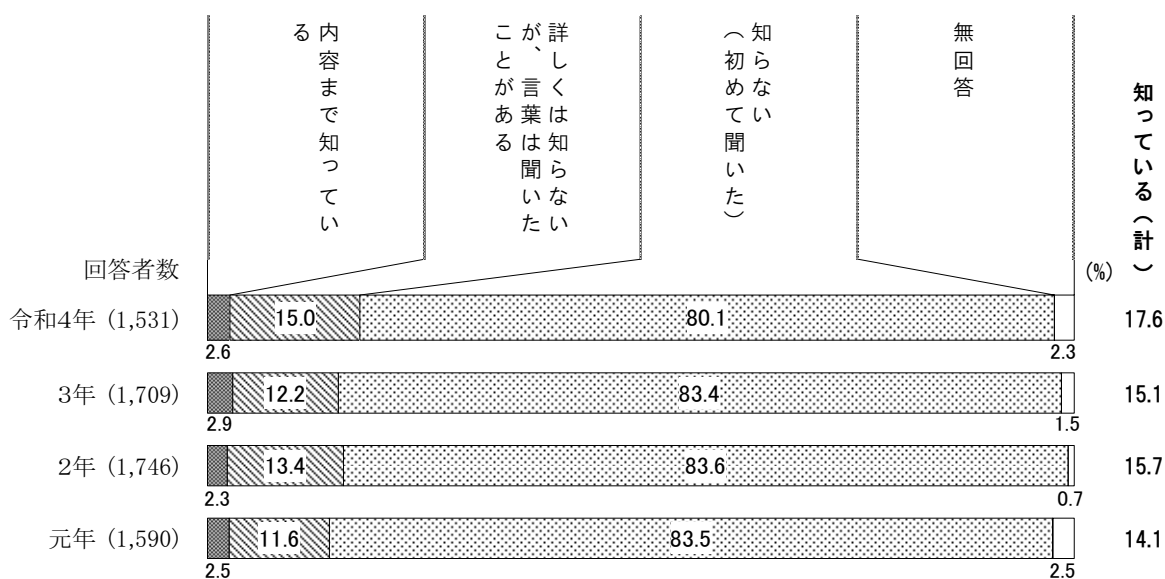
※「ゲートキーパー」とは、自殺のサインに気づき、適切な相談機関へつなぐ「いのちの門番」のことです。

■【知っている】は1割台半ば超え、「知らない（初めて聞いた）」が8割

ア 単純集計・経年比較／「ゲートキーパー」という言葉の認知状況

- (ア) 「ゲートキーパー」という言葉の認知は、「知らない（初めて聞いた）」が80.1%を占めている。
- (イ) 「ゲートキーパー」という言葉を「内容まで知っている」（2.6%）は僅かで、「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」（15.0%）を合わせた【知っている】は17.6%となっている。
- (ウ) 経年でみると、前回の令和3年調査と比較すると、【知っている】が2.5ポイント増加している。

図5-13-1 経年比較／「ゲートキーパー」という言葉の認知状況



イ クロス集計・性別、性・年代別／「ゲートキーパー」という言葉の認知状況

(ア) 性別でみると、【知っている】は男性（22.0%）の方が女性（14.1%）より7.9ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、【知っている】は、男性の40代で28.3%と最も高くなっている。一方、女性ではすべての年代層が1割台と低い割合であり、40代が11.0%と最も低くなっている。

図5-13-2 性別、性・年代別／「ゲートキーパー」という言葉の認知状況

